岐阜県教育文化財団文化財保護センター
調査報告書　第94集

太　江　遺　跡　Ⅱ

２００５
財団法人　岐阜県教育文化財団

遺跡全景（写真中央よりやや手前がＧ地区、中央が現在の寿楽寺）西から

暗文土師器（遺物番号168）

「高家寺」の墨書のある須恵器（遺物番号260）

序

岐阜県飛騨市は、平成16年2月に2町2村の合併により誕生した新しい市です。飛騨地方の北端に位置し、豊かな山林と山あいを流れる数々の清流によって育まれた美しい自然のなかにあります。

このたび、岐阜県基盤整備部古川建設事務所による主要地方道神岡河合線道路改良に伴い、飛騨市古川町太江にある太江遺跡の発掘調査を実施しました。太江遺跡は、その中央部に白鳳時代に創建された古代寺院である寿楽寺廃寺の遺構が残ることでよく知られた遺跡です。本報告書は平成15年度に実施した発掘調査の成果をまとめたものです。

飛騨の地は山に囲まれていますが、古くから各地と盛んに交流を持ちつつ豊かな文化を生み続けたことが知られています。遺跡の近隣には、縄文時代早期の黒鉛入押型文土器が出土した沢遺跡、豪華な馬具などが出土した信包八幡神社跡前方後円墳、多数の文字資料が出土した杉崎廃寺跡など、注目すべき遺跡があります。

今回の調査では寿楽寺廃寺に関連するとみられる建物跡などを発見したほか、寺院の周辺には寺院と密接な関係を持つ人々の暮らした集落が広がっていたことを確認しました。集落跡から出土した多彩な遺物からは、中央との強い結びつきを保ちつつ、豊かな文化を花開かせていた様子をうかがうことができます。本報告書が埋蔵文化財に対する認識を深めるとともに、当地の歴史研究の一助となれば幸いです。

最後となりましたが、発掘調査および出土遺物の整理・報告書作成にあたりまして、多大な御支援・御協力をいただいた関係諸機関並びに関係者各位、飛騨市教育委員会、地元地区の皆様に深く感謝申し上げます。

平成17年3月

財団法人　岐阜県教育文化財団
理事長　日　比　治　男

例　　言

1　本書は、岐阜県飛騨市古川町太江に所在する太江遺跡（岐阜県遺跡番号 21217－09274）の発掘調査報告書である。

2　本調査は、主要地方道神岡河合線道路改良事業に伴うもので、岐阜県基盤整備部古川建設事務所から岐阜県教育委員会が委託を受けた。発掘調査及び整理作業は、財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センターが実施した。

3　発掘調査は、八賀晋三重大学名誉教授の指導のもとに、平成 15 年度に実施した。

4　発掘調査及び整理作業の担当などは、本書第 1 章第 3 節に一括掲載した。

5　本書の編集・執筆は小淵忠司が行った。

6　発掘調査における作業員雇用、現場管理、掘削、地形測量、空中写真測量などの業務と、出土遺物の洗浄・注記は、株式会社ユニオンに委託して行った。

7　遺物の写真撮影は、アートフォト右文に委託して行った。

8　発掘調査及び報告書の作成にあたって、次の方々や諸機関から御指導・御協力をいただいた。記して感謝の意を表する次第である（敬称略・五十音順）。

相京和茂、赤澤徳明、伊藤秋男、牛丸岳彦、大野政雄、河合英夫、河内一浩、北村圭弘、
久保智康、島田敏男、千藤克彦、谷口陽一、田中彰、長屋幸二、早川万年、広瀬和雄、
藤本健三、堀正人、松本優、本永義博、三好清超、山路直充、山中敏史
古川町教育委員会（現　飛騨市教育委員会）、南光山寿楽寺

9　本文中の方位は、国土座標第Ⅶ系の座標北を示している。

10　土及び遺物の色調は、小山正忠・竹原秀雄 2000『新版標準土色帖』（日本色研事業株式会社）による。

11　調査記録及び出土遺物は、財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センターで保管している。

目　　次

序
例言
第1章　調査の経緯 …… 1
　第1節　調査に至る経緯 …… 1
　第2節　これまでの調査 …… 2
　第3節　調査の方法と経過 …… 3
第2章　遺跡の立地と環境 …… 7
　第1節　地理的環境 …… 7
　第2節　歴史的環境 …… 8
　第3節　遺跡の基本層序 …… 10
第3章　検出した遺構 …… 11
　第1節　遺構の概要 …… 11
　第2節　竪穴建物跡 …… 13
　第3節　掘立柱建物跡・礎石建物跡 …… 21
　第4節　焼土堆積遺構 …… 25
　第5節　その他の遺構 …… 26
　主要遺構実測図 …… 27
第4章　出土遺物 …… 46
　第1節　出土遺物の概要 …… 46
　第2節　土器・陶磁器類 …… 50
　第3節　その他の遺物 …… 65
　出土遺物実測図 …… 75
第5章　考察とまとめ …… 114
　第1節　主要遺物の出土傾向の分析 …… 114
　第2節　集落と寺院の消長について …… 124
引用・参考文献 …… 131
遺構図 …… 133
　1　全地区分割図 …… 134
　2　G地区全体図 …… 145
別表 …… 147
　1　遺構一覧表 …… 148
　2　遺物包含層一覧表 …… 158
　3　遺物観察表 …… 162
写真図版 …… 171

挿 図 目 次

第 1 図　太江遺跡の位置 …… 1
第 2 図　遺跡の地区割 …… 2
第 3 図　各年度の調査区とグリッド設定… 5 ・ 6
第 4 図　太江周辺の地質 …… 7
第 5 図　太江周辺の遺跡 …… 9
第 6 図　遺跡の基本層序 ……10
第 7 図　竪穴建物跡(1) ……28
第 8 図　竪穴建物跡(2) ……29
第 9 図　竪穴建物跡(3) ……30
第 10 図　竪穴建物跡(4) ……31
第 11 図　竪穴建物跡(5) ……32
第 12 図　竪穴建物跡(6) ……33
第 13 図　竪穴建物跡(7) ……34
第 14 図　竪穴建物跡(8) ……35
第 15 図　竪穴建物跡(9) ……36
第 16 図　竪穴建物跡(10) ……37
第 17 図　掘立柱建物跡(1) ……38
第 18 図　掘立柱建物跡(2) ……39
第 19 図　掘立柱建物跡(3) ……40
第 20 図　掘立柱建物跡(4) ……41
第 21 図　礎石建物跡(1) ……42
第 22 図　礎石建物跡(2) ……43
第 23 図　焼土堆積遺構(1) ……44
第 24 図　焼土堆積遺構(2) ……45
第 25 図　出土遺物集計グラフ ……47
第 26 図　包含層出土遺物分布図 ……47
第 27 図　須恵器の部位名称と計測位置 ……48
第 28 図　遺構内出土遺物(1) ……76
第 29 図　遺構内出土遺物(2) ……77
第 30 図　遺構内出土遺物(3) ……78
第 31 図　遺構内出土遺物(4) ……79
第 32 図　遺構内出土遺物(5) ……80
第 33 図　遺構内出土遺物(6) ……81
第 34 図　遺構内出土遺物(7) ……82
第 35 図　遺構内出土遺物(8) ……83
第 36 図　遺構内出土遺物(9) ……84
第 37 図　遺構内出土遺物(10) ……85
第 38 図　遺構内出土遺物(11) ……86
第 39 図　遺構内出土遺物(12) ……87
第 40 図　遺構内出土遺物(13) ……88
第 41 図　遺構内出土遺物(14) ……89
第 42 図　遺構内出土遺物(15) ……90
第 43 図　遺構内出土遺物(16) ……91
第 44 図　遺構内出土遺物(17) ……92
第 45 図　遺構内出土遺物(18) ……93
第 46 図　遺構内出土遺物(19) ……94
第 47 図　遺構内出土遺物(20) ……95
第 48 図　遺構内出土遺物(21) ……96
第 49 図　G地区包含層出土遺物(1) ……97
第 50 図　G地区包含層出土遺物(2) ……98
第 51 図　G地区包含層出土遺物(3) ……99
第 52 図　G地区包含層出土遺物(4)……100
第 53 図　G地区包含層出土遺物(5)……101
第 54 図　G地区包含層出土遺物(6)……102
第 55 図　G地区包含層出土遺物(7)……103
第 56 図　G地区包含層出土遺物(8)……104
第 57 図　C地区包含層出土遺物……105
第 58 図　F地区包含層出土遺物……106
第 59 図　D地区包含層出土遺物(1)……107
第 60 図　D地区包含層出土遺物(2)……108
第 61 図　D地区包含層出土遺物(3)……109
第 62 図　D地区包含層出土遺物(4)……110
第 63 図　D地区包含層出土遺物(5)……111
第 64 図　D地区包含層出土遺物(6)……112
第 65 図　D地区包含層出土遺物(7)……113
第 66 図　主要器種の包含層での分布状況(1) …117
第 67 図　主要器種の包含層での分布状況(2) …118
第 68 図　主要器種の包含層での分布状況(3) …119
第 69 図　地区別器種組成グラフ……120
第 70 図　遺構分布変遷図……122
第 71 図　須恵無台杯から無台碗への形態変化 ……123
第 72 図　寿楽寺廃寺　Ⅰ型式・Ⅴ型式軒丸瓦…125
第 73 図　遺跡全体図 ……127・128

表　目　次

第 1 表　これまでの調査一覧 …… 2
第 2 表　遺構集計表 ……11
第 3 表　100 号遺構出土遺物 ……14
第 4 表　197 号遺構出土遺物 ……14
第 5 表　230 号遺構出土遺物 ……15
第 6 表　246 号遺構出土遺物 ……15
第 7 表　269 号遺構出土遺物 ……15
第 8 表　531 号遺構出土遺物 ……16
第 9 表　653 号遺構出土遺物 ……16
第 10 表　1005 号遺構出土遺物 ……17
第 11 表　1083 号遺構・1136 号遺構出土遺物 ……18
第 12 表　1085 号遺構出土遺物 ……19
第 13 表　2001 号遺構出土遺物 ……19
第 14 表　3022 号遺構出土遺物 ……20
第 15 表　3032 号遺構出土遺物 ……20
第 16 表　1 号掘立柱建物跡出土遺物 ……21
第 17 表　2 号掘立柱建物跡出土遺物 ……21
第 18 表　3 号掘立柱建物跡出土遺物 ……22
第 19 表　4 号掘立柱建物跡出土遺物 ……22
第 20 表　礎石建物跡出土遺物 ……24
第 21 表　焼土水洗選別結果一覧 ……25
第 22 表　出土遺物集計表 ……47
第 23 表　暗文土師器一覧 ……57
第 24 表　製塩土器一覧 ……60
第 25 表　墨書・ヘラ書き一覧 ……64
第 26 表　瓦集計表 ……66
第 27 表　金属製品一覧 ……69
第 28 表　石器・石製品一覧 ……71
第 29 表　遺構内出土遺物組成分析表……115
第 30 表　主要器種相関表……115
第 31 表　遺構の帰属時期一覧……121
第 32 表　Ⅳ期とⅤ期の須恵器無台碗の比較 ……123

写真図版目次

巻頭図版
　遺跡全景（西から）
　暗文土師器（遺物番号 168）
　「高家寺」の墨書のある須恵器(遺物番号 260)
図版 1
　G 地区東半部全景
　C 地区全景
　D・F 地区全景
図版 2
　G 地区調査前状況　北西から
　G 地区西半部全景
　100 号遺構（竪穴）　南から
　197 号遺構（竪穴）　南から
　470 号遺構（焼土）　南から
　3032 号遺構（竪穴）　南から
　531 号遺構（竪穴）　南から
　531 号遺構（竪穴）カマド　南から
図版 3
　1083 号遺構（竪穴）　南から
　1083 号遺構（竪穴）カマド　南から
　礎石建物跡全景　南から
　礎石建物跡全景　北から
　D 地区全景
図版 4
　礎石建物跡　柱穴断面（3037 号）　南から
　礎石建物跡　柱穴断面（3036 号）　南から
　礎石建物跡　柱穴断面（3026 号）　西から
　礎石建物跡　柱穴断面（3027 号）　西から
　礎石建物跡　柱穴断面（3049 号）　西から
　礎石建物跡　柱穴断面（3047 号）　西から
　礎石建物跡　柱穴断面（3054 号）　西から
　礎石建物跡　柱穴断面（3055 号）　西から

図版 5

遺物 33・159・161・266・307・320・387・406・439・440・448

図版 6

遺物 17・22・75・90・124・129・146・215・219・221・416・417・436・444

図版 7

遺物 20・37・41・87・107・117・125・138・232・244・270・413・415・434・450・466・490・505・506・507・515・533・534・569・570

図版 8

遺物 288・547・556

図版 9

遺物 2・6・7・9・11・13・19・26・29・30・42・53・59・60・64・66・68・69

図版 10

遺物 70・72・73・95・96・98・99・100・102・106・114・118・122・127・134・136・142・147

図版 11

遺物 148・149・151・153・155・170・175・178・181・186・187・188・190・193・194・195・196・198・199・200・201・203・204・218・220・225

図版 12

遺物 222・223・234・241・242・253・254・256・258・269・277・297

図版 13

遺物 280・283・294・308・309・310・311・313・315・316・318・319・321・325・328・330・332・338・339・342・344・347・348・349

図版 14

遺物 351・353・354・355・359・362・364・365・367・369・370・371・373・377・378・382・383・384・385・390・392・398・402

図版 15

遺物 405・407・409・410・418・419・421・426・435・437・441・445・471・485・502・511・512・521・523・525・527

図版 16

遺物 144・208・334・335・389・391・393・401・404・408・411・473・486・487・503・529

図版 17

遺物 18・38・39・40・74・88・112・115・139・140・143・157

図版 18

遺物 174・252・422・423・424・428・429・431・433・494・495

図版 19

遺物 285・286・287・296

図版 20

遺物 536・542・543・548

図版 21

遺物 21・55・77・78・92・171・228・229・231・271・290・291・305・451・452・453・454・497・499・517・518・519・565・566・567

図版 22

遺物 3・44・56・121・158・227・230・455・456・457・458・459・460・461・462・463・498・516・568

図版 23

遺物 58・176・233・282・292・293・299・449・465・467・496・508・509・535

第１章　調査の経緯

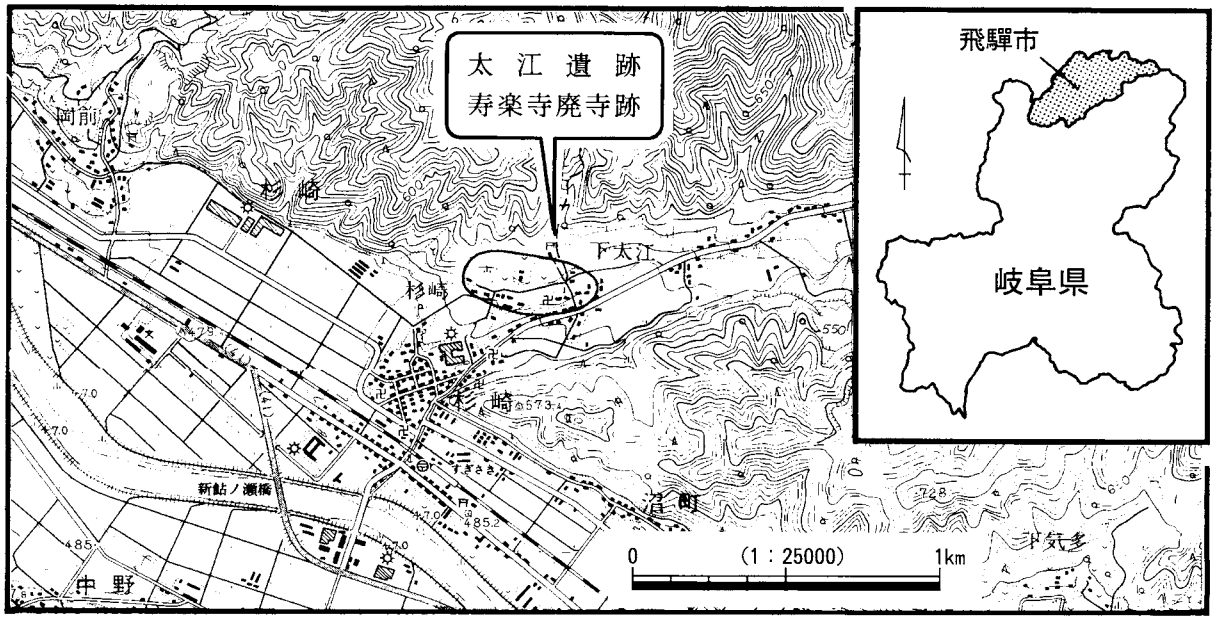
第１節　調査に至る経緯

太江遺跡は、岐阜県飛騨地方の北端部を占める飛騨市の南端付近、古川町太江（調査当時は岐阜県吉城郡古川町太江）に位置する遺跡である。今回の発掘調査は岐阜県基盤整備部古川建設事務所による主要地方道神岡河合線道路改良事業に伴い実施したものである。

調査地点とその周辺は、瓦や須恵器などが表面採取できる場所として古くから知られていた。大正時代に県道神岡河合線の新設工事が行われた際、その北側に位置する曹洞宗寺院の寿楽寺の参道下から大量の瓦が出土した。軒丸瓦に白鳳時代の瓦がみられたことから古代寺院が存在したと推定され、現存の寺院名から名を採って「寿楽寺廃寺」、あるいは字名から「左近廃寺」と呼ばれるようになった。しかし、遺物を採取できる地点はかなり広範囲にわたるため、遺跡範囲を確定できない状態が永く続くこととなった。

平成９年度に至り、道路改良事業の実施に先立って事業の遺跡に及ぼす影響について調査することとなり、岐阜県教育委員会が踏査を実施した。その結果、遺跡が工事予定地内に広がっていることが明らかとなった。その後、試掘確認調査により工事が遺跡に影響を及ぼすとみられる範囲を確定し、平成10年度から本発掘調査を実施することとなった。また、平成12年４月12日付「遺跡の発見について（通知）」により、遺跡名は「太江遺跡」、寺院跡名が「寿楽寺廃寺跡」とされた。

（財）岐阜県文化財保護センターでは平成10年度から12年度にかけて３次にわたる発掘調査を行い、その成果を調査報告書『太江遺跡・寿楽寺廃寺跡』（以下、前報告書）として平成14年３月に発行した。本書で成果を報告する平成15年度調査は、（財）岐阜県教育文化財団文化財保護センターが実施したもので、太江遺跡としては第４次の発掘調査となる。



第１図　　太江遺跡の位置

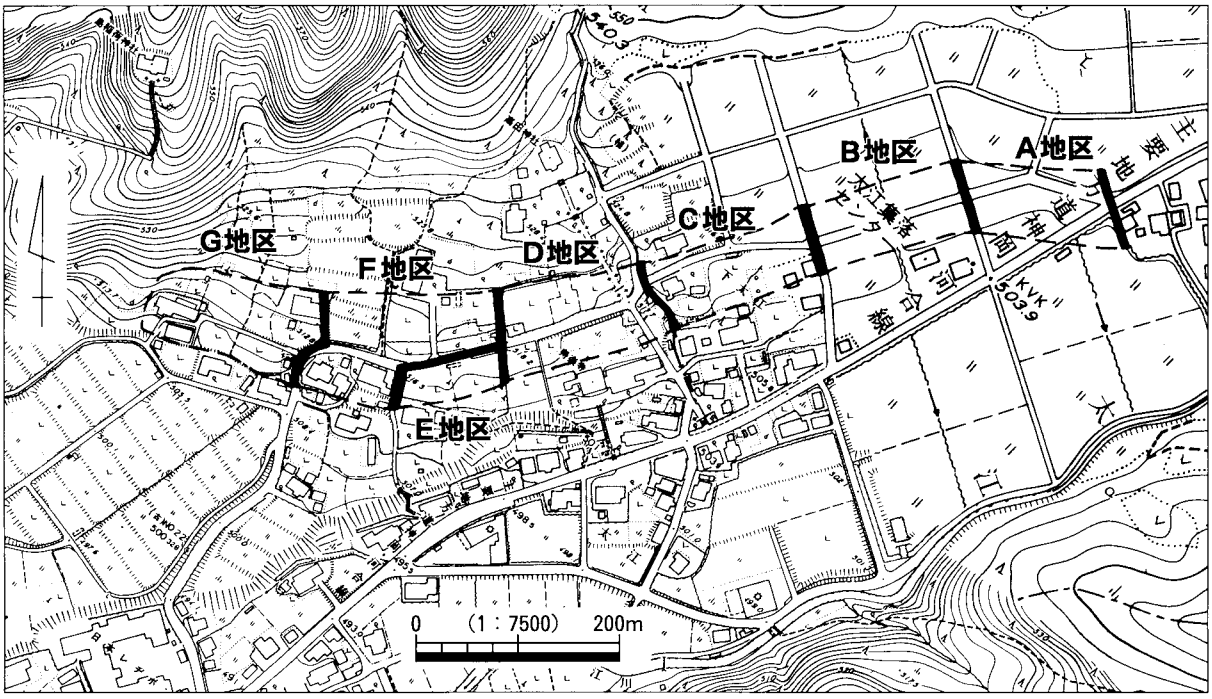
第２節　これまでの調査

前節に記した通り、当遺跡では平成10年度から12年度にかけて３次にわたる発掘調査を行っている。その成果については前報告書においてすでに報告しているので本書では詳述しないが、今回の調査成果の報告に先立ち、その概略をここで紹介しておきたい。

遺跡は東西に長いため、平成９年度の踏査以来、南北方向の主要な道路等を境に東からＡ～Ｇの７地区に分けて呼んでいる。このうち調査対象となっているのはＣ地区からＧ地区に至る５つの地区である。Ｇ地区は今回が初めての調査であったが、Ｃ・Ｄ・Ｆ地区はすでに調査対象地の過半を調査しており、Ｅ地区は調査が完了している。Ｄ地区では白鳳時代に創建されたと考えられる古代寺院「寿楽寺廃寺」の遺構を確認し、さらに、出土した墨書土器から、この寺院が古代には「高家寺（たきえじ）」と呼ばれていたことを明らかにすることができた。また、Ｃ・Ｅ・Ｆ地区では寺院の存続時期とほぼ同時期の白鳳時代から平安時代にかけての集落跡を確認している。出土遺物は総数約６万点で、その内訳は、須恵器・土師器・灰釉陶器等、土器・陶磁器類３万点、瓦２万９千点、土製品・石製品・金属製品１千点である。

第１表　これまでの調査一覧

調査次数	調査期間	調査面積	調査地区	主な検出遺構	主な出土遺物
第１次	H10.5/11 ～11/10	2,000m²	C・E地区	竪穴住居跡７（Ｃ地区）、 竪穴住居跡３・掘立柱建物跡１（Ｅ地区）	鉄製紡錘車・管玉（Ｃ地区） 鞴の羽口・鉄製鎌（Ｅ地区）
第２次	H11.5/6 ～H12.2/2	2,000m²	D・F地区	基壇跡２・回廊跡１・柵跡１（Ｄ地区）、 竪穴住居跡16・掘立柱建物跡１（Ｆ地区）	鴟尾・塑像・墨書土器「高家寺」・ 軒丸瓦・金銅製品（Ｄ地区） 刻書土器「寺」・暗文土師器（Ｆ地区）
第３次	H12.5/11 ～12/26	490m²	D地区	掘立柱建物跡１・平場造成跡１（Ｄ地区）	三彩陶器・軒丸瓦（Ｄ地区）



第２図　遺跡の地区割

第３節　調査の方法と経過

遺跡の本発掘調査は平成15年度に実施した。調査地の地区名については従来の呼称を踏襲しており、今回、調査対象となったのはＧ地区全域（3,200㎡）、Ｃ地区の残り部分（380㎡）、Ｄ地区の残り部分（240㎡）、Ｆ地区の残り部分（280㎡）、以上を合わせて4,100㎡である。

今回の調査におけるグリッド設定は、以前の調査との整合性を優先させるために、世界測地系ではなく従来通り国土座標を基にした４ｍグリッドとした。これまでに遺跡全体をカバーする統一グリッドが設定されたことはなかったため、今回も原点を異にする２系統のグリッドが混在することとなった。すなわち、東端に位置するＣ地区についてはグリッド原点・グリッド名ともに平成10年度調査の方式を踏襲し、他方、Ｄ・Ｆ・Ｇ地区については、平成11～12年度のＤ地区調査時のグリッド原点とグリッド名を踏襲した上で、さらに範囲を今回の調査範囲をカバーできるように拡張し、その分グリッド名を継ぎ足している。

表土の掘削は重機を使用して行い、そののち遺物包含層（以下、包含層）掘削・遺構検出・遺構掘削を人力作業により行った。主要な遺構については平面形や土層断面を手測り実測し、観察所見を記録した。調査区全域にわたる広域実測は、空中写真撮影実測により実施した。以下、 現地での調査経過を記述する。

第１週（５／６～５／９）

５月６日、現地における作業を開始する。Ｇ地区西半部の表土掘削を実施。

第２～６週（５／12～６／13）

Ｇ地区西半部について、人力作業による遺物包含層掘削と遺構検出作業を行う。排土搬出にはベルトコンベアを使用する。５月12日から同作業を開始。５月23日には手測りによる遺構実測作業を開始する。また、６月２日にはトータルステーションによる主要出土遺物の出土位置の記録を開始。

第７週（６／16～６／20）

Ｃ地区の表土掘削作業を実施する。以後、Ｇ地区とＣ地区の作業を併行する。６月20日、地元の数河福寿会が見学。参加者約35名。

第８～15週（６／23～８／22）

Ｃ地区の包含層掘削作業を開始し、順次、遺構検出・遺構掘削作業に移行する。Ｇ地区西半部は遺構掘削作業に移行する。７月23日、Ｇ地区において小学生を対象とした体験学習会「タイムスリップ探検隊」を開催。参加者は33名。

第16週（８／25～８／29）

新たにＦ地区とＤ地区の表土掘削作業を実施する。以後もＧ地区とＣ地区の作業は併せて続行する。

第17週（９／１～９／５）

９月１日、出土遺物の洗浄・注記作業を開始する。９月２日、Ｇ地区西半部とＣ地区の空中写真撮影測量を実施する。９月３日、日本大学非常勤講師河合英夫氏及び日本大学学生・大学院生８名、来訪。

第18～20週（９／８～９／26）

Ｆ地区の包含層掘削作業を開始し、順次、遺構検出・遺構掘削作業に移行する。Ｇ地区の東半部の表土掘削作業を行い、順次、人力掘削作業に移行する。

第21～25週（９／29～10／31）

Ｄ地区の包含層掘削作業を開始し、順次、遺構検出・遺構掘削作業に移行する。以後、Ｇ地区東半部とＦ地区・Ｄ地区の作業を併行する。10月22日～23日、指導調査員の三重大学名誉教授八賀晋氏より指導を受ける。10月24日、南山大学教授伊藤秋男氏、古川町教育長政井亮一氏、同文化財保護審議委員大野政雄氏ほか、来訪。

第26週（11／４～11／８）

11月５日、Ｇ地区東半部とＦ地区・Ｄ地区の空中写真測量を実施する。11月８日、現地説明会を開催、参加者137名。

第27～31週（11／10～12／12）

各地区、遺構の断ち割り調査を中心に作業を行い、完了した地区から埋め戻し作業を実施する。12月10日、埋め戻し作業完了、発掘作業完了。

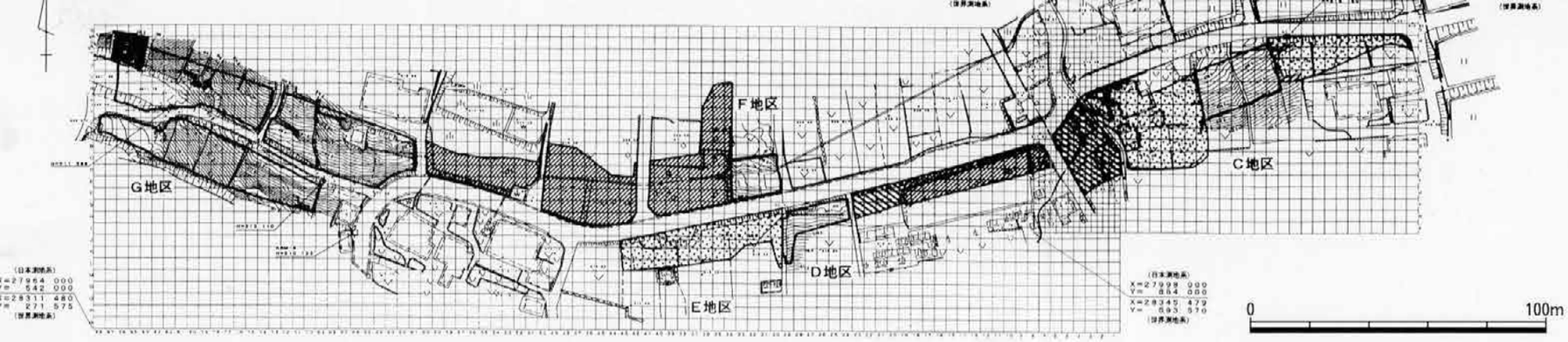
第32週（12／15～12／17）

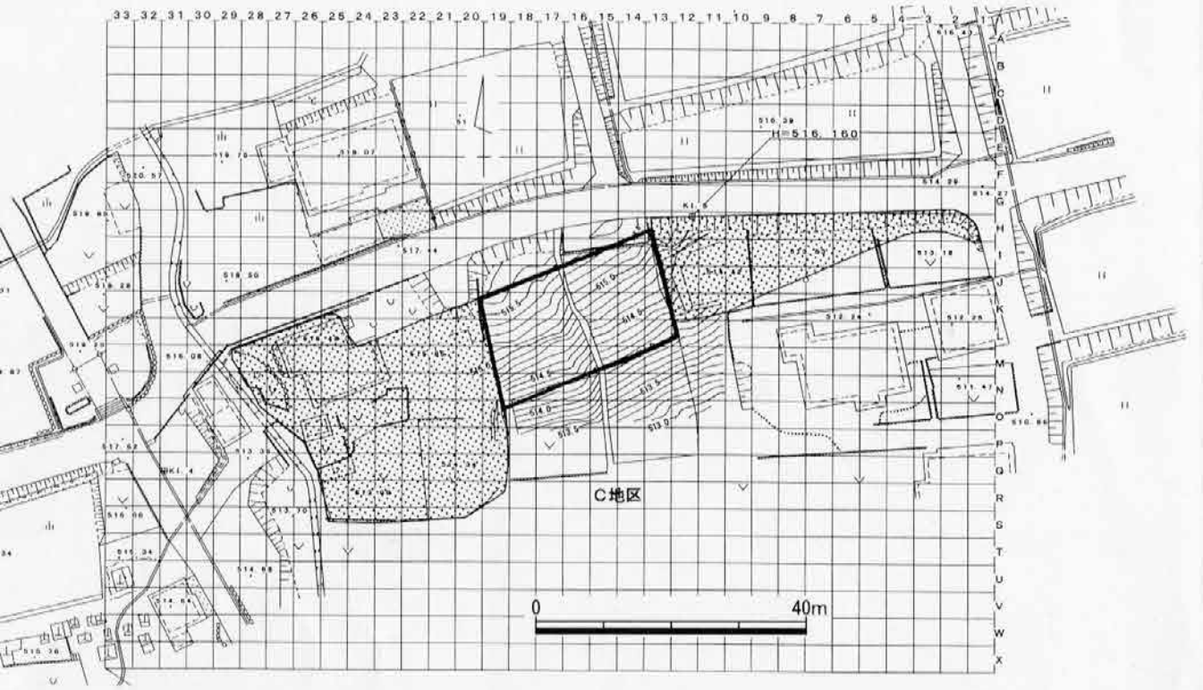
12月16日、現地における出土遺物整理作業完了。12月17日、遺物等の撤収作業完了。

以後、平成16年度まで、財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター飛騨出張所において、整理作業及び報告書作成作業を行った。

発掘調査及び整理作業の体制は、以下の通りである。

	平成15年度	平成16年度
理事長	日比治男	日比治男
副理事長	高橋宏之	高橋宏之
副理事長	平光明彦	平光明彦
常務理事兼センター所長	福田安昭	福田安昭
経営課長	川瀬崇敏	川瀬崇敏
調査部長	武藤貞昭	川部　誠
飛騨出張所長	上原真昭	小谷和彦
担当調査員	森下茂司　小淵忠司	小淵忠司
整理作業従事者	上田里香　垣添敦子　清田由美子　瀬戸幸子　田井孝子　所洋子 前畑裕美　村田明美　柚村幸子　横山美寧子　脇淵純子	



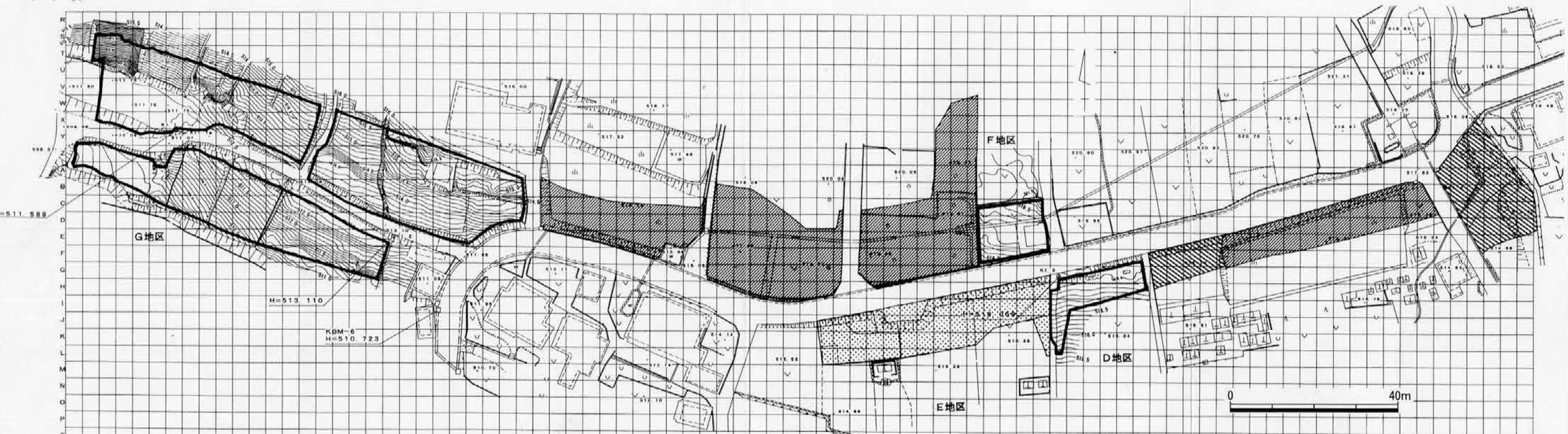


平成10年度調査区

平成11年度調査区

平成12年度調査区

平成15年度調査区



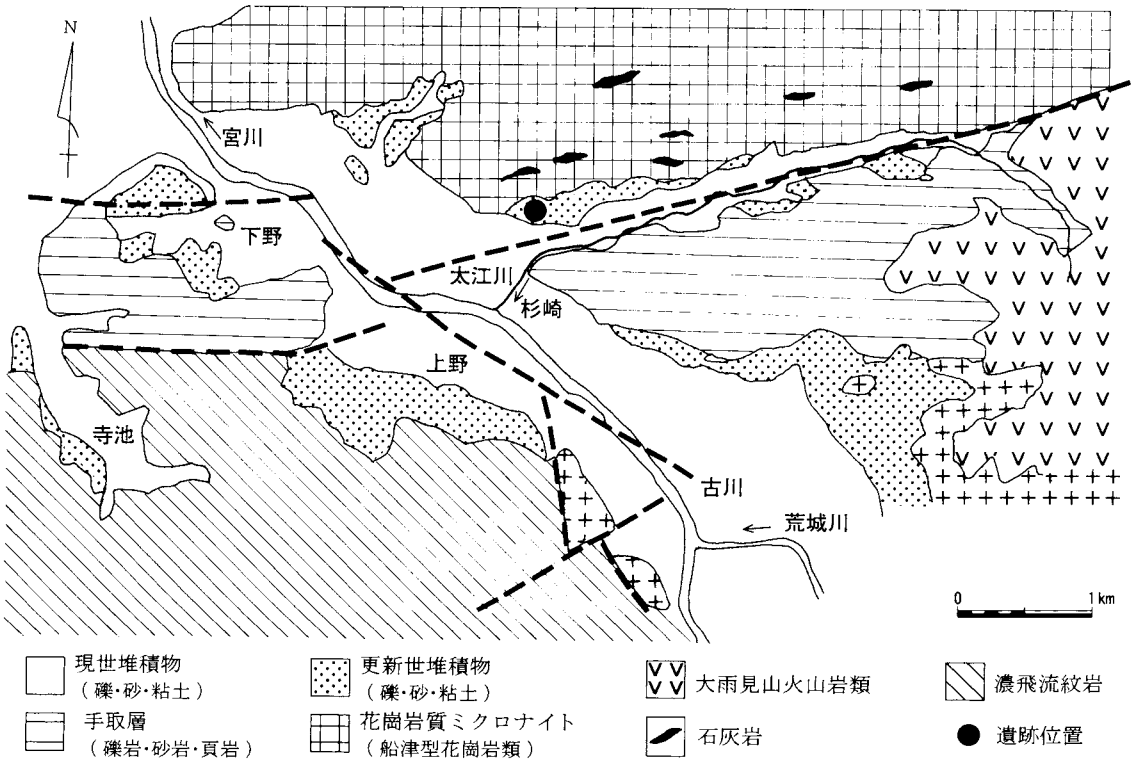
第２章　遺跡の立地と環境

第１節　地理的環境

飛騨市古川町の地形は、北西に向けて流路をとる宮川の流域の沖積低地と、それを取り巻く標高1,000m前後の山地から形成される。沖積低地は500mから1,500mほどの幅を持って南に隣接する高山市国府町から連続して広がっており、一般には国府古川盆地と呼ばれている。

沖積低地を取り巻く山地は、船津花崗岩類や濃飛流紋岩、それに手取層などからなる。船津花崗岩類は飛騨地方北部を中心に広く分布する。遺跡所在地は分布範囲の周縁部に当たるため、入手が容易な岩石である。発掘調査では、住居のカマドの袖石や建物の礎石として利用されたことが確認されている。濃飛流紋岩は火山活動によって形成された火砕流の堆積物であり、恵那山付近から白川村に至る岐阜県の面積の３分の１に及ぶ広大な範囲に分布する。遺跡周辺では宮川流域の沖積低地より西側に広く分布している。手取層は礫岩、砂岩、泥岩からなる。宮川を東西に横切るように帯状に分布しており、遺跡の南方、すなわち遺跡から谷を挟んだ向かい側にみられる。

遺跡の所在地は国府古川盆地の北西隅付近であり、東側から流下する太江川と宮川との合流点から谷の方へ１kmほど入った地点である。太江川が流れる谷の西端に広がる扇状地の中程に位置する。北に山を背負い、南に開けた日当たりの良い緩斜面である。遺跡は概ね標高510m台の範囲に広がるが、扇状地下の谷の平坦面との高低差が10m以上あり、さらに扇状地の末端部が急な崖状の地形となっているため、高台に位置するとの印象を強く受ける。



第４図　太江周辺の地質（野沢保・河田清雄ほか1975『飛騨古川地域の地質』に基づいて作製）

第2節　歴史的環境

太江遺跡のある飛騨市古川町は、考古学上は縄文時代早期の押型文土器が出土した沢遺跡、豪華な馬具類が出土した信包八幡神社跡前方後円墳などで知られるが、古代寺院の密集地としても注目される。律令時代には飛騨国は下国とされ、その規模は決して大きくなかったにもかかわらず、古代寺院跡は14箇所が確認されている。

古川町内の古代寺院跡としては、当遺跡の中心部に位置する寿楽寺廃寺跡のほかに、杉崎廃寺跡、沢廃寺跡、古町廃寺跡、久中廃寺跡がある。このうち発掘調査が行われているのは、杉崎廃寺跡と古町廃寺跡である。

杉崎廃寺跡は当遺跡から1.5kmほど西方の位置にある。水田中に残る礎石群と塔心礎の存在が古くから知られ、県の史跡となっている。平成3年度から7年度にかけて行われた調査の結果、塔・金堂・講堂・中門・鐘楼・僧坊を備えた整然とした伽藍配置が確認された。瓦類の出土量が少なく、軒瓦が皆無であることから、檜皮葺きの建物で構成されたと考えられている。瓦葺きの建物がなかったことから創建時期は寿楽寺廃寺よりは遅れるとみられ、7世紀末頃と推定される。県内初の古代木簡（郡符木簡）や「見寺」と墨書された須恵器が出土した。9世紀初頭には焼失したことが確認されている。

古町廃寺跡は当遺跡の南方約3.5kmに位置する。後述する上町遺跡の調査において、昭和63年に発見された。調査範囲が限られていたため明確な寺院関連遺構は検出されていないが、約2,000点の瓦類が集中して出土したことから寺院跡と推定されている。

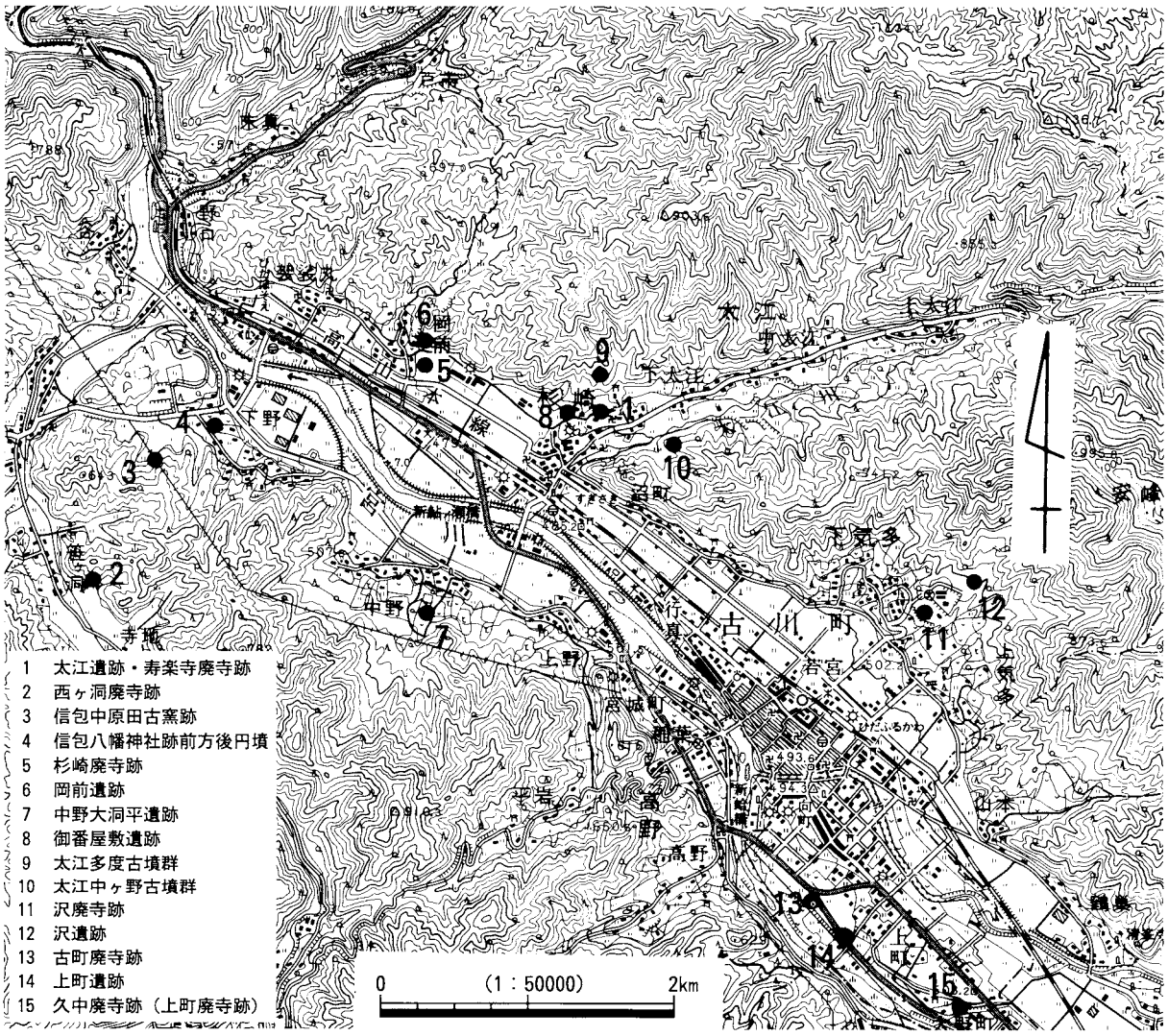
古代寺院跡以外で時期的に重なる遺跡では、信包中原田古窯跡、岡前遺跡、上町遺跡が当遺跡の歴史的環境を考える上で重要である。当遺跡の西方3kmに位置する信包中原田古窯跡は瓦と須恵器を焼成した窯跡である。当遺跡でこれまでに確認されている7型式の軒丸瓦の内、Ⅰ型式・Ⅵ型式と同笵の軒丸瓦が出土している。岡前遺跡は杉崎廃寺跡の北隣に位置し、当遺跡からも1.5kmほどしか離れていない。縄文時代と古代の複合遺跡である。平安時代の竪穴住居跡を検出したほか、飛騨地方で初めて和同開珎が出土したことが注目される。上町遺跡は当遺跡の南方約4kmに位置する。昭和62年以来これまでに7地点の発掘調査が行われ、調査面積はすでに15,000m²を超えている。古墳時代から中近世にかけての遺構が広範囲に分布することが確認されており、遺跡の規模は南北1.5km、東西500mの範囲にわたると考えられている。古代の遺構としては多数の竪穴住居跡や掘立柱建物跡が検出された。整然と配置された大型掘立柱建物群が確認されていることから、官衙的性格を窺うことのできる遺跡である。

以上のほか、当遺跡の南方2kmの中野大洞平遺跡では、縄文時代から奈良時代にかけての集落跡が確認され、奈良時代の竪穴住居跡が検出された。3.5km西方に位置する西ヶ洞廃寺跡では、平安時代に盛行する山林寺院の跡が確認されている。

遺跡周辺部に目を向けると、遺跡の西隣には縄文時代の集落跡である御番屋敷遺跡がある。昭和29年に開田工事に伴って7基の住居跡が発見され、その内1基が発掘調査された。飛騨地方の発掘史の上で注目される遺跡である。また、発掘調査は行われていないものの、遺跡周囲の山麓には太江多度古墳群、太江中ヶ野古墳群などの古墳群が分布し、寺院建立以前に太江に人々の定住が始まっていたことを窺うことができる。

太江遺跡の中心部に位置する寿楽寺廃寺跡では、平成11年度調査において「高家寺」の墨書が記された須恵器が出土した。このことから寿楽寺廃寺が郷名を冠した名で呼ばれたことが明らかとなり、それとともに、遺跡所在地が古代には荒城郡高家郷に属していたことが判明した。ところで、飛騨の古代寺院の存在が初めて文献に現れるのは、『日本書紀』朱鳥元年（686）十月丙申条で、大津皇子の謀反に関わった新羅の僧行心が「飛騨国伽藍」に配流されたとある。この記事から、西暦686年の時点ですでに飛騨国に寺院が造営されていたことと、その存在が中央にも認識されていたことがわかる。これまでに知られている飛騨の古代寺院の中で、この時期までに建立されていた可能性のある寺院が寿楽寺廃寺以外には見当たらないことから、「飛騨国伽藍」は寿楽寺廃寺を指す可能性が高いと考えられている。なお、寺院跡の中心部と推定される位置に建つ曹洞宗寺院南光山寿楽寺の開山は元禄初期（1690年頃）とされるが、12世紀に写経された「大般若経」が寺宝として伝わっており、前身寺院が存在した可能性がある。

遺跡が飛騨と越中とを結ぶ主要な街道に面していることも見逃せない。太江川に沿って東方に約５km登れば難所である神原峠に達し、峠を越えると飛騨神岡を経て越中に至る。峠への登り口に当たる交通の要衝に位置するという立地条件が寺院の建立に当たり考慮されたことは、想像に難くない。



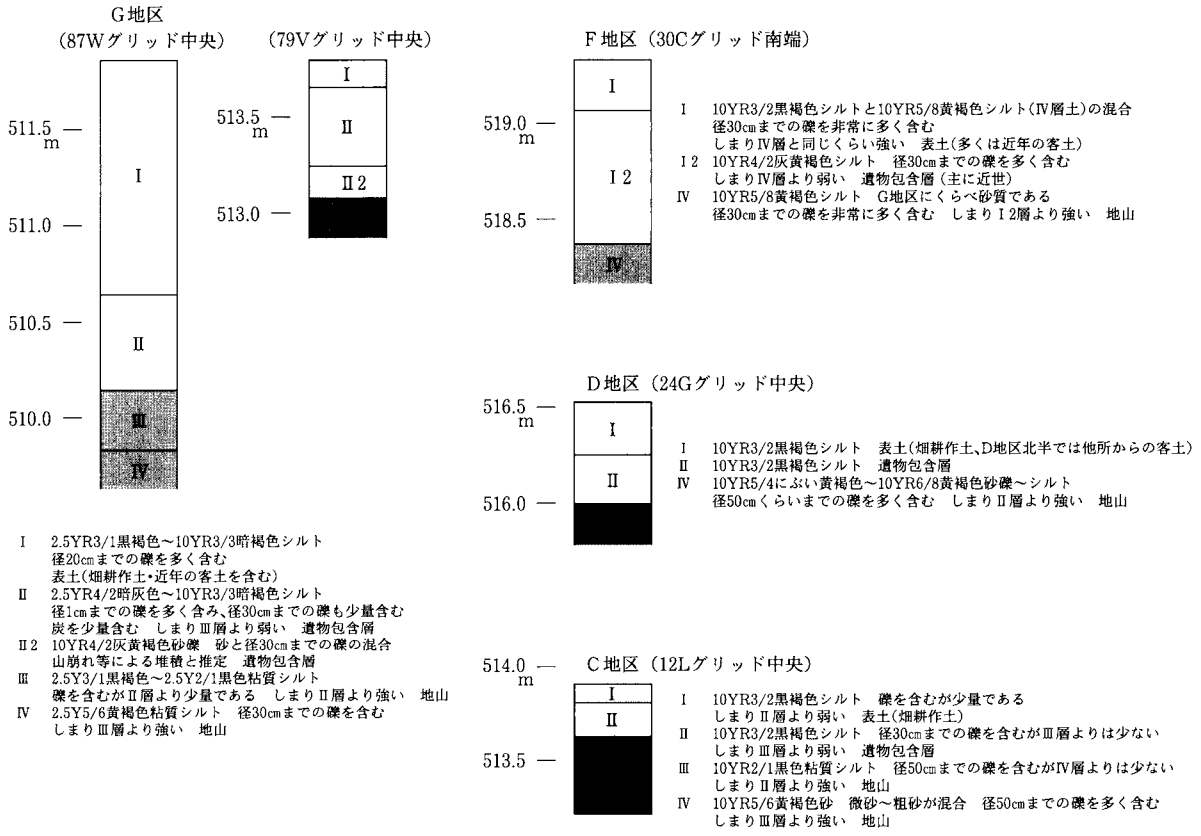
第５図　太江周辺の遺跡

第3節　遺跡の基本層序

調査地の大部分は近年まで畑地として利用されていたため、近年の攪乱はあまりみられず、概ね層序は安定している。ただし、遺物包含層が比較的厚く遺物が豊富である割に遺構の残存状態が良好ではなく、そうした傾向は今回初めて調査したG地区において特に顕著であった。遺跡が扇状地の斜面上に位置しているため、流水により遺構が損なわれることが度々あったためとみられる。

層序の判断に当たっては、平成10年度から13年度にかけての調査時の所見を参考とした。しかし、調査が複数年度にわたり続いたことにより層番号等を整理し直す必要が生じたため、層名や層番号は前報告書のものをそのまま踏襲はしていない。各地区の堆積状況に大きな相違がみられなかったことから、基本層序では全地区共通の層番号としている。なお、基本層序では層番号にローマ数字を用い、遺構埋土では算用数字を用いて区別した。

Ⅰ層は表土であり、畑耕作土や近年の盛土などで近現代製品を含む。F地区には近世の遺物を多く含む層があり、これはⅠ2層とし区別した。Ⅱ層は古墳時代後期から古代にかけての遺物包含層で、後世の遺物混入は少ない。巻末の「遺物包含層一覧表」にグリッド毎の遺物組成と破片数を明示してあるので参照されたい。Ⅲ層・Ⅳ層は遺物を含まない地山である。遺構検出面はⅢ層上面を基本とするが、Ⅲ層が存在しない区域ではⅣ層上面で検出している。なお、遺構埋土は多くの遺構では黒褐色シルトであったが、Ⅲ層との判別は容易ではなかった。そのため、実際には地山を少し掘り下げたレベルで遺構を検出したケースも多い。



第6図　遺跡の基本層序

第３章　検出した遺構

第１節　遺構の概要

今回の調査で検出した遺構の総数は845基である。地区別では、Ｇ地区644基、Ｃ地区112基、Ｆ地区36基、Ｄ地区53基となる[1)]。

遺構の残存状態が必ずしも良好ではなかったため、検出が非常に困難なケースが多く、検出したものの、形状や構造を把握するのが難しい遺構も少なくなかった。そのため、形状や推定される使用目的等を考慮した独自の分類を行った。遺構の名称についても、実情にあった呼び方を選択した。例を挙げれば、当遺跡では遺構検出面上に焼土が堆積した状態で検出されるものや、浅い穴の中に焼土が堆積した遺構が多数みられるが、本書ではそれらを一括して「焼土堆積遺構」と呼んでいる。また、地表面を竪穴状に掘り窪めた大型の穴は一般に「竪穴住居跡」とされるが、当遺跡の場合、住居跡と考える根拠に乏しいケースが多いことから「竪穴建物跡」と呼んでいる[2)]。ピットと土坑は、前者が小型の穴、後者がそれより大型の穴、という使い分けをしているが、寸法で厳密に区分はしていない。それよりも柱穴の可能性のあるものはピットとする分別法を優先させた。

調査方法についても、遺構種別ごとにそれぞれ最もふさわしいと思われる手法を選択したため一様ではない。竪穴建物跡・土坑・溝では掘削に当たりセクションベルトを設けて土層断面を観察しつつ底面まで掘り下げる掘削法を採ったが、ピットでは検出後に一段（約５cm）下げて柱痕部の有無確認等を行い、空中写真撮影後に断ち割って断面形や埋土の状況を確認する手法を採った。また、焼土堆積遺構や特に検出困難な一部の竪穴建物跡では、平面形を確認後に直ちに断ち割って断面観察を優先させる調査法を採らざるを得なかったケースもある。

遺構種別と各々の基数、それに地区別の内訳は第２表の通りである。

第２表　遺構集計表

遺構種別	Ｇ地区 (3,200m²)	Ｃ地区 (380m²)	Ｆ地区 (280m²)	Ｄ地区 (240m²)	合　計 (4,100m²)
竪穴建物跡	9	5	2	2	18
ピット	558	90	31	46	725
(掘立柱建物跡)	(4)			(1)	(5)
(礎石建物跡)				(1)	(1)
焼土堆積遺構	17	5		1	23
土坑	28	10	3	3	44
溝	31	1			32
井戸		1			1
石列				1	1
集石	1				1
合　計	644	112	36	53	845

ピットとした遺構の中には、柱穴や杭穴の可能性があるものが含まれる。配置や遺構間の寸法を検討することにより、掘立柱建物5軒、礎石建物1軒を見出している。

ほとんどが古墳時代後期から平安時代の時期に属する遺構であり、それ以外では古墳時代中期と近世の遺構が少数ながらみられる。近代以降の生活痕跡については遺構として扱わず、「攪乱」扱いとして平面図でもケバ付き破線記号で上端平面形のみを表示している。なお、遺構各々の年代については、出土遺物全体を分析した上で第5章において現時点での見解を提示した。

遺構番号については、調査現場で検出時に与えた番号をそのまま本書でも用いた。これは、発行後における原資料との照合や再検証等の機会において、支障を来す可能性を最小限とするために採った措置である。完全な連番となっていないのは、一旦番号を与えたものでも精査の過程で遺構ではないと判断できたものについては遺構登録を抹消し、その番号を欠番としているためである。この番号は通番であり、遺構種別ごとに番号を分けることは行っていない。「1号遺構（ピット）」のように遺構種別を付して表記している。遺構内で検出した遺構内付属遺構とでも言うべきもの、例えば竪穴建物跡の床面で検出したピットなどは、「100－1号」のように本体遺構番号のあとに枝番号で表示した。各地区の遺構番号の割り振りと概要は次の通りである。

G地区（1号～684号遺構）

遺跡の西端に位置し、寿楽寺廃寺からは最も隔たった地区である。今回初めて調査を実施した。調査前は大部分畑地で、一部は宅地であった。扇状地の南向き斜面に位置する。遺跡内で最も傾斜の急な地区であり、また最も湧水の激しい地区でもある。そのため遺構の残存状態は良好とは言えず、遺構の検出は極めて困難であった。

竪穴建物跡や掘立柱建物跡を検出したほか、「寺」のヘラ書きのある須恵器1点が出土した。東端部では遺構密度が極めて希薄となる。

C地区　(1002号～1136号遺構)

今回の調査区域は、平成10年度に調査を実施した2つの調査区域に挟まれる。東隣接地では遺構は検出されておらず、西隣接地では住居跡とみられる竪穴建物跡7基などを検出している。

南向きの緩斜面に位置しており、調査前は畑地であった。平安時代の須恵器と灰釉陶器多数が出土した竪穴建物跡（1083号遺構）を検出した。

F地区（2001号～2036号遺構）

南向きの緩斜面に位置している。調査前には過半部分が畑地であったが、東端部は宅地であった。西隣接地は平成11年度に調査を実施しており、今回の調査区域から30mほど離れた地点で住居跡とみられる竪穴建物跡が密集することを確認している。

今回の調査区域では、竪穴建物跡を検出したほか、「高家寺」の墨書のある須恵器1点が出土した。

D地区（3001号～3056号遺構）

調査区域は南向きの緩斜面に位置しており、調査前は畑地であった。東隣接地では、平成11年度から12年度にかけて実施した調査において寿楽寺廃寺の基壇や回廊跡などを確認している。西は平成10年度に調査し、住居跡とみられる竪穴建物跡や掘立柱建物跡を検出したE地区に隣接する。

今回の調査では寺院関連遺構とみられる礎石建物跡を検出した。掘立柱建物跡や竪穴建物跡も検出している。「寺」のヘラ書きのある須恵器1点が出土した。また、瓦が多数出土した。

第２節から第５節において、主要な遺構について遺構種別毎に報告する。遺構内から出土した遺物については巻末の「遺構一覧表」に層毎の出土破片数を記してあるので、参照されたい。実測図を図示した個体については本文中に一覧表を掲載してある。

第２節　竪穴建物跡

平成10年度から12年度にかけて行った調査では、Ｃ地区、Ｅ地区、Ｆ地区において、住居跡であることの明らかなカマドを備えた竪穴建物跡を検出している。今回の調査でも同様の遺構を多数検出できるものと予想したが、調査結果は当初の予想とは非常に異なる様相を呈することとなった。

まず、検出基数では、予想を下回る結果となった。平成11年度の第２次調査時にＦ地区で確認したような、複数の竪穴建物跡が密集する状況を、今回は見出すことはできなかった。これは主として、今回の調査の中心となったＧ地区において遺構の残存状態が良好でなかったことに起因する。そのため、今回の調査区域については集落の範囲や変遷などを考察する際には、残存する遺構から十分なデータを得ることができず、以前の調査区における成果との比較検討が難しいと判断される。

遺構の構造や性格についても、相違がみられる。今回の調査で検出した遺構には、上記のようなカマドを備えた典型的な竪穴住居跡といえる遺構は極めて少なく、竪穴構造ではあるが住居跡と呼ぶには無理がある遺構が大半を占めた。検出した竪穴建物跡18基のうち、明確にカマドが確認されたのは、531号遺構、1083号遺構、3032号遺構の３基にとどまり、ほかにはカマド想定位置に焼土の堆積がみられる例として100号遺構、410号遺構、650号遺構を見出せる程度である。したがって、今回、竪穴建物跡とした遺構の中には、住居としての性格を持たない施設も含まれるものと考えられる。

特に小型である場合を除き、竪穴建物跡では確認されるのを通例とする屋根を支える柱の痕跡についても、確認事例は極めて限られる。3032号遺構のケースが該当する可能性が高いほかは、1083号遺構にその可能性があるにとどまり、整然と柱が並びはしないケースが大半を占めるのである。また、貼り床を施している例はなく、床面に周溝が巡る例もない。ただし、この２点は今回の調査区域に限ったことではなく、以前の調査区域でも同様であった。

以上のように遺構の分布状況や構造の把握という面での成果は限定されるものの、出土遺物の面では大きな成果を収めることができた。詳しくは第５章で述べることとするが、1083号遺構や2001号遺構の出土遺物は、当地域の古代土器研究に寄与するところの大きい一括資料である。

以下、各々の遺構について報告する。遺構の深さの記述に当たっては、遺構内の柱穴やカマドなど、遺構内付属施設を除いた箇所での計測値を採用した。

100号遺構（第７図）

Ｇ地区の83Ｘ・84Ｘ・84Ｙ・85Ｘグリッドに位置する。検出面はⅢ層上面である。残存状態は当遺跡では良好な部類に属する。平面形は不整な方形で、長軸430㎝、短軸407㎝を測る。埋土は全体に均質な土層が安定してみられ、自然埋没と考えられる。深さは確認面から最大で35㎝を測る。斜面上方側となる北壁際の、中央から西へ約１ｍずれた位置に焼石を含む焼土の堆積が認められた。検出位置から判断して、ここにカマドが設けられていた可能性が高いが、カマドらしい構造は全く残っていなかった。床面でピット２基を検出したものの、このうち100－１号遺構は埋土から須恵器無台碗が出

土していることから後世の遺構である可能性がある。したがって竪穴内に柱は並ばず、主柱を持たない構造を採っていたと考えられる。

焼土の堆積をカマドの残骸とみるならば、当遺構は竪穴住居の跡と考えることができる。ただし、鉄滓（20）が出土していることから、鍛冶工房の性格を併せ持つ建物であった可能性がある。

出土遺物では、床面に半ばめり込んだ状態で出土した、ほぼ完形の大型の須恵器甕（19）が注目される。

第3表　100号遺構出土遺物

出土層位	器　　種（遺物番号）
1層	須恵器杯蓋（7）・杯身（8）・摘み蓋（9・10）・有台杯（12・13）・有台皿？（15）・鉢（16）、土師器高杯（17）、刀子（21）、鉄滓（20）
2層	須恵器無台杯（11）、土師器甕（18）
床面直上	須恵器甕（19）
100-1号　1層	須恵器無台碗（14）

197号遺構（第7図）

G地区の85V・85W・86V・86Wグリッドに位置する。検出面はⅣ層上面である。

残存状態は比較的良好であるが、斜面下方側となる南壁は壁の立ち上がりが明瞭ではない。平面形は不整な長方形である。長軸538cm、短軸223cmを測る。埋土には炭や焼土を多く含む。

床面でピット11基を検出した。これらの配置に規則性を見出すのは不可能ではないが、焼土との位置関係からみて、柱穴と断定できるような遺構ではないと判断する。床面には焼土の堆積が広範囲にみられ、遺構内からは焼石が12点出土した。それらの中の3点は砥石で（41・42・43）、原位置を保っているとみられる41は、床面に掘り込まれた浅い焼土堆積土坑に埋め込まれた状態で検出された。それ以外にも表面が被熱による劣化のため断定はできないものの、焼石の中には砥石の可能性があるものが含まれる。なお、197号遺構を検出した86Vグリッドでも、包含層Ⅱ層から砥石が出土している（464）。

砥石が出土したことと、出土遺物に刀子（21）や鉄滓（20）がみられることから、鍛冶工房の性格を持つ建物跡である可能性が高いであろう。ただし、焼土を持ち帰り、水洗選別を実施したところ、鍛冶作業の存在を裏付ける微細な遺物を確認することはできなかった（第21表）。

第4表　197号遺構出土遺物

出土層位	器　　種（遺物番号）
1層	須恵器摘み蓋（24・25・26）・無台杯?（27）・有台杯（28・29・30）・無台碗（33）・無台碗？（31・32）・鉢（36）・壺または鉢（34）、土師器甕（38・39・40）・製塩土器（37）、砥石（42・43）
197-12号　1層	須恵器鉢？（35）
197-14号　1・2層	不明金属製品（44）
197-14号　2層	砥石（41）

230号遺構（第18図）

Ｇ地区の83Ｖ・84Ｖ・84Ｗグリッドに位置する。検出面はⅢ層上面である。残存状態は比較的良好であったが、検出後に上方からの湧水により損なわれた。そのため、断面図間で標高値が厳密には合っていないことをお断りしておきたい。平面形は長方形で、長軸282cm、短軸197cmを測る。埋土は全体に均質な土層が安定してみられ、自然埋没と考えられる。深さは確認面から最大で14cmを測る。

遺構の性格は不明であるが、単独の建物跡とみるには小型であることと、後述する２号掘立柱建物跡と位置的に重なることから、掘立柱建物の内部施設の可能性を考えてよいであろう。

出土遺物では、刀子（55）と鉄鏃（56）が注目される。

第５表　230号遺構出土遺物

出土層位	器　　種（遺物番号）
１層	須恵器杯蓋（47）・杯身（48）・摘み蓋（49）・無台杯（50・51）・有台杯（53）・甕（52）、土師器甕（54）、刀子（55）、鉄鏃（56）

246号遺構（第８図）

Ｇ地区の81Ｕ・82Ｕ・81Ｖグリッドに位置する。検出面はⅢ層上面である。全体規模と形状は不明であるが、東西420cm以上、南北336cm以上を測る。深さは確認面から最大で38cmを測る。埋土は全体に均質な土層が安定してみられ、自然埋没と考えられる。

当遺構で注目されるのは、須恵器を主とする多くの遺物が良好な状態で出土していることである。須恵器の律令時代器種が現れる前の時期の典型的な遺物組成を示す遺構と言える。近辺の包含層からも、須恵器高杯（387）、須恵器甕（409）、土師器甑（436）など、良好な状態の須恵器・土師器が多数出土しているほか、隣接する250号遺構（溝）や260号遺構（溝）も同様に遺物が豊富である。

カマドらしい焼土は検出されず、床面にピットは認められなかったことから住居跡と考えるには根拠に乏しく、遺構の性格は不明である。

第６表　246号遺構出土遺物

出土層位	器　　種（遺物番号）
１層	須恵器杯蓋（59・60・61・62）・杯身（63・64・65・66）・高杯（67・68）・瑕（72）・短頸壺（69）・壺（70）・甕（71）、土師器杯（73・74）・高杯（75）・甕（76）、釘？（77）・刀子（78）

269号遺構（第18図）

Ｇ地区の83Ｖ・83Ｗグリッドに位置する。検出面はⅢ層上面である。平面形は三角形を呈するが、これが本来の形状とみてよいか疑問が残る。遺構切り合い関係の観察から、２号掘立柱建物跡より新しい遺構であることが判明している。刀子（92）が出土した。

第７表　269号遺構出土遺物

出土層位	器　　種（遺物番号）
１層	刀子（92）

410号遺構（第11図）

Ｇ地区の78Ｄ・78Ｅ・79Ｄ・79Ｅグリッドに位置する。検出面はⅢ層上面である。平面形は一辺４ｍ台の方形となると推測される。深さは確認面から最大で15cmを測る。埋土は全体に均質な土層が安定してみられ、自然埋没と考えられる。

床面にピットは認められないものの、カマド想定位置に焼土の堆積が認められることから、住居跡である可能性が高いであろう。ただし、焼土堆積部にカマドらしい構造は認められない。

図を掲載できる遺物はないが、小型の鉄滓１個体が出土している。

531号遺構　（第９・10図）

Ｇ地区の70Ａ・70Ｂ・70Ｃ・71Ａ・71Ｂ・71Ｃグリッドに位置する。検出面はⅢ層上面である。平面形は方形で、長軸453cm、短軸400cmを測る。遺構埋土と地山土の判別が難しく、さらに４基の焼土堆積遺構と切り合っていることから検出は特に困難であった。深さは確認面から最大で27cmを測る。埋土は全体に均質な土層が安定してみられ、自然埋没と考えられる。

斜面上方側となる北壁際の、中央から東へ約１ｍずれた位置でカマドを検出した。カマドの袖は左右とも芯材に扁平な石を用い、その周りをシルトで被覆する構造を採っている。袖を被覆するシルトはそのまま垂直気味に立ち上がる奥壁を形成している。支脚は確認されなかった。

床面にはピットは１基しか認められないものの、カマドが確認されたことから住居跡と考えてよいであろう。ただし、出土遺物中に鉄滓１個体（138）がみられることから、鍛冶工房の性格を併せ持つ建物跡の可能性がある。

第８表　531号遺構出土遺物

出土層位	器　　種（遺物番号）
２層	須恵器杯身（133）・小型無台杯（134）・無台杯（135・136）、土師器甕（139）、鉄滓（138）
カマド床面直上	須恵器無台杯（137）、土師器甕（140）

650号遺構（第11図）

Ｇ地区の72Ｂ・72Ｃ・73Ｂグリッドに位置する。検出面はⅢ層上面である。平面形は方形となるとみられるが、規模は不明である。深さは最大で13cmを測る。カマド想定位置に焼土の堆積が認められることから、住居跡である可能性が高いであろう。ただし、焼土堆積部にカマドらしい構造は認められない。

出土遺物は土師器の小破片のみであり、図示できるものは出土していない。

653号遺構（第11図）

Ｇ地区の73Ｂ・74Ｂグリッドに位置する。検出面はⅢ層上面である。深さは最大で11cmを測る。形状と規模、それに遺構の性格は不明である。

第９表　653号遺構出土遺物

出土層位	器　　種（遺物番号）
１層	須恵器摘み蓋（167）

1005号遺構・1006号遺構（第12図）

Ｃ地区の16Ｋ・17Ｊ・17Ｋ・17Ｌグリッドに位置する。検出面はⅣ層上面である。深さは1005号が15cm、1006号が12cmと浅い。残存状態が良くないため検出困難であったが、２基の切り合う竪穴建物跡と判断した。ただし、建物跡らしい構造が認められず、1006号遺構の平面形が極めて整わないなど疑問点が多く、いずれも遺構の性格は不明と言わざるを得ない。1006号遺構には図示できる出土遺物はない。

第10表　1005号遺構出土遺物

出土層位	器　　種（遺物番号）
1005号遺構　１層	須恵器摘み蓋（173）、土師器甕（174・175）、砥石（176）

1083号遺構・1136号遺構（第13・14図）

Ｃ地区の15Ｌ・15Ｍ・16Ｌ・16Ｍ・17Ｌ・17Ｍグリッドに位置する。検出面はⅣ層上面である。現地での調査時には、1083号遺構が1136号遺構を切ると解釈した。ただし、検出が極めて困難であったことや、遺構の構造に十分把握しきれない点が残ることから、1136号遺構の部分を1086号遺構の部分補修ないし棚状施設と捉えるなど、別解釈の余地を残している。1136号遺構は大半が残らないため、以下、1083号遺構を中心に報告する。

1083号遺構は、長軸732cm、短軸538cmを測る大型の竪穴建物跡である。当遺跡では最大の規模であり、また、最も情報量の多い遺構でもある。検出面からの深さは、西半部では最大48cmを測るが、西半部と東半部とで床面の高さに段差を持つ構造を採るため、東半部では22cmにとどまる。

床面では42基に及ぶピットを検出している。このすべてが人為的な遺構と考えられるわけではないものの、竪穴内での活動的な生活痕跡と捉えることはできるであろう。位置から判断すれば1083－１・２・３・４号遺構には主柱穴の可能性があると言えるが、定かではない。

北壁際の、中央より１ｍほど西寄りの地点に焼石を含む焼土の堆積が認められ、精査の結果、カマドを検出した。両袖の石と天井石、それにカマド中央付近に立石が認められる。向かって左側の袖では原位置を保っている石を２個、右側の袖では原位置を保つ石２個と動いている石１個を検出した。残存する天井石は１個で、左袖側は袖石にのった状態を保っていた。袖石を粘土等で被覆した痕跡は認められなかった。立石は、火床と推定される床面比熱部よりやや奥の位置に、立ったままの状態で残存していた。カマドに掛ける煮炊具をのせる支脚の役割を果たしたとみられる。これらの石はいずれも熱を受けている。

カマドの位置が通例より竪穴壁面から離れているのが不可解である。カマド奥壁から竪穴の北壁までは１ｍ近く離れており、これでは煙を竪穴外に排出するのが困難である。煙出しのための特別な工夫が必要となったはずであるが、煙道の構造を把握することはできなかった。

埋土の状況は、出土遺物の接合関係や遺物組成を視野に入れた場合、かなり複雑となり、解釈が難しい。まず、１層には、２層以下ではあまりみられない須恵器の無台杯など、律令時代後期以前の器種が多く混在する。また、２層以下では良好な個体が多い灰釉陶器は、１層中には破片としては認められるものの図示できる良好な個体がみられない。つまり包含遺物が２層以下に比べ均質ではなく、遺物包含層の遺物組成に近いと判断される。これに対して、２層以下は比較的安定した層とみること

ができる。C地区の包含層には灰釉陶器は目立たないにもかかわらず、2層以下に灰釉陶器が、それも良好な状態で包含されていることから、それらは後世の流れ込みなどではないことは明らかである。

遺物接合関係を検討したところ、1層と2層、1層と3層、1層と4層、2層と5層、3層と4層、以上5組において破片の接合が確認された。特に1層と2層、3層と4層、この2組において多数の破片の接合が認められた。このことから1層と2層との間、それに3層と4層との間の境目が、実測図に示したよりも実際には幾分あいまいであった可能性がある。遺構内のピット埋土との接合関係では、2層とのみ接合が確認されている。

なお、3層で出土した土師器甕上半部が、隣接する1136号遺構の1層から出土した土師器甕下半部と接合した（215）。このことから3層は1083号と1136号がともに廃絶したのちに1136号側から流入した、1136号に由来する層であると考えられる。あるいは3層と1136号の1層とを連続する同一層と捉え直し、両者を一つの竪穴建物跡と解釈すべきかもしれない。

出土遺物量が極めて多いのが1083号遺構の最大の特徴である。破片数で数えて1,105点の遺物が出土しており、58個体を図示した。灰釉陶器と須恵器の律令時代後期器種に残存状態の良好な個体が多く、当地域における灰釉陶器普及後の典型的な遺物組成を示す事例として、特に注目される。1083号遺構で出土した須恵器と灰釉陶器については、第5章でも取り上げるので参照されたい。

遺構の性格は、残存部分がごく一部に限られる1136号遺構についてはよくわからないが、1083号遺構についてはカマドが設けられていることから住居跡と考えてよいであろう。土器類の出土量が非常に多いこと、出土遺物に管玉や飾り金具といった出土例の稀なものがみられること、それに灰釉陶器普及後の時期の竪穴建物としては異例と言える大型の建物であることから、富裕層の住居跡と考えられる。

第11表　1083号遺構・1136号遺構出土遺物

出土層位	器　　種（遺物番号）
1083号遺構　1層	須恵器無台杯（182）・無台碗（183・184・185・186・187・188・189）・有台碗（197）・有台盤（202）・鉢（207）、土師器甕（209・210）・手捏土器（216）、平瓦（226）、釘？（229）・刀子（231）、砥石（234）・磨製石斧（233）
1083号遺構　2層	須恵器摘み蓋（177）・無台碗（190・191・192）・有台碗（198・199・200）・有台盤（203）、土師器甕（211・212・213）、灰釉陶器碗（217・218）・皿（221）、飾り金具（227）
1083号遺構　3層	須恵器摘み蓋（178・179）・無台杯（181）・無台碗（193）・甕（204・205）・壺（208）、土師器甕（214・215）、灰釉陶器碗（219）、釘（228）・不明金属製品（230）、管玉（232）
1083号遺構　4層	須恵器摘み蓋（180）・無台碗（194・195・196）・有台碗（201）・鉢（206）、灰釉陶器皿（222・223・224・225）
1083号遺構　5層	灰釉陶器碗（220）
1136号遺構　1層	須恵器摘み蓋（253）・壺（254）

1085号遺構（第12図）

C地区の17K・18J・18Kグリッドに位置する。検出面はⅣ層上面である。平面形は極めて不整な長方形となるであろうが、規模は不明である。深さは最大でも12cmで、残存状況は良好とは言い難い。

床面で検出したピットはいずれも比較的深さがあり、柱穴となる可能性があると言えるものの、前述の通り遺構自体の形状が整っていないため、柱の並びを無理なく解釈するのは難しい。西壁の中央付近とみられる位置に炭混じりのシルトがみられ、焼石も確認されたが、断ち割り調査による断面観察からはカマドらしい構造を見出すことはできなかった。遺構の性格は不明である。

第12表　1085号遺構出土遺物

出土層位	器　　種（遺物番号）
1層	須恵器杯蓋（235）・有台杯（236）、土師器甕（237）

2001号遺構（第15図）

F地区の30D・30E・30Fグリッドに位置する。検出面はⅣ層上面である。調査区の南東端に位置するため、遺構全体を検出することはできなかった。規模と形状は不明であるが、おそらく検出部分は全体の4分の1以下であろうと思われる。溝や大規模な土坑である可能性も捨てきれないものの、壁面が竪穴状の掘り込みによるものと見えたため、竪穴建物跡に分類した。

埋土は全体に均質な土層が安定してみられるため、自然埋没と考えられる。深さは確認面から最大で34cmを測る。カマドは確認されなかった。部分検出にとどまったため、柱の並びを推定することは困難である。2001－10号遺構には壁際を巡る周溝の可能性があるが、検出範囲内においても部分的にしか巡らない。なお、当遺跡では以前の調査時にも竪穴内周溝の確認例はない。

部分検出にすぎないにもかかわらず出土遺物量は多く、破片数で404点を数える。遺物組成も他の大多数の遺構とは異なり、須恵器・土師器以外に釘（271）や瓦多数が出土している。瓦には二次的に強く熱を受けたとみられるものはなく、カマドの芯材として利用されたのではないようである。土器類では、灰釉陶器は瓶類の破片が6点あるのみで、碗・皿は皆無である。須恵器に回転糸切り技法が導入されてはいるものの、未だ灰釉陶器は普及していない時期の典型的な遺物組成を示している。「高家寺」の墨書のある須恵器無台碗（260）が出土したことは特に注目される。同様の墨書土器は以前の調査時に3個体出土しているが、寺院検出地区であるD地区以外で出土したのは、これが初めてとなる。詳しくは第4章第2節（9）を参照されたい。

第13表　2001号遺構出土遺物

出土層位	器　　種（遺物番号）
1層	須恵器無台杯（257・258）・無台碗（259・260）・壺（261）・鉄鉢？（262）・鉢（263・264・265・266）、土師器杯？（270）・甕（268・269）、平瓦（272・273・274・275・276）・丸瓦（278・279）・熨斗瓦（277）
床面直上	須恵器返り蓋（255）・摘み蓋（256）
2001-3　1層	釘（271）
2001-9　1層	土師器甕（267）

2005号遺構（第15図）

Ｆ地区の31Ｆ・32Ｆグリッドに位置する。検出面はⅣ層上面である。深さは確認面から最大で21cmを測る。壁面が竪穴状の掘り込みによるものと見えたため竪穴建物跡に分類したが、部分検出にとどまったため、全体規模や形状は不明である。出土遺物に図示できるものはない。

3022号遺構（第15図）

Ｄ地区の28Ｇ・28Ｈ・29Ｇ・29Ｈグリッドに位置する。検出面はⅣ層上面である。深さは確認面から最大で28cmを測る。部分検出にとどまったため、全体規模や形状は不明である。

埋土は焼土と焼石、それに焼けた粘土塊を含んでおり、床面には被熱して赤褐色を呈する部分が認められた。鉄滓等は確認されていないものの、工房的な性格を持った施設であった可能性を考えるべきであろう。ただし、図示してはいないが出土遺物では土師器甕の破片が最も多いことから、住居としての機能を併せ持った可能性もある。

第14表　3022号遺構出土遺物

出土層位	器　　種（遺物番号）
1層	縄文土器深鉢（282）
2層	須恵器小型返り蓋（280）
3022-1　1層	須恵器杯身（281）

3032号遺構（第16図）

Ｄ地区の26Ｈ・26Ｉ・27Ｈ・27Ｉ・28Ｉグリッドに位置する。これは以前の調査で検出された基壇跡や回廊跡と、後述する礎石建物跡に挟まれる位置に当たる。検出面はⅣ層上面である。検出面からの深さは最大で30cmを測る。遺構埋土は縄文時代から古代に至る遺物を含む。調査区南端に位置するため南半部を検出できなかったが、全体規模と形状は一辺５ｍ台くらいの方形となると推定される。

主柱穴とみられるピット２基を床面で検出した。また、北壁際の中央にはカマドが認められる。カマド袖では、左右とも袖石とみられる扁平な石が立った状態で検出された。断面観察によれば、それらの石は地山の上に敷かれた黒褐色シルトにめり込んだ状態で固定されていた。検出地点では地山に礫が多く含まれ、容易には立たないため、このような工夫が必要となったのであろう。

出土遺物の過半数を縄文土器が占めているが、遺構がカマドを持つ住居跡であるので縄文時代の遺構ではあり得ず、それらは後世の混入品と判断される。むしろ、瓦が多量に出土した28Ｈ・28Ｉグリッドに隣接した位置にありながら瓦が１点も出土していないことに注目すべきであろう。当地区で瓦が使用されるようになる前の時期にすでに埋まっていたと考えられる。出土した須恵器の中に律令時代の器種が認められないことも、この推定を裏付けると言えよう。

第15表　3032号遺構出土遺物

出土層位	器　　種（遺物番号）
1層	須恵器杯身（289）、釘（290）・釘？（291）、砥石（294）
2層	石錘（293）
3032-2　1層	縄文土器深鉢（292）

第３節　掘立柱建物跡・礎石建物跡

ピットに分類した遺構には性格不明のものも多数含まれるが、なかには杭穴や柱穴と考えることができるものも見出せる。本節では、遺構間の配置や寸法の検討から掘立柱建物跡や礎石建物跡を構成すると判断した６つの事例を報告する。

１号掘立柱建物跡（第17図）

遺跡の北端付近となるＧ地区の82Ｔ・83Ｔグリッドに位置する。遺構番号36・37・38・39・40・41のピットで構成されるが、さらに北方に広がる可能性が高い。建物の長軸は座標北に対して約70°西に傾く。検出面はⅢ層上面である。

建物跡全体を検出してはいないので柱間寸法を十分に検討できないものの、検出した柱痕跡を頼りに柱中心間の寸法を測ってみると、図示した通り1.43～1.62ｍの値を得ることができる。この数値は、柱の並び方がかなり不揃いであることを示している。とりあえず総柱式の建物跡と考えられるが、柱が整然と並ぶわけではないことと、部分的な検出にとどまり全体の規模と形状を確認できなかったことから疑問も残る。

38号遺構の底面付近から、おそらくは刀子とみられる木質の残る鉄製品１点（３）が出土した。それ以外の出土遺物は須恵器と土師器で、須恵器は古墳時代の器種のみ確認されている。

第16表　１号掘立柱建物跡出土遺物

出土層位	器　　種（遺物番号）
38号遺構　２層	不明金属製品（３）
41号遺構　２層	須恵器杯身（４）

２号掘立柱建物跡（第18図）

Ｇ地区の83Ｖ・83Ｗ・84Ｖ・84Ｗグリッドに位置する。遺構番号214・221・229・235・271・273・274・275・299のピットで構成される。建物の長軸は、座標北に対して88°東に傾く。検出面はⅢ層上面である。

建物の規模は、桁行（東西）３間、梁行（南北）２間と考えられる。ただし、西列の214号と299号の間には、東列の274号と対になるはずの柱穴は存在しない。柱間寸法は、214号と221号の間と299号と275号の間が1.50ｍ（５尺）となる以外はすべて1.80ｍ（６尺）を測り、非常に整った値を示す。桁行方向と梁行方向は直交する。

遺構内から遺物はあまり出土しておらず、図示できたのは１個体のみにとどまるため、建物の帰属時期について特定するのは困難である。

なお、前節でふれたように、230号遺構（竪穴）がこの掘立柱建物跡内に収まる位置にあり、内部施設となる可能性を考えてよいであろう。

第17表　２号掘立柱建物跡出土遺物

出土層位	器　　種（遺物番号）
220号遺構１層	須恵器摘み蓋（46）

3号掘立柱建物跡（第19図）

G地区の81W・81X・82W・82Xグリッドに位置する。遺構番号257・259・263・278・283・288・296のピットで構成されるが、さらに北方に広がる可能性がある。したがって、梁行は2間であるが、桁行は2間以上と考えておく。検出面はⅢ層上面である。

建物の長軸は座標北に対して7°東に傾く。短軸は長軸とは直交しないため、建物の平面形はわずかに平行四辺形気味となる。柱間寸法は整っており、259号と263号の間が1.60mである以外は、すべて1.80m（6尺）と解釈することが可能である。

259号遺構では、遺構埋土に柱痕跡が認められ、柱の根本に敷かれた石が検出された。斜面に位置するため遺構の残存状態は全体に良好とは言えないが、各柱穴の深さは検出面から20～40cm台を測る。

遺構内からの出土遺物量は多くないものの、須恵器は古墳時代器種がみられ、律令時代以降の器種は確認されない。

第18表　3号掘立柱建物跡出土遺物

出土層位	器　　種（遺物番号）
278号遺構　1層	須恵器杯身（93）
296号遺構　1層	須恵器高杯（101）

4号掘立柱建物跡（第20図）

G地区の72A・73A・73B・74A・74Bグリッドに位置する。検出面はⅢ層上面である。

遺構番号626・629・631・634・652・654・656のピットで構成されるが、さらに西方に広がるとみられ、道路を挟んだ位置にある102号遺構もこの建物跡の柱穴となる可能性がある。ただし、102号遺構の出土遺物には、この建物跡の他の遺構の出土遺物にはみられない回転糸切りの痕跡が残る須恵器があり、整合しない。したがって、建物の全体規模は不明と言わざるを得ない。梁行は2間であるが、桁行は2間以上と考えておく。

建物の長軸は、座標北に対して76°西に傾く。ただし、南側列は北側列と平行ではなく、短軸と直交しない。そのため、建物の平面形は、やや台形気味となり、不揃いとの感は免れない。これに対して柱間寸法は比較的整っており、桁行では2.10m（7尺）、梁行では1.80m（6尺）と解釈することが可能である。

この建物跡の特徴の一つとして、柱穴の規模が大きいことが挙げられる。各柱穴の平面形は円形と隅丸方形がみられるが、いずれも長軸の計測値は80cmを超える。検出地点が斜面であるため深さにはばらつきがあるものの、最も高所に位置する626号遺構では、検出面からの深さは54cmを測る。

出土遺物は多くないものの、須恵器には古墳時代器種と律令時代前期の器種に偏る傾向が認められる。

第19表　4号掘立柱建物跡出土遺物

出土層位	器　　種（遺物番号）
629号遺構　1層	須恵器小型返り蓋（162）
652号遺構　1層	須恵器杯身（166）

５号掘立柱建物跡（第17図、第73図）

Ｄ地区の24Ｇ・25Ｇ・25Ｈグリッドに位置する。検出面はⅣ層上面である。遺構番号3001・3002・3003・3004のピットで構成されるが、さらに東方に広がる可能性が高い。図上での検討からは、平成12年度調査内に、対になるとみられる２基のピットを北側列の延長線上の等間隔の位置に見出すことができる（第73図）。この推論が正しければ、桁行（東西）４間以上、梁行（南北）２間以上の建物となる。柱間寸法は、梁行は1.80ｍ（６尺）、桁行は2.25ｍ（7.5尺）である。建物の長軸は、座標北に対して85°西に傾く。

出土遺物は須恵器と土師器の小破片のみで、図示できるものはない。そのため遺構の年代は不明である。しかし、検出地点が寺院回廊跡と後述の礎石建物跡に挟まれる位置であることから、隣接する3032号遺構（竪穴）の場合と同様に、それらと同時期の遺構とは考え難い。前述の通り3032号遺構（竪穴）が寺院よりも前の遺構である可能性が高いことから類推して、この建物跡も寺院より前の時期の遺構と捉えておきたい。

礎石建物跡（第21・22図、第73図）

Ｄ地区の28Ｊ・29Ｈ・29Ｉ・29Ｊ・29Ｋ・30Ｈ・30Ｉ・30Ｊ・30Ｋグリッドに位置する。検出面はⅣ層上面である。遺構番号3026・3027・3036・3037・3044・3047・3049・3054・3055のピットで構成される。さらに南方に広がる可能性はあるものの、3055号遺構南方の柱穴想定位置にそれらしい遺構を見出せなかったことから、図示したピット９基で完結する建物跡であると考えている。西側隣接地は平成10年度に調査を実施したＥ地区であるが、対になるような柱穴は見出せない（第73図）。また、北方と西方に広がる可能性はほとんどないとみてよい。したがって、建物の規模は、桁行（南北）３間、梁行（東西）２間と考えられる。ただし、南列の3044号と3055号の間には、北列の3037号と対になるはずの柱穴は存在しない。柱間寸法は、桁行ではすべて2.70ｍ（９尺）、梁行が2.10ｍ（７尺）と4.20ｍ（14尺）を測り、非常に整った値を示す。桁行方向と梁行方向は直交する。

建物の長軸は、座標北に対して５°西に傾く。本遺構の東方約40ｍで平成11年度に検出した寺院の回廊跡と推定される遺構や、同年度に本遺構の東方約27ｍで検出された僧坊跡の可能性のある掘立柱建物跡では座標北に対して８°西に傾くことが確認されており、本遺構の軸線はそれらに厳密には合わないが近似する（第73図）。

遺構検出の段階で、3026号、3036号、3037号において礎石を確認した。石材は３つとも当地域で容易に入手できる船津花崗岩である。3026号と3037号では、礎石の下に根石とみられる石も確認した。3049号と3047号でも、礎石は残らないものの、根石の可能性のある集石を検出している。以上から本遺構は礎石建物跡であったことが明らかとなった。

礎石を検出した３基も含め、柱穴の掘形はいずれも深く、最も深い3049号遺構で検出面から116㎝を測るのをはじめ、浅いものでも40㎝を超える。また、3027号、3036号、3047号では埋土断面に柱痕跡と思われるものが見出された。また、3026号、3036号、3037号、3047号、3055号では、柱の根本に敷いたとみられる扁平な石も確認された。これらの知見により、建物の最終形態が礎石建物であったのは確かにせよ、それ以前には掘立柱建物であったことも明らかとなった。つまり、当初は掘立柱建物であったものを、のちに礎石建物に改築したと考えられるのである。

なお、本遺構のすぐ東には、石列（3046号遺構）が平行して延びている。方向がほぼ一致すること

から建物に付属する遺構と判断される。建物の基壇を取り巻く砌石（みぎりいし）と考えられる。

第20表に示したように、柱穴内からは瓦と須恵器をはじめとする遺物が出土した。出土層位からみて、瓦の多くは当初の掘立柱建物を建てる際に混ぜ込まれたものと判断される。この西方のE地区で平成10年度調査時に検出した住居跡（E－SB1）でもカマドの芯材として瓦が転用されたことが確認されているので、当遺跡では瓦の二次利用は珍しいことではなかったとみてよいであろう。

ところで、遺物包含層の状況に目を向けると、本遺構は瓦の集中出土区域に隣接することが明らかとなる。今回の調査で出土した瓦は破片数で771点を数えるが、D地区の28Hグリッドと28Iグリッドとで、そのうちの約3分の1が集中して出土している（第26表）。両グリッドは当建物跡の東隣接地に当たる。したがって、それらの多くは建物に葺かれていた瓦である可能性が高いと考えられる。ただし、改築前の掘立柱建物時代の柱穴の掘形埋土である3036号遺構の2層から出土した熨斗瓦が、隣接する28Hグリッド包含層（Ⅱ層）から出土した破片と接合できることが判明した（297）。このことは、28Hグリッドと28Iグリッドに散乱する瓦は、そのすべてがではないにせよ、少なくとも一部は礎石建物の前身の掘立柱建物よりもさらに前の時期の瓦であることを示唆している。この事実により瓦葺きの建物であったことが否定されるわけではないと考えるが、散乱するすべての瓦が建物に葺かれたものではないことは認めなければならない。

包含層出土遺物でもう一つ興味深いのは、鉄釘の出土が目立つことである。当遺跡では金属製品が全地区で出土しているが、そのうち鉄釘だけはD地区出土品の占める割合が大きいことが判明している（第27表）。もう少し詳しくグリッド単位でみてみると、28I・29I・29Jグリッドで特に出土していることが確かめられる。これは本遺構とほぼ重なる区域に当たることから、この建物で使用された釘である可能性が高いであろう。また、 包含層出土遺物では、28IグリッドⅡ層から鞴の羽口（570）が出土していることも注目される。

遺構内から出土した土器類には、灰釉陶器は碗も皿も全くみられない。さらに、須恵器の確認器種にも明らかな偏りを見出すことができ、律令時代後期器種である須恵器無台碗・有台碗・有台盤などが全くみられないことが明らかとなる。このことから遺構の帰属時期については、前身の掘立柱建物の創建の下限が、律令時代後期器種が普及するより前の時期であると考えることができる。

遺構の性格については、①柱間寸法が極めて整った値を示すこと、②寺院の回廊より外側に位置すること、③瓦葺きの建物であること、④最終的には礎石建物であったこと、以上から中心伽藍以外の寺院関連施設と考えてよいであろう。さらに、桁行3間×梁行2間の規模であることから、寺院の諸施設の内、僧坊を候補の一つとして考えることができる。

第20表　礎石建物跡出土遺物

出土層位	器　　種（遺物番号）
3026号遺構　1層	須恵器摘み蓋（283）、平瓦（284・285・286・287）・熨斗瓦（288）
3036号遺構　2層	須恵器有台杯（295）、平瓦（296）・熨斗瓦（297）
3037号遺構　1層	縄文土器深鉢（299）、平瓦（300）
3037号遺構　2層	須恵器摘み蓋（298）
3037号遺構　3層	平瓦（301・302）
3054号遺構　1層	須恵器返り蓋（306）

第４節　焼土堆積遺構

前述の通り、遺構検出面上に焼土がのった状態で検出されるものや、浅い土坑の中に焼土が堆積したものを、本書では焼土堆積遺構と呼んでいる。掘り込みを伴わない構造のものがあるため、遺構検出段階で広がり範囲の平面実測を行い、そののちに断ち割り調査を行うという手順を原則とした。遺構図の破線は検出面での焼土の広がり範囲を示している。

多くは平面形や埋土断面の観察のみでは元来の構造や性格を把握するのが困難であった。そのため、焼土を水洗し、微細な鍛冶関連遺物の有無を確認する作業を行った。焼土を流水にさらしフルイにかけて土壌分を洗い流し、乾燥させたのち、磁石と肉眼観察により微細遺物を抽出するという手法を採った。焼土堆積遺構に分類されない竪穴建物跡や土坑の焼土部分についても、同様の作業を併せて行った。その結果は第21表に示した通りである。鍛冶に伴う遺物の可能性があるものを検出した事例が２件あるものの、いずれも点数が極めて少ないため確実な事例とは言えない。結局、対象とした33基の遺構のいずれにおいても、鍛冶作業が行われたことを示す確実な徴証は検出されなかったと判断される。したがって、構造の原型をとどめぬカマドの残骸や、あるいは鍛冶作業以外の火を使う作業の場であったと考えるべきであろう。また、原位置から移動し再堆積したものも多いとみられる。

主な遺構の実測図を第23図と第24図に掲載した。第９図と第21図にも一部掲載している。470号遺構（第23図）で塑像の可能性のある土製品（122）が出土しているのが注目される。

第21表　焼土水洗選別結果一覧

地　区	遺構番号	層　位	微細鉱滓の有無	備　　考
G	8	１層	×	
	92	２層	×	
	100	１層	×	鉄製品出土。鉄滓出土（20）。
		２層	×	
	155	１層	×	
	197	１層	×	鉄製品出土。
	197-12	１層	×	
	197-13	１層	×	
	197-14	１・２層	×	鉄製品出土。
	230	１層	×	鉄製品出土。
	289	１層	×	
		２層	×	
	410	２層	×	１層からは鉄滓出土。
	411	２層	×	
	423	２層	×	
		３層	×	
		４層	×	
	456	１・２層	×	
	470	１層	×	鉄製品出土。
		２層	×	
	488	１層	×	
		２層	×	
	526	１層	×	
	528	１～４層	×	
	530	１層	×	
		２層	△	微細な薄板状鉄片１点あり。
	531	１層	×	２層からは鉄滓出土（138）。
		３層	×	
	533	１層	×	
	628	１層	×	
		２層	×	
		３層	×	
		４層	×	
	633	２層	×	
	657	１層	×	
	684	１層	×	鉄製品出土。
C	1003	１・２層	×	鉄製品出土。
	1083	３層	×	鉄製品出土。
		４層	△	微細鉄片３点あり。
		５層	×	
	1120	１層	×	
	1123	１層	×	鉄製品出土。
	1132	１層	×	
	1136	１層	×	
D	3022	２層	×	
	3048	１層	×	鉄製品出土。

第5節　その他の遺構

その他の遺構については、概要を記すにとどめる。実測図は巻末の「遺構図」（134～144頁）を参照されたい。また、巻末の「遺構一覧表」(148～157頁）に長軸、短軸、深さ、出土遺物数を掲載した。

土坑

ピットより大型の穴で、柱穴である可能性を考え難い遺構を土坑とした。44基検出した。性格や用途を明らかにできたものはない。

溝

平面形が細長い溝状をなすものを溝とした。32基を数えるが、この中には人為的な遺構というより自然流路である可能性の高いものを含む。湧水の著しいG地区に集中することから、多くは排水溝と考えられる。建物群や屋敷地を区画するような、性格の明確な規格性のある溝はみられない。

大規模なものとしてはG地区の550号遺構がある。分類上、遺構種別は溝としておいたが、斜面の上方側を掘削して造られた平場とみた方がより適切かもしれない。斜面上方から流れ込んできた遺物がここに溜まったため、出土遺物量は極めて多い。全形を確認することはできなかったため、遺構の性格は不明である。なお、この遺構と切り合う549号遺構では、須恵器杯身（144)、土師器高杯（146）など古墳時代中期に遡るとみられる遺物が出土しているので、550号遺構との新旧関係は遺構図（138頁）に示した平面図とは逆となる可能性がある。

井戸

井戸とみられる遺構は、C地区の東端に位置する1116号遺構1基のみである。埋土中から擂鉢や湯呑など近世の陶磁器が出土したことから、近世の遺構と考えられる。

なお、当遺跡では古代にまで遡る井戸の跡は、以前の調査時も含め全く確認されていない。

集石

G地区の529号遺構は石を敷き並べた遺構である。熱を受けており、石の上には焼土の堆積が認められた。遺構の性格を明らかにすることはできなかったが、火を使用した施設の跡と考えられる。

注

1）遺構としたものの中には、人為的な生活痕跡と断定はできないが否定する根拠もまた見出せないものを含む。ピット・土坑・溝に分類し、遺構番号を与えたものの中には、そのようなケースが特に多く含まれる。

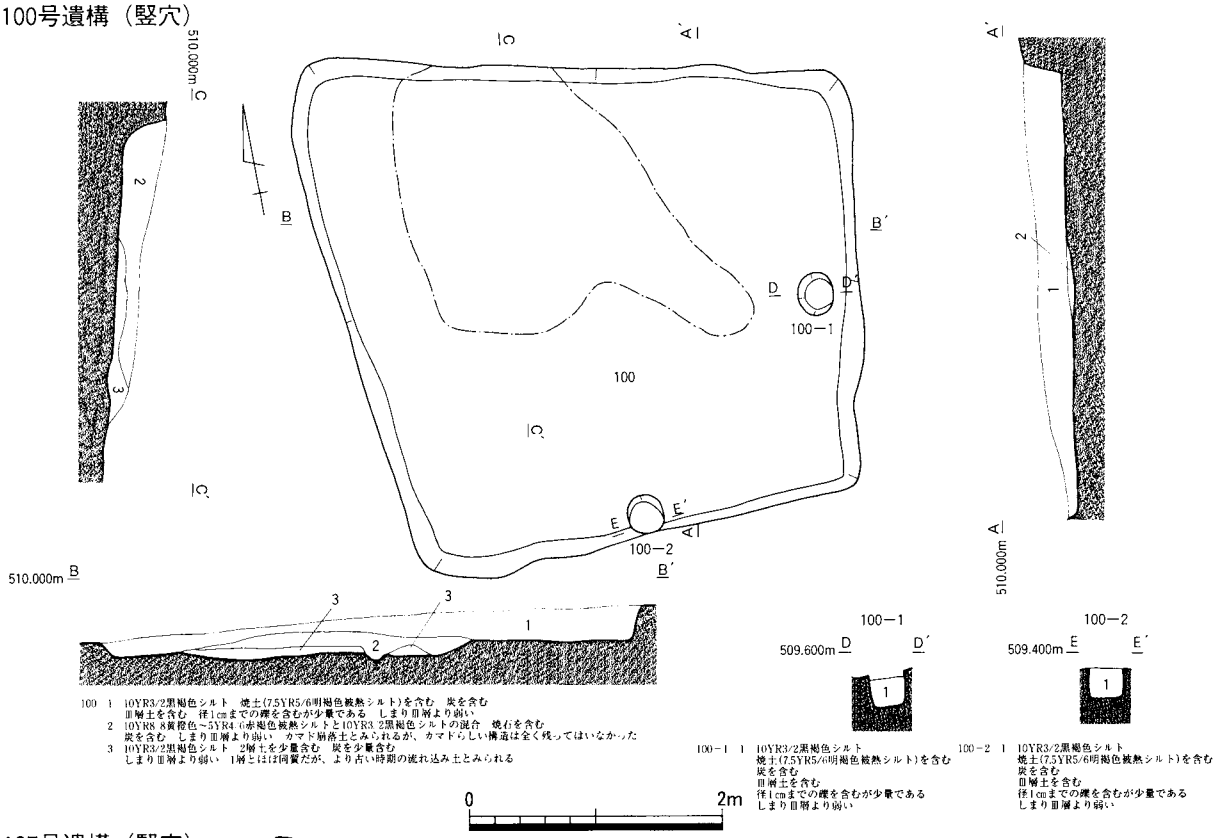
2）竪穴建物跡とした遺構の中には「建物跡」とさえ考える根拠に乏しいものも含まれる。しかし、「竪穴遺構」や「竪穴状遺構」という遺構名は中世以降の遺構に対して用いられることが慣習化しているため、時期的に主に古代に属する当遺跡の遺構に対して用いるのはふさわしくないと判断し、「竪穴建物跡」の呼称を選択した。

主要遺構実測図

凡例

1　平面図において破線は遺構の残存範囲を示す。
2　平面図において一点鎖線は、カマド用材や焼土の範囲を示す。
3　柱穴の柱痕部は平面図にスクリーントーンで表示した。
4　掲載縮尺は1/60である。ただし、カマド等の部分拡大図は1/30である。

100号遺構（竪穴）

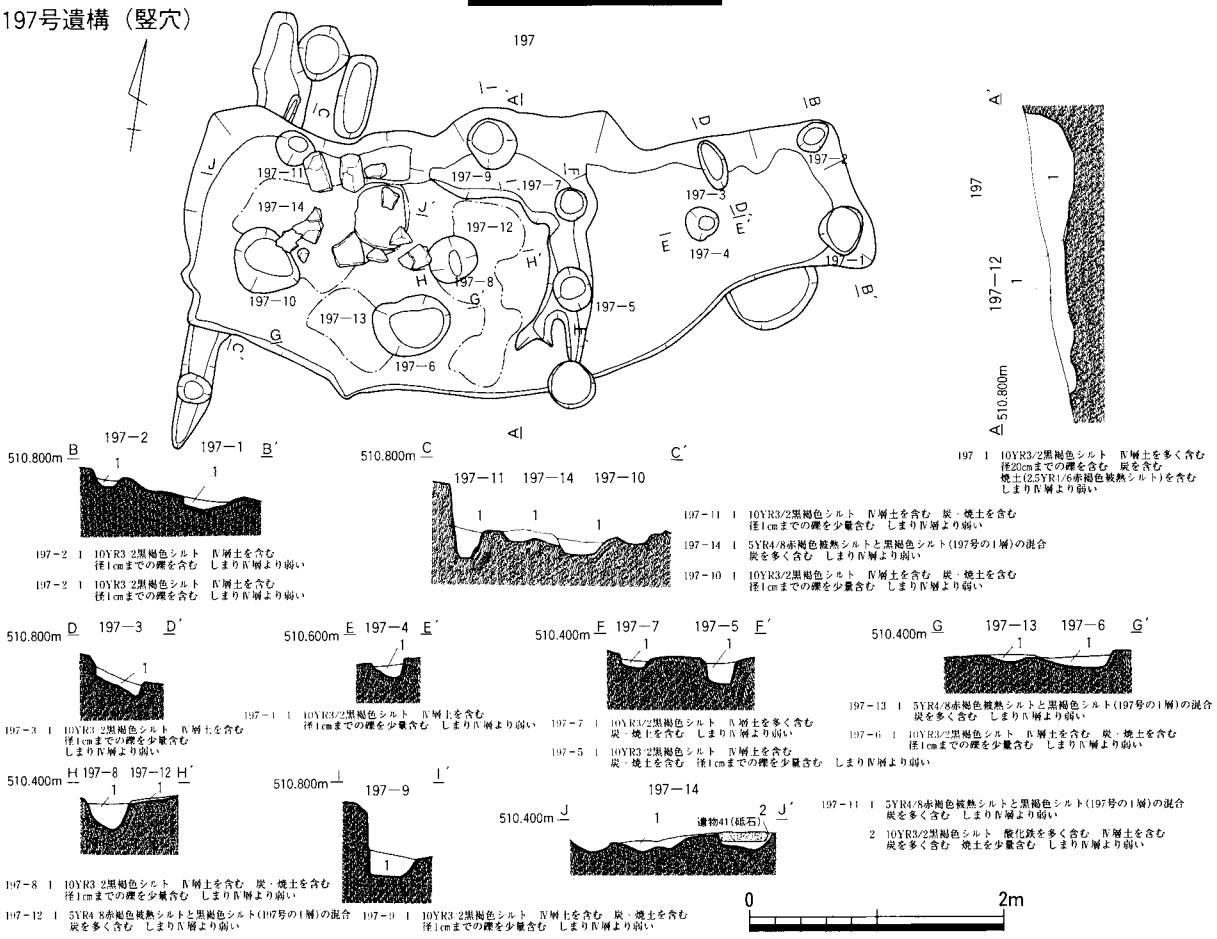


100　1　10YR3/2黒褐色シルト　焼土(7.5YR5/6明褐色被熱シルト)を含む　炭を含む
Ⅲ層土を含む　径1cmまでの礫を含むが少量である　しまりⅢ層より弱い
2　10YR8/8黄橙色～5YR4/6赤褐色被熱シルトと10YR3/2黒褐色シルトの混合　焼石を含む
炭を含む　しまりⅢ層より弱い　カマド崩落土とみられるが、カマドらしい構造は全く残ってはいなかった
3　10YR3/2黒褐色シルト　2層土を少量含む　炭を少量含む
しまりⅢ層より弱い　1層とほぼ同質だが、より古い時期の流れ込み土とみられる

100−1　1　10YR3/2黒褐色シルト
焼土(7.5YR5/6明褐色被熱シルト)を含む
炭を含む
Ⅲ層土を含む
径1cmまでの礫を含むが少量である
しまりⅢ層より弱い

100−2　1　10YR3/2黒褐色シルト
焼土(7.5YR5/6明褐色被熱シルト)を含む
炭を含む
Ⅲ層土を含む
径1cmまでの礫を含むが少量である
しまりⅢ層より弱い

197号遺構（竪穴）



197　1　10YR3/2黒褐色シルト　Ⅳ層土を多く含む
径20cmまでの礫を含む　炭を含む
焼土(2.5YR1/6赤褐色被熱シルト)を含む
しまりⅣ層より弱い

197−2　1　10YR3/2黒褐色シルト　Ⅳ層土を含む
径1cmまでの礫を含む　しまりⅣ層より弱い

197−2　1　10YR3/2黒褐色シルト　Ⅳ層土を含む
径1cmまでの礫を含む　しまりⅣ層より弱い

197−11　1　10YR3/2黒褐色シルト　Ⅳ層土を含む　炭・焼土を含む
径1cmまでの礫を少量含む　しまりⅣ層より弱い

197−14　1　5YR4/8赤褐色被熱シルトと黒褐色シルト(197号の1層)の混合
炭を多く含む　しまりⅣ層より弱い

197−10　1　10YR3/2黒褐色シルト　Ⅳ層土を含む　炭・焼土を含む
径1cmまでの礫を少量含む　しまりⅣ層より弱い

197−3　1　10YR3/2黒褐色シルト　Ⅳ層土を含む
径1cmまでの礫を少量含む
しまりⅣ層より弱い

197−4　1　10YR3/2黒褐色シルト　Ⅳ層土を含む
径1cmまでの礫を少量含む　しまりⅣ層より弱い

197−7　1　10YR3/2黒褐色シルト　Ⅳ層土を多く含む
炭・焼土を含む　しまりⅣ層より弱い

197−5　1　10YR3/2黒褐色シルト　Ⅳ層土を含む
炭・焼土を含む　径1cmまでの礫を少量含む　しまりⅣ層より弱い

197−13　1　5YR4/8赤褐色被熱シルトと黒褐色シルト(197号の1層)の混合
炭を多く含む　しまりⅣ層より弱い

197−6　1　10YR3/2黒褐色シルト　Ⅳ層土を含む　炭・焼土を含む
径1cmまでの礫を少量含む　しまりⅣ層より弱い

197−8　1　10YR3/2黒褐色シルト　Ⅳ層土を含む　炭・焼土を含む
径1cmまでの礫を少量含む　しまりⅣ層より弱い

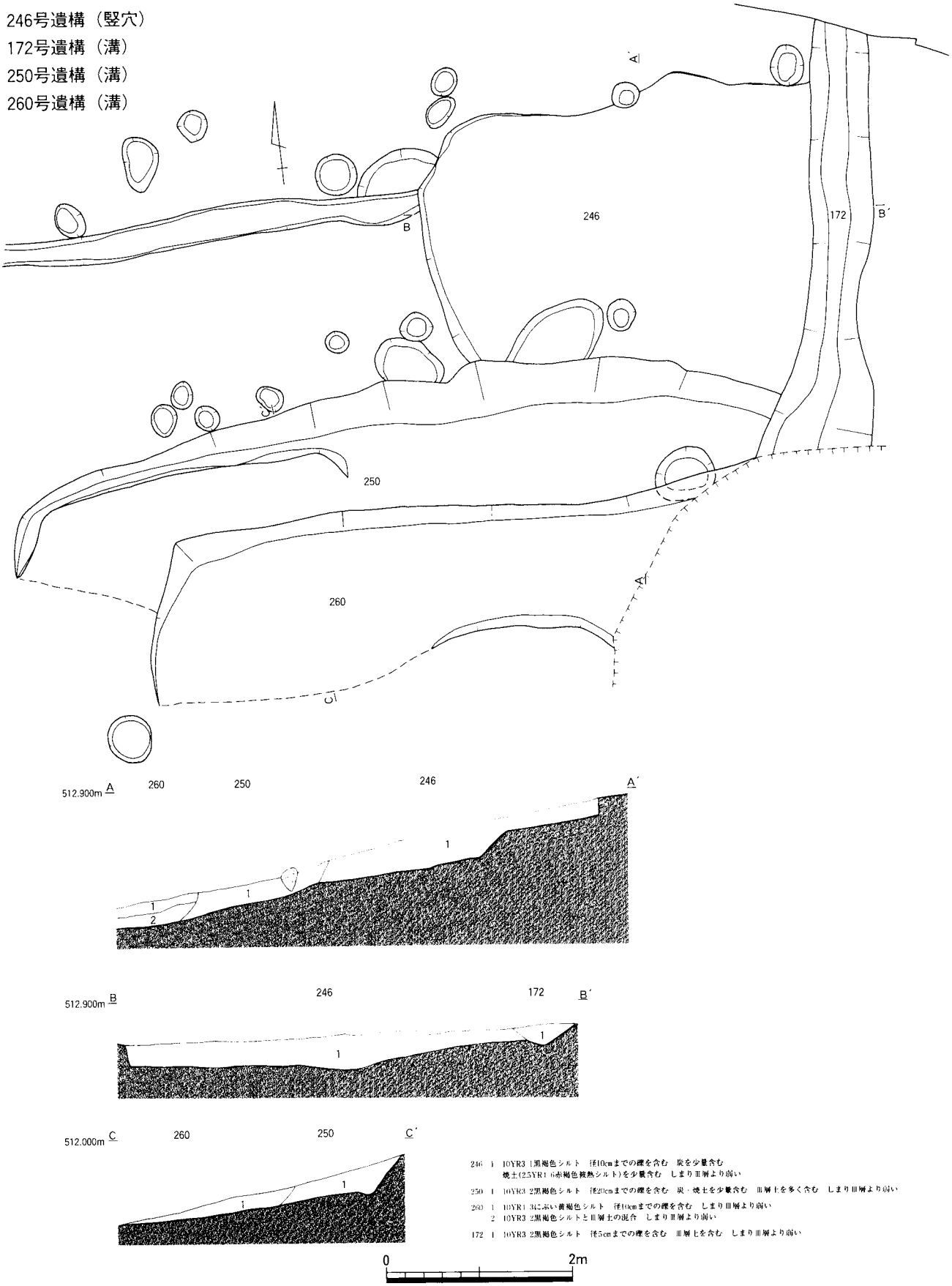
197−12　1　5YR4/8赤褐色被熱シルトと黒褐色シルト(197号の1層)の混合
炭を多く含む　しまりⅣ層より弱い

197−9　1　10YR3/2黒褐色シルト　Ⅳ層土を含む　炭・焼土を含む
径1cmまでの礫を少量含む　しまりⅣ層より弱い

197−11　1　5YR4/8赤褐色被熱シルトと黒褐色シルト(197号の1層)の混合
炭を多く含む　しまりⅣ層より弱い

2　10YR3/2黒褐色シルト　酸化鉄を多く含む　Ⅳ層土を含む
炭を多く含む　焼土を少量含む　しまりⅣ層より弱い

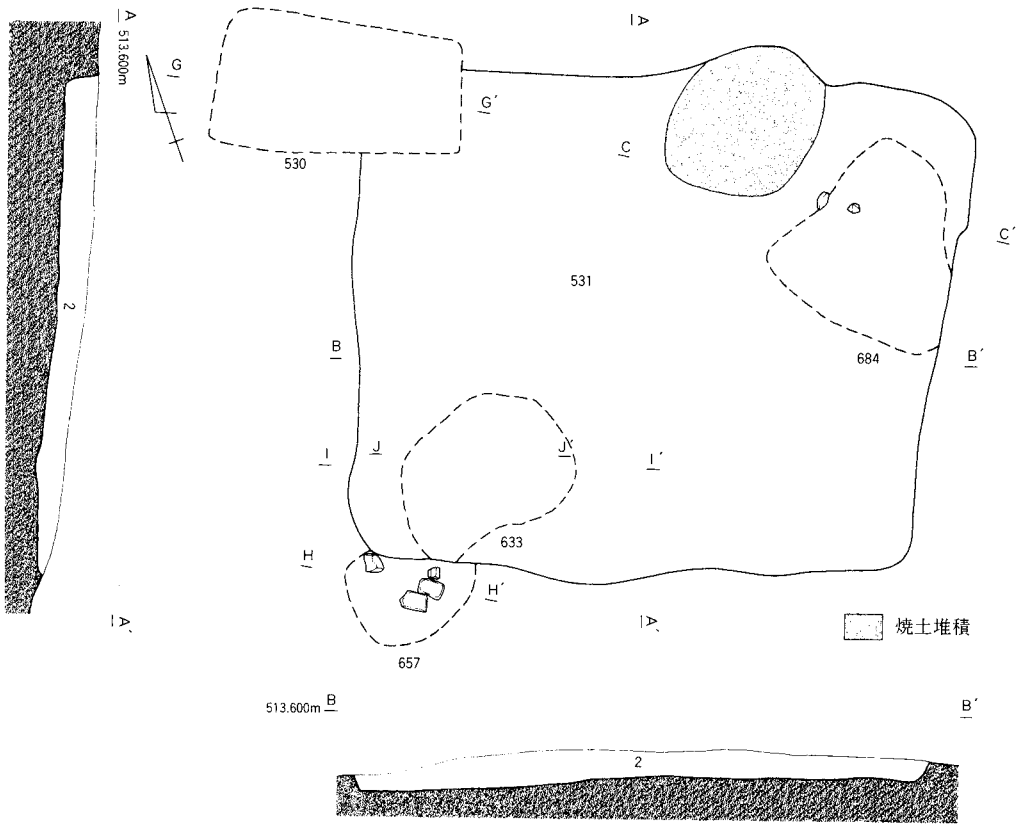
第7図　竪穴建物跡（1）



246　1　10YR3/1黒褐色シルト　径10cmまでの礫を含む　炭を少量含む
　　焼土(2.5YR1/6赤褐色被熱シルト)を少量含む　しまりⅢ層より弱い
250　1　10YR3/2黒褐色シルト　径20cmまでの礫を含む　炭・焼土を少量含む　Ⅲ層土を多く含む　しまりⅢ層より弱い
260　1　10YR1/3にぶい黄褐色シルト　径10cmまでの礫を含む　しまりⅢ層より弱い
　　2　10YR3/2黒褐色シルトとⅢ層土の混合　しまりⅢ層より弱い
172　1　10YR3/2黒褐色シルト　径5cmまでの礫を含む　Ⅲ層土を含む　しまりⅢ層より弱い

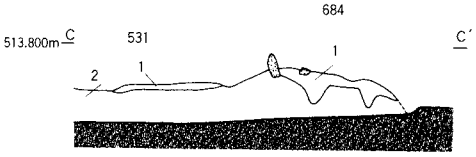
第8図　竪穴建物跡（2）

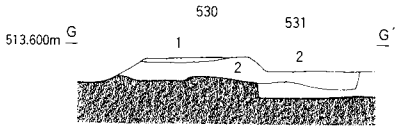
531号遺構（竪穴）
530号遺構（焼土）
633号遺構（焼土）
657号遺構（焼土）
684号遺構（焼土）



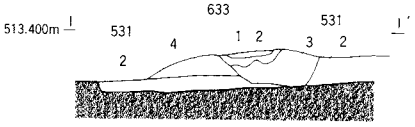
531　1　10YR3/2黒褐色シルトと10YR7/8黄橙色被熱シルトの混合　焼土(5YR1/8赤褐色被熱シルト)を含む
炭を含む　焼石を含む　しまり Ⅲ層より弱い
2　10YR3/2黒褐色シルト　Ⅲ層土を含む　径10cmまでの礫を含むが少量である　しまり Ⅲ層より弱い
3　次ページ
4　次ページ

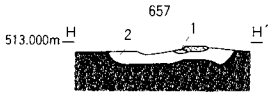
684　1　10YR3/2黒褐色シルトと5YR4/6赤褐色～10YR7/8黄橙色被熱シルトの混合　炭を含む　焼石を含む





530　1　5YR1/8赤褐色被熱粘質シルトと10YR6/8明黄褐色被熱粘質シルトと10YR3/2黒褐色シルトの混合
炭を含む　しまり Ⅲ層より弱い
2　10YR3/2黒褐色シルト　炭を含む　焼土(5YR1/8赤褐色被熱粘質シルト)を少量含む　しまり Ⅲ層より弱い

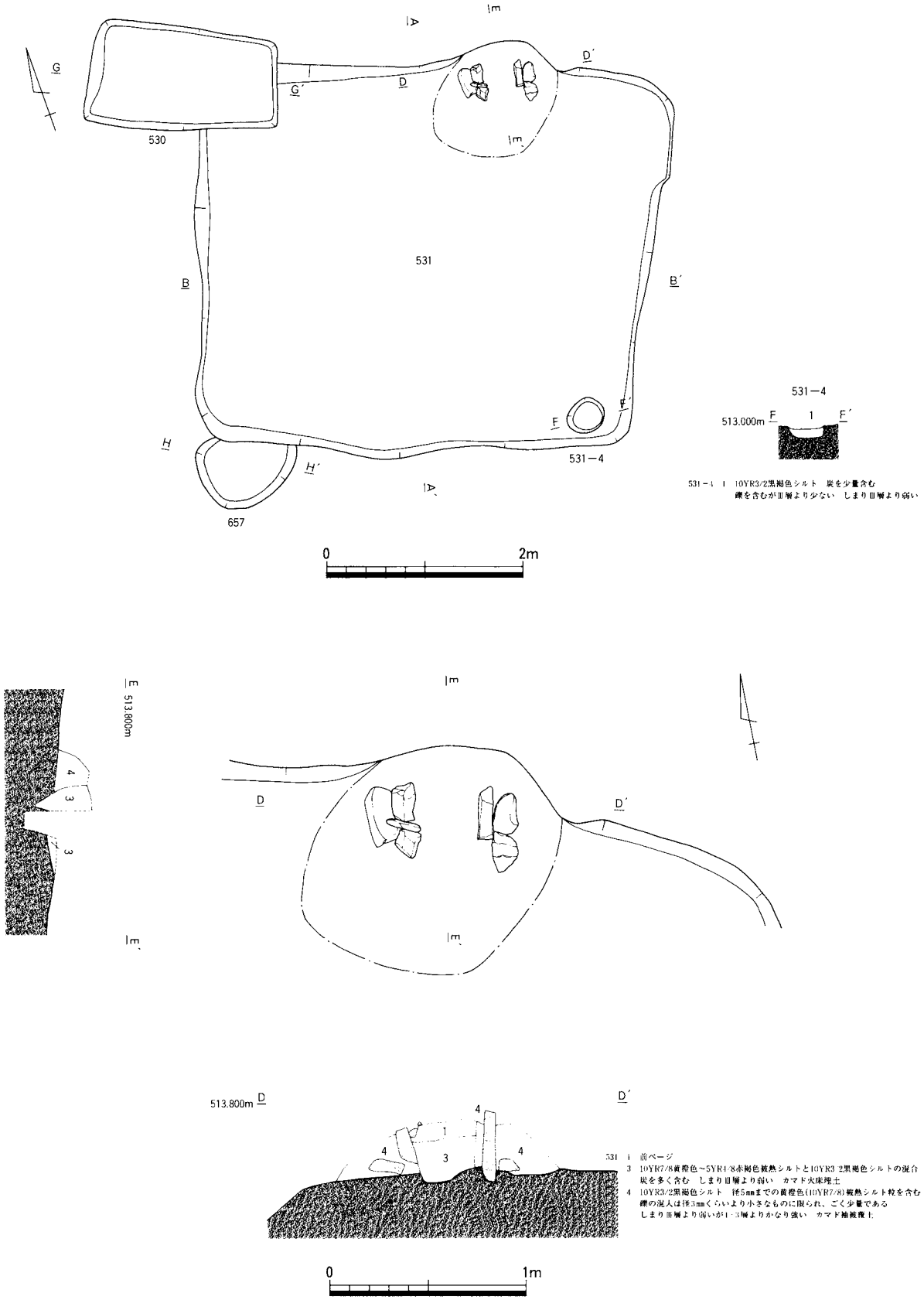




657　1　10YR6/8明黄褐色～5YR1/8赤褐色被熱粘質シルト
均質ではなく明黄褐色部分と赤褐色部分、それに黒褐色シルトが混合している　炭を含む
2　10YR3/2黒褐色シルト(やや被熱)　1層土を少量含む　しまり Ⅲ層より弱い

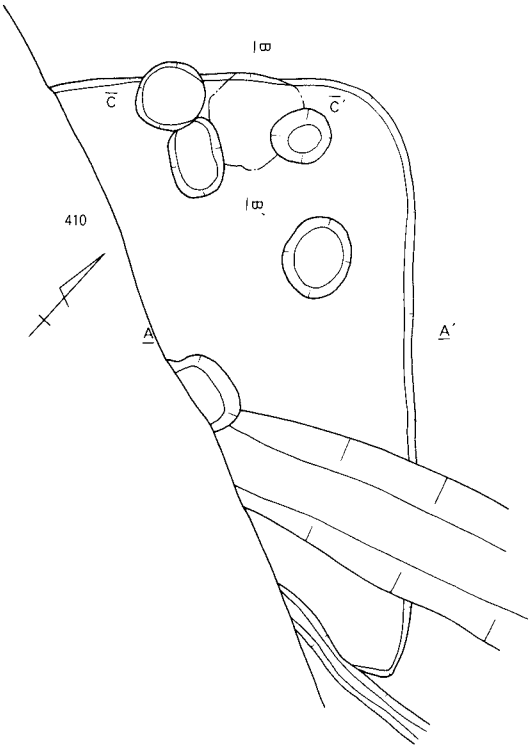
633　1　10YR3/2黒褐色シルト　10YR6/8明黄褐色粘質シルト(やや被熱)を多く含む
炭を少量含む　しまり Ⅲ層より弱い
2　5YR1/8赤褐色～10YR6/8明黄褐色粘質シルト(赤褐色部分は強く焼けた部分)
しまり Ⅲ層より弱いが1・3・4層より強い
3　10YR1/2灰黄褐色シルト　黒褐色シルトがやや被熱変色したものとみられる
10YR6/8明黄褐色粘質シルトを含む　2層土を含む　しまり Ⅲ層より弱い
4　10YR3/2黒褐色シルト　10YR6/8明黄褐色粘質シルトを含む
径5cmまでの礫を含むが少量である　2層土と炭を少量含む　しまり Ⅲ層より弱い

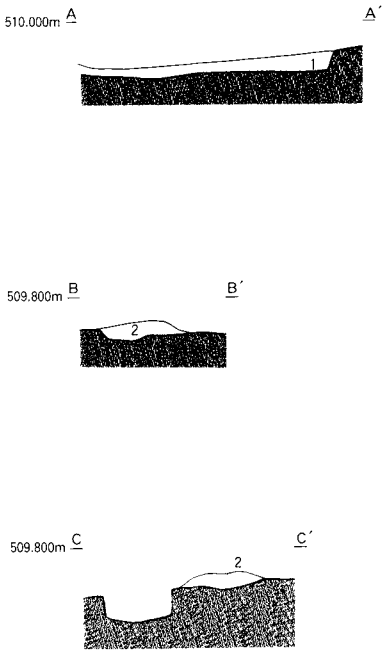
第9図　竪穴建物跡 (3)


530
531
657
531－4
513.000m
531－4　1　10YR3/2黒褐色シルト　炭を少量含む
礫を含むが3層より少ない　しまり3層より弱い
0
2m
513.800m
513.800m
531　1　前ページ
3　10YR7/8黄橙色～5YR4/8赤褐色被熱シルトと10YR3/2黒褐色シルトの混合
炭を多く含む　しまり3層より弱い　カマド火床埋土
4　10YR3/2黒褐色シルト　径5mmまでの黄橙色(10YR7/8)被熱シルト粒を含む
礫の混入は径3mmくらいより小さなものに限られ、ごく少量である
しまり3層より弱いが1・3層よりかなり強い　カマド袖被覆土
0
1m

第10図　竪穴建物跡（4）

410号遺構（竪穴）

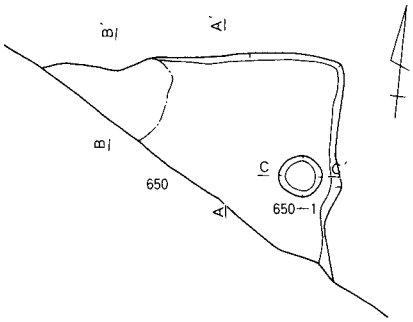


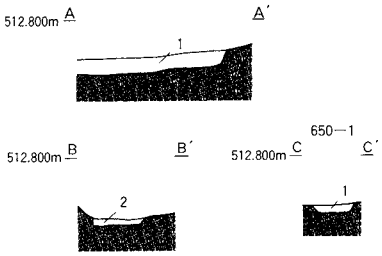


410　1　10YR2/2黒褐色シルト　径10cmまでの礫を含む　炭を少量含む
焼土(5YR4/6赤褐色被熱シルト)を少量含む　しまりⅢ層より弱い
2　7.5YR6/6橙色～5YR4/6赤褐色被熱シルトと10YR2/2黒褐色シルトの混合
しまりⅢ層より弱い　カマドらしい構造は認められない

0　2m

650号遺構（竪穴）



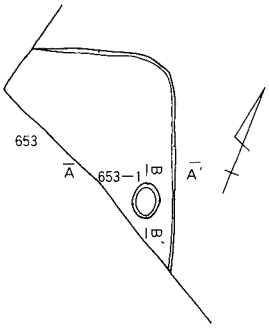


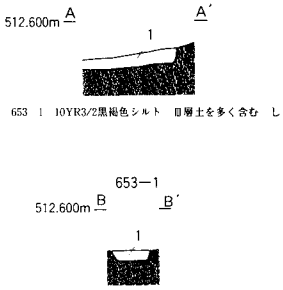
650　1　10YR3/2黒褐色シルト　Ⅱ層土を少量含む　焼土を少量含む　しまりⅢ層より弱い
2　7.5YR1/8赤褐色～10YR7/8黄橙色被熱シルトと10YR3/2黒褐色シルトの混合　しまりⅢ層より弱い
カマドらしい構造は認められない

650－1　1　10YR3/2黒褐色シルト　Ⅲ層土を少量含む　しまりⅢ層より弱い

0　2m

653号遺構（竪穴）





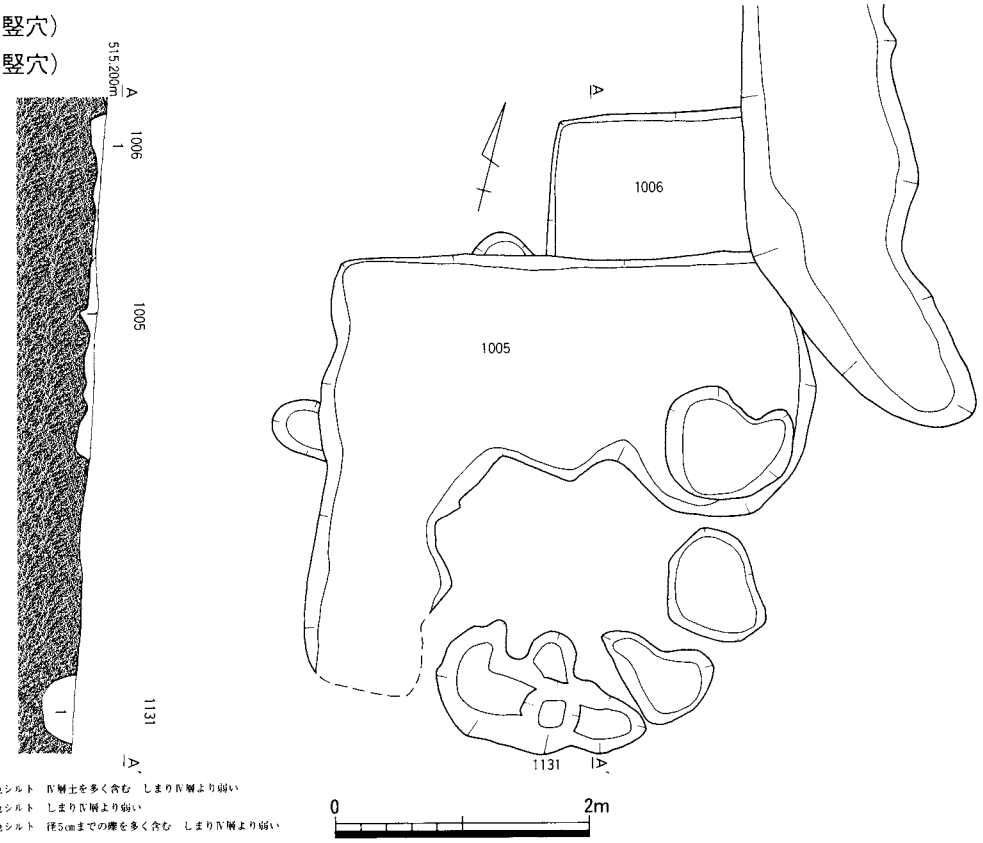
653　1　10YR3/2黒褐色シルト　Ⅱ層土を多く含む　しまりⅡ層より弱い

653－1　1　10YR3/2黒褐色シルト　Ⅱ層土を含む　しまりⅢ層より弱い

0　2m

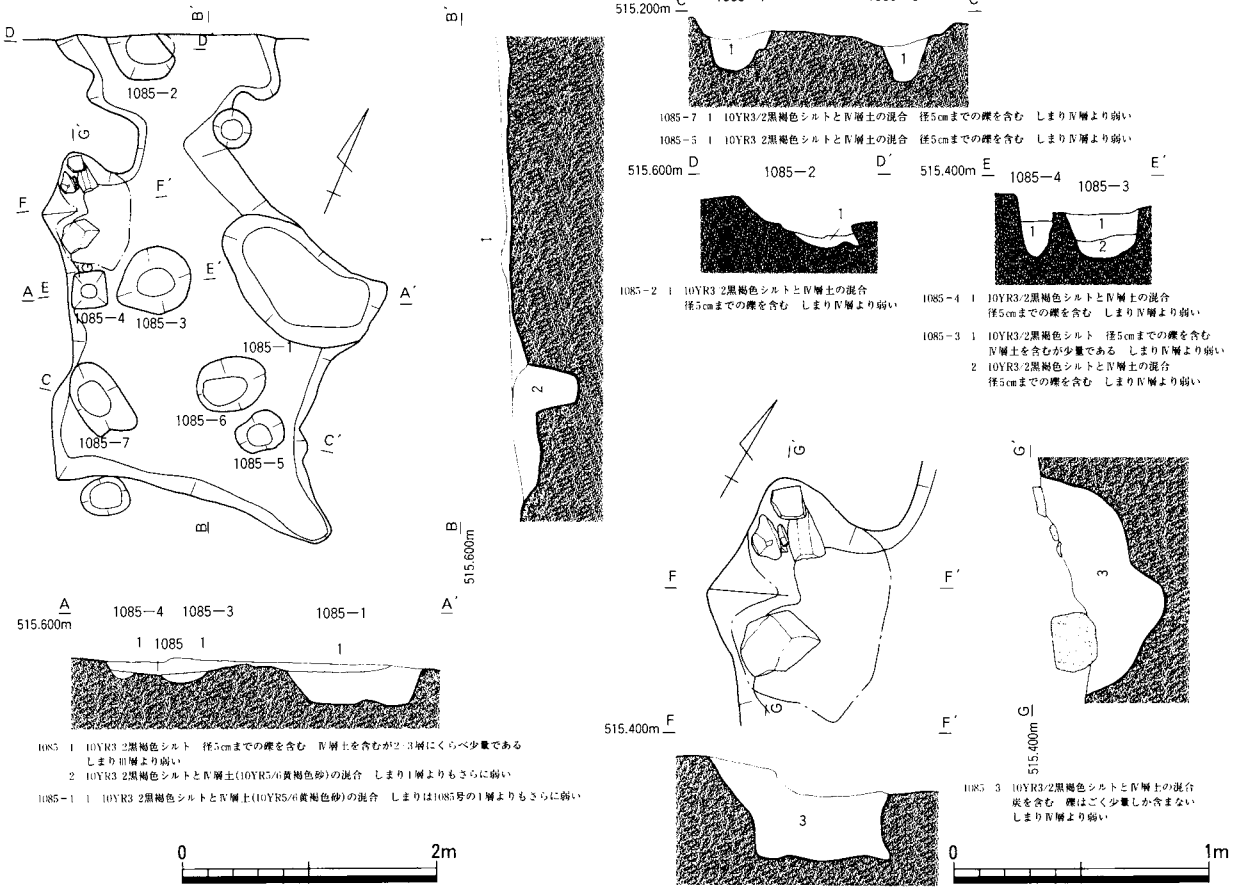
第11図　竪穴建物跡（5）

1005号遺構（竪穴）
1006号遺構（竪穴）



1006　1　10YR3/2黒褐色シルト　Ⅳ層土を多く含む　しまりⅣ層より弱い
1005　1　10YR3/1黒褐色シルト　しまりⅣ層より弱い
1131　1　10YR3/2黒褐色シルト　径5cmまでの礫を多く含む　しまりⅣ層より弱い

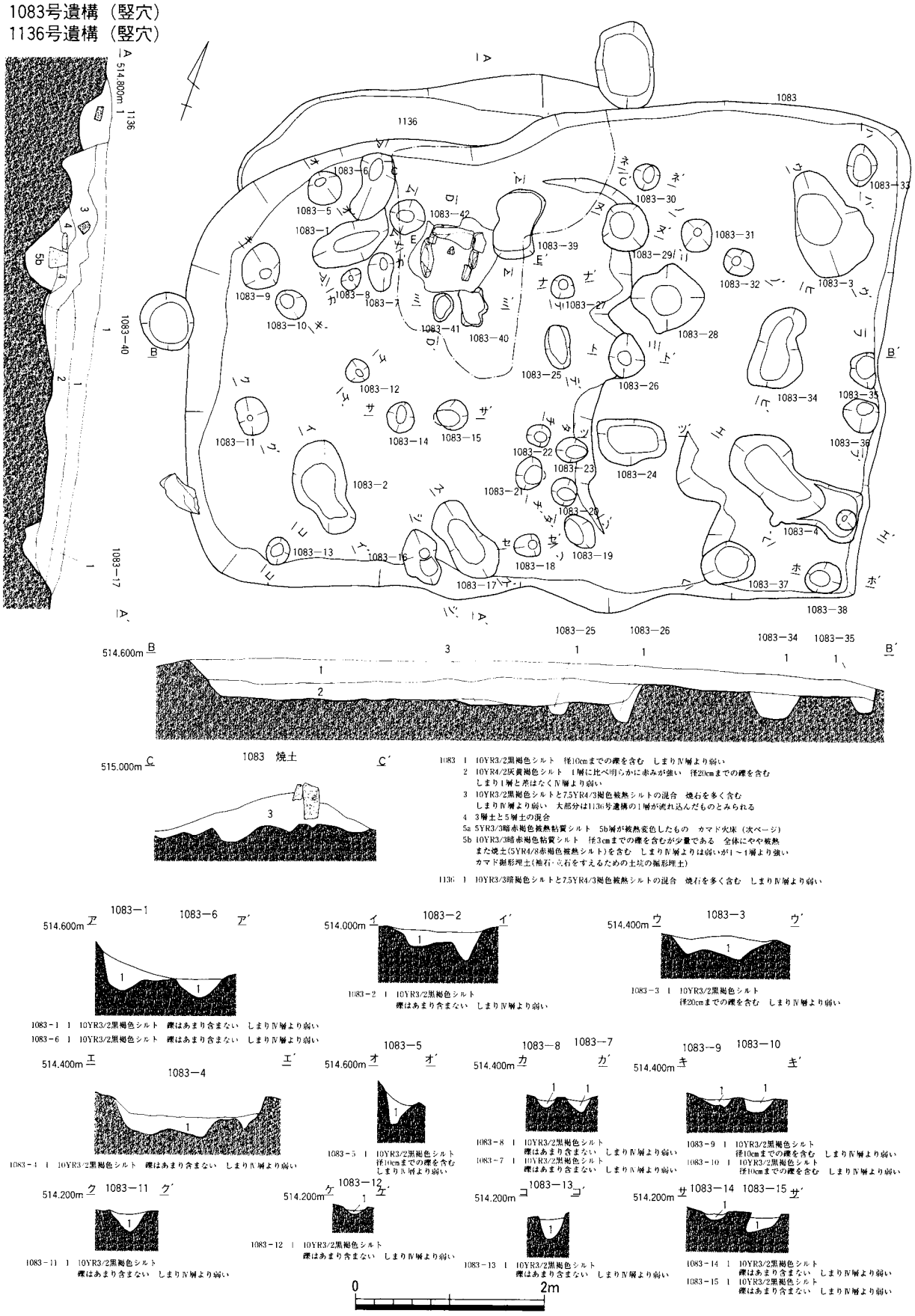
1085号遺構（竪穴）



1085−7　1　10YR3/2黒褐色シルトとⅣ層土の混合　径5cmまでの礫を含む　しまりⅣ層より弱い
1085−5　1　10YR3/2黒褐色シルトとⅣ層土の混合　径5cmまでの礫を含む　しまりⅣ層より弱い
1085−2　1　10YR3/2黒褐色シルトとⅣ層土の混合　径5cmまでの礫を含む　しまりⅣ層より弱い
1085−4　1　10YR3/2黒褐色シルトとⅣ層土の混合　径5cmまでの礫を含む　しまりⅣ層より弱い
1085−3　1　10YR3/2黒褐色シルト　径5cmまでの礫を含む　Ⅳ層土を含むが少量である　しまりⅣ層より弱い
2　10YR3/2黒褐色シルトとⅣ層土の混合　径5cmまでの礫を含む　しまりⅣ層より弱い
1085　1　10YR3/2黒褐色シルト　径5cmまでの礫を含む　Ⅳ層土を含むが2・3層にくらべ少量である　しまりⅢ層より弱い
2　10YR3/2黒褐色シルトとⅣ層土(10YR5/6黄褐色砂)の混合　しまりⅠ層よりもさらに弱い
1085−1　1　10YR3/2黒褐色シルトとⅣ層土(10YR5/6黄褐色砂)の混合　しまりは1085号の1層よりもさらに弱い
1085　3　10YR3/2黒褐色シルトとⅣ層土の混合　炭を含む　礫はごく少量しか含まない　しまりⅣ層より弱い

第12図　竪穴建物跡（6）

1083号遺構（竪穴）
1136号遺構（竪穴）



1083　1　10YR3/2黒褐色シルト　径10cmまでの礫を含む　しまりⅣ層より弱い
2　10YR4/2灰黄褐色シルト　1層に比べ明らかに赤みが強い　径20cmまでの礫を含む
しまり1層と差はなくⅣ層より弱い
3　10YR3/2黒褐色シルトと7.5YR4/3褐色被熱シルトの混合　焼石を多く含む
しまりⅣ層より弱い　大部分は1136号遺構の1層が流れ込んだものとみられる
4　3層土と5層土の混合
5a　5YR3/3暗赤褐色被熱粘質シルト　5b層が被熱変色したもの　カマド火床（次ページ）
5b　10YR3/3暗赤褐色粘質シルト　径3cmまでの礫を含むが少量である　全体にやや被熱
また焼土(5YR4/8赤褐色被熱シルト)を含む　しまりⅣ層よりは弱いが1～4層より強い
カマド掘形埋土(抜石・立石をすえるための土坑の掘形埋土)

1136　1　10YR3/3暗褐色シルトと7.5YR4/3褐色被熱シルトの混合　焼石を多く含む　しまりⅣ層より弱い

1083－1　1　10YR3/2黒褐色シルト　礫はあまり含まない　しまりⅣ層より弱い
1083－6　1　10YR3/2黒褐色シルト　礫はあまり含まない　しまりⅣ層より弱い

1083－2　1　10YR3/2黒褐色シルト
径10cmまでの礫を含む　しまりⅣ層より弱い

1083－3　1　10YR3/2黒褐色シルト
径20cmまでの礫を含む　しまりⅣ層より弱い

1083－4　1　10YR3/2黒褐色シルト　礫はあまり含まない　しまりⅣ層より弱い

1083－5　1　10YR3/2黒褐色シルト
径10cmまでの礫を含む
しまりⅣ層より弱い

1083－8　1　10YR3/2黒褐色シルト
礫はあまり含まない　しまりⅣ層より弱い
1083－7　1　10YR3/2黒褐色シルト
礫はあまり含まない　しまりⅣ層より弱い

1083－9　1　10YR3/2黒褐色シルト
径10cmまでの礫を含む　しまりⅣ層より弱い
1083－10　1　10YR3/2黒褐色シルト
径10cmまでの礫を含む　しまりⅣ層より弱い

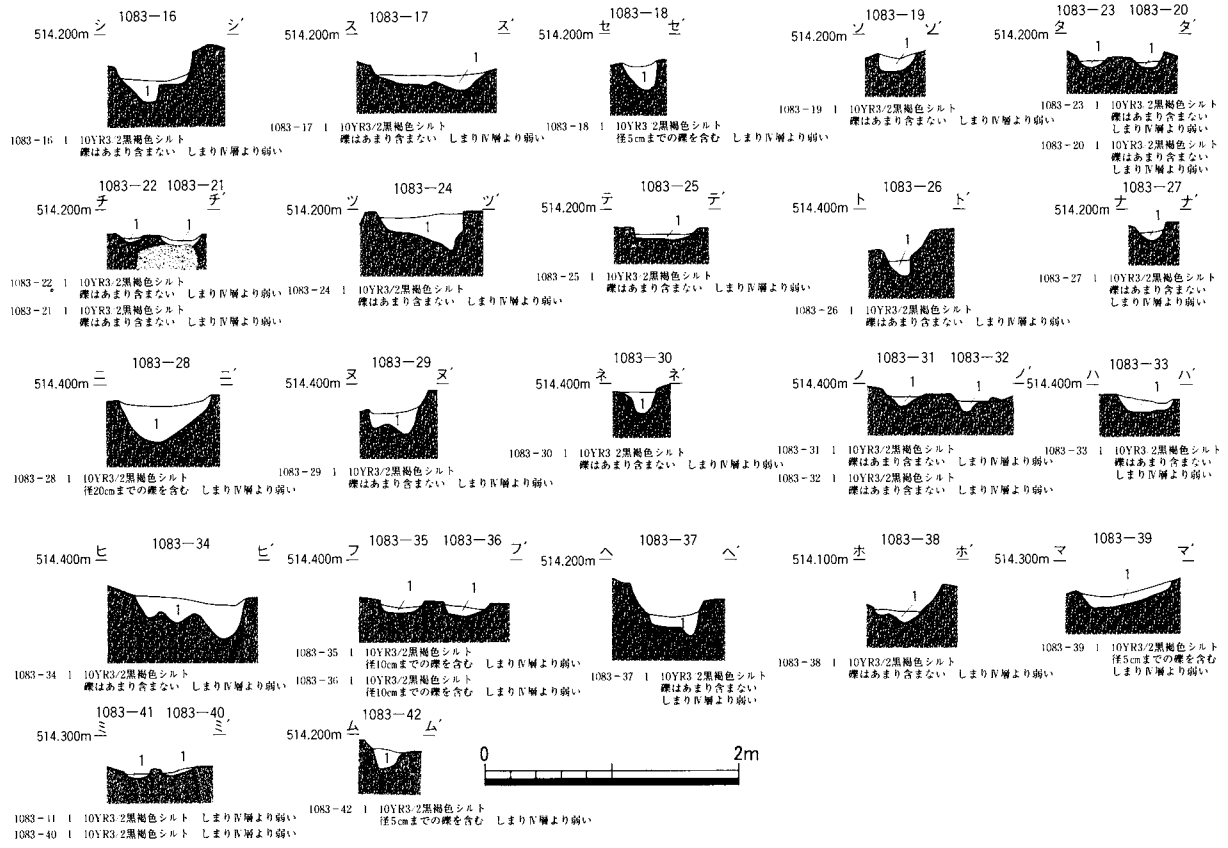
1083－11　1　10YR3/2黒褐色シルト
礫はあまり含まない　しまりⅣ層より弱い

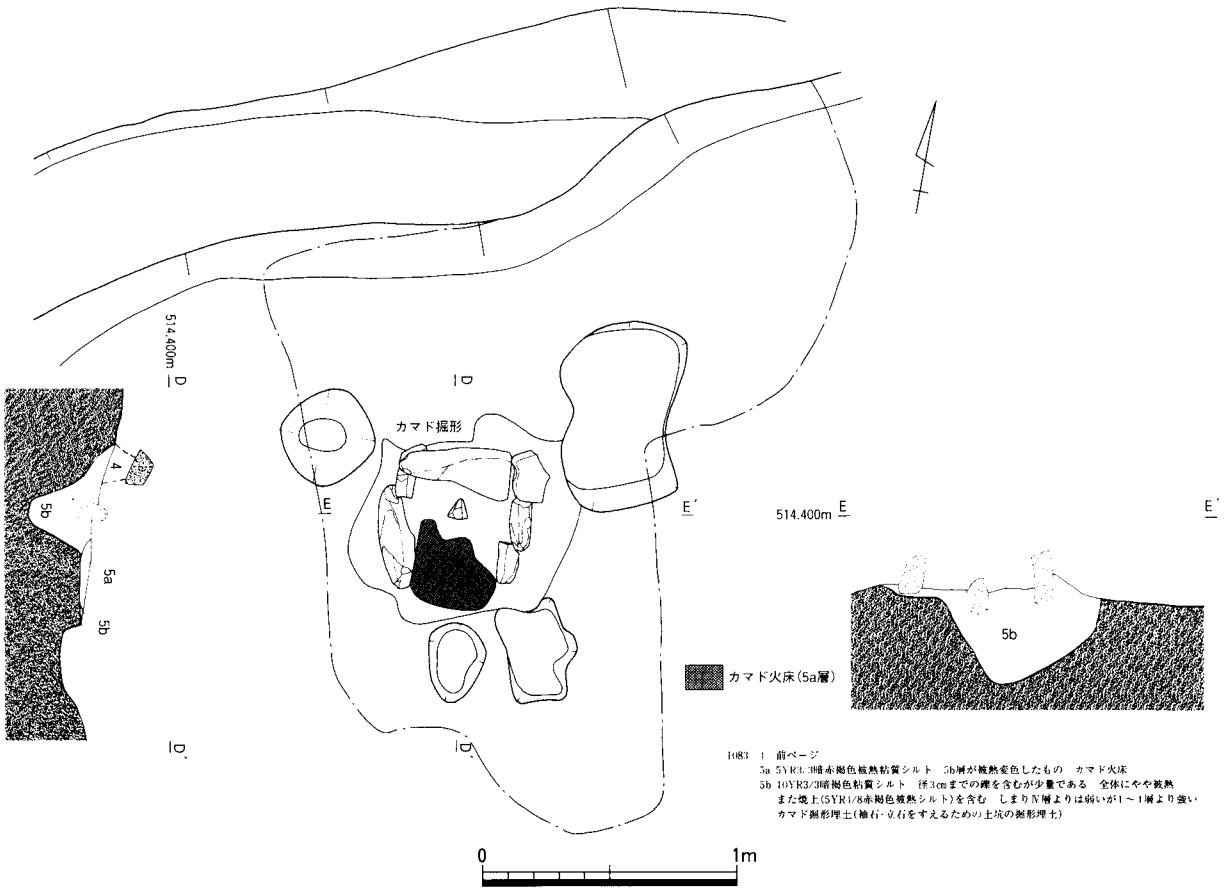
1083－12　1　10YR3/2黒褐色シルト
礫はあまり含まない　しまりⅣ層より弱い

1083－13　1　10YR3/2黒褐色シルト
礫はあまり含まない　しまりⅣ層より弱い

1083－14　1　10YR3/2黒褐色シルト
礫はあまり含まない　しまりⅣ層より弱い
1083－15　1　10YR3/2黒褐色シルト
礫はあまり含まない　しまりⅣ層より弱い

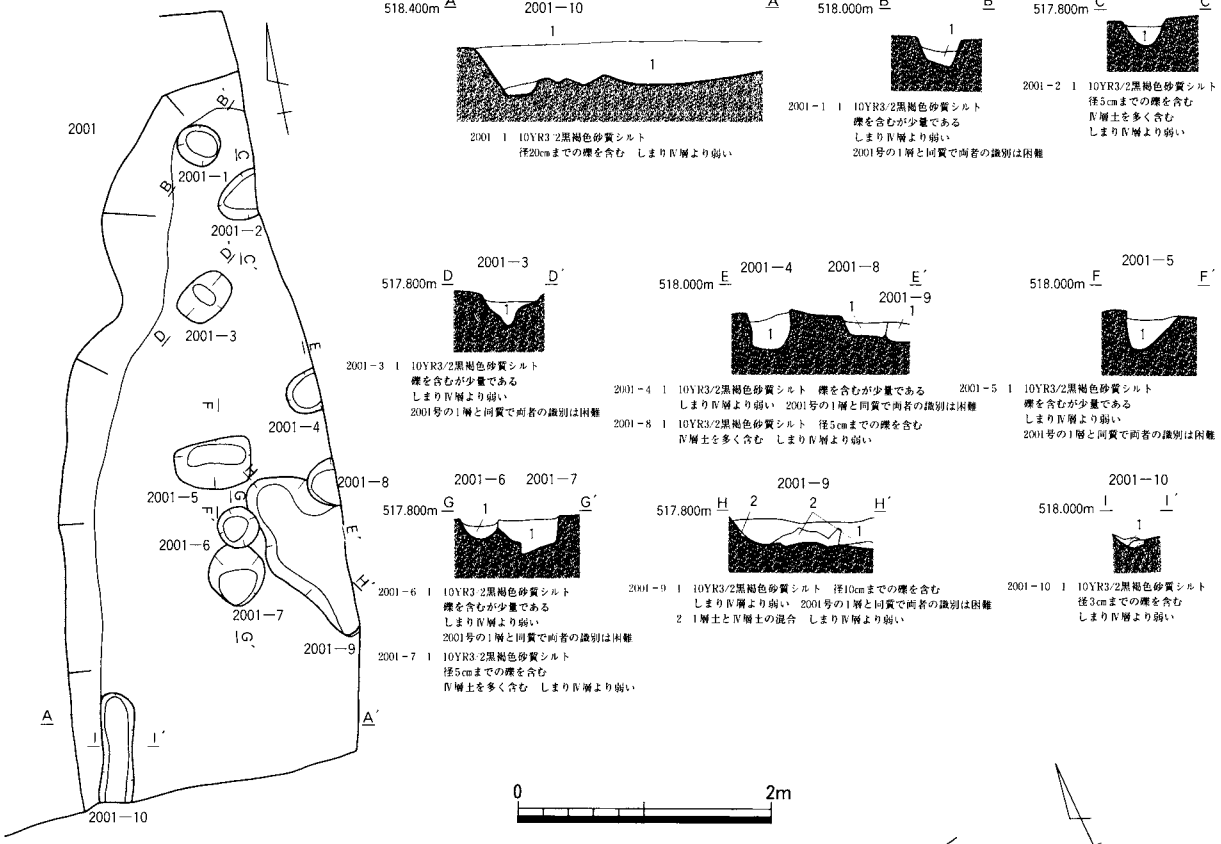
第13図　竪穴建物跡（7）


1083－16
514.200m シ シ′
1083－16　1　10YR3/2黒褐色シルト
礫はあまり含まない　しまりⅣ層より弱い
1083－17
514.200m ス ス′
1083－17　1　10YR3/2黒褐色シルト
礫はあまり含まない　しまりⅣ層より弱い
1083－18
514.200m セ セ′
1083－18　1　10YR3/2黒褐色シルト
径5cmまでの礫を含む　しまりⅣ層より弱い
1083－19
514.200m ソ ソ′
1083－19　1　10YR3/2黒褐色シルト
礫はあまり含まない　しまりⅣ層より弱い
1083－23　1083－20
514.200m タ タ′
1083－23　1　10YR3/2黒褐色シルト
礫はあまり含まない
しまりⅣ層より弱い
1083－20　1　10YR3/2黒褐色シルト
礫はあまり含まない
しまりⅣ層より弱い
1083－22　1083－21
514.200m チ チ′
1083－22　1　10YR3/2黒褐色シルト
礫はあまり含まない　しまりⅣ層より弱い
1083－21　1　10YR3/2黒褐色シルト
礫はあまり含まない　しまりⅣ層より弱い
1083－24
514.200m ツ ツ′
1083－24　1　10YR3/2黒褐色シルト
礫はあまり含まない　しまりⅣ層より弱い
1083－25
514.200m テ テ′
1083－25　1　10YR3/2黒褐色シルト
礫はあまり含まない　しまりⅣ層より弱い
1083－26
514.400m ト ト′
1083－26　1　10YR3/2黒褐色シルト
礫はあまり含まない　しまりⅣ層より弱い
1083－27
514.200m ナ ナ′
1083－27　1　10YR3/2黒褐色シルト
礫はあまり含まない
しまりⅣ層より弱い
1083－28
514.400m ニ ニ′
1083－28　1　10YR3/2黒褐色シルト
径20cmまでの礫を含む　しまりⅣ層より弱い
1083－29
514.400m ヌ ヌ′
1083－29　1　10YR3/2黒褐色シルト
礫はあまり含まない　しまりⅣ層より弱い
1083－30
514.400m ネ ネ′
1083－30　1　10YR3/2黒褐色シルト
礫はあまり含まない　しまりⅣ層より弱い
1083－31　1083－32
514.400m ノ ノ′
1083－31　1　10YR3/2黒褐色シルト
礫はあまり含まない　しまりⅣ層より弱い
1083－32　1　10YR3/2黒褐色シルト
礫はあまり含まない　しまりⅣ層より弱い
1083－33
514.400m ハ ハ′
1083－33　1　10YR3/2黒褐色シルト
礫はあまり含まない
しまりⅣ層より弱い
1083－34
514.400m ヒ ヒ′
1083－34　1　10YR3/2黒褐色シルト
礫はあまり含まない　しまりⅣ層より弱い
1083－35　1083－36
514.400m フ フ′
1083－35　1　10YR3/2黒褐色シルト
径10cmまでの礫を含む　しまりⅣ層より弱い
1083－36　1　10YR3/2黒褐色シルト
径10cmまでの礫を含む　しまりⅣ層より弱い
1083－37
514.200m ヘ ヘ′
1083－37　1　10YR3/2黒褐色シルト
礫はあまり含まない
しまりⅣ層より弱い
1083－38
514.100m ホ ホ′
1083－38　1　10YR3/2黒褐色シルト
礫はあまり含まない　しまりⅣ層より弱い
1083－39
514.300m マ マ′
1083－39　1　10YR3/2黒褐色シルト
径5cmまでの礫を含む
しまりⅣ層より弱い
1083－41　1083－40
514.300m ミ ミ′
1083－41　1　10YR3/2黒褐色シルト　しまりⅣ層より弱い
1083－40　1　10YR3/2黒褐色シルト　しまりⅣ層より弱い
1083－42
514.200m ム ム′
1083－42　1　10YR3/2黒褐色シルト
径5cmまでの礫を含む　しまりⅣ層より弱い
0　2m

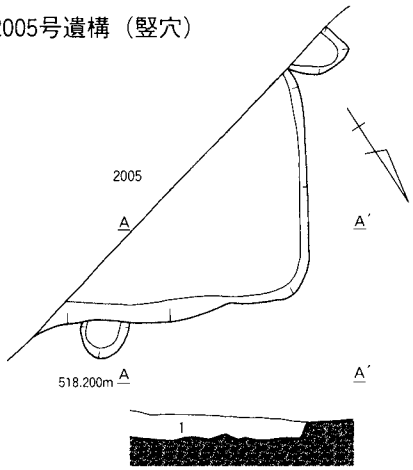

514.400m D
D
カマド掘形
E
E′
514.400m E
E′
4
5b
5a
5b
5b
D′
D′
カマド火床(5a層)
1083　1　前ページ
5a 5YR4/3暗赤褐色被熱粘質シルト　5b層が被熱変色したもの　カマド火床
5b 10YR3/3暗褐色粘質シルト　径3cmまでの礫を含むが少量である　全体にやや被熱
また焼土(5YR4/8赤褐色被熱シルト)を含む　しまりⅣ層よりは弱いが1～4層より強い
カマド掘形埋土(袖石・立石をすえるための土坑の掘形埋土)
0　1m

第14図　竪穴建物跡（8）

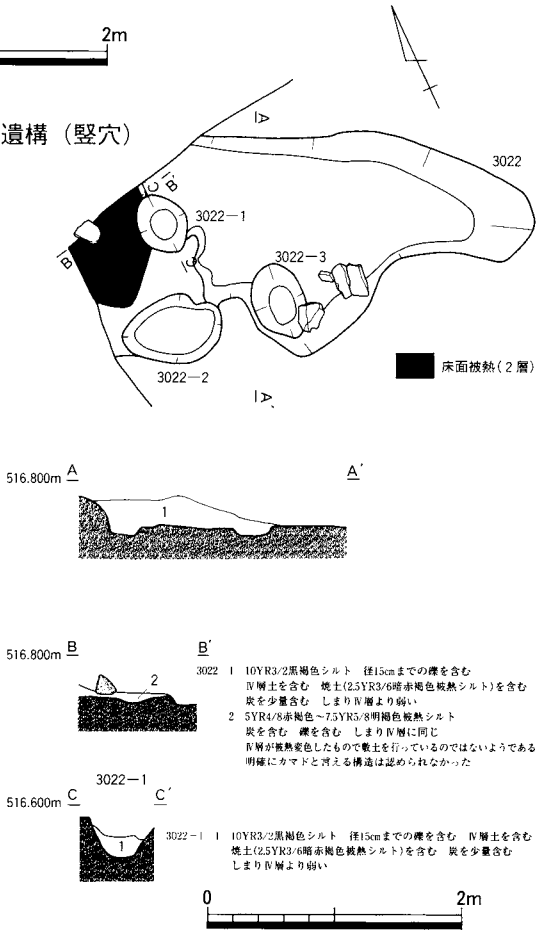
2001号遺構（竪穴）



2005号遺構（竪穴）

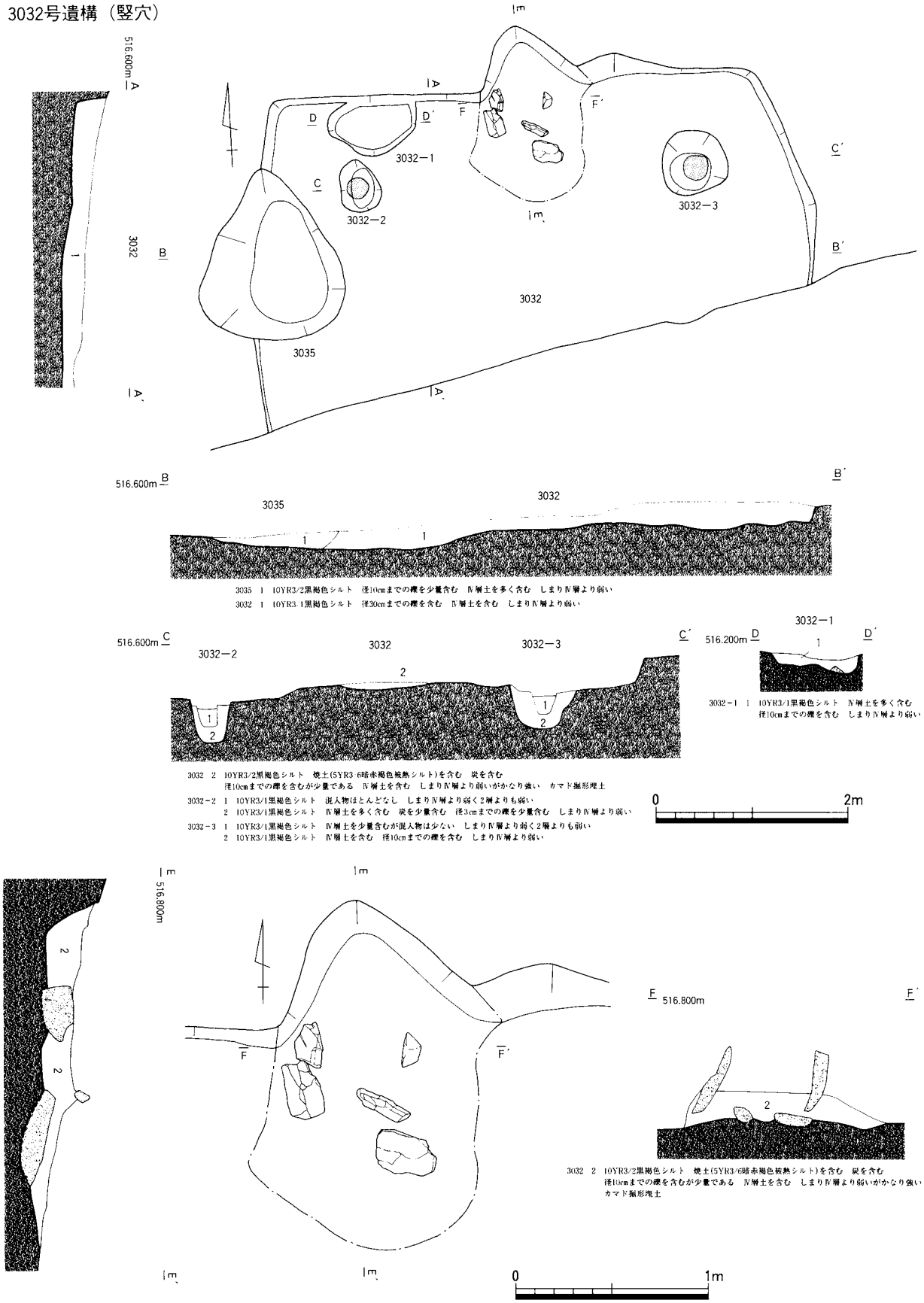


3022号遺構（竪穴）



第15図　竪穴建物跡（9）

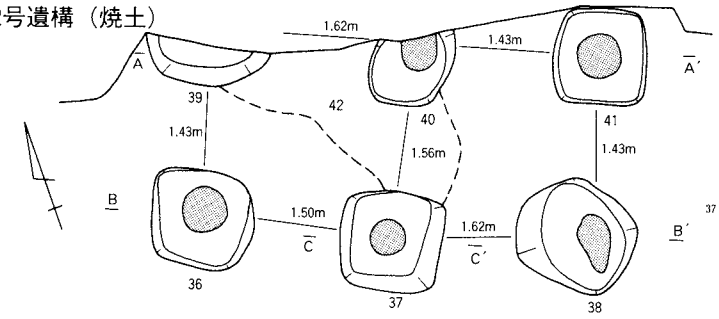
3032号遺構（竪穴）

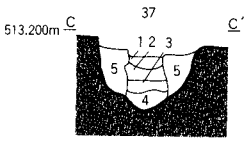


第16図　竪穴建物跡 (10)

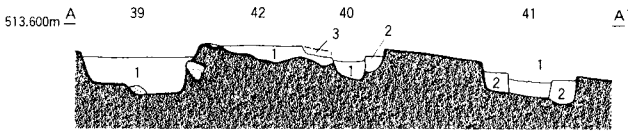
1号掘立柱建物跡

42号遺構（焼土）





37　1　10YR3/2黒褐色シルト　径1cmまでの礫を少量含む　しまりⅢ層より弱く5層よりもやや弱い
　　2　10YR2/1黒色シルト　Ⅲ層土と同質　10YR3/2黒褐色シルトを少量含む
　　しまりⅢ層より弱く5層よりもやや弱い
　　3　10YR3/2黒褐色シルト　径1cmまでの礫を少量含む　しまりⅢ層より弱く5層よりもやや弱い
　　4　10YR2/1黒色シルト　Ⅲ層土と同質　10YR3/2黒褐色シルトを少量含む
　　しまりⅢ層より弱く5層よりもやや弱い
　　5　10YR3/2黒褐色シルトとⅢ層土の混合　径5cmまでの礫を少量含む　しまりⅢ層より弱い

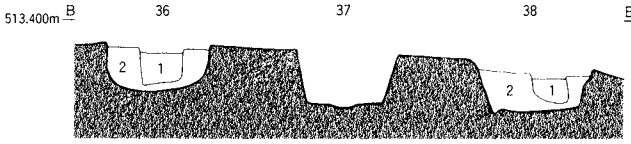


39　1　10YR3/2黒褐色シルト　Ⅳ層土(10YR6/6～7/6明黄褐色粘質シルト)を多く含む
　　礫は図示した1点のほかはほとんどみられない　しまりⅢ･Ⅳ層より弱い

40　1　10YR3/2黒褐色シルト　Ⅲ層土を少量含む　しまりⅢ層より弱く2･3層よりもやや弱い
　　2　10YR3/2黒褐色シルトとⅢ層土(10YR2/1黒色シルト)の混合
　　径1cmまでの礫を少量含む　しまりⅢ層より弱い
　　3　2層にほぼ同じだが、焼土(42号の1層)を多く含む

41　1　10YR3/2黒褐色シルト　径3cmまでの礫を少量含む
　　Ⅳ層土(10YR6/6明黄褐色粘質シルト)を含む　しまりⅢ層より弱く2層よりもやや弱い
　　2　10YR3/2黒褐色シルトとⅢ層土(10YR2/1黒色シルト)の混合　Ⅳ層土を少量含む
　　径3cmまでの礫を少量含む　しまりⅢ層より弱い　掘形埋土

42　1　10YR7/8黄橙色～5YR4/6赤褐色被熱シルトと10YR3/2黒褐色シルトの混合　炭を含む
　　径3cmまでの礫を少量含む　しまりは強くⅢ層よりむしろ強い



36　1　10YR3/2黒褐色シルト　径3cmまでの礫を少量含む
　　Ⅳ層土(10YR6/6明黄褐色粘質シルト)を含む　しまりⅢ層より弱く2層よりやや弱い
　　2　10YR3/2黒褐色シルトとⅢ層土とⅣ層土の混合
　　径10cmまでの礫を少量含む　しまりⅢ･Ⅳ層より弱い

38　1　10YR3/2黒褐色シルト　Ⅲ層土を少量含む　また2層よりやや弱い
　　2　10YR3/2黒褐色シルトを主とし、Ⅲ層土を多く含む　Ⅳ層土を少量含む
　　径5cmまでの礫を含む　しまりⅢ層より弱い

0　2m

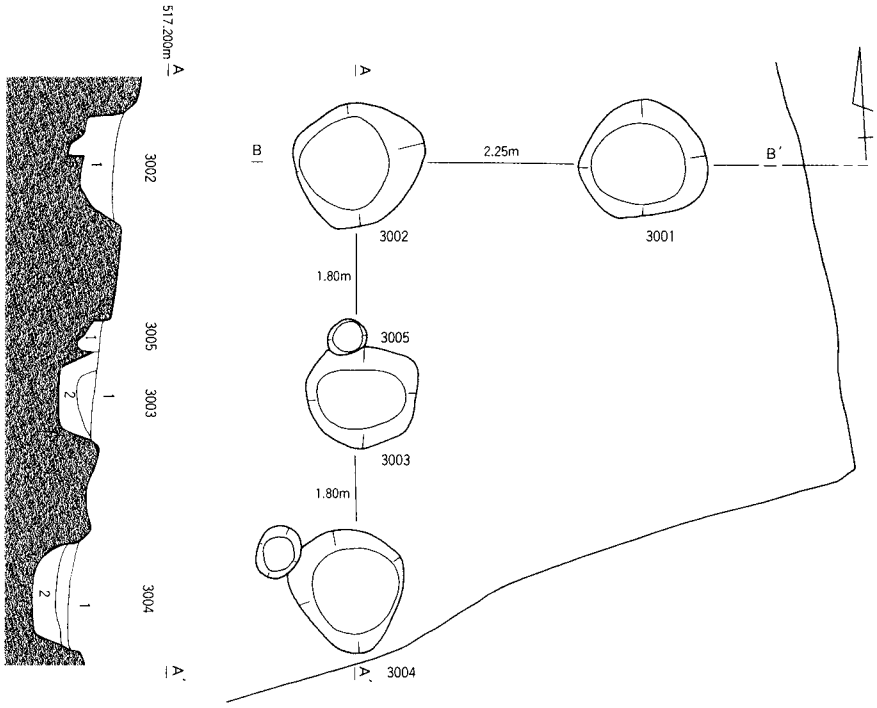
5号掘立柱建物跡

3002　1　10YR2/1黒色シルト　Ⅳ層土を含む
　　10YR3/2黒褐色シルトを含む
　　炭･焼土をごく少量含む
　　径10cmまでの礫を含む
　　しまりⅣ層より弱い

3005　1　10YR3/2黒褐色シルトとⅣ層の混合
　　しまりⅣ層より弱い

3003　1　10YR2/1黒色シルト
　　10YR3/2黒褐色シルトとⅣ層土を含む
　　径10cmまでの礫を含む
　　しまりⅣ層より弱い
　　2　1層土とⅣ層土の混合
　　しまりⅣ層より弱い

3004　1　10YR2/1黒色シルト
　　10YR3/2黒褐色シルトとⅣ層土を含む
　　径10cmまでの礫を含む
　　しまりⅣ層より弱い
　　2　1層土とⅣ層土の混合
　　しまりⅣ層より弱い

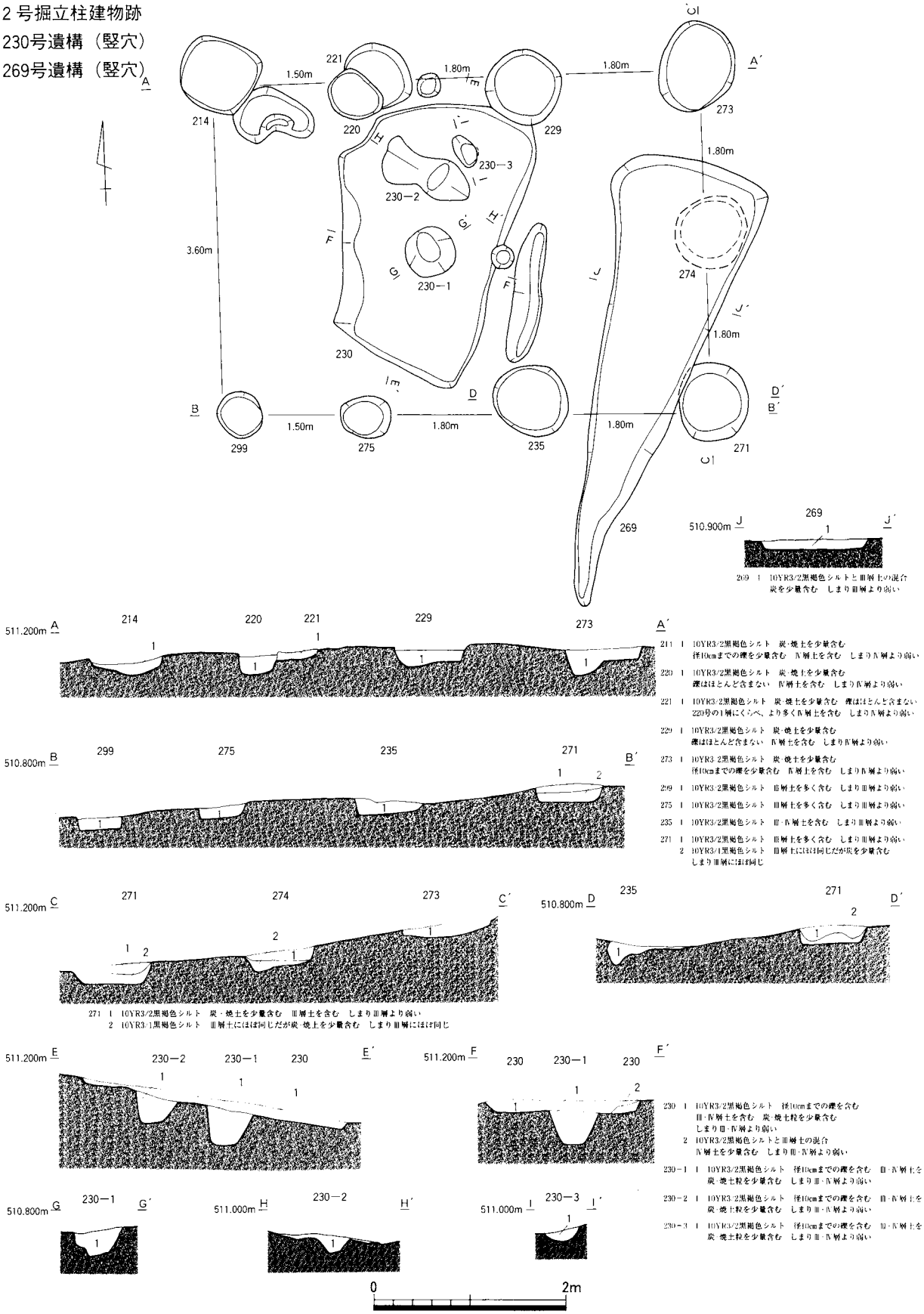


3001　1　10YR2/1黒色シルト　Ⅳ層土を含む　10YR3/2黒褐色シルトを含む　炭･焼土をごく少量含む
　　径10cmまでの礫を含む　しまりⅣ層より弱い

0　2m

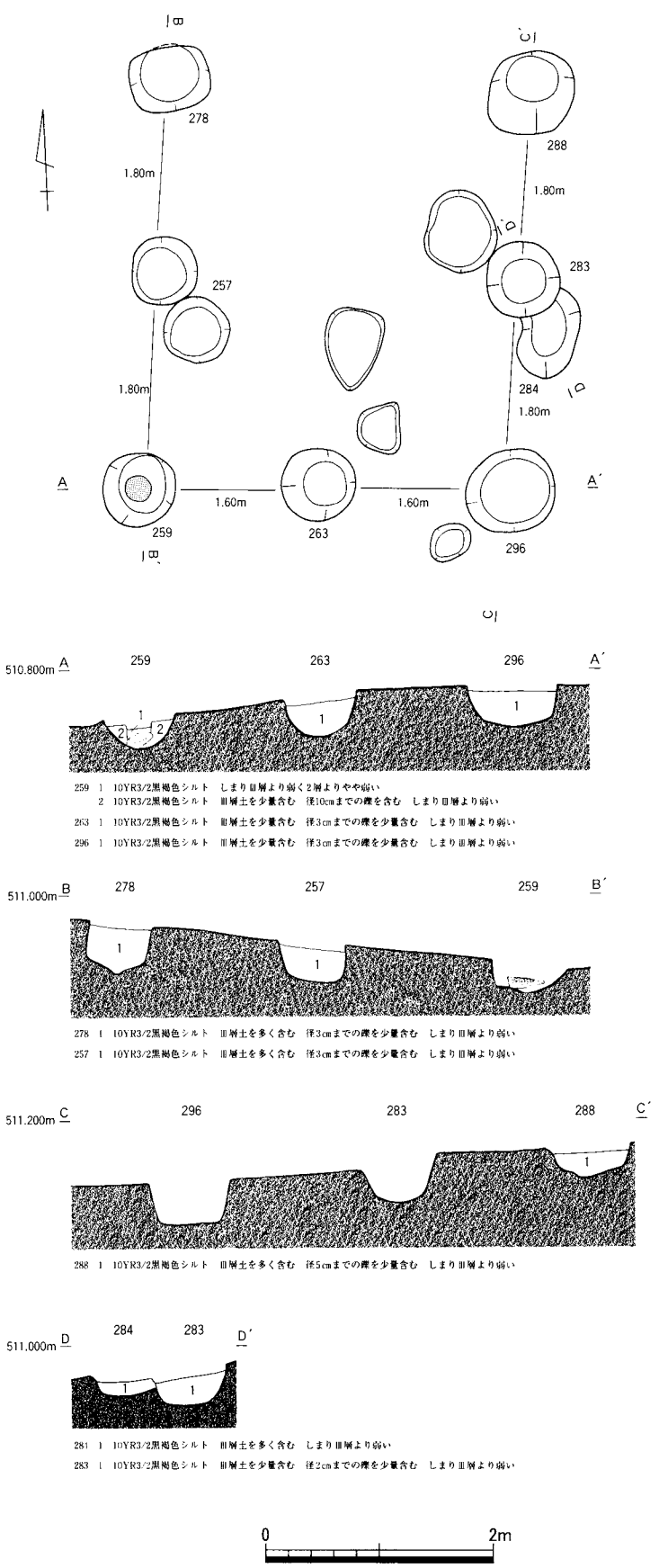
第17図　掘立柱建物跡（1）

2号掘立柱建物跡
230号遺構（竪穴）
269号遺構（竪穴）



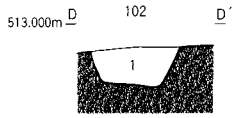
第18図　掘立柱建物跡（2）

3号掘立柱建物跡

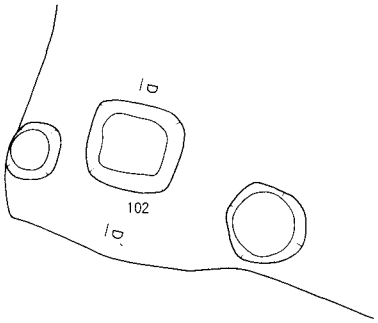


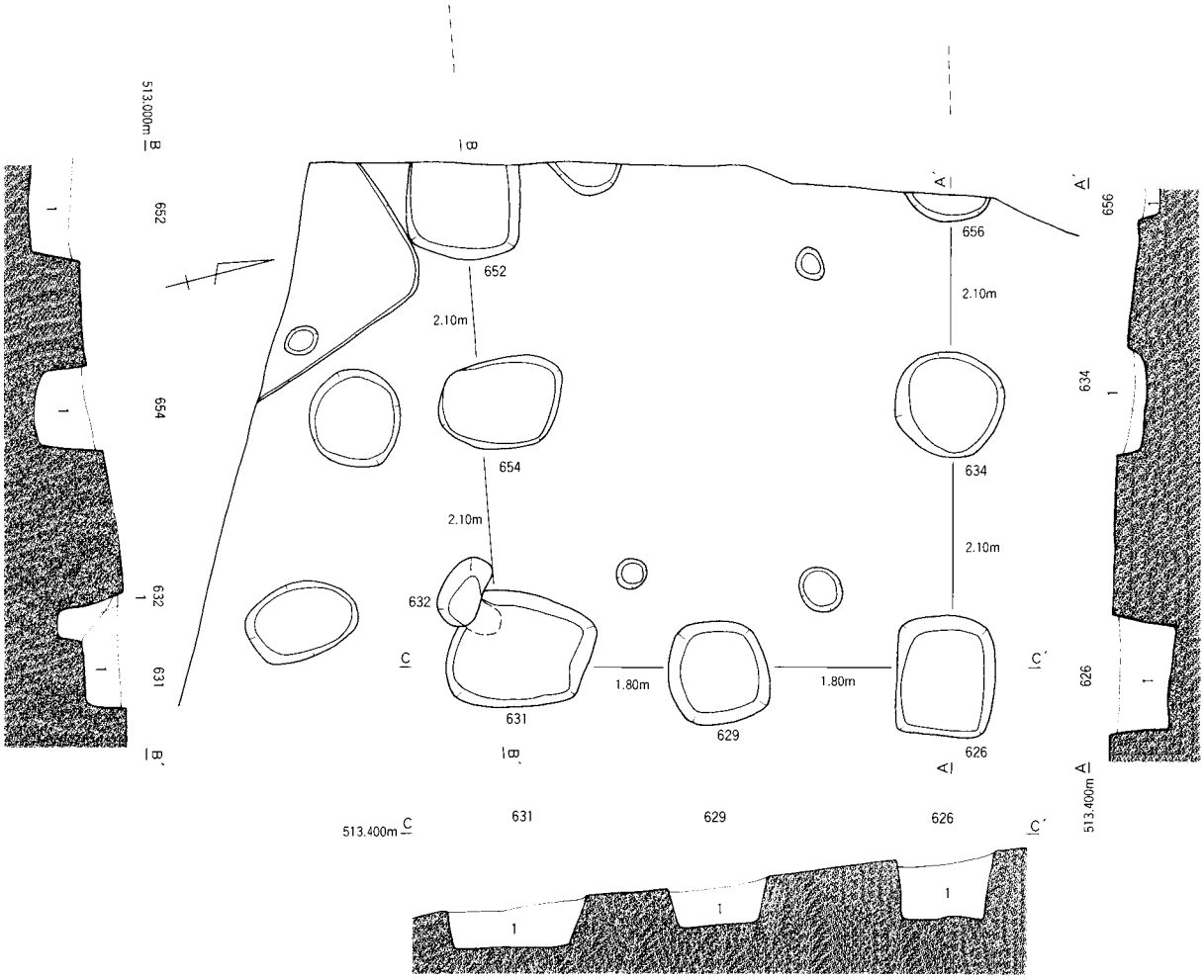
第19図　掘立柱建物跡（3）

4号掘立柱建物跡

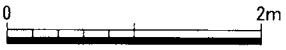


102　1　10YR3/3暗褐色シルトと砂礫の混合　礫は径20cmまでの角礫　しまりⅢ層より弱い



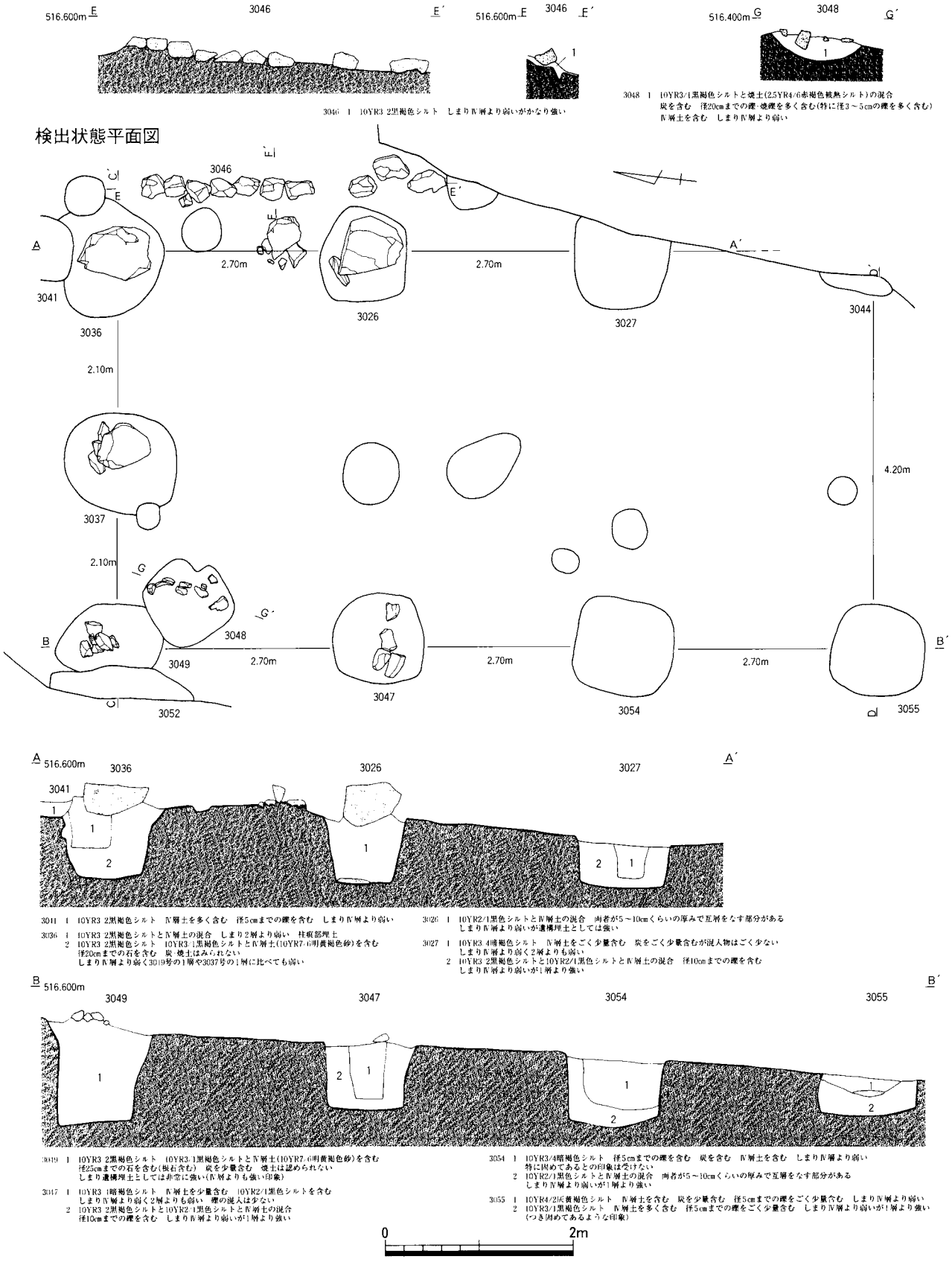


652　1　10YR3/2黒褐色シルト　径5cmまでの礫を含むが少量である　炭・焼土を少量含む　しまりⅢ層より弱い
654　1　10YR3/2黒褐色シルト　径5cmまでの礫を含むが少量である　炭・焼土を少量含む　しまりⅢ層より弱い
632　1　10YR3/2黒褐色シルト　焼土・炭を多く含む　径20cmまでの礫を多く含む　しまりⅢ層より弱い
631　1　10YR3/2黒褐色シルト　径5cmまでの礫を含むが少量である　しまりⅢ層より弱い
629　1　10YR3/2黒褐色シルト　径5cmまでの礫を含むが少量である　炭・焼土を少量含む　しまりⅢ層より弱い
626　1　10YR3/2黒褐色シルト　径5cmまでの礫を含むが少量である　しまりⅢ層より弱い
634　1　10YR3/2黒褐色シルト　径5cmまでの礫を含むが少量である　炭を少量含む　しまりⅢ層より弱い
656　1　10YR3/2黒褐色シルト　径5cmまでの礫を含むが少量である　しまりⅢ層より弱い

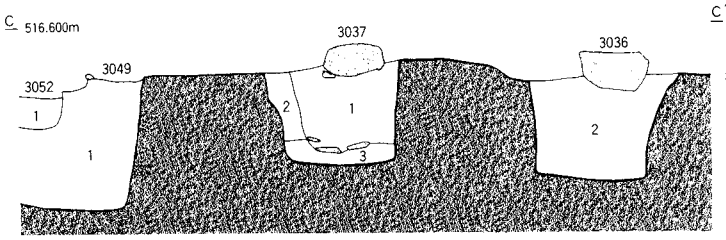


第20図　掘立柱建物跡（4）

礎石建物跡



第21図　礎石建物跡 (1)

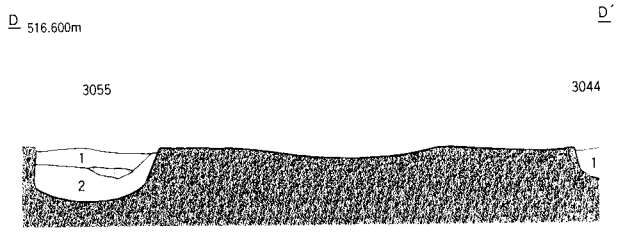


3052　1　10YR3 1黒色シルト　3049号の1層土を含む　径5cmまでの礫を少量含む
しまりⅣ層より弱く3049号の1層より弱い

3049　1　前ページ

3037　1　10YR3 2黒褐色シルト　10YR3 1黒褐色シルトとⅣ層土(10YR7/6明黄褐色砂)を含む
径20cmまでの石を含む(被石含む)　炭を含む　焼土(5YR3/6暗赤褐色被熱シルト)をごく少量含む
しまりⅣ層より弱いが、遺構埋土としては強い　人為的に3種の土を入れてつき固めてある可能性高い
2　10YR3 2黒褐色シルトとⅣ層土(10YR7/6明黄褐色砂)の混合　径10cmまでの礫を含む
しまりⅣ層より弱く1層よりも弱い
3　10YR3 2黒褐色シルト　1層に比べ混入物はごく少ない　しまりⅣ層より弱いが、
遺構埋土としては強く1層にはほぼ同じ

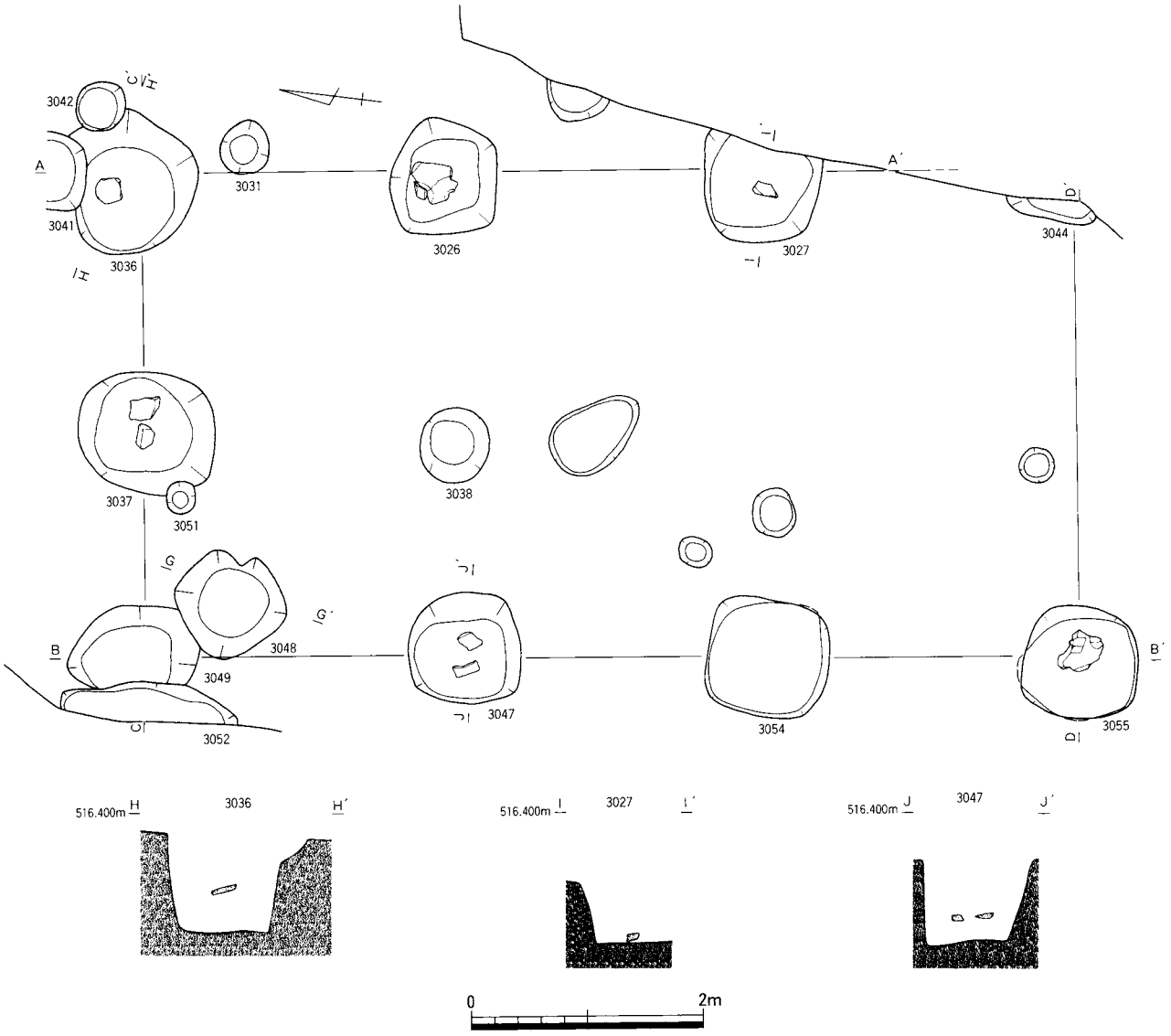
3036　2　前ページ



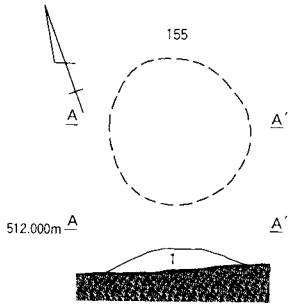
3055　1　前ページ
2　前ページ

3044　1　10YR3 1黒褐色シルト　Ⅳ層土を含む　径3cmまでの礫をごく少量含む
炭・焼土をごく少量含む　しまりⅣ層より弱い

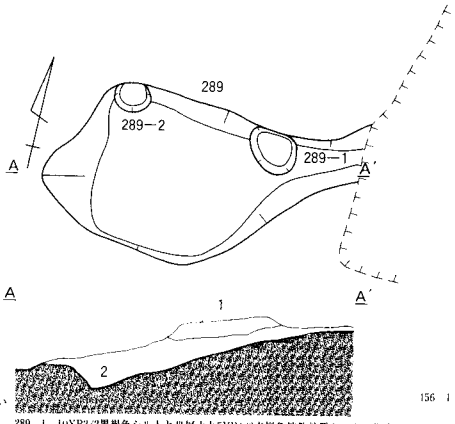
完掘状態平面図



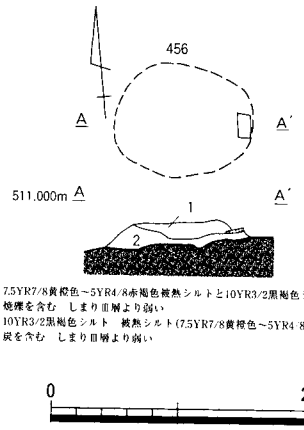
第22図　礎石建物跡 (2)



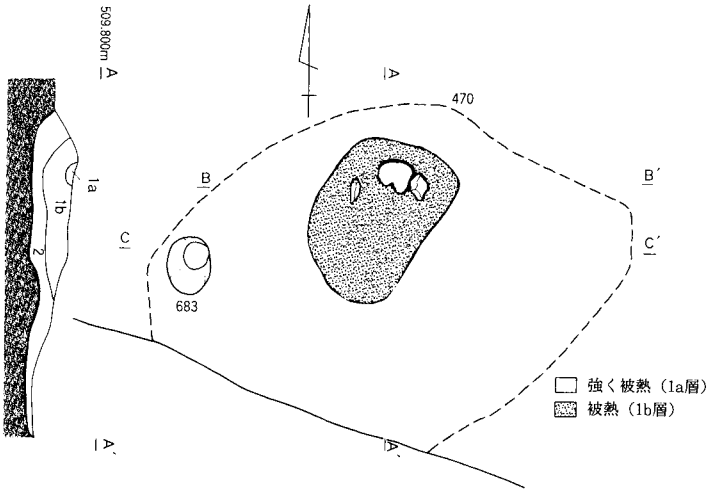
155　1　10YR6/6明黄褐色シルト(部分的にやや被熱)と2.5YR4/6赤褐色被熱シルトと
Ⅱ層土とⅢ層土の混合　炭を含む　径10cmまでの礫を含む　しまりⅢ層より弱い

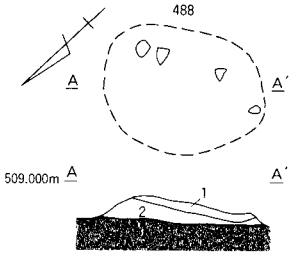


289　1　10YR3/2黒褐色シルトとⅢ層土と5YR4/6赤褐色被熱粘質シルトの混合
10YR6/8明黄褐色被熱粘質シルトを含む　炭を含む
径1cmまでの礫を少量含む　しまりⅢ層より弱い
2　10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/4にぶい黄褐色砂混じりシルトを含む
径5cmまでの礫を含むがごく少量である　しまりⅢ層より弱い

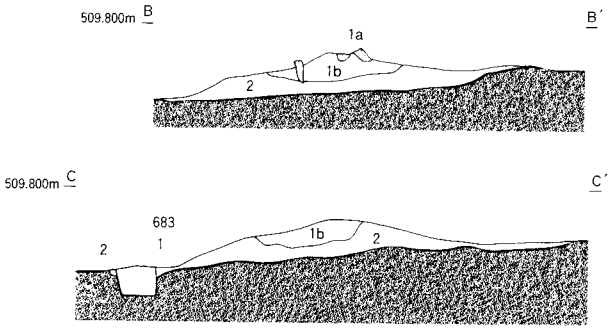


156　1　7.5YR7/8黄橙色～5YR4/8赤褐色被熱シルトと10YR3/2黒褐色シルトの混合を含む
焼礫を含む　しまりⅢ層より弱い
2　10YR3/2黒褐色シルト　被熱シルト(7.5YR7/8黄橙色～5YR4/8赤褐色)を含む
炭を含む　しまりⅢ層より弱い



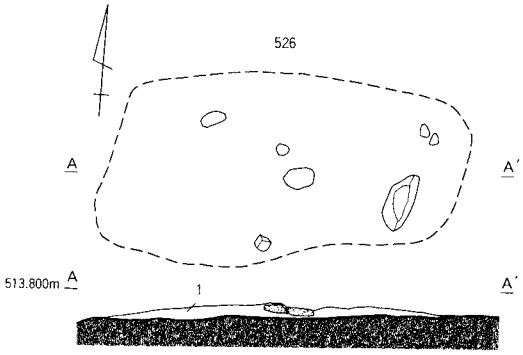


488　1　7.5YR7/8黄橙色～5YR4/8赤褐色被熱シルトと10YR3/2黒褐色シルトの混合
炭を含む　しまりⅢ層より弱い
2　10YR3/2黒褐色シルト　被熱シルト(7.5YR7/8黄橙色～5YR4/8赤褐色)を少量含む
しまりⅢ層より弱い



470　1a　2.5YR4/6赤褐色被熱シルト　強く熱を受けている　しまりⅢ層より弱い
1b　10YR7/8黄橙色被熱シルト　1a層土を含む　2層土を含む　炭を含む　しまりⅢ層より弱い
2　10YR3/2黒褐色シルト　1b層土を少量含む　しまりⅢ層より弱い

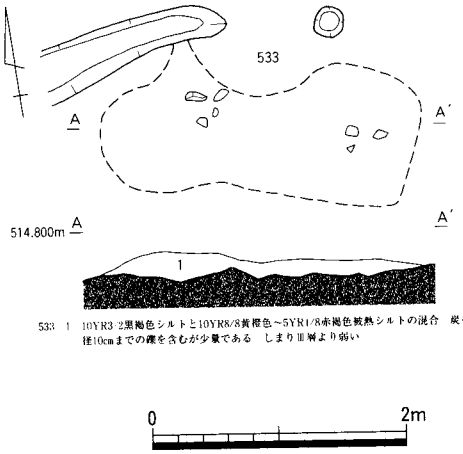
683　1　10YR7/8黄橙色被熱シルトと2層土の混合　しまりⅢ層より弱い



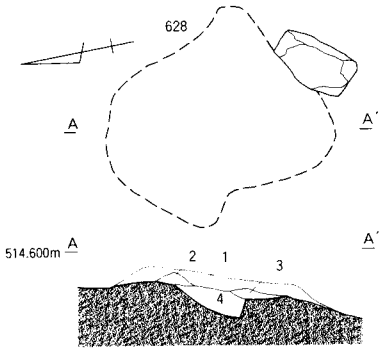
526　1　10YR3/2黒褐色シルトと10YR8/8黄橙色～5YR4/8赤褐色被熱シルトの混合
炭を含む　焼礫を多く含む　しまりⅢ層より弱い

0　2m　　0　2m　　0　2m　　0　2m　　0　2m

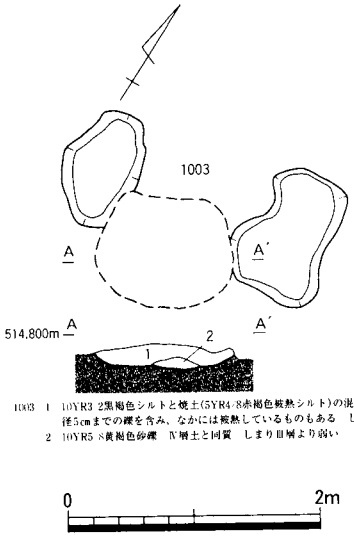
第23図　焼土堆積遺構（1）



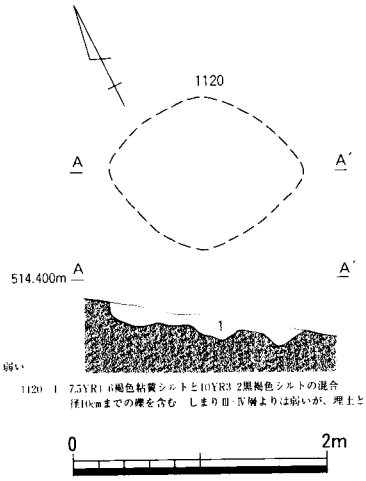
533　1　10YR3/2黒褐色シルトと10YR8/3黄橙色～5YR1/8赤褐色被熱シルトの混合　炭を含む
径10cmまでの礫を含むが少量である　しまりⅢ層より弱い



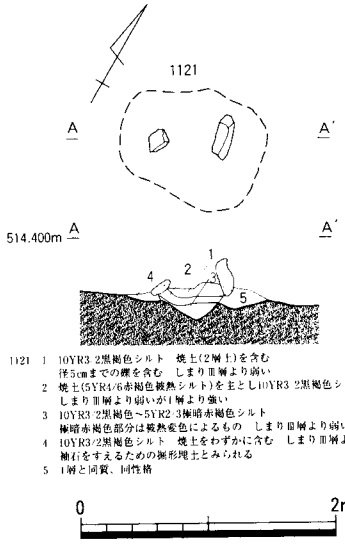
628　1　10YR3/2黒褐色シルトと5YR4/8赤褐色被熱シルトの混合　炭を少量含む　しまりⅢ層より弱い
2　5YR4/8赤褐色被熱シルト　Ⅲ-1層土が被熱変色したものとみられる　しまりⅢ層より強い
3　2層と同質・同性格
4　10YR3/2黒褐色シルトとⅢ層土の混合　被熱シルト(2・3層土)を少量含む　しまりⅢ層より弱い



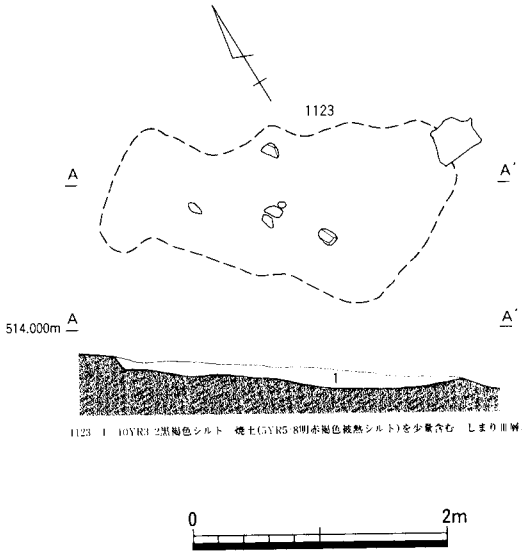
1003　1　10YR3/2黒褐色シルトと焼土(5YR4/8赤褐色被熱シルト)の混合
径5cmまでの礫を含み、なかには被熱しているものもある　しまりⅢ層より弱い
2　10YR5/8黄褐色砂礫　Ⅳ層土と同質　しまりⅢ層より弱い



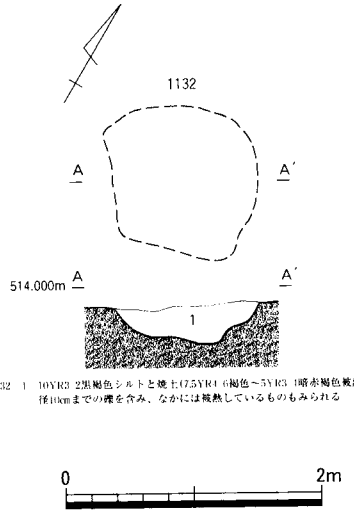
1120　1　7.5YR1/6褐色粘質シルトと10YR3/2黒褐色シルトの混合
径10cmまでの礫を含む　しまりⅢ-Ⅳ層よりは弱いが、埋土としては強い



1121　1　10YR3/2黒褐色シルト　焼土(2層土)を含む
径5cmまでの礫を含む　しまりⅢ層より弱い
2　焼土(5YR4/6赤褐色被熱シルト)を主としし10YR3/2黒褐色シルトを含む
しまりⅢ層より弱いが1層より強い
3　10YR3/2黒褐色～5YR2/3極暗赤褐色シルト
極暗赤褐色部分は被熱変色によるもの　しまりⅢ層より弱い
4　10YR3/2黒褐色シルト　焼土をわずかに含む　しまりⅢ層より弱い
抽石をすえるための掘形埋土とみられる
5　1層と同質、同性格



1123　1　10YR3/2黒褐色シルト　焼土(5YR5/8明赤褐色被熱シルト)を少量含む　しまりⅢ層より弱い



1132　1　10YR3/2黒褐色シルトと焼土(7.5YR4/6褐色～5YR3/4暗赤褐色被熱シルト)の混合
径10cmまでの礫を含み、なかには被熱しているものもみられる　しまりⅢ層より弱い

第24図　焼土堆積遺構 (2)

第4章　出土遺物

第1節　出土遺物の概要

今回の調査で出土した遺物の総点数は、接合前破片数で数えて31,980点である[1]。遺物出土層位の観点からは、遺物包含層（以下、包含層）から出土した遺物の占める割合が遺構内出土遺物よりも高いことを今回の調査区の特徴として挙げることができる。遺構内出土遺物は8,330点で総点数の26.05%にすぎないのに対し、包含層出土遺物[2]は23,650点で73.95%にのぼる。これは多くの生活痕跡が遺構として認識できるような状態で残らず、本来遺構内にあったはずの遺物の多くが包含層出土遺物としてしか捉えられなかったことを示している。遺構の残存状態がさほど良くないことは、遺物のこのような出土状況からも裏付けられる。

集計した結果を表及びグラフとして掲げる（第25図、第22表）。地区別ではG地区（3,200m²）22,718点、C地区（380m²）4,126点、F地区（280m²）2,665点、D地区（240m²）2,471点となる。出土した遺物の種別を列挙すると、土器・陶磁器類に属するものとして、縄文土器（146点、0.46%）、弥生土器（18点、0.06%）、須恵器（17,899点、55.97%）、土師器（11,364点、35.53%）、灰釉陶器（474点、1.48%）、緑釉陶器（3点、0.01%）、輸入磁器（8点、0.03%）、近世陶磁器（1,000点、3.13%）があり、土器・陶磁器類以外では、古代瓦（771点、2.41%）、金属製品（92点、0.29%）、鍛冶関連遺物（7点、0.02%）、石器・石製品（126点、0.39%）、土製品（72点、0.23%）がある。点数が特に多いことが予想された須恵器と土師器については、破片数を数えるに当たり細分を行った。すなわち、須恵器は食膳具・貯蔵具・特殊品の3種に分け、土師器は「土師器（良）」（胎土の精良なもの）と「土師器（粗）」（胎土の粗いもの）の2種に分けている。[3]

須恵器・土師器・灰釉陶器・古代瓦の4種別で遺物全体の95%以上を占めることから、当遺跡が古代を主要な時代とする遺跡であることは明らかである。さらに平面的な出土分布傾向を捉えるため、包含層出土遺物についてグリッド毎の1m²当たりの出土遺物密度を求め、その結果を分布図として図示した（第26図）。第25図、第26図と第22表からは、次のような傾向を読みとることができる。

①土器・陶磁器類のうち、灰釉陶器の占める割合は地区によりかなり異なり、C地区で特に高い。また、C地区では包含層より遺構内の方が高い割合で出土する不整合が認められる。その一方で、D地区では極めて少ない上に遺構内では皆無であり、対照的である。

②古代の瓦は寺院中枢域に近いF地区とD地区で集中的に出土する。その一方で、C地区も位置的には寺院中枢域からそう離れてはいないにもかかわらず、瓦の出土量は微量である。

③今回の調査に限ってのことではあるが、鍛冶関連遺物はG地区とD地区のみで出土している。

④縄文土器と弥生土器はD地区で集中的に出土する。

⑤輸入磁器はF地区とD地区のみで出土している。

⑥近世陶磁器はF地区で集中的に出土する。

⑦分布図によれば、C地区は他の3地区に比べ包含層の遺物密度が希薄である。

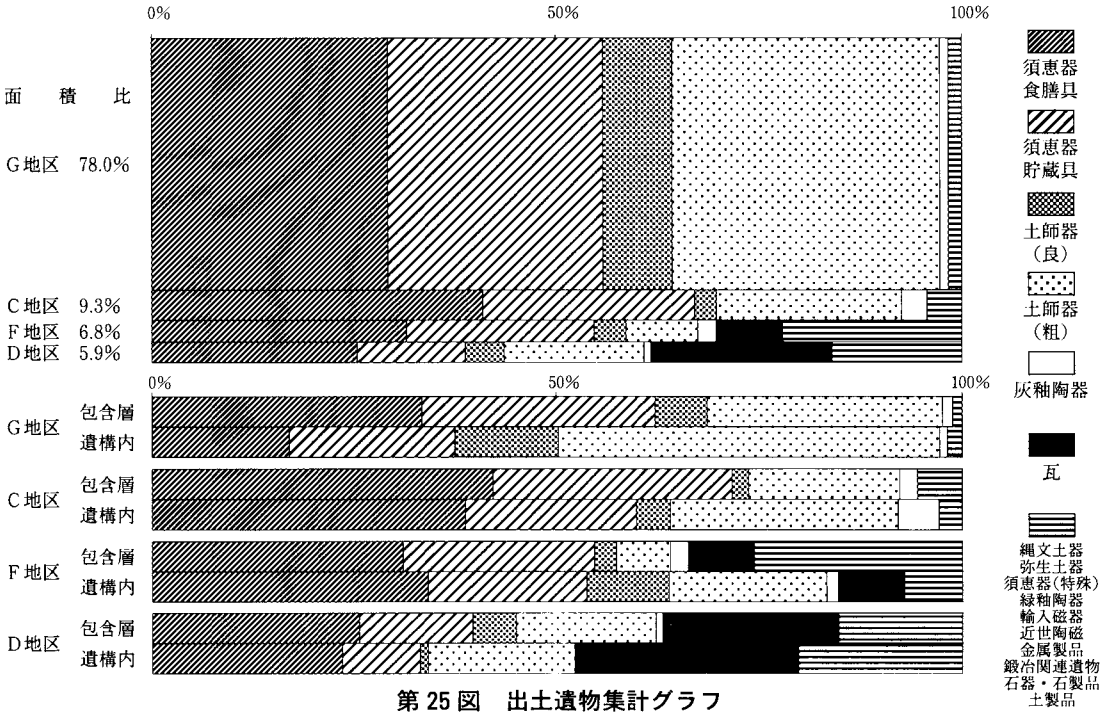
⑧分布図によれば、G地区の東部は遺物が希薄である。このことからG地区の集落と平成11年度に

検出したＦ地区の集落とは、時期的には重なるとしても空間的には連続しない別集落である可能性が高い。

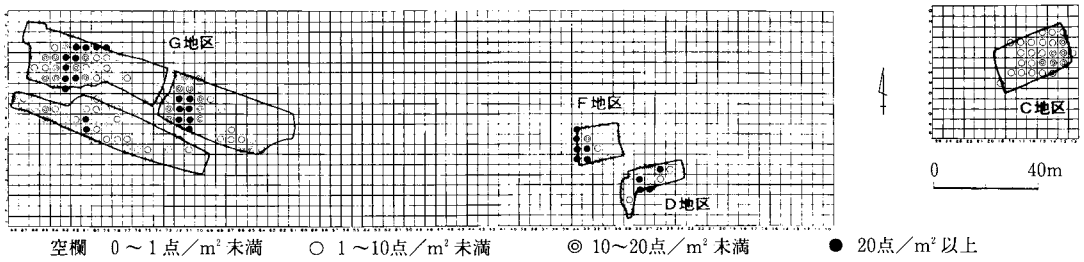
⑨ごく少量出土した輸入磁器を除けば、中世に属することが確実視される遺物は皆無である。

第 22 表　出土遺物集計表

地区	出土区分	出土遺物破片数																	
		土器・陶磁器類												その他					計
		縄文土器	弥生土器	須恵器 食膳具	須恵器 貯蔵具	須恵器 特殊	土師器（良）	土師器（粗）	灰釉陶器	緑釉陶器	輸入磁器	中世陶器	近世陶磁	瓦	金属製品	鍛冶関連遺物	石器・石製品	土製品	
G	包含層	33		5660	4842	2	1120	4834	222				86	4	28	1	48		16880
	遺構内	5		998	1197		747	2734	49	1			1	2	16	4	12	72	5838
C	包含層	3		1030	717	1	45	455	49				107	6	7		10		2430
	遺構内			660	364		66	473	83				29	1	10		10		1696
F	包含層	21		675	523	1	54	142	46	1	4		503	175	14		14		2173
	遺構内			169	96		51	95	6				32	39	4				492
D	包含層	39	15	567	296		118	373	19	1	4		238	460	10	2	25		2167
	遺構内	45	3	72	29		4	53					4	84	3		7		304
太江遺跡 15年度調査総計		146	18	9831	8064	4	2205	9159	474	3	8		1000	771	92	7	126	72	31980



第 25 図　出土遺物集計グラフ



第 26 図　包含層出土遺物分布図

本章では、遺物実測図を出土した遺構毎にまとめて掲載した。掲載順は遺構番号順とし、包含層出土遺物は遺構内出土遺物のあとにまとめ、地区毎に掲載した。できる限り出土実態に即した形で掲載するのが資料報告としてふさわしいと考えるので、遺構内出土遺物抽出に当たっては各遺構の中心となる型式の遺物のみを選ぶような操作は行わず、混入品の可能性の高い個体も除外していない。

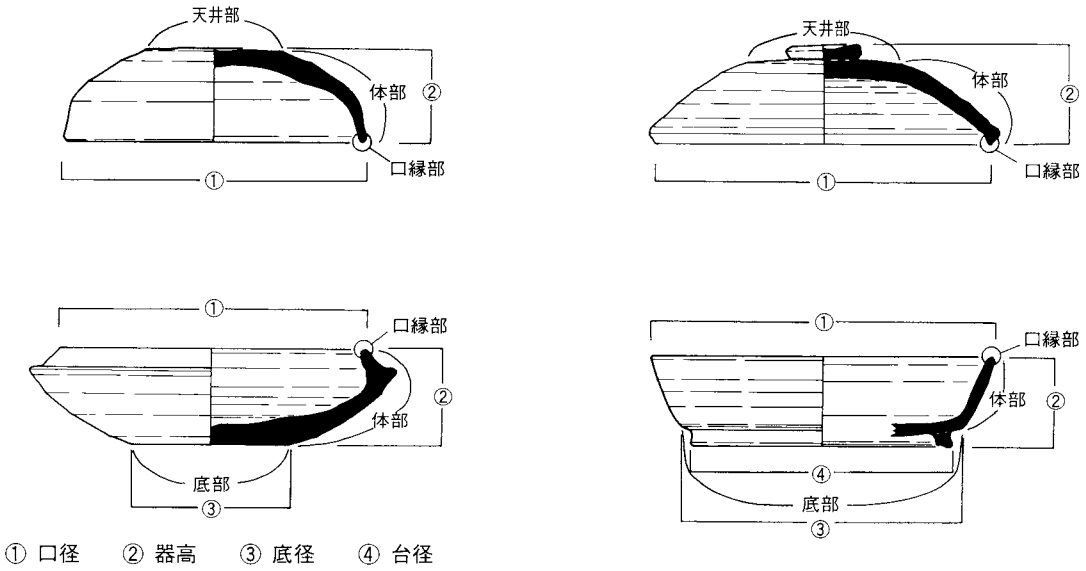
以下、第2節で土器・陶磁器類、第3節でそれ以外の遺物について、遺物種別毎に解説を加えることとする。遺物個々の法量や調整技法などについては巻末の「遺物観察表（別表3）」に記した。遺構毎の遺物組成については、同じく巻末の「遺構一覧表（別表1）」を、グリッド毎の遺物組成については「遺物包含層一覧表（別表2）」を、それぞれ参照されたい。また、より詳しい分析等については第5章を参照されたい。

次節以降で遺物に関して用いる用語や記号、それに計測値の基準は、次の通りである。

(1)　部位名称と計測基準

最も点数の多い須恵器の主要器種を例に採り、図示する（第27図）。高杯については、さらに杯部と脚部に分け、杯部の部位名称は無台杯に準じることとする。甕・壺・瓶等は原則として口頸部（口縁部と頸部）・体部・底部に分けることとした。須恵器以外についてもこれに準じる。ただし、「体部」との呼び方が慣例上なじまない縄文土器については代わりに「胴部」と呼ぶなど、あえて統一していない部分もある。

土器・陶磁器類については、口径・器高・底径を計測するのを原則とし、高台を有する個体については、さらに台径を計測した。石器・金属製品など、その他の遺物については、長さ・幅・厚さを計測した。金属製品では錆の部分は計測から除外した。土器・陶磁器類でも陶錘などは石器・金属製品等と同様とした。



第27図　須恵器の部位名称と計測位置

(2) 調整技法や使用痕の観察と呼称

本書で用いる調整技法等の呼称について、まとめておく。

ナデ

指や布・革などで器面を撫でる調整技法。原則として、回転を利用せず不定方向・不連続に撫でるものを指す。ナデの方向が観察可能な場合には「横方向のナデ」のように、その物に対する方向を明記した。指で直に撫でる場合と布や革を使用する場合があるとみられるが、明確に識別できるケースを除いて両者を区別はしていない。なお、木の板等の固形の工具によるものは、ここに含んでいない。

オサエ

指や布・革などで器面を押さえる調整技法。指で直に押さえた場合と布や革を使用する場合があるとみられ、明らかに前者であることが分かる場合には「指オサエ」とした。圧痕が窪みとして残らない程度の軽いオサエの場合にはナデに含めて考えられる場合が多いようであるが、本書では動きの幅の大小で両者を区別した。

ナデ・オサエ

ナデ調整とオサエ調整を併用したもの。例えば、須恵器蓋の天井部内面や須恵器杯の底部内面などによくみられる回転によらないナデ（「仕上げナデ」と呼ばれることがあるもの）では、ナデを主としつつも指圧痕を残さぬ軽いオサエを併用していることが多く、そのような場合、本書では「ナデ・オサエ」と表記している。また、土師器などで調整痕を読みとれないほど器面を平滑に仕上げているものがみられるが、その多くは方向を読みとれぬほど軽く丁寧なナデと指圧痕を残さぬ軽く丁寧なオサエを施していると判断する。この場合にも「ナデ・オサエ」と表記している。

回転ナデ

回転台の回転を利用してナデを行うもの。

板ナデ

木の板を使用したナデ。結果として胎土中の砂粒が動き、「ナデ」よりも「削り」と呼んだ方がふさわしいケースも時に見かけるが、本書ではそのようなケースもナデと区別することは行っていない。

ヘラ削り

側縁が薄く鋭利なヘラ状工具を使用し、器面の余分な粘土を削り取る調整技法。胎土中の砂粒がヘラの動いた方向に移動することで、ナデやミガキと判別できる。原則として、回転を利用せず不定方向・不連続に削るものを指す。瓦では側面と端面のヘラ削り範囲を、断面図に記号「－」で示した。なお、次に挙げる「回転ヘラ削り」との混同を避ける必要がある場合には「手持ちヘラ削り」と表現している。

回転ヘラ削り

回転台の回転を利用してヘラ削りを行うもの。須恵器の蓋類では天井部外面にこの調整を施すことが多く、掲載図ではその下限を実線で示してある。また、須恵器の杯類で底部外面に施しているものについては、その上限を実線で示してある。

ヘラミガキ

器面をヘラ状工具で研磨する調整技法。光沢のある磨き痕が残る。土師器の杯や高杯にみられる、いわゆる「暗文」、つまり幅の極めて狭い工具で線状に磨いたものは、特に「線状ミガキ」と呼んで

区別した。

ハケ目

土師器の甕などにみられる、刷毛で撫でたような細かい平行線状の調整痕。板の木口で器面を撫で、その結果、年輪の跡が刻まれたものと考えられている。

カキ目（掻き目）

須恵器の提瓶や高杯などにみられる、刷毛で撫でたような連続する細かい平行線状の調整痕。回転を利用して櫛歯状工具などを押し当ててできた調整痕と考えられている。

平滑化

須恵器の杯や碗の内面に、底部の中央部を中心に他の部位に比べて滑らかになっている部分が認められることがある。これは食器として使用されたことに伴う使用痕とみられる。また、石製品の砥石にも、砥面以外に、おそらく使用者の衣服などで擦られて滑らかになったと思われる面が認められることがある。これらについて、本書では「平滑化」と呼んでいる。

第2節　土器・陶磁器類

(1)　須恵器

須恵器は当遺跡では最も出土数の多い遺物であり、破片数で17,899点出土した。地区別ではG地区12,699点（70.9%）、C地区2,772点（15.5%）、F地区1,464点（8.2%）、D地区964点（5.4%）である。特に大きな偏りなく全地区で出土している。

G地区の包含層から出土した359や344など、製品として広域に流通したと考えるには違和感のある焼きゆがみの著しい個体が相当数みられることから、多くは地元産である可能性が高い[4]。

確認した器種

食膳具：杯蓋（つきふた）・杯身（つきみ）・返り蓋・小型返り蓋・摘み蓋・無台杯・小型無台杯・有台杯
無台碗・有台碗・無台盤・有台盤・皿・高杯

貯蔵具：瓶（はそう）・壺・鉢・瓶・甕・壺蓋・貯蔵具の蓋

特殊品：陶錘・陶丸・硯

出土した器種を用途から分類すると上記のようになる。[5] 破片数で比較すると、食膳具9,831点、貯蔵具8,064点、特殊品4点である。貯蔵具の方が食膳具より概して大型であることを考慮すると、個体数では食膳具の方が貯蔵具よりかなり優勢と言えるであろう。以前の調査時には蹄脚硯や三足火舎など極めて珍しい特殊品が出土しているが、今回の調査区は寺院の中枢区域を含まず、大部分が周辺集落域であるためか、特殊品はさほど多くない。

食膳具にも貯蔵具にも墨書・刻書のある個体がみられるが、それらについては灰釉陶器の事例と併せて本節の最後にまとめて記述する。

杯蓋　7・47・59～62・82・83・96・148・149・235・307～319・520

古墳時代に広く普及した器種とされる。次に掲げる杯身（杯H）とセットになる蓋で、杯H蓋と通称される。丸みを帯びた天井部から垂直気味に体部が下りる器形で、天井部に摘みが付かないのを原則とする。

167個体確認した。地区別では、G地区155個体（92.8%）、C地区6個体（3.6%）、F地区1個体（0.6%）、D地区5個体（3.0%）である。第25図に示した地区間面積比を考慮するならば、9割を超える個体が面積では78.0%にすぎないG地区で出土し、他方、残る3地区では面積に見合うだけの量が出土しなかったこととなり、G地区に偏在する傾向が著しいと言える。246号遺構（竪穴）において残存状態の良好な個体が一括出土している。

出土遺物間の法量差は大きく、82・96・235・309のような口径10cm未満の小サイズの個体がみられる一方で、61のような口径15cmを超える個体まである。型式差も大きく、古墳時代中期にまで遡るとみられる天井部と体部の境に強い稜を持つ個体もある（307・308）。ただし、それらは少数にとどまり、大部分の個体は古墳時代後期、それも7世紀以降の遺物とみられる。

杯身　1・4・8・48・63～66・93・94・97・113・130・133・166・281・289・320～333・500

同じく古墳時代に広く普及した器種で、杯Hと通称される。底部と体部の境が明瞭でなく、体部の先端部に蓋を受ける立ち上がり部を持つのを器形の特徴とする。

294個体確認した。地区別では、G地区236個体（80.3%）、C地区24個体（8.2%）、F地区25個体（8.5%）、D地区9個体（3.1%）である。G地区出土品は依然として8割を超えており、杯蓋の場合ほど顕著ではないが同傾向の偏りをみせている。

出土遺物間に法量差や型式差がみられることは杯蓋と同様である。型式的に最も古い個体は144であるが、これは有蓋高杯である可能性がある。杯蓋同様、大部分の個体は古墳時代後期、それも7世紀以降の遺物とみられる。

返り蓋　160・255・306・343・344・469・470

天井部に摘みが付き、口縁部内面に返りを持つ器形の蓋である。律令時代前期[6]に現れる器種とされるが、後述の摘み蓋に比べ流通した期間は長くないとされる。

次に掲げる小型品を除外して72個体確認した。地区別では、G地区44個体（61.1%）、C地区13個体（18.1%）、F地区8個体（11.1%）、D地区7個体（9.7%）で、古墳時代の器種である杯蓋と杯身では顕著であったG地区偏在の傾向は解消され、面積比を考慮すれば、むしろC・F・D地区の方が高密度となっている。

小型返り蓋　91・103・162・245・280・334・336～342・468・501・521

当遺跡で出土する返り蓋の中には、口径6cm台から9cm台くらいの小型品が認められる。これは後述する小型無台杯とセットになる蓋で、杯G蓋と呼ばれることがあるものである。やはり律令時代前期に現れるが流通した期間は長くないとされる。

35個体確認した。ただし、摘みが残存しない場合は340のように杯身との判別が容易でないケースもある。地区別では、G地区25個体（71.4%）、C地区4個体（11.4%）、F地区3個体（8.6%）、D地区3個体（8.6%）である。地区間面積比を考慮するならば、G地区の出土密度がやや薄いものの、どの地区でもほぼ均等に出土したことを、これらの数値から読みとることができる。

通常の返り蓋に比べ丁寧な作りの個体が多く、1123号遺構（焼土）から出土した245やC地区の包含層から出土した468では、天井部外面にカキ目調整を施している。

摘み蓋　9・10・24～26・46・49・102・109・118・150・165・167・169・173・177～180・241・242・246～248・253・256・283・298・345～355・405・471～473・523

天井部に摘みが付き、口縁部が折り返され、内面に返りを持たない蓋である。律令時代に広く普及した器種とされる。

出土した須恵器で最多となる533個体を確認した。これは同用途の器種である返り蓋の7倍を超える数である。この差は流通した期間の長短に起因すると考えられよう。地区別では、G地区338個体（63.4%）、C地区122個体（22.9%）、F地区34個体（6.4%）、D地区39個体（7.3%）となる。面積では10%に満たないC地区で22.9%出土していることと、面積では78.0%を占めるG地区で63.4%しか出土していないことに注目すべきであろう。

天井部外面には回転ヘラ削り調整を施すのを通例とするが、1083号遺構（竪穴）出土の179のように省略する個体も少数ながら認められる。珍しい個体としては、G地区の包含層から出土した355を挙げることができる。特殊な宝珠摘みを持ち、寺院関連遺物と思われる。環状の摘みをもつものは、G地区包含層出土の354とC地区包含層出土の473の2個体を図示した。今回確認できたのはこの2個体のみである。G地区包含層から出土した405は類例を見ない特異な個体である。とりあえず摘み蓋の摘み部分が単独で焼成されたものと考えている。あるいはこの状態で口径の小さな貯蔵具用の蓋として使用された可能性を考えるべきかもしれない。

なお、摘み蓋の摘みが省略されたタイプの蓋、すなわち平頂蓋は、当遺跡では確実な個体は出土していない。その可能性のある個体としてD地区の包含層から出土した524があるものの、この個体は厚手の作りであることから大型の鉢か盤・皿類の底部破片となる可能性があり、確実に平頂蓋と言えるものではない。

無台杯　11・45・50・51・108・110・111・123・135～137・151・152・170・181・182・251・257・258・358～362・474～478・525

平らな底部から直線的に斜め上方へ体部が延びるのを器形の基本とする。杯Aとも呼ばれる。律令時代の器種である。

285個体確認した。地区別では、G地区159個体（55.8%）、C地区53個体（18.6%）、F地区53個体（18.6%）、D地区20個体（7.0%）である。G地区では出土密度が薄く、C地区とF地区、それも特にF地区で出土密度が濃い、といった傾向を読みとることができる。

底部外面にはナデ・オサエ調整を施すのを通例とする。これは大部分は指によるとみられるが、指ではなく工具によることが確認される個体が少数ながらみられる（137・359）。また、回転ヘラ削り調整を施した個体もみられる（360・362・476）。底部の切り離しはヘラ切りによるものが大半を占めるが、回転糸切りによるものも少数ながら認められる。ただし、100号遺構（竪穴）から出土した11や1083号遺構（竪穴）から出土した182のように、回転糸切り後、底部外面に回転ヘラ削り調整を施して痕跡を目立たないように調整するのが一般的のようである。後述する無台碗では糸切り痕をそのまま残すのを通例とすることから、当地域でも他地域と同様に、無台杯が無台碗に先行する器種であることは疑いないと言えるであろう。

小型無台杯　134・356・357

確認できた個体は、わずか8個体にすぎない。地区別ではG地区7個体、C地区1個体で、F地区とD地区では確認されなかった。セット器種であるはずの小型返り蓋の個体数との不整合が不可解である。

有台杯　12・13・28～30・53・153・159・236・295・363～370・479・527

高台の付く杯で、杯Bと呼ばれることがある。律令時代に広く普及した器種とされる。

200個体確認した。地区別では、G地区124個体（62.0%）、C地区36個体（18.0%）、F地区24個体（12.0%）、D地区16個体（8.0%）である。無台杯同様、出土密度はG地区で薄く、C地区とF地区で濃い傾向が認められる。

体部と底部の境に突帯状の強い稜をもつ特殊品がみられることを当遺跡の特徴として挙げることができる（159・236・364・365）。このうち236は極めて小型である点でも特異である。

底部外面には回転ヘラ削り調整を施すのを通例とする。ヘラ状工具を使用した回転によらない削り調整を施した例もみられる（367）。

無台碗　5・14・33・128・131・141・183～196・240・249・259・260・371～373・480・502・528

杯にくらべ底径が小さく体部が外反する器形のものを碗とする。底部外面に回転糸切り痕を残すのを通例とし、例外はみられない。回転糸切り技法が普及する時期以降に現れた、律令時代後期の代表的な器種とされる。

403個体確認した。この点数は摘み蓋に次ぐもので、今回の調査では特に目立つ器種であった。地区別では、G地区250個体（62.0%）、C地区83個体（20.6%）、F地区31個体（7.7%）、D地区39個体（9.7%）である。G地区で薄く、C地区で濃い出土傾向が認められる。なお、D地区の確認個体はすべて包含層出土品であり、遺構内出土品中には全くみられない。多数出土した器種であるだけに偶然とは考えがたく、D地区の遺構の帰属時期を考える上で手掛かりとなる。

他の器種に比べ、須恵器に通例の青っぽい灰色でなく、赤っぽい色を呈する個体が多くみられる。33（図版5にカラー写真を掲載）・187・191・192・371・373・480など、そうした例はかなりの頻度で認められる。これは焼成時に窯内で完全な還元炎焼成とならなかったことに起因するものであり、もちろん須恵器全般に時にみられることではあるので、意図的にそのような発色をねらったものなのか否かは不明である。ただ、当遺跡に限らず当地域では目に付く現象であることは確かである。

有台碗　126・142・161・197～201・374・481

高台を持つ碗である。無台碗と同じく底部外面に回転糸切り痕を残すのを通例とする。律令時代後期の器種である。

51個体確認した。地区別では、G地区36個体（70.6%）、C地区10個体（19.6%）、F地区1個体（2.0%）、D地区4個体（7.8%）である。確認個体数が少ないため傾向を捉えにくいが、無台碗と同様にG地区で薄く、C地区で濃いようである。F地区とD地区の遺構内では全く確認されていない。

374のように灰釉陶器の碗に器形が極めて近い個体もみられるが、本書ではそのような場合には色調と胎土から判別している。前述の通り底部外面に回転糸切り痕を残す個体が多いが、なかには回転ナデ調整を施す個体も確認される（197）。また、体部内面のみに自然釉が付着し、その結果、底部内面に重ね焼きの痕跡が認められる個体がかなりみられる（197・201）。

無台盤　84・375

扁平な皿状の器種のうち、口縁部が明瞭に屈曲するものを盤とした。律令時代後期の器種である。260号遺構（溝）から出土した84とG地区包含層から出土した375は、蓋として使用された可能性もあるものの、口縁部の形状に有台盤と共通する要素が認められることから食物を盛る器と判断し、無台

盤とした。同様の器種の破片とみられるものは調査区全体では数点程度出土している。

有台盤　202・203・376～378・482

律令時代後期の器種である。高台の付く盤である有台盤は39個体確認された。地区別では、G地区25個体（64.1%）、C地区13個体（33.3%）、F地区1個体（2.6%）である。D地区では確認されていない。確認個体数が少ないため傾向を捉えにくいが、無台碗や有台碗と同様に、G地区で薄く、C地区で濃いようである。1083号遺構（竪穴）では、須恵器の無台碗・有台碗、灰釉陶器の碗・皿と共に出土している（202・203）。

図示した6個体では、底部の残存しない482を除いて、いずれも底部外面には回転糸切り痕が確認される。

皿　15・85・154・379・483

口縁部が盤のように明瞭に折れない扁平な器種を皿とした。C地区包含層出土の483は無台杯に分類することも可能ではあろうが、底部外面が広く平らで、さらに無台杯では一般的ではない回転ヘラ削り調整が施されていることから、皿に分類した。同様の無台の個体には260号遺構(溝)出土の85と550号遺構（溝）出土の154がある。G地区包含層から出土した379も、小破片ではあるが皿である可能性が高い。

明確ではないが、100号遺構（竪穴）から出土した15は、高台が付いた皿となる可能性がある。

高杯　6・67・68・101・380・382～385・387

小破片は多数出土しているものの、全形を窺える個体は少数にとどまる。

387は厚手の作りで、杯部・脚部ともに類例をほとんど見ない特異な形状をなす、規格外とも言うべき個体である。82UグリッドⅡ層から出土しており、古墳時代後期の遺物がまとまって出土した246号遺構（竪穴）に関連する遺物の可能性がある。

有蓋高杯はごく少数しかみられなかったが、G地区包含層から出土した380はその例である。杯部の底部外面にカキ目調整を施している。

このほか、図示できる個体はないが、長脚で二段透かしを持ち、脚部外面にカキ目調整を施した高杯がG地区で複数確認されている。

瑳　72・98・114

古墳時代の器種である。今回の調査では通例から予想される以上に多くの破片が出土しており、全形を窺えるものが3個体ある。72は246号遺構（竪穴）から杯蓋・杯身・高杯などとともに出土した。292号遺構（溝）から出土した98は、口頸部内面に「×」のヘラ書きがみられ、体部外面中央部には波状文を施している。466号遺構（溝）から出土した114は、同部位に列点文を施している。

壺・鉢・瓶　2・16・34・36・69・70・86・95・99・104・105・116・155・156・206～208・254・261・263～266・388～403・484・486・487・529

いずれも貯蔵具であるが、これらを厳密に分ける拠り所となる基準はないので、まとめて扱う。

最も多くみられるのは、短い頸が直立する器形の壺、いわゆる短頸壺で、図示したものに中にも11個体ある（69・86・95・99・104・105・156・389・390・392・393）。広口の器形となるものには467号遺構（溝）から出土した116や2001号遺構（竪穴）から出土した266などがあるが、今回の出土遺物に限れば定形といえる器形が見出せない。

特異な個体としては、G地区包含層から出土した401を挙げることができる。頸部外面に鍔状の張り出しをもち、体部外面にはカキ目が認められる。G地区包含層から出土した403は鉄鉢形となるとみられる。横瓶の確認個体はごく少数で、図示できたのは27号遺構（土坑）から出土した1個体(2)のみである。平瓶と提瓶については、G地区の出土遺物中にそれぞれ小破片を確認しているが、図示できる個体はない。

G地区の71ZグリッドⅡ層から出土した398は、器形は不明ながら、体部外面に「寺」とみられるヘラ書きがあることで特に注目される。

甕　19・23・52・71・80・119・204・205・409・410

壺・鉢・瓶より大型で、頸部が体部よりすぼまる器形の貯蔵具を甕とした。体部と底部の内面に同心円当て具痕を残すのを通例とするが、内面に調整を加えて痕跡を消す個体もみられる。当て具痕に木製当て具による木目が認められる個体はなく、陶製の当て具が使用されたと推定される。外面には叩き痕を残す。底部はやや丸みを帯びた尖底を通例とし、平底の個体は確認されていない。

全形を窺える良好な個体として、100号遺構（竪穴）から出土した19を挙げることができる。割れて156点の破片に分かれた状態で出土した。器高76.7cm、最大径75.4cmを測る大型品で、当遺跡で出土した甕では最大である。これより小さな中型の個体の代表例として409がある。さらに小型の良好な個体としては410を挙げることができる。

壺蓋　407・408

当遺跡では希な器種である。G地区の包含層から出土した407と408の2個体以外に確認した個体はない。

貯蔵具の蓋　411

大型の貯蔵具の蓋とみられる特異な個体が1個体ある。G地区包含層から出土した411は口径27.2cmを測る大型の器種で、天井部外面にはカキ目が認められる。

陶錘　503

F地区の包含層から出土した503が、今回の調査における唯一の確認個体である。

陶丸　485

C地区の包含層から出土した485は類例をみない器種であり、仮に陶丸と呼んでおく。最大径2.3cmを測る球形で、直径0.35cmの貫通孔を有する。外面には丁寧なナデ・オサエ調整を施し、滑らかに整形している。図の下端面の部分のみヘラ削り調整を施している。陶錘として使用されたとも考えられるが、精巧な作りをしていることから装飾品や数珠玉としての使用も想定されよう。

硯　406

G地区の包含層から出土した406は、全形を窺うことはできず硯面は確認されていないものの、把手付中空円面硯である可能性が高い。提瓶を横向きに倒し、体部の片面を硯面としたような形態と推測される。把手部の上面に円形の孔を穿っており、底部内面には墨とみられる黒色の付着物が認められる。

以前の調査時には蹄脚硯が出土しているが（前報告書の67番）、今回の調査で出土した須恵器のうち硯の可能性があると判断したのは、この1個体のみである。

(2) 土師器

破片数で11,364点出土した。当遺跡では須恵器に次いで多い遺物である。地区別ではG地区9,435点（83.0%）、C地区1,039点（9.1%）、F地区342点（3.0%）、D地区548点（4.8%）である。須恵器と比較するならば、G地区で多く、C地区とF地区で少ない傾向が認められる。杯・高杯・皿・甕・甑・手捏土器・製塩土器を確認した。杯の中には、器面に線状の装飾的なミガキを施した、いわゆる暗文土師器がみられる。

土師器については、使用している胎土を基準に、精良なものと砂粒を多く含む粗雑なものに大別した。胎土の違いを分類基準としたのは、杯に胎土精良なものと砂粒を多く含む粗雑なものが共に認められるため、須恵器のように用途による分類を行って数量比を求めるのが小破片では困難であったことによる。分類の結果は、土師器（良）2,205点、土師器（粗）9,159点となった。両者の比率は、およそ1：4であり、つまり胎土の精良な破片が土師器全体の5分の1を占めることが明らかとなった。比較対照できる他遺跡のデータがないのではっきりしたことは言えないものの、美濃地方の一般的な古代集落跡の場合に比べれば、胎土精良なものの占める割合がいくらか高いと思われる。

用途を基準に分類するならば、杯・高杯・皿が食膳具、甕・甑が煮炊具、手捏土器・製塩土器が特殊品となるであろう。食膳具と特殊品は高杯を除けば個体数としては少数であり、出土した土師器の多くは煮炊具で占められる。土師器食膳具の出土量が須恵器食膳具とは比べものにならないくらい少量であることから、当地域では土師器が食膳具の主力となることはなく、一貫して特殊なケースにおいて使用されるにとどまったと思われる。

杯　73・74・87・107・117・124・168・414・416・417・490

土師器の杯は甕などとは違い緻密な胎土では作られるのが一般的であるが、当遺跡では、甕と同様の砂粒を多く含んだ粗雑な胎土で作られた個体が少なからずみられる。以下、それらを土師器杯（粗）と呼び、通常の緻密な胎土のよるものを土師器杯（良）と呼んで、両者を区別することとする。

土師器杯（良）は22個体確認した。地区別ではG地区17個体、C地区1個体、F地区3個体、D地区1個体である。器面をナデ調整したのち、幅の狭いヘラ状の工具によるミガキを加えて光沢のある線状文様を描いた、暗文と呼ばれる装飾のあるものが大半を占める。

暗文土師器は破片数で32点、個体数では20個体確認した（第23表）。この中には高杯の可能性のあるものが含まれるものの、確認された個体はすべて杯である。地区別では、G地区15個体、C地区1個体、F地区3個体、D地区1個体となる。G地区での分布範囲は、グリッドで言えば71～73行のY～B列の区域と81～82列のU～X列の区域に集中する傾向が顕著である。杯と確認できないものも含め9個体図示する（87・107・117・124・168・270・413・415・490）。このうち全形を窺えるのは124と168である。

679号遺構（ピット）から出土した168は今回の調査で確認できた唯一の土師器の有台杯であり、加えて124と並んで最も残存状態のよい暗文土師器であることからも特に注目される。体部内面に横方向のナデを行ったのち、縦方向の線状ミガキを施している。体部外面は、上半部は横方向のナデ調整を施すが粘土継ぎ目を明瞭に残している。体部外面下半部は、器に対してヘラを左横方向へ動かすのを原則とする手持ちヘラ削りを施す。底部は、内面と高台より内側の外面にはナデ・オサエ調整、高台の内外面には横方向のナデ調整を施し、高台より外側の外面には3本単位のハケ目が認められる。

元は全面に赤彩を施していたとみられるが、高台部分を除く外面では大部分剥落している。胎土は当遺跡で出土した他の暗文土師器に比べて砂粒を多く含んでいる。畿内からの影響を示す遺物と言えようが、暗文を施す部位が体部内面のみにとどまること、粘土継ぎ目をあまり丁寧には消していないこと、胎土が比較的粗いこと、それに底部外面の一部にハケ目が認められることなどから、畿内の典型的な優品とは様相を異にし、在地の製品とみるべきであろう。

480号遺構（溝）から出土した124は大型の杯である。体部外面上半部に横方向ナデののち横方向の線状ミガキを施している。また、体部外面下半部と底部外面にはヘラを左横方向へ動かす手持ちヘラ削り調整が認められる。ただし、内面は横方向のナデ調整が確認されるのみである。胎土は砂粒の混入が少なく、緻密である。

以上の2個体以外は小破片であるが、第23表に示した通り、体部内面、あるいは体部内面から底部内面にかけての部位に、縦方向の線状ミガキを施すのを通例としている。413のみ外面にも横方向の線状ミガキが認められる。今回の調査での出土遺物中には、螺旋状に磨いたものは確認されなかった。

飛騨地方では暗文土師器の出土例が近年になって増えつつあり、当遺跡の第1次～第3次で出土しているほか、上町遺跡（飛騨市）、与島（よしま）古墳群、半田垣内（はんだがいと）遺跡、海具江（かいぐえ）古墳、桜本遺跡、石橋廃寺（以上高山市）において出土例が知られている。

土師器杯（粗）は10個体確認した。地区別ではG地区8個体、C地区1個体、D地区1個体で、F地区では確認されていない。図示した個体では、73・74・414・416・417が該当する。

73は、甕の底部となるべきものを独立させて口縁部を成形して杯としたような印象を受ける。ただし、内面は、おそらく痕跡をほとんど残さぬ丁寧なナデ・オサエによるのであろうが、滑らかに調整してある。414・416では、内外面にハケ目が認められる。417では、内面は板ナデ調整により極めて滑らかに仕上げられている。

第23表　暗文土師器一覧

地区	出土地点	層位	破片数	器種	遺物番号	備考
G	246号	1層	1	杯？		内面に線状ミガキ。
	250号	1層	1	杯		内面に線状ミガキ。87と同一個体か。
	260号	1層	2	杯	87	内面に線状ミガキ。
	406号	1層	2	杯	107	内面に線状ミガキ。480号遺構1層に同一個体とみられる破片1点あり。
	467号	1層	1	杯	117	内面に線状ミガキ。内外面に赤彩。
	480号	1層	9	杯	124	外面に線状ミガキ。
	679号	床面直上	3	有台杯	168	内面に線状ミガキ。内外面に赤彩。
	71A	Ⅱ層	1	杯		内面に線状ミガキ。内外面に赤彩。168と同一個体か。
	72Y	Ⅱ層	1	杯？		内面に線状ミガキ。
	72A	Ⅱ層	1	杯？	413	内外面に線状ミガキ。
	72B	Ⅱ層	1	杯？		内面に線状ミガキ。
	72B	Ⅱ層	1	杯？		内面に線状ミガキ。
	72B	Ⅱ層	1	杯		内面に線状ミガキ。内外面に赤彩。168と同一個体か。
	73Z	Ⅱ層	1	杯？		内面に線状ミガキ。
	82X	Ⅱ層	1	杯？	415	内面に線状ミガキ。
C	15M	Ⅱ層	1	杯	490	内面に線状ミガキ。
F	2001号	1層	1	杯？	270	内面に線状ミガキ。
	2001号	1層	1	杯？		内面に線状ミガキ。270と同一個体か。
	32E	Ⅰ2層	1	杯？		内面に線状ミガキ。
D	24G	Ⅰ層	1	不明		外面に線状ミガキと赤彩。

高杯　17・75・146・418・419・421・531

土師器の高杯は109個体確認した。地区別ではG地区87個体（79.8%）、C地区6個体（5.5%）、F地区5個体（4.6%）、D地区11個体（10.1%）である。C地区で希薄な点が特徴的である。実測できる個体は少なく、杯との判別が難しいものを除くと7個体を図示したにとどまる。

杯の場合と同様に、砂粒を多く含んだ粗雑な胎土で作られた個体が少なからずみられる。17・419が該当例で、これらはいずれもG地区出土遺物である。

549号遺構（溝）1層から出土した146は、杯部の口縁部が外反し、脚部は短く、裾部が広く外反する器形の高杯で、当遺跡出土遺物中に類例がほとんどみられない。砂粒の混入の極めて少ない密な胎土を用いた精製品で、明褐色を呈する。類似する遺物は近隣では高山市国府町の半田垣内遺跡で出土しており、半田垣内遺跡における共伴須恵器から判断して帰属時期は古墳時代中期の5世紀代にまで遡る可能性がある[7]。

皿　22

図示したのは124号遺構（ピット）から出土した22のみである。手捏成形で実測図の通りゆがみが著しい。口径11.8cm、器高2.9cm、底径4.3cmを測り、底部が小さく体部が外反する器形を成す。口縁部外面には強い横方向ナデにより平坦面を作る、いわゆる「面取り」を施している。内面は底部から体部にかけて一方向のハケ目が認められる。外面は丁寧なナデ・オサエを施しているとみられ、ナデの方向や指頭圧痕は観察されない。胎土は砂粒の混入が少なく緻密である。内外面とも橙色を呈する。

土師器の皿については当地域では報告例が少なく、共伴する遺物もないため帰属時期について確かなことは言えないが、口縁部外面に面取りが認められることや内面にハケ目が残ることから中世以降に降る可能性は小さく、とりあえず平安時代頃の遺物と考えておきたい。

なお、類似する遺物は、今回の調査では、337号遺構（ピット）において1点確認したのみである。

甕　18・38～40・54・57・76・81・88～90・106・112・115・120・129・132・139・140・143・147・157・172・174・175・209～215・237・243・250・252・267～269・423～433・491～495・532

甕は一部の例外を除き、砂粒を多く含んだ粗い胎土で作られている。色調は個体差が大きいが、黄色みを帯びた灰色との印象を受けるものが目に付く。胎土と器形は通常の土師器甕のものでありながら、須恵器同様の還元炎焼成である個体もみられる（267）。なお、鍋に近い器形となるものがみられるが（268など）、ごく少数にとどまり、全形を窺うことができる個体も出土していないことから、本書では甑以外の土師器煮炊具はすべて甕として扱った。確認し得たタイプの大部分を網羅するよう掲載遺物を抽出し、56個体を図示した。大型品と小型品に大別できる。

大型の甕の多くは長胴甕である。全形を窺うことのできる個体として、90・106・215がある。共伴する須恵器から判断して古い方から90→106→215の順で、時期差もあろうが、この3個体には器形の面で共通する特徴が認められる。①口縁部はあまり大きく開かないこと、②肩が張らないため、径が最大となるのは体部中央辺りであること、③底部は径の小さな平底であるが、体部との境はあまり明瞭ではないこと、以上の3点である。これらはまた、美濃地方で古墳時代から古代にかけて広く普及した濃尾型長胴甕にはみられない特徴でもある。飛騨地方では全形を窺える土師器甕の報告例は未だ少数にとどまるが、飛騨市古川町の上町遺跡と飛騨地方南部に位置する下呂市の上ヶ平（うえがひら）遺跡において類似例が確認される[8]。したがって、当遺跡の土師器長胴甕にみられる上記の特徴は、飛騨地方にお

いては広くみられるものである可能性がある。

このほか、頸部が明瞭な境を持たぬまま体部に続くような、さらに器形に減り張りのない寸胴な器形の長胴甕もみられる（39・433・494・495）。上ヶ平遺跡でもこれに類似する甕が出土している。また、口縁部外面に強いナデにより面を持つ個体もみられる（57）。

次に大型の甕の調整技法についてまとめておく。口頸部内面には横方向のハケ目が認められる個体が最も多いが、横方向のナデ調整の個体も多い。軽いナデとオサエを併用したとみられる個体もある（40・175）。体部内面はナデ・オサエ調整が最も多いようである。ほとんど調整の痕跡を残していない個体もみられるが、それらは指などによる軽いナデ・オサエ調整を丁寧に施したものと推測する（40・147）。その一方でハケ目が認められる個体も多い（106・140・172・215・250・425・433）。板ナデとみられる調整を施した個体もある（90）。口頸部外面には横方向のナデ調整を施すのを基本とするものの、体部外面に施されるハケ目がこの部位から始まる個体も多い（140・174・175・214・429・432・433・493・494・495）。体部外面には縦方向か斜め方向のハケ目が認められるのが一般的である。ナデ・オサエ調整のものもある（147）。不定方向のナデ調整を施したものもある（431）。

なお、ロクロ技法を使用した個体が少数ながらある（129・143・209・268）。これは北陸地方に普遍的にみられる技法である。129や143では体部上半部内外面に回転ヘラ削りもしくはカキ目とみられる調整痕が認められ、209でも体部上半部外面にカキ面が認められる。268では、口縁部から体部にかけての調整は回転ナデとみられる。出土状況を確認してみると、129は526号遺構（焼土）において須恵器の無台碗（128）と共に出土しており、143も533号遺構（焼土）において須恵器の無台碗（141）や有台碗（142）と共に出土している。209は須恵器の無台碗や灰釉陶器が多量に出土した1083号遺構（竪穴）の遺物であり、268もまた無台碗などが出土した2001号遺構（竪穴）の遺物である。したがって、いずれも当遺跡では比較的新しい段階に位置づけられる遺物であり、当地域における土師器煮炊具へのロクロ技法の導入は、須恵器への回転糸切り技法導入以降と考えることができる。

小型の甕も多数出土している（38・54・76・88・115・210・211・212・213・252・269・423・426・491）。長胴甕をそのまま小型化したようなもの（38・54・252）、口縁部が開かず直立するもの（115・491）など、器形は多様である。269は丸底の小型の甕である。例外的に砂粒の少ない緻密な胎土で作られている。ハケ目は認められない。口頸部を横方向ナデで丁寧に調整している一方で、体部と底部はナデ・オサエとみられる調整を施しているものの、細かな凹凸を多く残している。2001号遺構（竪穴）から出土した

531号遺構（竪穴）2層から出土した139は、古式土師器とも言うべき古い段階の甕とみられる。このような個体は当遺跡では極めて稀にしかみられなかった。

甑　436

G地区の包含層から出土した436は、体部の傾きの復元に推測を交えてはいるが、ほぼ全体の形状を復元可能である。体部はほぼ直立したまま開口し、口径は25cm前後を測るとみられる。体部中央には一対の把手を持つ。底部は残存しないものの、実測図の下端部がほぼ体部と底部の境部分とみられるので、器高は30cm程度に復元できる。外面は縦方向に木の板とみられる工具による粗いナデ調整を施し、内面は同様の調整を横方向に施している。

今回の調査で確認できた甑はこの1個体のみである。

手捏土器　100・216・435

祭祀に用いられることが多い土器とされる。手捏土器の可能性のあるものは、破片としては相当数出土しているが、確認点数は少数にとどまり、図示できるものは次の3個体である。

292号遺構（溝）から出土した100はほぼ完形品で、内外面に指オサエの痕跡が明瞭に認められる。口径5㎝前後を測る。胎土は甕などに用いるものに似ており、砂粒を多く含んでいる。同様の個体は、破片であるが1083号遺構（竪穴）1層からも出土している（216）。

G地区の包含層から出土した435はほぼ完形品であるが、口径は6.5㎝前後を測り、当遺跡で出土する手捏土器としては大型である。砂粒の混入の少ない土師器としては密な胎土で作られている点も、やや異質である。

製塩土器　37・125・434

細片で出土するのを通例とするため、確認の難しい遺物である。したがって、厳密な出土点数を提示することはできないが、G地区とC地区とで15個体（破片数では26点）、可能性のある遺物を見出している。この中には確実でないものも含まれるが、その一方で識別できなかった破片が相当数あるとみられるので、実数はこれよりかなり多い可能性が高い。いずれも手捏成形で、概して粗製である。比較的状態の良い3個体を図示する。

37は体部の破片とみられる。外面には粗い板ナデとみられる調整痕が認められる。工房的な性格の竪穴建物跡である197号遺構の1層から出土した。125はこれより大きな破片であるが、外面に板ナデ痕は認められない。口が大きく開く器形になると推定できる。480号遺構（溝）1層から出土した。以上2点は、器面の多くの部分が明るい橙色を呈する。また、胎土に砂粒の混入は少ない。434は直立する口縁部の破片である。外面には部分的に粗い板ナデとみられる調整痕が認められる。上記2点とは異なり薄手の作りで、残存部分の器厚は最大でも5.5㎜程度である。胎土に砂粒の混入は少ない。器面はにぶい黄褐色を呈する。

125が北陸地方に類例のある器形であることから、当遺跡の製塩土器は東海地方よりむしろ北陸地方の様相を呈しているとみてよいであろう。なお、製塩土器は飛騨地方では報告例の極めて少ない遺物であり、これまでに当遺跡以外で出土が確認されているのは、藤ノ木遺跡（高山市国府町）、直道遺跡（高山市国府町）、塚田遺跡（高山市国府町）、西ヶ洞廃寺跡（飛騨市古川町）の4遺跡にすぎない。

第24表　製塩土器一覧

地区	出土地点	層位	破片数	遺物番号	備考
G	197号	1層	1	37	明るい橙色を呈する。
	412号	1層	1		明るい橙色を呈する。
	480号	1層	2	125	明るい橙色を呈する。
	480号	1層	4		125と同一個体か。明るい橙色を呈する。
	631号	1層	1		明るい橙色を呈する。
	71A	Ⅱ層	1	434	口縁部破片。
	71A	Ⅱ層	2		
	71A	Ⅱ層	1		明るい橙色を呈する。
	72Y	Ⅱ層	4		
	72Z	Ⅱ層	2		明るい橙色を呈する。
	77E	Ⅱ層	1		
	80U	Ⅱ層	1		内面に白色斑あり。
	81U	Ⅱ層	1		
C	15L	Ⅱ層	2		明るい橙色を呈する。外面に白色斑あり。
	15M	Ⅱ層	2		

(3) 灰釉陶器

灰釉陶器は破片数で474点出土した。地区別では、Ｇ地区271点（57.2%）、Ｃ地区132点（27.8%）、Ｆ地区52点（11.0%）、Ｄ地区19点（4.0%）となる。第25図に示した地区間面積比を考慮するならば、Ｇ地区とＤ地区で出土密度が薄く、Ｃ地区で濃い傾向が顕著である。Ｆ地区は、包含層では46点出土したが、遺構内ではわずか６点出土したにすぎない。また、Ｄ地区の遺構内では１点も出土していないのが注目される。確認した器種は碗・皿・瓶である。碗・皿はＣ地区の1083号遺構（竪穴）で良好な個体が一括出土している。

胎土は、全般に須恵器よりは緻密であるが、美濃地方の製品に比べればやや粗いとの印象を受けるものが多い。このことから、大部分は在地の製品とみられる。1083号遺構（竪穴）から出土した219のように、砂粒を多く含む粗い胎土による個体も少数ながら認められる（写真図版６）。色調は黄白色を呈するものが多く、美濃地方の製品より黄色味が強い。典型例である221のカラー写真を掲載するので参照されたい（写真図版６）。人為的な施釉の認められる個体は少なく、図示した25個体中７個体（碗１、皿１、瓶５）にすぎない。これは当地域で出土する灰釉陶器の多くに共通して認められる特徴のようである。

碗　127・164・217～220・437～440・488

口縁部が外に開く碗形の体部と高台を持つ底部を器形の基本とする器種である。69個体確認し、11個体図示した。高台は断面形が三日月形の、いわゆる三日月高台を基本とするが、高さが低く幅の広いものが多い。器形の面では、総じてバラエティに富んでいる。極端な例を挙げれば、1083号遺構（竪穴）から出土した219は、高台の整形が雑で断面形が三角形に近くなっており、口縁部も内彎するなど、東海地方で灰釉陶器に続いて生産された山茶碗に近い特徴が認められる。この個体については、前述の通り、砂粒を多く含む粗い胎土を使用していることも、そうした印象を強めている。

底部外面に回転ヘラ削り調整を施す個体が過半数を占める（127・164・217・438・439・440・488）。他方、回転糸切り痕を残す個体も認められる（218・219・220）。437では回転糸切り痕を消しているが、調整技法はナデ・オサエである。

図示した11個体中、人為的な施釉の認められるのは、488のみである。図示し得なかった小破片中にも釉が施されているものは極めて少ない。ただし、体部内面に自然釉が付着する個体は多い。

特殊なものとしては、Ｇ地区の包含層から出土した437のように、小碗とでも呼ぶべき口径・器高ともに小さな個体がある。大型で器高の高い、いわゆる深碗はあまり見かけないが、488号遺構（焼土）から出土した127は該当例とみてよいであろう。輪花碗は確認されていない。

なお、墨書のある個体が２点あるが、それらについては本節の最後でふれることとする。

皿　221～225・441～444

碗をそのまま扁平にした器形の器種である。すべて高台を持つ。61個体確認し、９個体図示した。碗とは数量比ではほぼ対等である。碗ほどではないが、やはり器形の面では均一ではない。例えば、1083号遺構（竪穴）の４層から一括出土した222～225を比較してみても、器高や高台の高さ・形状にばらつきが認められる。

底部外面に回転糸切り痕を残す個体が大半を占める。回転ヘラ削り調整を丹念に施して回転糸切り痕を消しているのは、図示したものの中では443のみである。図示した９個体中、Ｇ地区の包含層か

ら出土した444のみに施釉が認められる。444は色調も他に比べ白っぽく、胎土は緻密な印象を受ける。

なお、段皿は図示してはいないが、83VグリッドⅡ層から1点、33FグリッドⅡ層から1点、いずれも小破片ではあるが出土しており、ごく少ないとはいえ皆無ではない。耳皿は全く確認されていない。

瓶　445～448・489

灰釉陶器の瓶類は5個体図示した。碗・皿とは対照的に、すべての個体で施釉が認められる。

全形を窺える個体は84Xグリッドから出土した448のみである。やや広口で頸部から体部にかけてはなだらかな曲線状に成形され、体部も肩の張らない丸みを帯びた形状である。底部は高台のない平底であるが、やはり丸みを帯びているため、自立はするものの安定を欠く。施釉範囲は外面は体部上半まで、内面は頸部までである。

G地区の包含層から出土した445は、口縁部と底部を欠くものの、小瓶とみられる。C地区の包含層から出土した489は長頸瓶である。

(4)　緑釉陶器　505

古代の緑釉陶器の破片を3点確認した。実測可能であったのは1点のみである。

505は碗の口縁部とみられる。須恵器のような硬い素地の、いわゆる硬陶緑釉であり、内外面に緑釉を施している。F地区33FグリッドのⅠ2層から出土した。

図示できなかった2点は、いずれも残存状態は良くないものの、釉が部分的に残ることから緑釉陶器と確認できた小破片である。2点とも白く柔らかな素地に緑釉を施した軟陶緑釉である。G地区の550号遺構（溝）の1層とD地区の28HグリッドⅡ層から、1点ずつ出土している（写真図版7）。

なお、当遺跡では以前の調査時に奈良時代の三彩陶器蓋が出土し注目を集めたが（前報告書の17番）、今回の調査では三彩陶器の破片は確認されていない。

(5)　輸入磁器　506・507・533・534

破片数で8点確認した。すべて包含層から出土しており、遺構内から出土したものはない。また、古代の包含層であるⅡ層から出土したのは507のみであり、あとの7点はⅡ層より上の層から出土した。地区別ではD地区4点、F地区4点となり、C地区とG地区では出土していない。確認した破片はすべて青磁であり、いずれも龍泉窯系とみられる。4個体を図示する。

507はF地区33DグリッドⅡ層から出土した。碗の底部とみられる。高台内側までは釉がかかるが、高台より内側の底部外面は焼成前に釉を掻き取っているとみられ、暗褐色を呈する。506はD地区34EグリッドⅠ2層から出土した。皿の底部とみられる。底部内面に花文を施す。底部外面は焼成前に釉を掻き取っているとみられ、にぶい褐色を呈する。

D地区25FグリッドⅠ層から出土した534とD地区27GグリッドⅠ層から出土した533は碗の口縁部破片である。体部外面に鎬蓮弁文を施す。

なお、図示していない破片4点のうち2点は、533・534と同様に体部外面に鎬連弁文を施すタイプである。

(6)　縄文土器　282・292・299・449・508・509

縄文土器は破片数で146点確認した。今回の調査では縄文時代の遺構は確認されず、それらはすべて包含層出土遺物か後世の遺構に混入した遺物である。地区別の内訳はG地区38点、C地区3点、F地区21点、D地区84点である。4地区いずれにおいても縄文時代中期の遺物が大半を占める。6個体図示する。

F地区包含層で出土した509は深鉢の口縁部破片とみられる。外面に半截竹管状工具による横方向の半隆起線文と、いわゆる蓮華文を施す。508は胴下半部の破片とみられる。外面に半截竹管状工具による縦方向を主とする半隆起線文を施し、その間をやや右下がりに斜行する横方向の櫛状工具による沈線で充填している。これらは北陸地方を中心に分布する縄文時代中期前葉の土器様式である新保・新崎式に属するとみられる。D地区で出土した282・292・299も同様式に属すると捉えてよいであろう。

縄文時代中期以外では早期の押型文土器の破片を1点確認した（449）。外面に山形の押型文を縦方向に施している。G地区67DグリッドⅡ層から出土した。このほか、図示してはいないが、爪形文を施した縄文時代前期の深鉢の破片とみられるもの1点をD地区24FグリッドⅠ層において確認している。

(7)　弥生土器　535

破片数で18点確認した。出土地点は、26GグリッドⅠ層が13点、27HグリッドⅡ層が2点、3032号遺構（竪穴）1層が1点、3036号遺構（ピット）2層が1点、3035号遺構（土坑）1層が1点で、すべてD地区である。ただし、大部分の破片が出土した26Gグリッドとその周囲に広がるⅠ層は、地元からの聞き取り調査では他所から持ち込んだ客土とのことであった。そのため、最も状態の良い破片1点を図示するにとどめておく。535は甕の口頸部破片とみられる。口縁部内面に工具による羽状の連続する刺突が認められる。弥生中期後葉頃の遺物と考えられる。

(8)　近世陶磁器　238・239・510・511

近世の陶器や磁器は破片数で1,000点確認した。地区別ではG地区87点、C地区136点、F地区535点、D地区242点である。過半数がF地区の遺物である。

図示したのは陶器4個体であるが、これ以外に鎧碗・広東碗・染付湯呑などを確認しており、総じて近世後期の遺物が目立っている。特異な遺物として産地不明の擂鉢1個体（511）を挙げておく。焼成具合は須恵器に似るが、擂り目の細かさから、とりあえず近世の遺物と捉えておく。

なお、施釉陶器類で中世にまで遡ることが確実視される遺物は、今回の調査では全く確認されていない。

(9)　墨書・刻書のある遺物　98・258・260・319・370・398・439・440・471・523

本節の最後に、墨書や刻書のある遺物についてまとめておきたい。墨書・刻書の認められる遺物は10個体出土した。内訳は須恵器8個体、灰釉陶器2個体である。今回の調査では瓦には墨書・刻書の認められるものはなかった。地区別ではC地区1個体、D地区1個体、F地区2個体、G地区6個体

である。G地区では、グリッドで言えば71・72列のZ～B行の区域に集中する（第25表）。

墨書のある遺物は、須恵器1個体、灰釉陶器2個体である。260は須恵器の無台碗である。体部外面に「高家寺」の墨書が認められ、寺院名を記した資料としてとりわけ注目される。

「高家寺」という寺院名は、古代の飛騨国荒（あらき）城郡にあった郷名「高家（たきえ）」を由来とする。以前の調査においても「高家寺」の墨書のある須恵器が2個体、「高家」の墨書のある須恵器が1個体出土しているが[9]、3個体とも寺院遺構検出地区であるD地区の基壇跡・回廊跡検出地点から出土したものである。これに対して260は集落跡検出地区であるF地区2001号遺構（竪穴）から出土しており、出土地点の面ではそれらとはやや隔たりがあると言うべきであろう。ただし、それら4個体はいずれも底部に回転糸切り痕の残る無台碗であり、しかも無台碗としては比較的底径の大きな器形の個体であることから、帰属時期の面で大差はないとみられる。なお、260には墨書「高家寺」に加えて、底部外面に焼成前にヘラで「×」と刻まれている。これは以前の出土した「高家寺」墨書須恵器の内の1個体（前報告書の60番）にも認められた特徴であるので、ヘラ書き「×」と墨書「高家寺」を持つ須恵器無台碗が一時期にまとめて作られた可能性が高い。

439と440は灰釉陶器の碗である。2個体とも底部外面に「┼」と墨書されている。439は体部外面にも同様の墨書がある。これは文字としては読めないが、文字を扱い慣れない書き手が「寺」の字をまねて書いたものかもしれない。どちらもG地区71BグリッドⅡ層から出土した。断言はできないものの、出土地点から判断して、同グリッドに位置する633号遺構（焼土）に関連する遺物であるとみられる。

ヘラ書きのある遺物は上記260以外にさらに7個体あり、すべて須恵器である。398は須恵器の鉢か壺の体部破片とみられるが、外面に「寺」のヘラ書きがある。G地区の71ZグリッドⅡ層から出土した。寺院の中心伽藍検出区域からは200m以上離れた地点に当たる。523は須恵器の摘み蓋である。天井部外面に「寺」のヘラ書きがある。D地区の礎石建物跡の東隣地点に当たり、瓦の集中出土地区である28HグリッドⅡ層から出土した。このほかは、258が判読困難ながら文字である可能性があるのを除けば、いずれも文字ではなく記号として刻まれたと判断される。

なお、焼成後の刻書である「線刻」に該当するものは、以前の調査時にも出土しておらず、今回の調査でも確認されていない。

第25表　墨書・ヘラ書き一覧

地区	出土地点	層位	破片数	器種	遺物番号	備考
G	292号	1層	3	須恵器　瓹	98	口頸部内面にヘラ書き「×」。
	72Z	Ⅱ層	1	須恵器　杯身	319	天井部外面にヘラ書き「×」。
	72A	Ⅱ層	1	須恵器　有台杯	370	底部外面にヘラ書き。
	71Z	Ⅱ層	1	須恵器　壺または鉢	398	体部外面にヘラ書き「寺」。
	71B	Ⅱ層	4	灰釉陶器　碗	439	底部外面と体部外面に墨書「┼」。
	71B	Ⅱ層	1	灰釉陶器　碗	440	底部外面に墨書「┼」。
C	13K	Ⅱ層	1	須恵器　摘み蓋	471	天井部内面にヘラ書き「e」。
F	2001号	1層	1	須恵器　無台杯	258	底部外面にヘラ書き「井カ」
	2001号	1層	3	須恵器　無台碗	260	体部外面に墨書「高家寺」。底部外面にヘラ書き「×」。
D	28H	Ⅱ層	5	須恵器　摘み蓋	523	天井部外面にヘラ書き「寺」。

第3節　その他の遺物

(1) 瓦

今回の調査で出土した瓦は、破片数で771点を数える。第26表に示した通り、G地区では6点、C地区では7点確認されたにすぎず、大半はD地区とF地区とで出土している。さらにグリッド単位で見てみると、D地区の28Hグリッドと28Iグリッドとで全出土数の約3分の1が集中して出土していることがわかる。両グリッドは礎石建物跡の東隣接地に当たることから、それらは礎石建物に葺かれていた瓦の可能性が高い。

今回確認できた瓦は、平瓦（433点）・丸瓦（255点）・熨斗瓦（18点）・軒丸瓦（2点）、以上4種にとどまった。以前の調査で出土したもののうち、軒平瓦・隅落とし瓦・鴟尾は今回は出土しなかった。

各々の破片数は示した通りであるが、今回の破片数カウントにおいては、熨斗瓦は両側面が残存する破片のみ熨斗瓦として数え、それ以外のケースではほとんど平瓦として数えている。そのため、平瓦は実際より多めの破片数となっているであろうし、逆に熨斗瓦は相当少なめとなっているはずである。したがって、平瓦と丸瓦との間には、破片数で示されているほどの不均衡は、個体数で考えた場合には存在しないと言ってよいであろう。また、熨斗瓦についても、単なる偶発的な混入品という以上の量が出土したと解釈すべきであろう。軒瓦が極めて少ない点も注目されようが、これは最も瓦出土量の多いD地区で全く出土しなかったことが大いに影響している。

当遺跡で出土する瓦については前報告書においてすでに詳述済みであるので、本書では事実関係の報告に絞って記述する。分類や型式名についても、前報告書のものを踏襲する。造瓦技法等の詳細については前報告書を参照されたい。

軒丸瓦　512・513

今回の調査で確認できた軒丸瓦は2個体のみで、いずれも小破片である。出土地点は2個体ともF地区であるが、出土層位は古代の遺物包含層であるⅡ層より上の層であるので、原位置からは大きく移動している可能性が高い。

512は瓦当面の外区・蓮弁から丸瓦部にかけての破片である。瓦当面外区外端で直径は13.4cm程度と推定される。瓦当面の内区に蓮弁が認められ、これが8葉に復元可能であることから、単弁八葉蓮華文軒丸瓦であるとみられる。中房は残存しない。瓦当部から丸瓦部にかけての凸面にはヘラ削り調整を施している。丸瓦部凹面から瓦当裏面にかけて連続する布目が認められ、さらに瓦当裏面には、布目の残る面から直交方向に2cm余りの高まりが残る部分がある。このことから、「一本作り軒丸瓦」と呼ばれることのある、瓦当部に円筒形のままの丸瓦を接合し、そののちに不要部分を切り捨てる技法による軒丸瓦であることが分かる。瓦当裏面の高まり部分は一般に「丸瓦痕跡」と呼ばれ、瓦当部に接合した円筒形の丸瓦を半截したときに、瓦当裏面に丸瓦広端部の半分を半円筒形に切り残したものと理解されている。分割時の截面に当たる高まり部分の端面は、ヘラ削り調整されている[10]。内区の文様が単弁八葉蓮華文であること、瓦当裏面に布目と「丸瓦痕跡」が残ること、それに外区が無文で段を持つ断面形を成すことから、これまで知られている当遺跡の7型式の軒丸瓦の内、中心的な存在とされるⅠ型式軒丸瓦であるとみられる。

513は瓦当面外区から丸瓦部にかけての破片である。丸瓦部凹面に布目が認められる。瓦当部から

第26表　瓦集計表

地区	出土地点	層位	平瓦	丸瓦	熨斗瓦	軒丸瓦	判別不能瓦	計	
G	100号	1層	1					1	
	550号	1層	1					1	
	85V	Ⅱ層					2	2	
	G地区不明			1			1	2	G地区小計　6点
C	1083号	1層	1					1	
	13J	Ⅱ層		1				1	
	14J	Ⅱ層		1				1	
	14K	Ⅱ層	1					1	
	15K	Ⅱ層	1					1	
	16M	Ⅱ層	1					1	
	C地区不明			1				1	C地区小計　7点
F	2001号	1層	13	16	2		2	33	
	2001－6号	1層		1				1	
	2002号	2層	1					1	
	2004号	1～3層	2					2	
	2005号	1層	1	1				2	
	30D	Ⅰ2層	1	2				3	
	30E	Ⅰ2層	1	1				2	
	31C	Ⅰ2層		1				1	
	31D	Ⅰ2層	1	1				2	
	31E	Ⅱ層	1	3			1	5	
	31F	Ⅰ2層					1	1	
	32D	Ⅰ層	1					1	
		Ⅰ2層		1			1	2	
	32E	Ⅰ2層	2	1			2	5	
	32F	Ⅰ2層	6	13				19	
	33D	Ⅱ層	1	1			1	3	
	33E	Ⅰ2層	3	6		1	2	12	
		Ⅱ層	3	3				6	
	33F	Ⅰ2層	18	11				29	
	33F	Ⅱ層	6	5				11	
	34C	Ⅰ2層	3					3	
		Ⅱ層	1					1	
	34D	Ⅰ2層	3					3	
	34E	Ⅰ2層	12	8			1	21	
	34F	Ⅰ2層	5	3				8	
		Ⅱ層	13	11			4	28	
	F地区不明		2	6		1		9	F地区小計　214点
D	3008号	2層	6	4			3	13	
	3013号	1層		1				1	
	3026号	1層	4		2			6	
	3029号	1層		1				1	
	3036号	1層	1					1	
		2層	11		10			21	
	3037号	1層	7					7	
		3層	2					2	
	3046号	1層	1	2				3	
	3047号	1層	2					2	
	3048号	1層	5					5	
	3049号	1層	5	2			2	9	
	3054号	1・2層	3					3	
		1層	1					1	
		2層	1					1	
	3055号	1・2層	6					6	
		1層		1			1	2	
	24F	Ⅰ層	2					2	
	24G	Ⅰ層		1				1	
	26G	Ⅰ層	5	1				6	
		Ⅱ層	5	4				9	
	26H	Ⅱ層	1	1				2	
	27G	Ⅱ層		2			2	4	
	27H	Ⅰ層		3			2	5	
		Ⅱ層	9	7				16	
	27I	Ⅱ層	10	18			5	33	
	28H	Ⅰ層	2	4				6	
		Ⅱ層	87	24	4		6	121	
	28I	Ⅱ層	72	51			13	136	
	29G	Ⅱ層		1			1	2	
	29H	Ⅰ層	9	8				17	
		Ⅱ層	26	8			3	37	
	29I	Ⅱ層	16	4			6	26	
	29J	Ⅰ層	10	3			1	14	
	29K	Ⅰ層	3					3	
		Ⅱ層	4					4	
	30H	Ⅱ層	1					1	
	30I	Ⅰ層	3	1				4	
	30J	Ⅰ層	3	1				4	
	D地区不明		4	3				7	D地区小計　544点
計			433	255	18	2	63	771	

丸瓦部にかけての凸面にはヘラ削り調整を施している。瓦当面の文様は不明で、瓦当裏面の布目の有無も不明である。外区の断面形から判断して、これもⅠ型式軒丸瓦である可能性が高い[11]。

平瓦　226・272～276・284～287・296・300～304・536～553

当遺跡の平瓦は、側板連結模骨（桶）による模骨巻き作りにより製作され、粘土の付け方には、粘土紐を巻き付ける方法、粘土板を巻き付ける方法、短冊状の細長い粘土板を張り合わせる方法の3通りがあったことがわかっている。ただし、一部の個体については、桶からはずした後、整形台に載せて補足的に整形したか、一枚作りで製作された可能性があるとされている。

今回の調査では破片数で433点出土し、34個体図示した。凹面に布目が残り、凸面には叩き痕が残り、側面と端面にヘラ削り調整を施すのを基本とする。ただし、凸面の叩き痕をナデ・オサエやヘラ削りにより消す個体も多い。以前に出土した瓦についての分析から、当遺跡の瓦製作に使用された叩き板は18種類以上あり、叩き痕は30種類以上に分けられることが判明している。今回の調査での出土瓦には、細かい平行叩き、太い平行叩き、格子叩き、縄叩きがみられる。

焼成のあまいものが多いのが当遺跡の平瓦の特徴の一つで、図示した中では、272・285・287・296・300・301・303・536は実用に耐えたか疑問に思えるほど柔らかく、水分を吸収する個体である。

丸瓦　278・279・514・554～563

当遺跡の丸瓦は、平瓦と同様に側板連結模骨（桶）による模骨巻き作りにより製作され、粘土の付け方には、平瓦と同様に、粘土紐を巻き付ける方法、粘土板を巻き付ける方法、短冊状の細長い粘土板を張り合わせる方法の3通りがあったことがわかっている。

今回の調査では破片数で255点出土し、13個体図示した。凸面は叩き痕をナデ・オサエやヘラ削りにより消すものが多い。凹面には布目が残り、布の綴じ合わせ痕が確認される個体もある（514・556・558・561・562）。側面と端面はヘラ削り調整を施している。平瓦に比べ堅緻な個体が多い。

以前の調査で確認された、屋根に固定するための釘孔とみられる貫通孔が認められる個体は、今回は確認されなかった。

熨斗瓦　277・288・297・564

確認できた破片数は18点であるが、前述のようにこれは両端面が確認された破片に限っての点数なので、実際にはこれより相当多い可能性が高い。4個体図示した。

全形を窺える個体が多いのが特徴で、277・288・297の3個体はほぼ完形である。凹面には布目が残り、凸面は叩き痕をナデ・オサエやヘラ削りにより概ね消している。両側面と端面はヘラ削り調整を施している。焼成後に平瓦を分割して熨斗瓦としたものは確認されていない。

(2)　鍛冶関連遺物　20・138・450・569・570

鍛冶関連遺物としては、鞴（ふいご）の羽口（はぐち）の破片2個体と鉄滓（てっさい）5個体を確認した。

450と570は鞴の羽口である。450は直径約2㎝の孔を持つ直径約6㎝の円筒形に復元できる。軟質で灰黄色を呈するが、外面はやや焼き締まっている。G地区85Xグリッドの Ⅱ層から出土した。570は先端部の破片である。直径約2㎝の孔を持つ直径約7㎝の円筒形に復元できる。450に比べ、より強く熱を受けており、外面には鉱滓が付着する。D地区28Ⅰグリッドの Ⅱ層から出土した。

20・138・569は鉄滓である。569はいわゆる碗形滓である。D地区26Gグリッド Ⅱ層から出土した。

138は全形を窺うことのできない小破片である。出土地点はG地区531号遺構（竪穴）の2層である。図示した部分のほかに、元は同一個体であったとみられる小破片2点が同地点から出土している。20は100号遺構（竪穴）の1層から出土した。これも碗形滓とみられる。以上のほか、410号遺構（竪穴）の1層と550号遺構（溝）の1層から、それぞれ鉄滓1個体が出土している。

(3) 金属製品

近代以降の製品である可能性の高いものは除外して、金属製品は92個体確認した。地区別ではG地区44個体、C地区17個体、F地区18個体、D地区13個体である。ただし、この中には器種や帰属時期を特定できないものも多数含まれる。釘、刀子、鎌、鍬・鋤先、鉄鏃、飾り金具、近世の銭、煙管（きせる）、簪（かんざし）を確認している。全地区でほぼ満遍なく出土しているが、D地区では礎石建物跡検出区域とその周辺に集中する傾向が認められる。また、比較的良好な状態で金属製品がまとまって出土した遺構として、G地区の230号遺構（竪穴）・246号遺構（竪穴）、それにC地区の1083号遺構（竪穴）などを挙げることができる（第27表）。

釘　171・228・271・290・305・497・517・518・565・566

不確実なものも含めて35個体出土しており、18個体図示した。すべて鉄製である。4地区いずれにおいても出土しているが、他の金属製品に比べてG地区出土品の占める割合が少なく、その代わりに寺院中枢域に近いD地区での出土品が比較的多い点が注目される。

566は切釘である。特別に頭部を作り出すことをしない逆角錐形の釘である。228は、脚部と同じ太さで頭を折り曲げて作る折釘である。これに対し、171は脚端部を叩いて扁平にしてから折り曲げて頭部を作る犬釘とみられる。518・565は比較的大型の釘であるが、円形笠形に頭部を作り出す円頭釘とみられる。

今回の調査で確認された釘は以上の4種類であり、このうち円頭釘は以前の調査時には確認されていない。

刀子　21・55・78・92・231・453・454

不確実なものも含めて10個体出土した。すべて鉄製である。出土地点は、231のみC地区で、残り9個体はすべてG地区である。7個体図示した。いずれも刀身の両面が平らで断面形が二等辺三角形を成す、いわゆる平造りの刀身構造を採る。

全形を窺うことのできるのは、55・92・454の3点である。55は刃先部分を欠くものの残存長19.6cmを測り、今回出土したものの中では最も大型の刀子である。G地区230号遺構（竪穴）から鉄鏃（56）とともに出土した。92は茎の末端部と刃先部分を欠き、残存長は12.2cmである。269号遺構（竪穴）の床面直上において出土した。以上2点は刃が内側に向かい緩やかに反る形状に復元できるとみられる。

454はほぼ完形品である。刀身に反りはほとんど認められない。長さ8.6cm、厚さは最大でも0.4cmにすぎず、極めて小型である。

鎌　121・158・455

鉄製の鎌は、不確実なものも含めて4個体出土した。すべてG地区で出土している。ほぼ全形を窺うことのできるものが3個体ある。

158と455は曲刃鎌とみられる。いずれも先端部は残っていないが、刃が内側に向かって緩やかに反る形状に復元できる。末端部全体を木柄に固定するために折り曲げており、木柄は刃に対して直角に近い方向に装着されたと推定される。形状と大きさから稲の収穫用の鎌と想定して違和感はない。

これに対して121は、先端部が刀の切先を思わせる形状であり、末端部の折り曲げが端部全体に及んでおらず、しかも端面自体が刃に対して直交しないなど、上記2点とは異質な作りである。やや大型で肉厚であることと、木柄の装着角度が刃に対して鈍角となることから、稲の収穫用とみるには違和感がある。例えば草刈りなどといった、別用途に用いられたと考えるべきであろう。

鍬・鋤先　457～459

鍬ないし鋤の鉄製の刃先は3個体出土した。すべてG地区で出土している。ただし、457と459は出土地点が近いことから、元は同一個体であった可能性がある。

全形を窺うことができるのは458のみである。平面形はU字形を成し、端部から刃の先端までの長さは11.3cmを測る。刃先は曲線状である。木製の身をはめ込むための溝を背面に設けている。457と459も同様の構造とみられる。

第27表　金属製品一覧

地区	出土地点	層位	器種	遺物番号	備考
G	35号	1層	不明		
	38号	2層	不明	3	ほぼ床面直上で出土。
	100号	1層	刀子	21	
	100号	1層	不明		
	197号	1層	不明		
	197－14号	1・2層	不明	44	
	230号	1層	刀子	55	
	230号	1層	鉄鏃	56	
	246号	1層	釘？	77	ほぼ床面直上で出土。
	246号	1層	刀子	78	
	269号	1層	刀子	92	ほぼ床面直上で出土。
	465号	1・2層	不明		
	470号	1層	鎌	121	
	470号	1層	不明		
	550号	1層	鎌	158	
	684号	1層	不明		
	69A	Ⅱ層	釘		
	69C	Ⅱ層	刀子	453	
	71Y	Ⅱ層	刀子	454	
	71Z	Ⅱ層	不明	461	釘か鉄鏃の茎。
	71Z	Ⅱ層	刀子？		
	71Z	Ⅱ層	釘？		
	71B	Ⅱ層	不明	460	円盤状の鉄製品。
	71B	Ⅱ層	不明		
	71C	Ⅱ層	釘？		
	72B	Ⅱ層	鍬・鋤先	458	
	72B	Ⅱ層	不明		
	72B	Ⅱ層	釘？	451	
	72C	Ⅱ層	鎌	455	
	74D	Ⅱ層	不明		火打金か。
	80C	Ⅱ層	刀子？		
	80D	Ⅱ層	刀子？		
	81B	Ⅱ層	釘？		
	81C	Ⅱ層	不明	463	馬具の鐙の鉸具か。
	82T	Ⅱ層	鍬・鋤先	457	
	82U	Ⅱ層	鍬・鋤先	459	
	82X	Ⅱ層	不明		
	83T	Ⅱ層	鎌？	456	
	83X	Ⅱ層	釘？	452	
	84V	Ⅱ層	不明		
	84W	Ⅱ層	釘		
	84W	Ⅱ層	不明	462	
	84W	Ⅱ層	不明		
	85X	Ⅱ層	釘？		

地区	出土地点	層位	器種	遺物番号	備考
C	1002号	1層	釘		
	1002号	1層	釘		
	1003号	1層	釘	171	犬釘。
	1068号	1層	不明		
	1083号	1層	釘？	229	
	1083号	1層	刀子	231	
	1083号	2層	飾り金具	227	
	1083号	3層	釘	228	折釘。
	1083号	3層	不明	230	鉄鏃の茎か。
	1123号	1層	不明		
	13I	Ⅱ層	煙管		
	13J	Ⅱ層	釘		
	13L	Ⅱ層	釘	497	
	14K	Ⅱ層	不明	498	
	15J	Ⅱ層	釘？	499	
	15K	Ⅱ層	銭		寛永通宝。
	15M	Ⅱ層	釘		
F	2001－3号	1層	釘	271	
	2002号	2層	釘		
	2004号	1～3層	簪		
	2004号	1～3層	煙管		
	31E	Ⅱ層	不明		
	32C	Ⅰ2層	釘？		
	32E	Ⅰ2層	煙管		
	32E	Ⅰ2層	煙管		
	32E	Ⅰ2層	銭		寛永通宝。
	32E	Ⅰ2層	不明		
	32F	Ⅰ2層	釘？	519	
	33D	Ⅱ層	火打鎌？	516	
	33E	Ⅰ2層	煙管		
	33E	Ⅱ層	釘	518	円頭釘。
	33F	Ⅱ層	釘	517	犬釘か。
	33F	Ⅱ層	不明		
	34D	Ⅰ2層	不明		銅製品。
	34E	Ⅰ2層	釘		
D	3032号	1層	釘？	291	
	3032号	1層	釘	290	切釘か。
	3048号	1層	釘	305	折釘か。
	24G	Ⅱ層	釘？	567	
	25G	Ⅰ層	釘		
	26G	Ⅱ層	釘		
	28I	Ⅱ層	不明	568	
	28I	Ⅱ層	釘	565	円頭釘。
	29I	Ⅱ層	釘	566	切釘。
	29I	Ⅱ層	不明		
	29I	Ⅱ層	不明		
	29J	Ⅱ層	釘？		
	30J	Ⅱ層	釘？		

鉄鏃　56・230・461

確実に鉄鏃と言える遺物は1個体のみである。56は、ほぼ全形を窺うことができる。鏃身部は幅の広い柳葉形を呈する。頸部と茎部の断面形は四角形である。230号遺構（竪穴）から刀子（55）とともに出土した。このほか、230や461には鉄鏃の茎部の可能性があるとみられる。

その他の金属製品　227・460・463・516

227は飾り金具とみられる。サイズから建築部材用ではなく調度品用であると考えられる[12]。516は火打鎌とみられる。460は鉄製紡錘車の可能性があるが、中心に貫通孔は認められない。463は変形しているものの馬具の鐙の鉸具の可能性がある。

その他、図示してはいないが、近世の銭（寛永通宝）や近世以降の煙管や簪などが出土している。

(4)　石器・石製品

石器・石製品は126個体確認した（第28表）。地区別ではG地区60個体、C地区20個体、F地区14個体、D地区32個体である。帰属時期を特定できないものもあるが、縄文時代から近代に至る遺物が混在する。古墳時代から古代にかけての時期に帰属する可能性が高いとみられるものを中心に報告する。

砥石　41～43・163・176・234・294・464・465

28個体確認し、そのうち9個体を図示した。全地区で出土を確認している。ただし、出土層位からみて、それらすべてが古代以前の遺物というわけではなく、近代に至る広い時代幅の遺物が混在するとみられる。出土数が顕著であった遺構として、G地区の197号遺構（竪穴）を挙げることができる。石材については、小型品は粘板岩をはじめとする粒子の細かい石を使っているのに対し、大型品では粒子のより粗い砂岩を使う傾向が認められる。図示したものでは、176が粘板岩、465が凝灰岩とみられるほかは、すべて砂岩である。

小型品である176と465は手持ち砥石であろうが、残る7個体はいずれも手に持って使用するのに適さず、置き砥石と考えられる。41・42・294では、砥面に幅の広い線条が認められる。なお、砥石については前章第2節の197号遺構の項も参照されたい。

紡錘車　244・466

確認した2個体を図示した。466は完形品であり、18gを測る。全面にわたり摩滅しており、細かな擦痕が認められる。石材はホルンフェルスとみられる。244は残存部分で8gを測る。元は20g前後に復元できるであろう。滑石とみられる黒く光沢のある軟質の石材を用いている。やはり細かな擦痕が全面に認められる。

玉類　232・515

管玉1個体、勾玉1個体を確認した。管玉（232）は、碧玉とみられる深い緑色の堅い石材を用いている。穿孔は図の上端面側から行われている。平安時代の竪穴建物跡であるC地区1083号遺構の3層から出土した。勾玉（515）は、めのうとみられる橙色の堅い石材を用いている。穿孔は図の表面側から行われている。F地区の包含層から出土しており、遺構に伴うものではない。

その他の石器・石製品　58・233・293・467・496

石鏃は6個体確認した。5個体はG地区で出土し、1個体のみC地区で出土した。石材は467のみ

第28表　石器・石製品一覧

器　種	地区	出土地点	層　位	遺物番号	石　材
石　鏃	G	104号	1層		下呂石
		72A	Ⅱ層		下呂石
		83U	Ⅱ層	467	黒曜石
		83W	Ⅱ層		下呂石
		不明	Ⅰ層		下呂石
	C	15K	Ⅱ層	496	下呂石
打製石斧	G	244号	1層	58	凝灰岩
		73B	Ⅱ層		凝灰岩
		80U	Ⅱ層		凝灰岩
		80V	Ⅱ層		不明
		80A	Ⅱ層		凝灰岩
		81C	Ⅱ層		凝灰岩
		82U	Ⅱ層		凝灰岩
		82W	Ⅱ層		凝灰岩
		82Y	Ⅱ層		流紋岩
		83W	Ⅱ層		凝灰岩
		83X	Ⅱ層		凝灰岩
		84U	Ⅱ層		凝灰岩
		84V	Ⅱ層		凝灰岩
		84X	Ⅱ層		凝灰岩
		84A	Ⅱ層		凝灰岩
		84A	Ⅱ層		凝灰岩
		85W	Ⅱ層		凝灰岩
		85W	Ⅱ層		凝灰岩
		86X	Ⅱ層		凝灰岩
		不明	Ⅰ層		流紋岩
		不明	排土		凝灰岩
		不明	排土		凝灰岩
	C	13L	Ⅱ層		凝灰岩
		14L	Ⅱ層		凝灰岩
	D	28H	Ⅱ層		凝灰岩
磨製石斧	C	1083号	1層	233	玢岩？
スクレイパー	G	72Y	Ⅱ層		チャート
石　錘	D	3032号	2層	293	砂岩
		27G	Ⅱ層		砂岩
敲　石	C	13J	Ⅱ層		流紋岩
磨　石	G	82V	Ⅱ層		流紋岩
		84W	Ⅱ層		安山岩
	C	15L	Ⅱ層		安山岩
	D	27H	Ⅱ層		安山岩
石　皿	G	81B	Ⅱ層		安山岩
砥　石	G	197号	1層	42	砂岩
		197号	1層	43	砂岩
		197－14号	2層	41	砂岩
		465号	1・2層		粘板岩
		550号	1層		砂岩
		550号	1層		砂岩
		633号	1層	163	砂岩
		684号	1層		砂岩
		79X	Ⅱ層		粘板岩？
		80A	Ⅱ層	465	凝灰岩？
		80U	Ⅱ層		砂岩
		81B	Ⅱ層		砂岩
		81U	Ⅱ層		砂岩
		86V	Ⅱ層	464	砂岩
		86V	Ⅱ層		砂岩
		87Z	Ⅱ層		砂岩
	C	1005号	1層	176	粘板岩
		1083号	1層	234	砂岩
		1116号	1層		粘板岩
		14I	Ⅱ層		砂岩
	F	32F	Ⅰ2層		粘板岩？
		34E	Ⅰ2層		粘板岩？
		34F	Ⅱ層		砂岩
	D	3032号	1層	294	砂岩
		28H	Ⅰ層		砂岩
		29J	Ⅰ層		凝灰岩？
		28I	Ⅱ層		砂岩
		29I	Ⅱ層		凝灰岩？

器　種	地区	出土地点	層　位	遺物番号	石　材
紡錘車	G	82U	Ⅱ層	466	ホルンフェルス
	C	1121号	1層	244	滑石
管　玉	C	1083号	3層	232	碧玉
勾　玉	F	33E	Ⅱ層	515	めのう
石　臼	F	34E	Ⅰ2層		石英安山岩
石　核	D	26H	Ⅱ層		チャート
剥　片	G	550号	1層		チャート
		654号	1層		チャート
		70Z	Ⅱ層		下呂石
		72X	Ⅱ層		チャート
		79W	Ⅱ層		チャート
		81U	Ⅱ2層		チャート
		82V	Ⅱ層		黒曜石
		82C	Ⅱ層		チャート
		83V	Ⅱ層		チャート
		85V	Ⅱ層		チャート
		85A	Ⅱ層		チャート
		不明	Ⅰ層		下呂石
	C	1002号	1層		黒曜石
		1002号	1層		黒曜石
		1002号	1層		チャート
		1123号	1層		チャート
		13I	Ⅱ層		チャート
		19L	Ⅱ層		チャート
		19L	Ⅱ層		チャート
		不明	Ⅰ層		チャート
	F	33C	Ⅱ層		チャート
		33E	Ⅰ2層		黒曜石
		33F	Ⅰ2層		黒曜石
		33F	Ⅰ2層		チャート
		34C	Ⅰ2層		下呂石
		34C	Ⅰ2層		チャート
		34C	Ⅰ2層		黒曜石
		34E	Ⅰ2層		黒曜石
		34F	Ⅰ2層		黒曜石
	D	3032号	1層		黒曜石
		3032号	1層		黒曜石
		3035号	1層		黒曜石
		3035号	1層		黒曜石
		3035号	1層		チャート
		26G	Ⅰ層		下呂石
		26G	Ⅰ層		チャート
		26G	Ⅰ層		チャート
		26G	Ⅱ層		チャート
		26H	Ⅱ層		下呂石
		26H	Ⅱ層		チャート
		26H	Ⅱ層		チャート
		27G	Ⅰ層		チャート
		27H	Ⅰ層		チャート
		27H	Ⅰ層		チャート
		28H	Ⅱ層		下呂石
		28H	Ⅱ層		下呂石
		28I	Ⅱ層		チャート
		28I	Ⅱ層		チャート
		29H	Ⅱ層		チャート
		29I	Ⅱ層		チャート
		30J	Ⅱ層		チャート

石材の鑑定は主に肉眼観察による。

黒曜石で、ほかは下呂石である。6個体のうち有茎鏃は2個体で、4個体は無茎で基部に抉りが入るタイプである。前者の例として496を、後者の例として467を図示しておく。

打製石斧は25個体のうち22個体がG地区で出土し、それ以外は2個体がC地区、1個体がD地区の遺物である。大部分が凝灰岩製とみられるが、表面の肉眼観察では石材の判別が困難な個体も多い。1個体を図示する（58）。

磨製石斧は1個体しか確認されなかった。唯一の確認個体である233は、平安時代の竪穴建物跡である1083号遺構の1層から出土したものである。

石錘は2個体、いずれもD地区で出土した。図示した293は打欠石錘で、残存部分で54gを測り、元は100g前後あったとみられる。

以上のほか、スクレイパー1個体、敲石1個体、磨石4個体、石皿1個体、石臼1個体、石核1個体、剥片51個体を確認している。

(5) 土製品　122

122はスサ混じり粘土塊である。亀裂を防ぐつなぎの役割を果たす植物繊維痕が多数認められる。混入されたのは太さからみて藁である可能性が高い。470号遺構（焼土）の1層から出土した。同様の遺物は、微細なものを除き、破片数で数えて同層からは69点、465号遺構（土坑）から1点、467号遺構（溝）から1点、440号遺構（ピット）から1点、以上合わせて72点出土した。図示した122は残存長8.8cmを測り、最も大きな破片である。

破片の接合を行ってみたが、不整形な塊という程度以上に意味を見出せる形にはならなかった。したがって、何らかの目的に使うための原材料と考えるべきかもしれない。ただ、当遺跡では以前の調査時に塑像が出土していることから（前報告書の48番）、塑像の木芯の上に肉付けするのに用いる荒土なども、候補の一つとして挙げることができよう。

注

1）出土遺物の計量的分析を行うに当たり接合前破片数を数える方法を選んだのは、当遺跡の出土遺物には種別によっては出土数の限られるものもみられることから、遺物量や遺物組成の全体傾向を捉えるには母数を大きくとれる方法を採用するのが有利との判断に基づいている。近代以降の遺物であることが明らかなものは遺物として数えていない。土器・陶磁器類では、原則として1㎠以下の小破片については除外した。金属製品と鍛冶関連遺物（羽口・鉄滓）については、脆弱であるため破片数を数えていては際限がないことから、個体数を数えた。また、石器・石製品についても破片数でなく個体数を数えた。なお、対象外とした微細な破片まで含むならば、今回の調査における出土遺物総点数は約3万5千点である。

2）本書では「包含層出土遺物」には、近代以降の攪乱層から出土したものや地表面で採集されたものなど、遺構外出土遺物全般を含むものとする。

3）当遺跡の出土遺物を分類するに当たり、困難であった点は次の通りである。

①当遺跡では、須恵器には焼成の具合により軟質で白色～赤色を呈するものがかなりみられる。それらの大部分は器形や胎土から土師器との判別は可能であるが、特徴的な部位を含まぬ小破片では土師器と見分けがつかないものもあった。同様に、釉のはがれた軟質の緑釉陶器破片を須恵器と判断したケースも、可能性としてはある。

②瓦にも軟質で白色～赤色を呈するものがかなりみられる。そのため、調整の読みとれない小破片の場合、須恵器や土師器と判別の難しいものがあった。

③当遺跡で出土する灰釉陶器は無釉のものが大部分を占めるため、施釉の有無は須恵器と灰釉陶器とを分ける指標とはならない。そのため特徴的な部位を含まぬ小破片では須恵器と見分けのつかないケースがかなり生じることとなる。そのような場合、主として胎土と色調からとりあえず判別したが、どちらとも考え得る破片は少なからずあった。

④縄文土器や弥生土器も出土してはいるものの、確実な個体は極めて少数であり、土師質の遺物の大半は古墳時代以降の土師器である。そのため、帰属する時代の判別が難しい土師質の小破片の多くは土師器として数える結果となった。したがって、縄文土器と弥生土器の実数はここに示す破片数よりやや多い可能性がある。

⑤製塩土器については、甕など一般的な土師器とは分けて数えるのがふさわしいであろうが、土師器破片の中から製塩土器を選り分けることは事実上不可能であった。そのため、製塩土器の可能性のある破片は土師器（粗）と土師器（良）の中に混在する結果となった。

⑥須恵器については破片を3種に分類することは概ね可能であったが、特徴的な部位を含まぬ小破片では食膳具か貯蔵具か判別の困難なケースがあった。具体的には、口縁部や底部を含まない薄手の体部破片の場合、杯なのか小型の壺・鉢等の類なのか見分けるのが難しいものがあった。

⑦須恵器の蓋については、可能性としては杯など食膳具の蓋と貯蔵具である壺の蓋が考えられるものの、通例、食膳具の蓋が圧倒的多数を占めることを念頭に置き、確実に壺蓋と認められるもの以外は食膳具として数えることとした。結果として、貯蔵具の蓋と判断されたものはごく少数であったが、判別困難な小破片中に壺蓋破片が混在した可能性はある。

⑧鉄製品については残存状態が良好でない場合、近現代の製品と遺物として扱うべきものとの判別が事実上不可能なケースがあった。

⑨瓦の分類においては、熨斗瓦は両側面が確認されたもののみを熨斗瓦として数えた。したがって平瓦として数えた破片中に熨斗瓦の破片がかなり混在する可能性がある。

4）太江遺跡の西方約1.5㎞に位置する杉崎廃寺跡の出土須恵器の場合は、7世紀初頭以前は外部地域産で大阪陶邑が産地として有力視されるが、7世紀後半以降は地元産で、市内古川町信包の信包中原田古窯の製品であることが、胎土分析の結果から判明している（古川町教育委員会1998『杉崎廃寺跡』）。信包中原田古窯跡では寿楽寺廃寺の軒丸瓦と同笵の軒丸瓦も確認されていることから、太江遺跡の須恵器も同様に大部分が信包中原田古窯の製品である可能性が高い。

5）須恵器器種の分類と名称については、第1回東海土器研究会で提示された器種分類を参考とした。東海土器研究会2000『須恵器生産の出現から消滅　猿投窯・湖西窯編年の再構築』を参照されたい。

6）須恵器の食膳具は律令制の整備を画期として、杯蓋・杯身を主とする古墳時代の様式から有台杯・摘み蓋などを主とする「律令的土器様式」に転換したと捉えられることが多い。このことから本書では須恵器の器種を

帰属時期別に大別する際には古墳時代器種と律令時代器種に分けている。ここで言う律令時代は、時期的には古墳時代末期から奈良時代を経て平安時代前半に及び、本書では7世紀後半から10世紀までと捉えている。回転糸切り技法の定着を境として、さらに前期と後期に分けることができる。

7）国府町教育委員会1993『半田垣内遺跡　1次・2次発掘調査報告書』。

8）古川町教育委員会1991『上町遺跡D地点』、同1994『上町遺跡トヨタ地点・0地点・栗原センター地点』、財団法人岐阜県文化財保護センター2002『上ヶ平遺跡Ⅱ』。

9）前報告書の9・30・60番。なお、これら3個体と今回出土した1個体の墨書須恵器では、いずれも1文字目の字体は「高」であるが、本書では前報告書での表記に合わせ、本文中では「高」で統一表記している。

10）軒丸瓦の各部名称については次の文献に従った。
鈴木久男1990「一本造り軒丸瓦の再検討」『畿内と東国の瓦』京都国立博物館

11）Ⅰ型式軒丸瓦については、第5章第2節においてもふれるが、市内の信包中原田古窯で焼かれたことと、衣川廃寺（滋賀県大津市）、明科廃寺（長野県明科町）、天狗沢瓦窯（山梨県甲斐市）で出土した軒丸瓦と瓦当文様等に共通点があることが判明している。

12）久保智康氏のご教示による。

出土遺物実測図

凡例

1　断面を黒色で塗りつぶした個体は須恵器である。

2　図の中心線の左右を空白としたものは、径や傾きの推定が困難な個体であることを示す。

3　一点鎖線は施釉範囲を示す。2種類の施釉がなされているものについては二点鎖線でその境を示した。

4　掲載縮尺

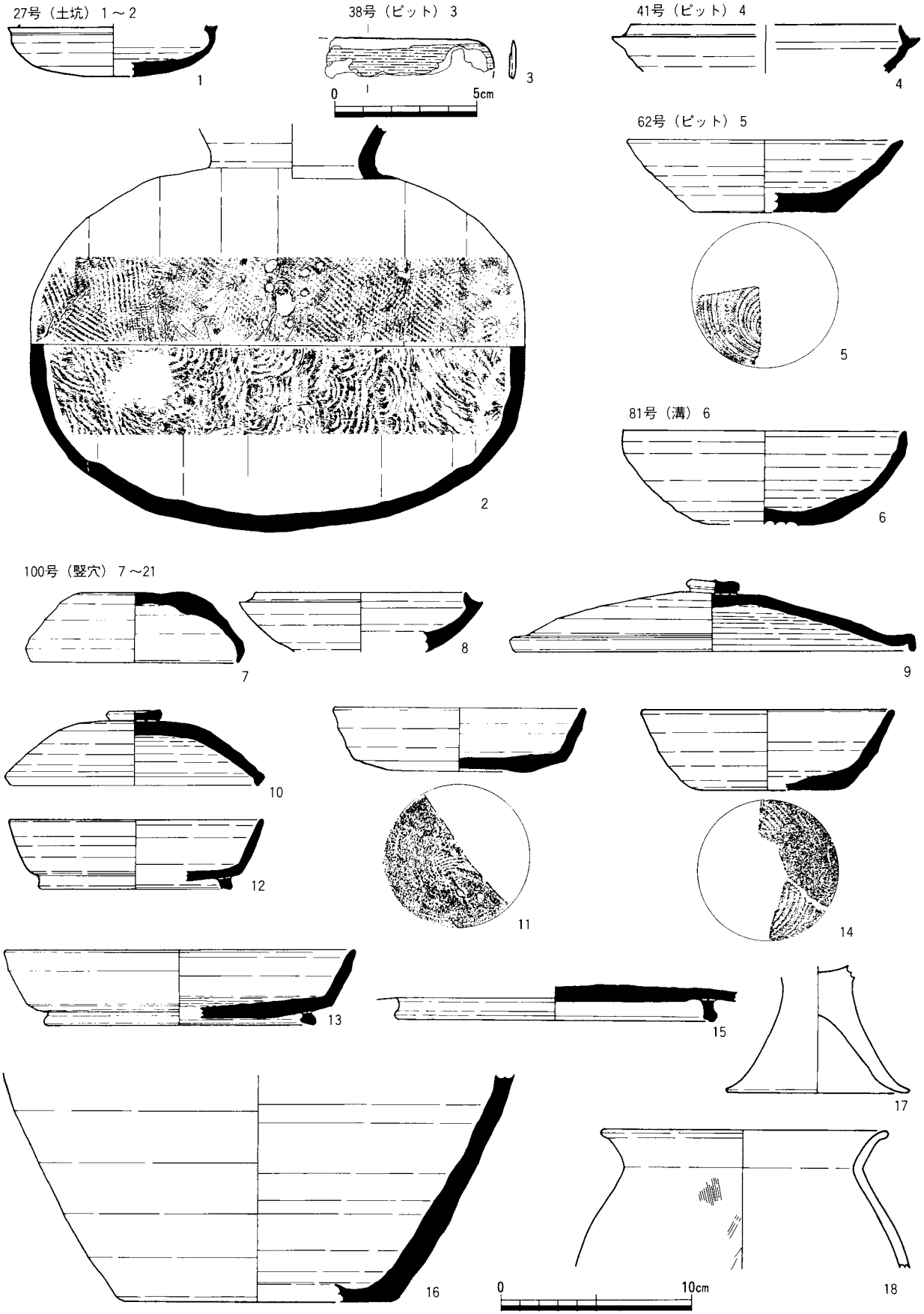
①　土器・陶磁器類：1/3（大型品は1/6）

②　瓦：1/4

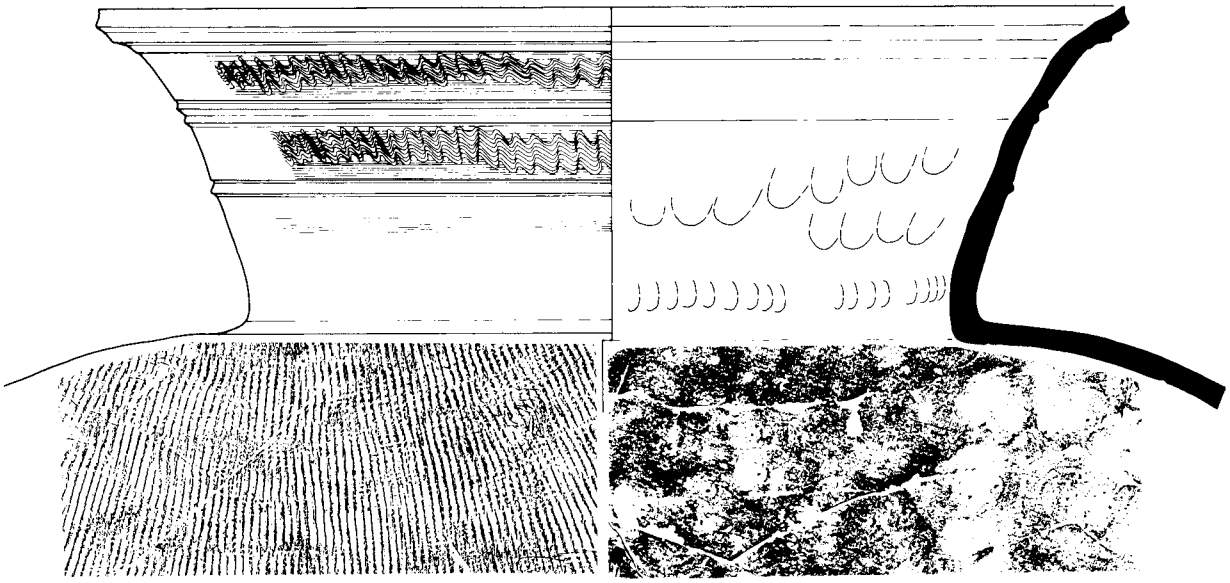
③　金属製品：1/2

④　鍛冶関連遺物：1/2

⑤　石器・石製品：石鏃・紡錘車・玉類2/3、石斧1/3、砥石1/3

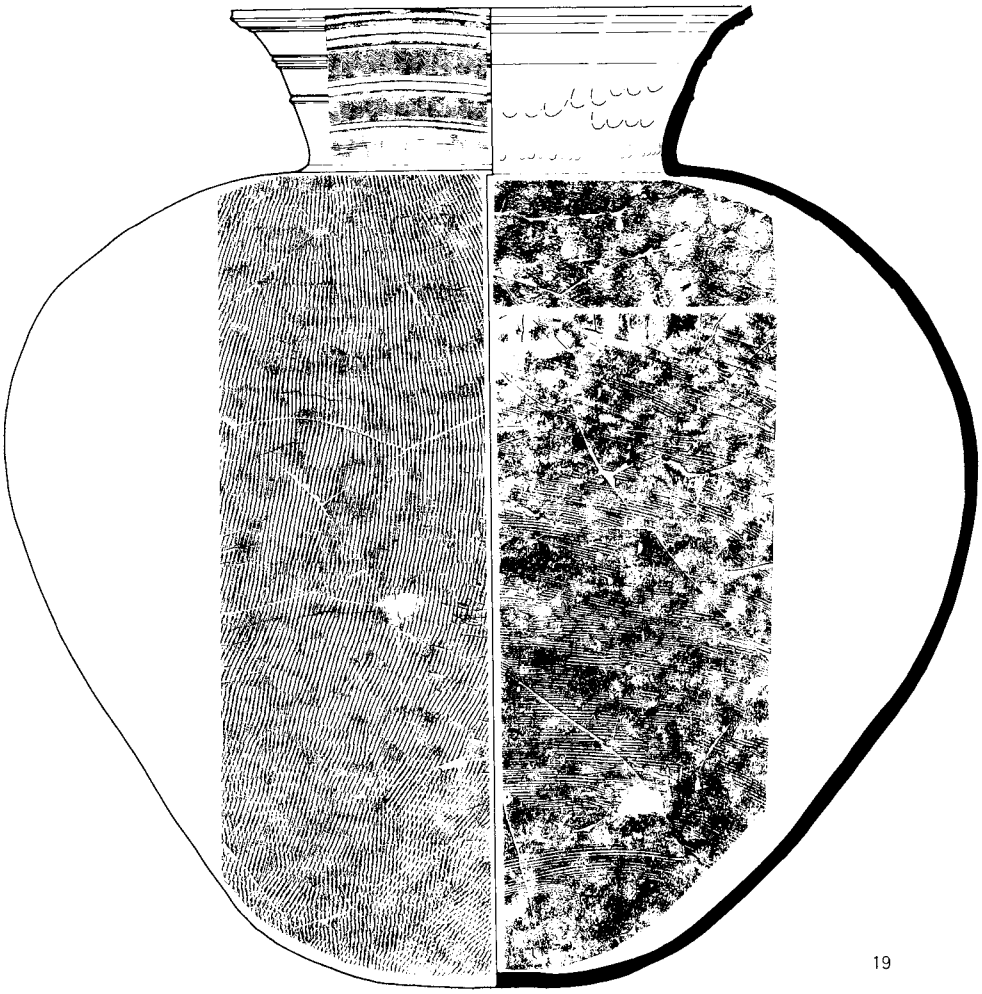


第28図　遺構内出土遺物（1）



19（拡大図）

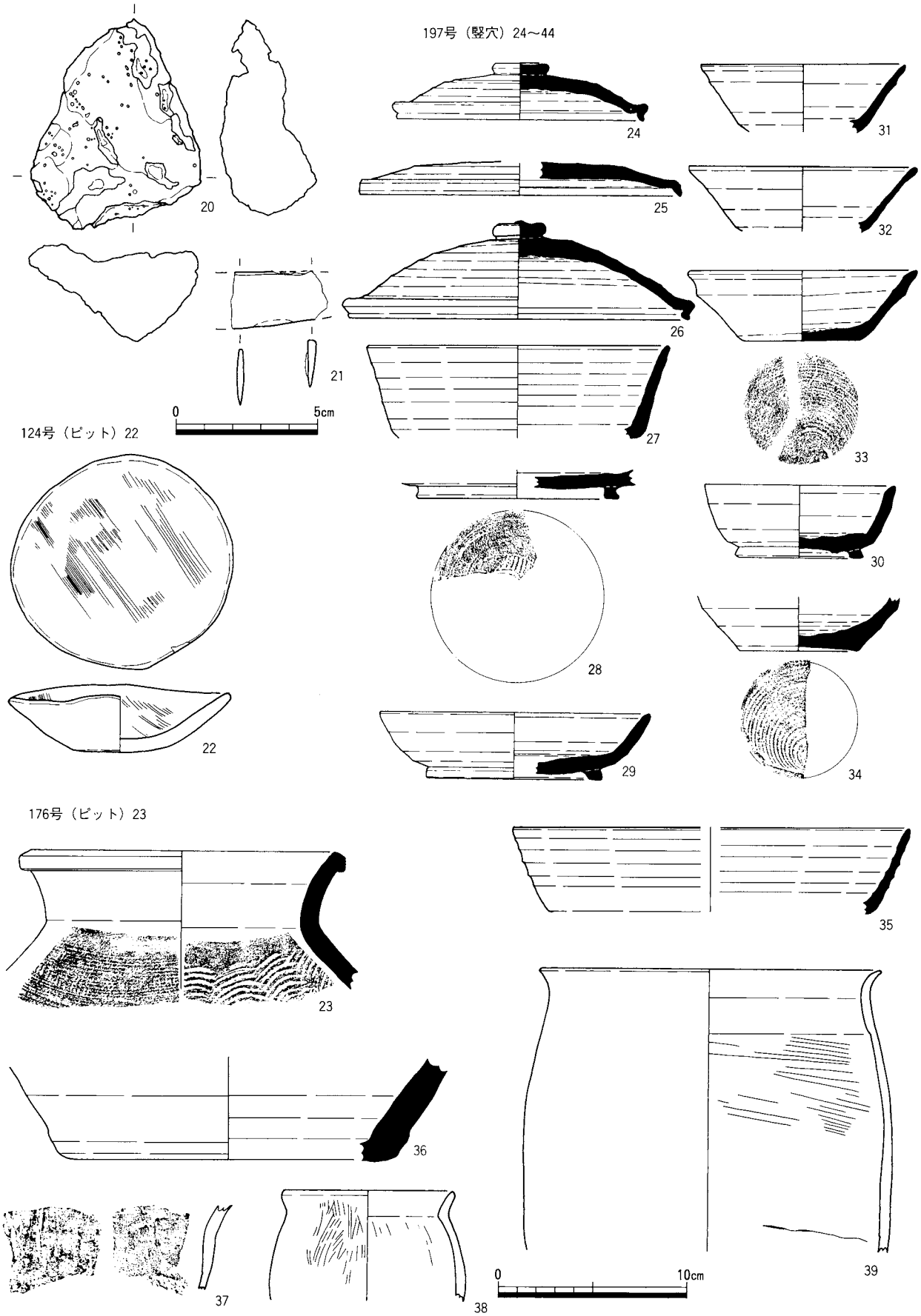
0　10cm



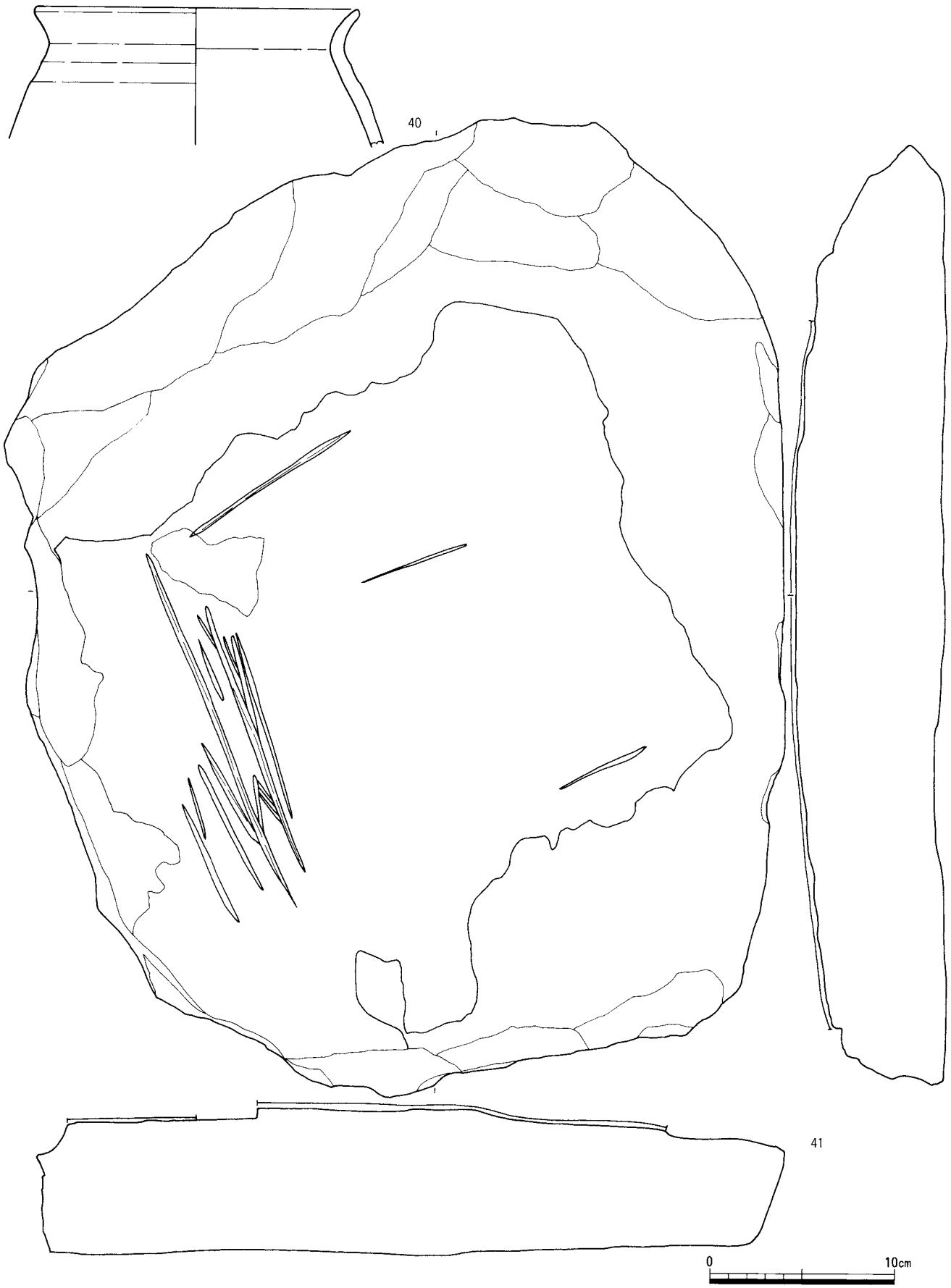
19

0　20cm

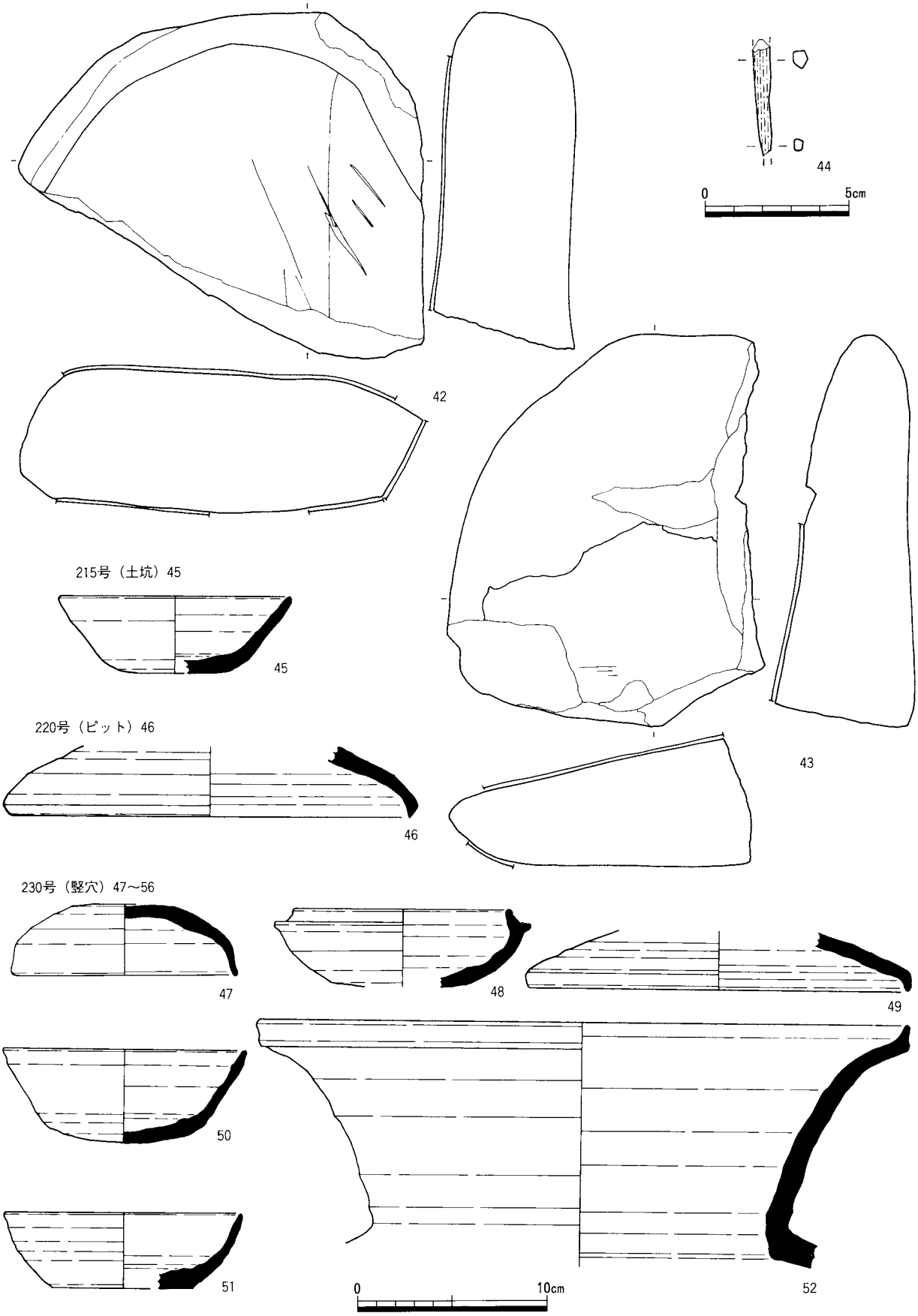
第29図　遺構内出土遺物（2）



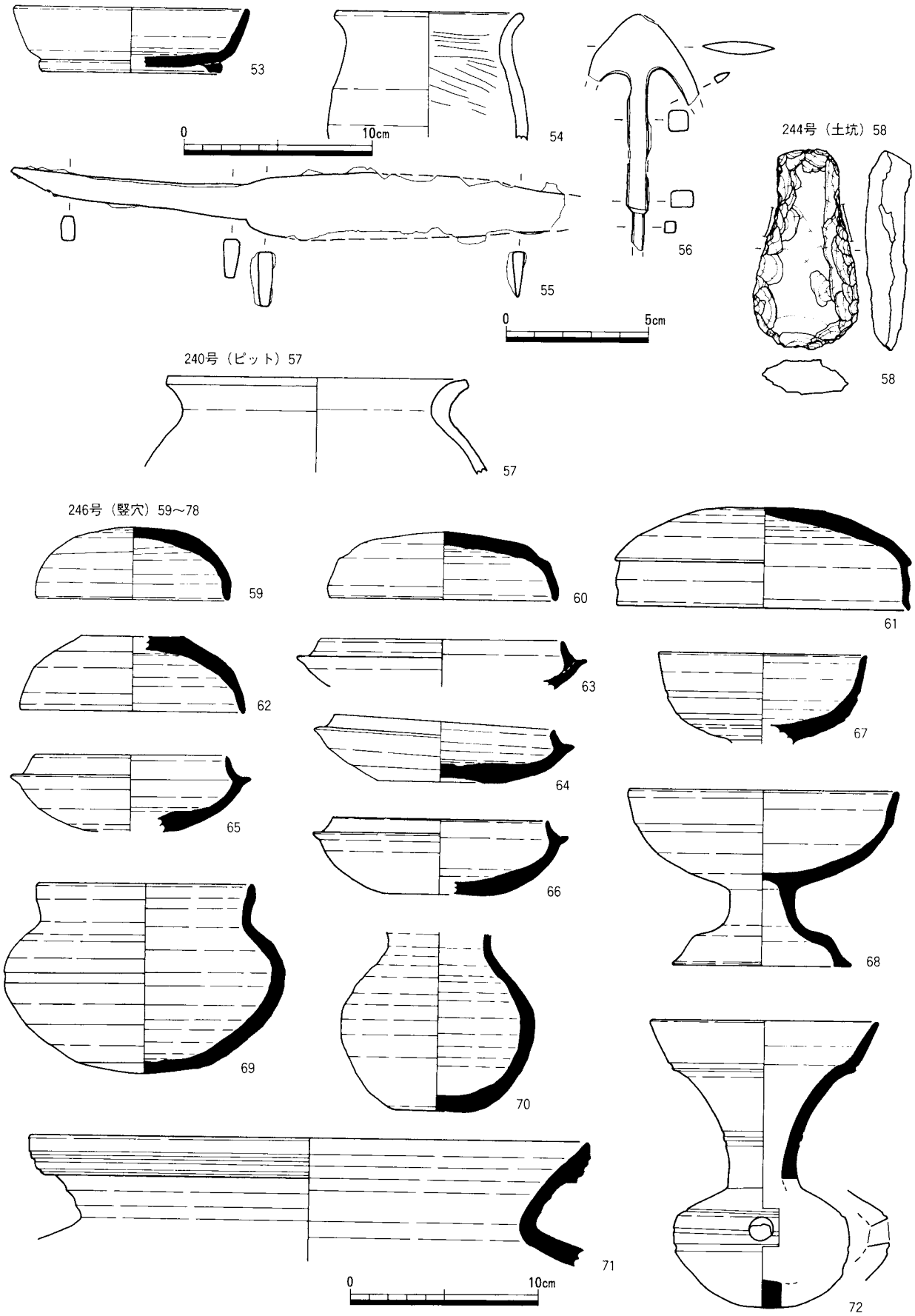
第30図　遺構内出土遺物（3）



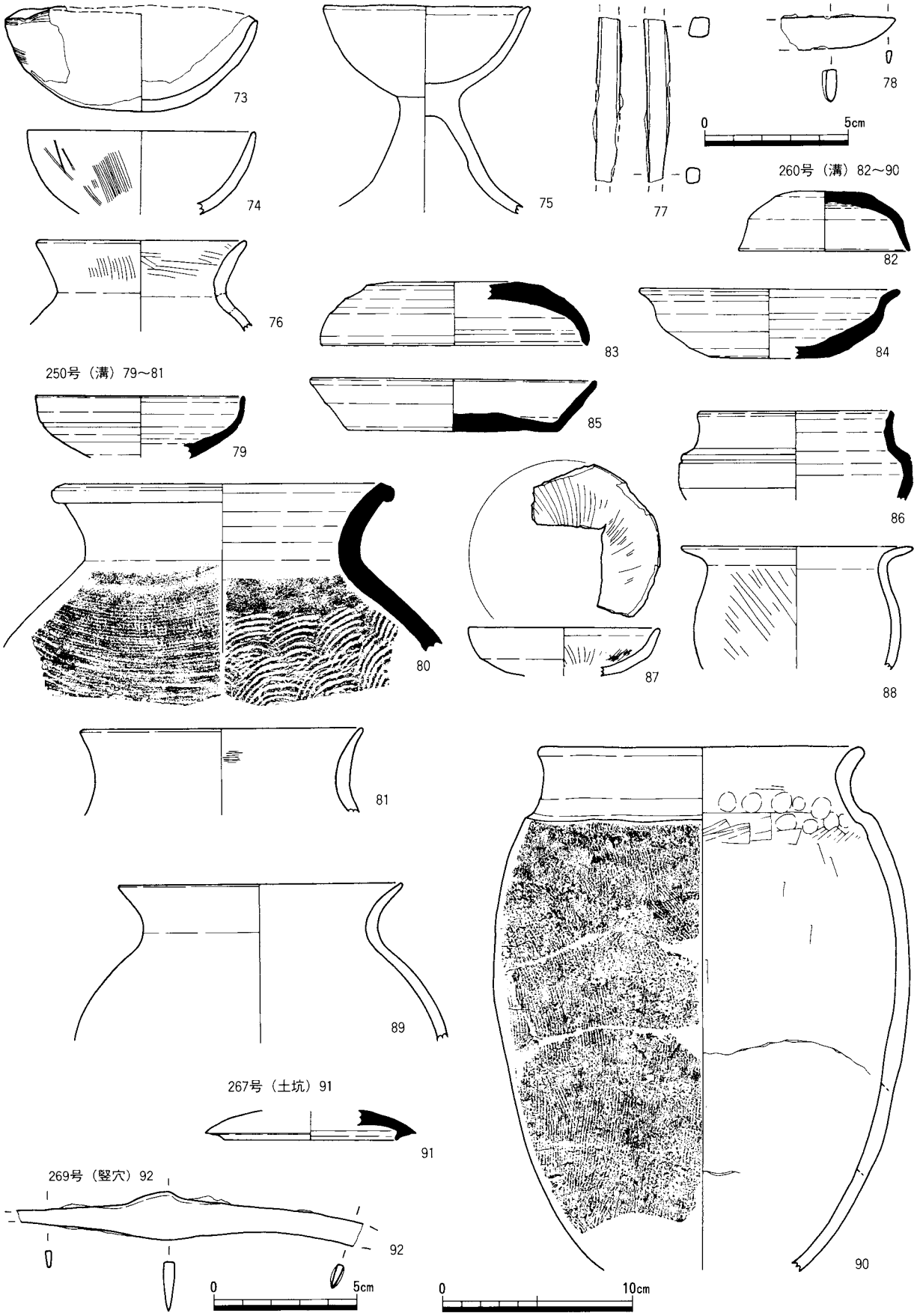
第31図　遺構内出土遺物（4）



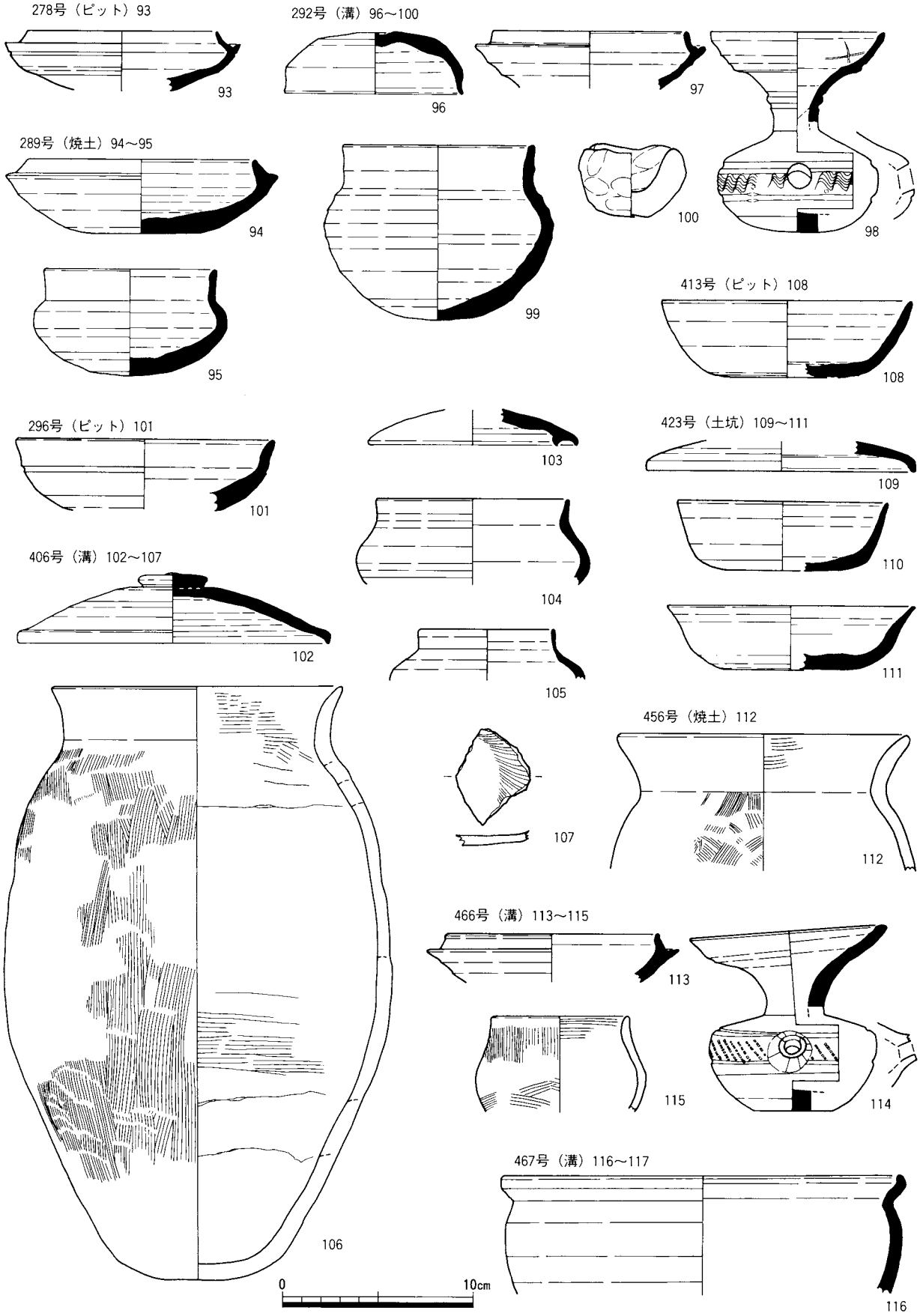
第32図　遺構内出土遺物（5）



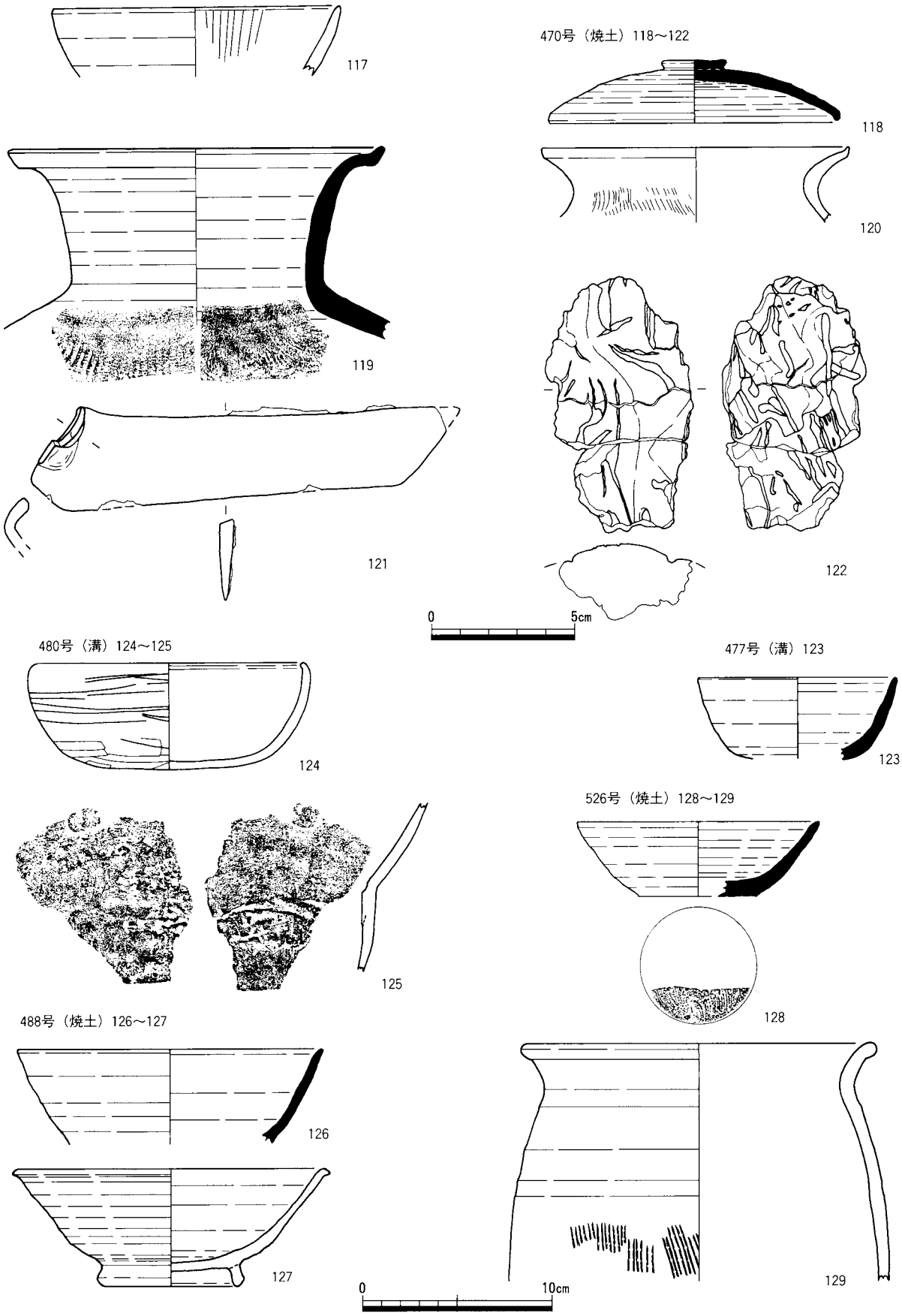
第33図　遺構内出土遺物（6）



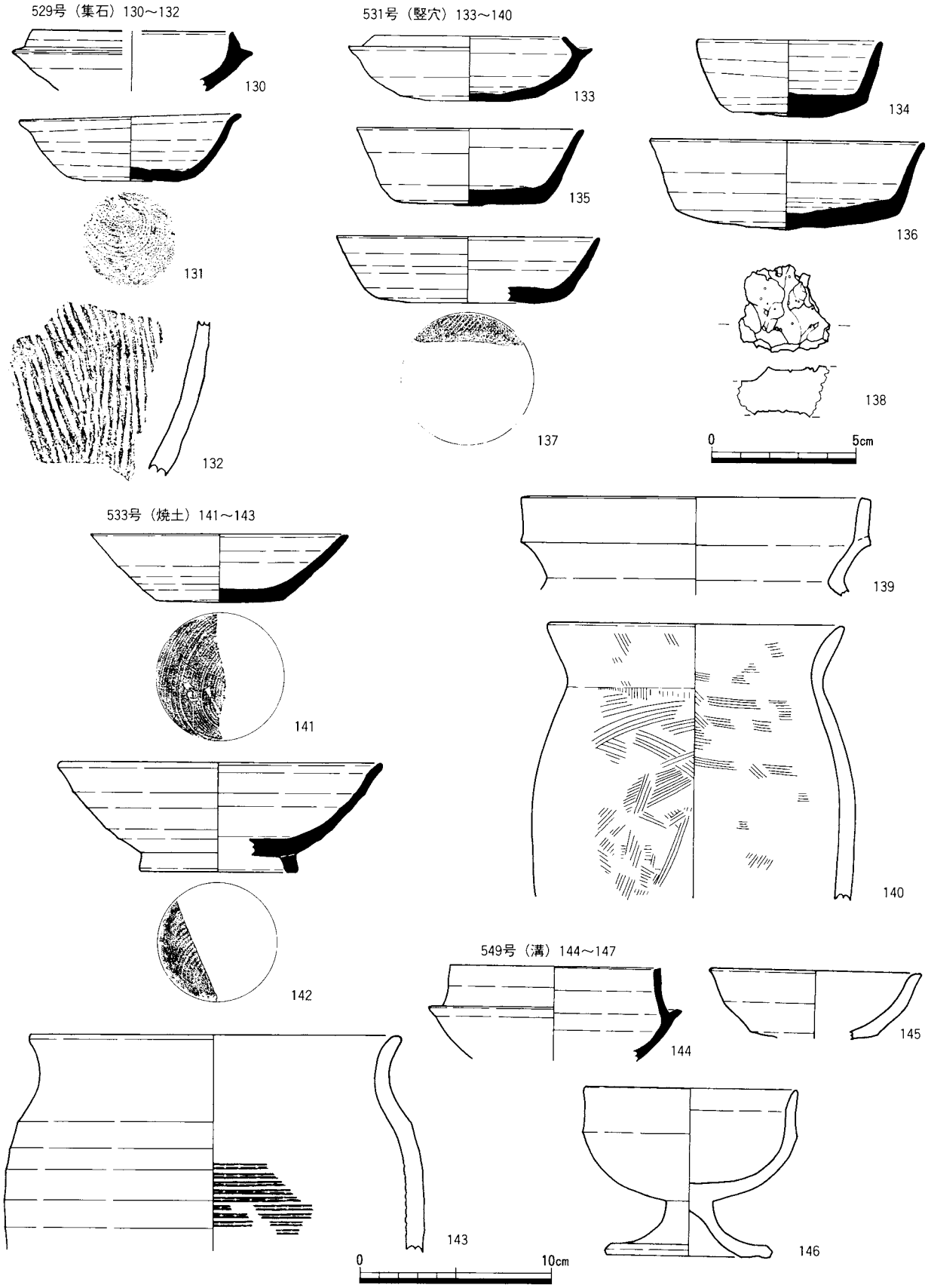
第34図　遺構内出土遺物（7）



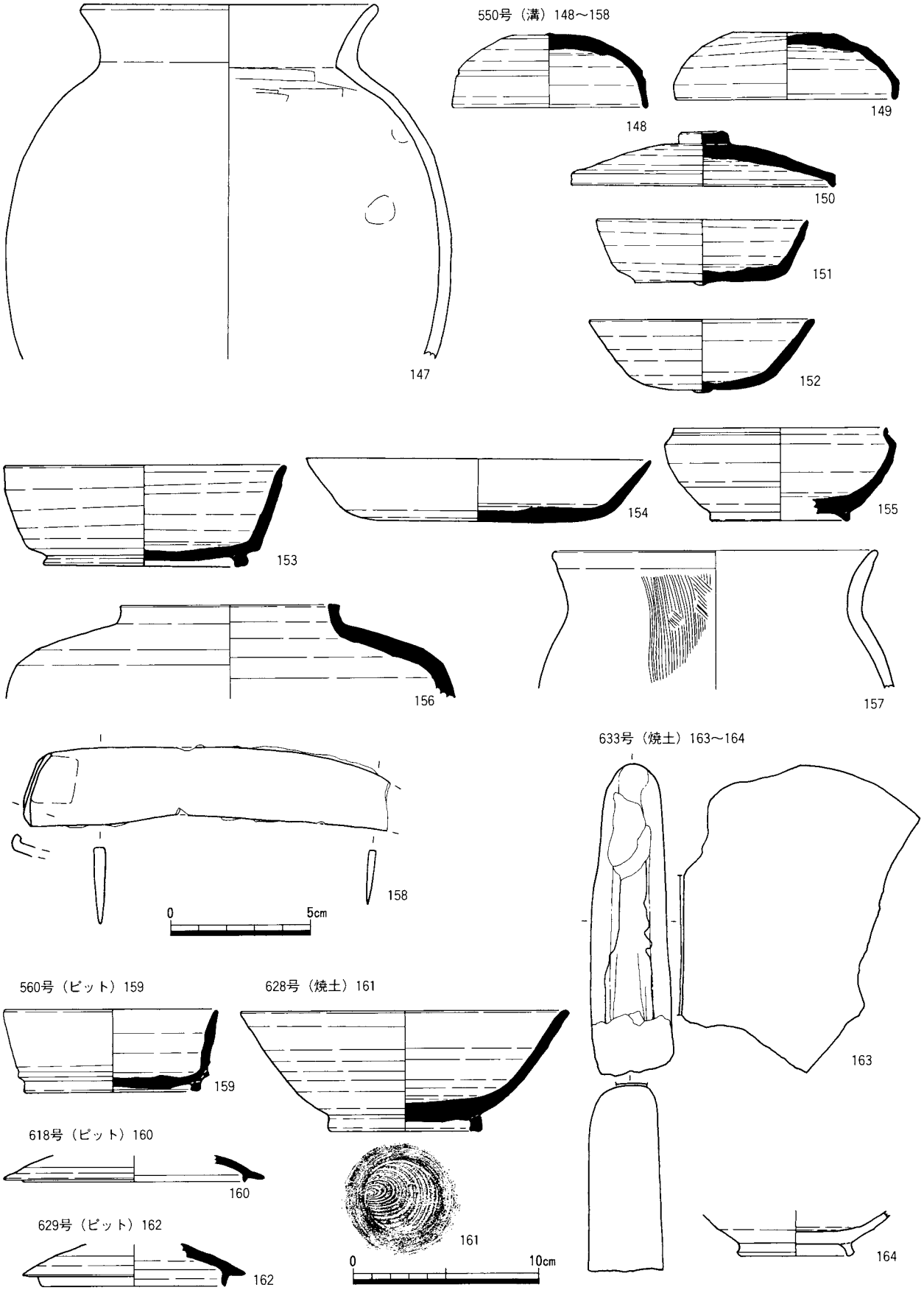
第35図　遺構内出土遺物（8）



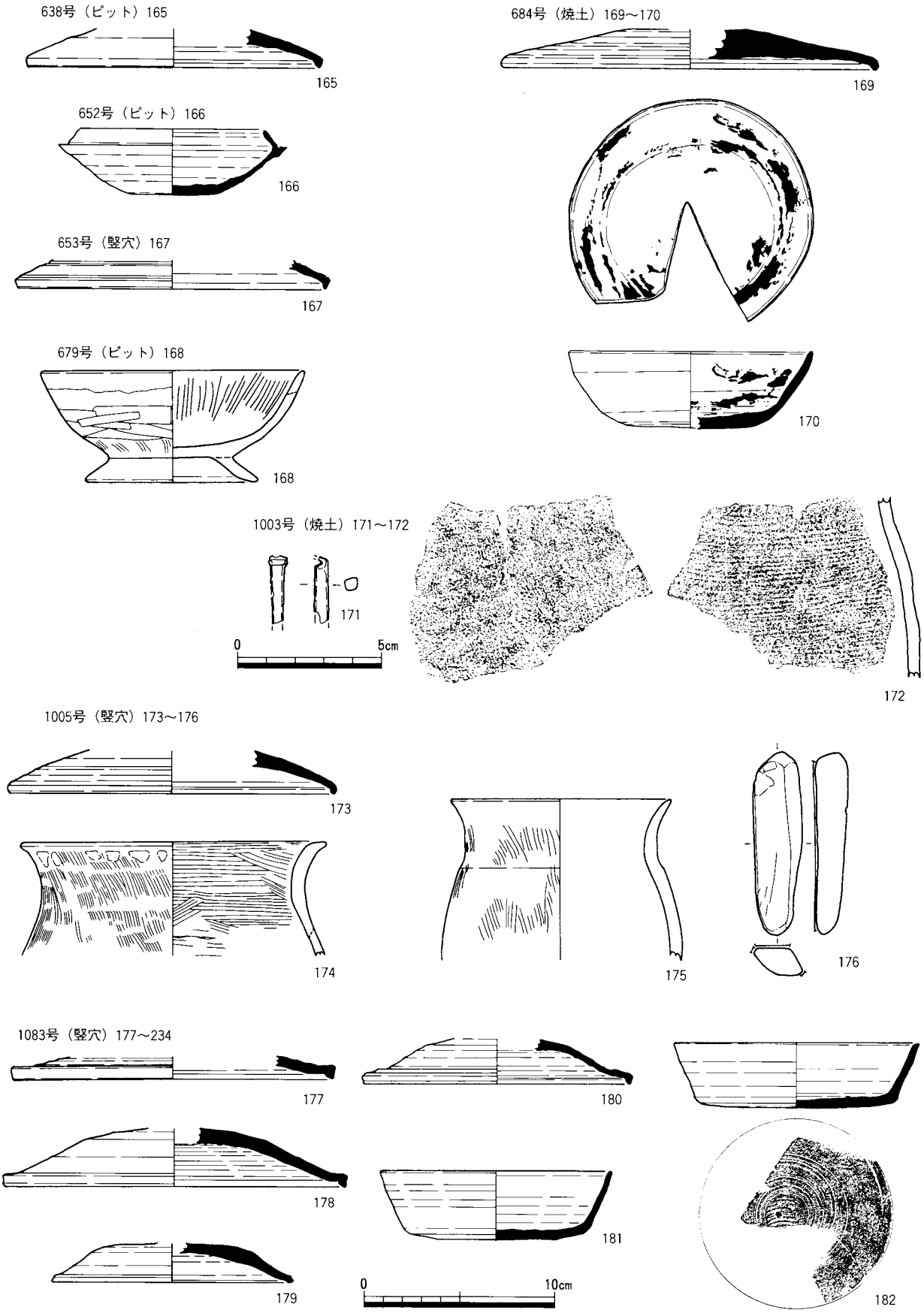
第36図　遺構内出土遺物（9）



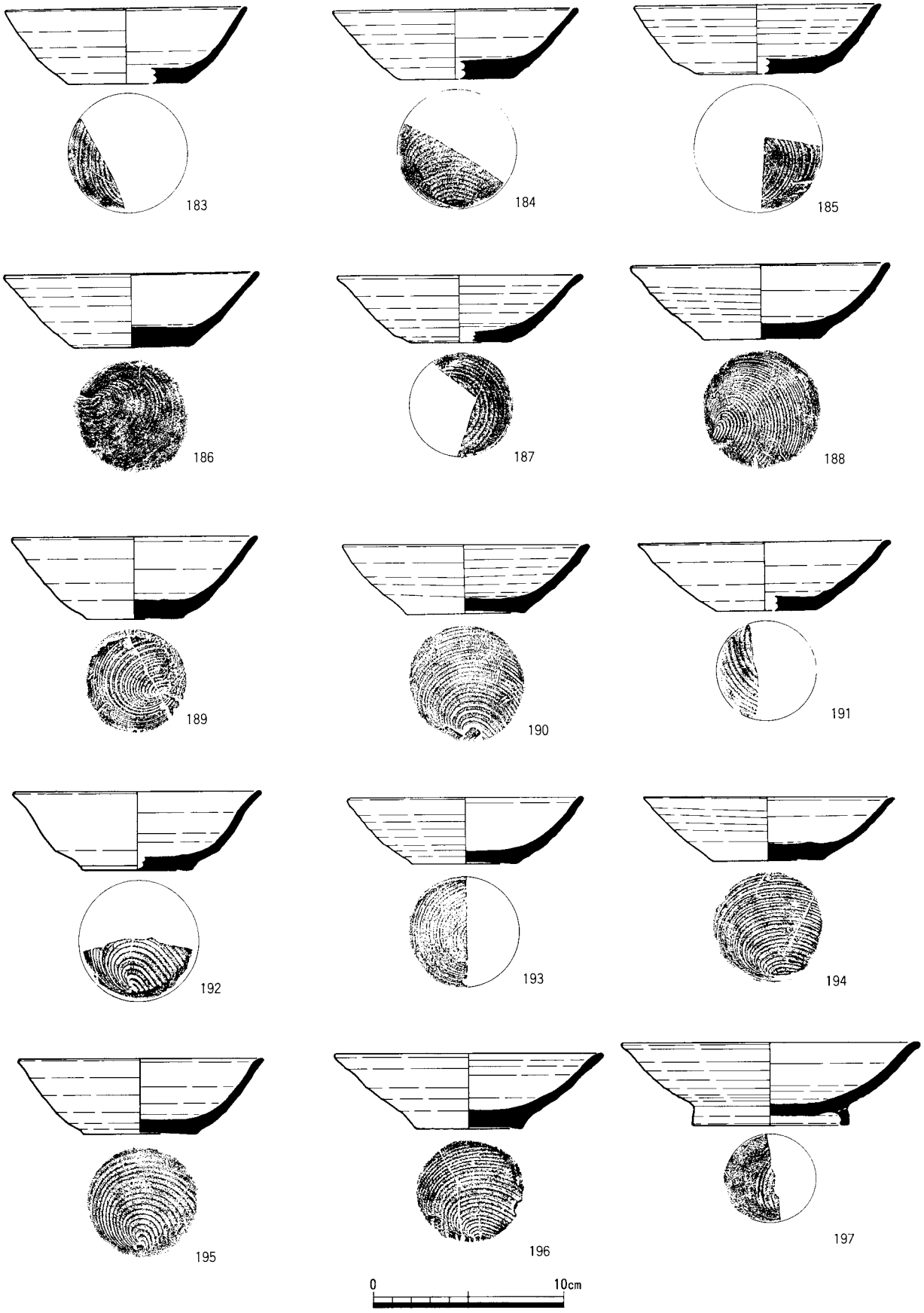
第37図　遺構内出土遺物 (10)



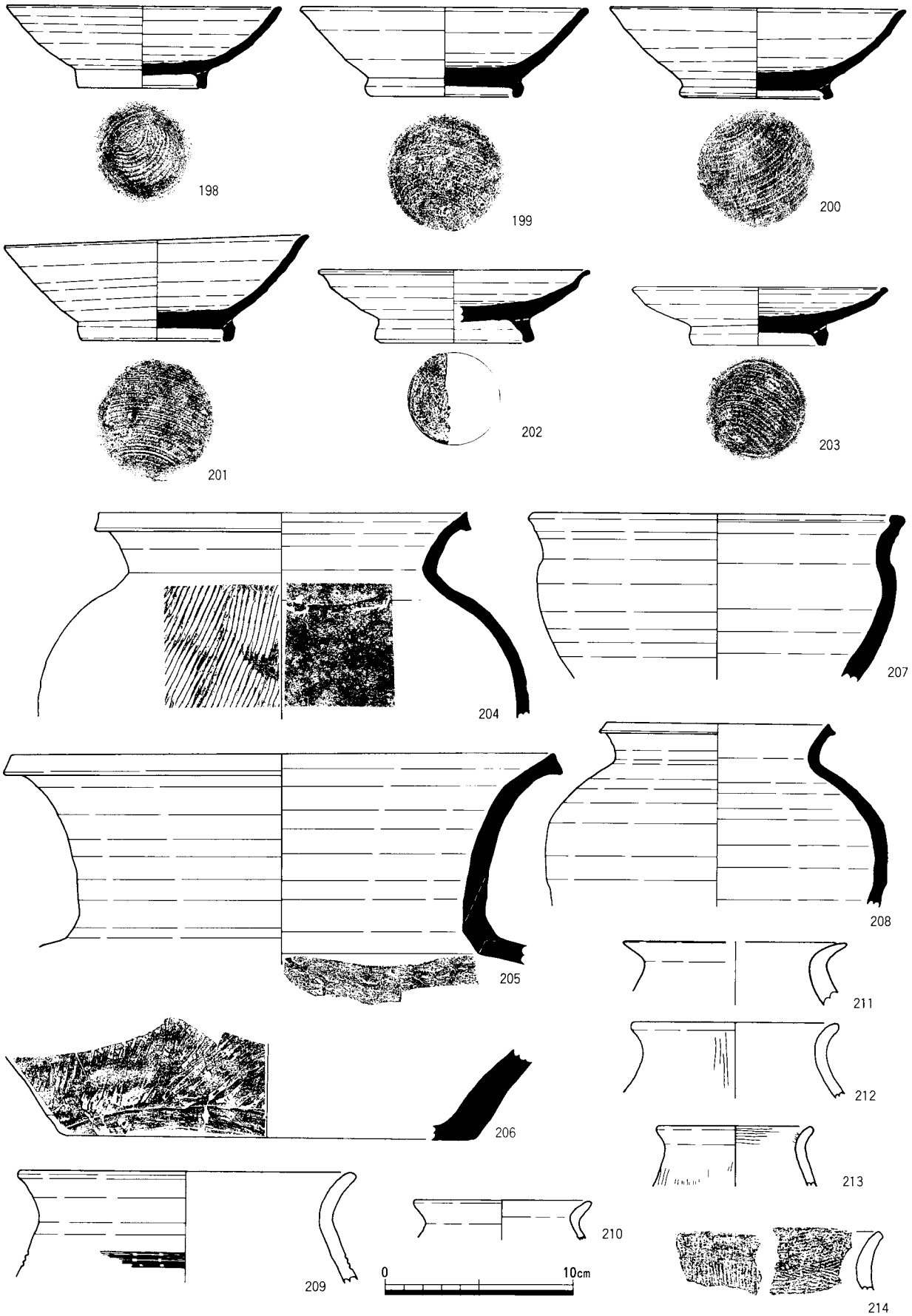
第38図　遺構内出土遺物 (11)



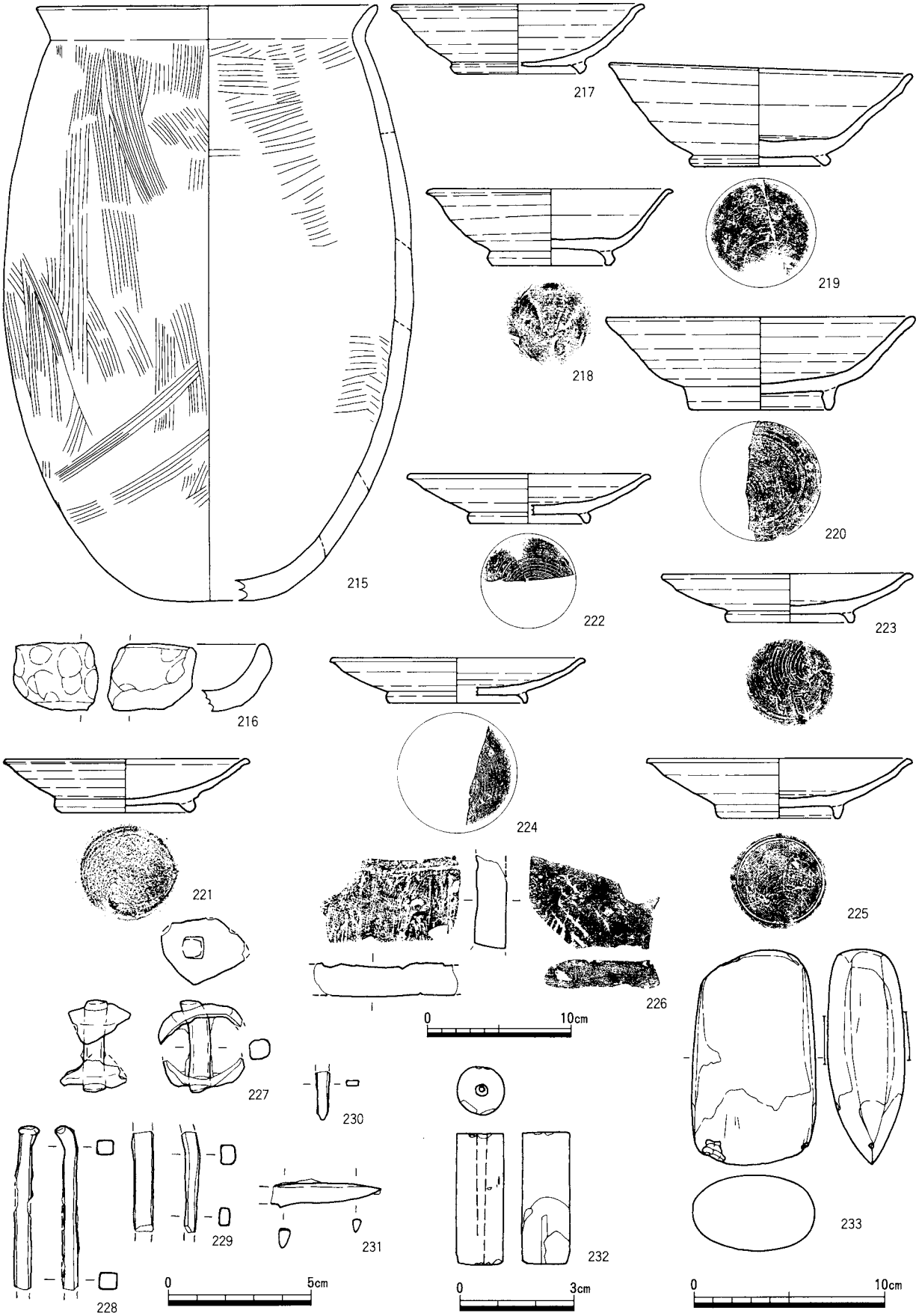
第39図　遺構内出土遺物 (12)



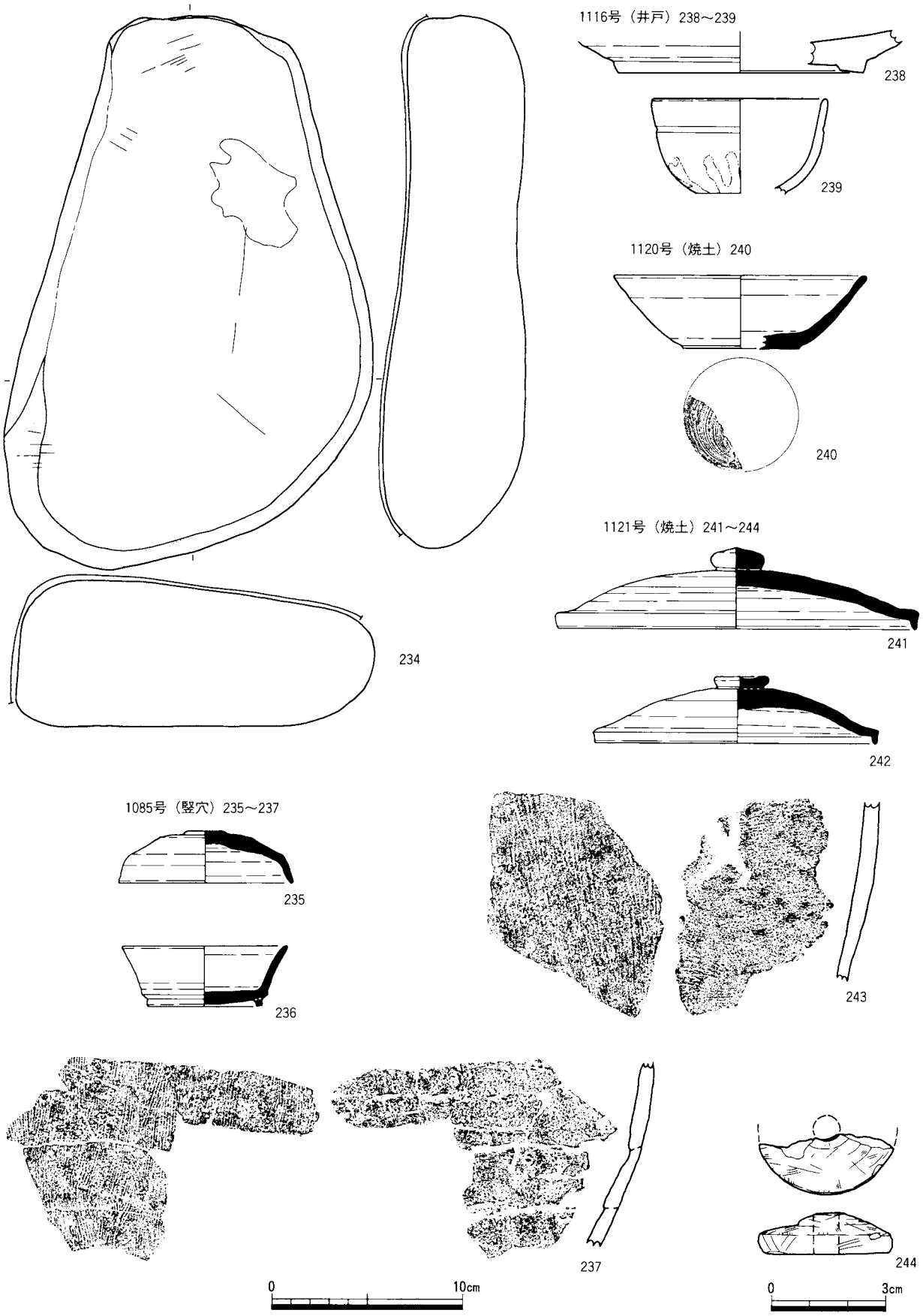
第40図　遺構内出土遺物 (13)



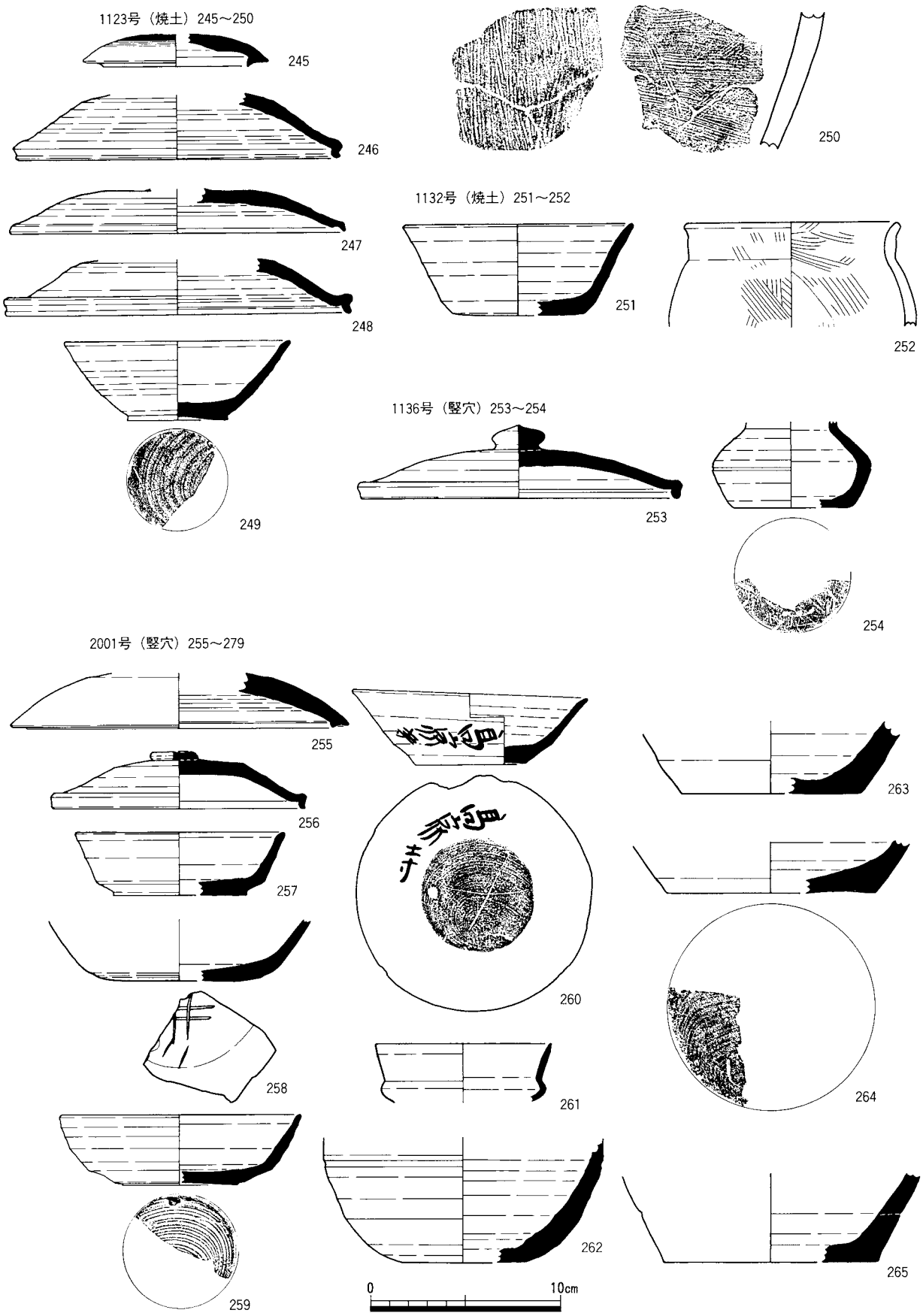
第41図　遺構内出土遺物 (14)



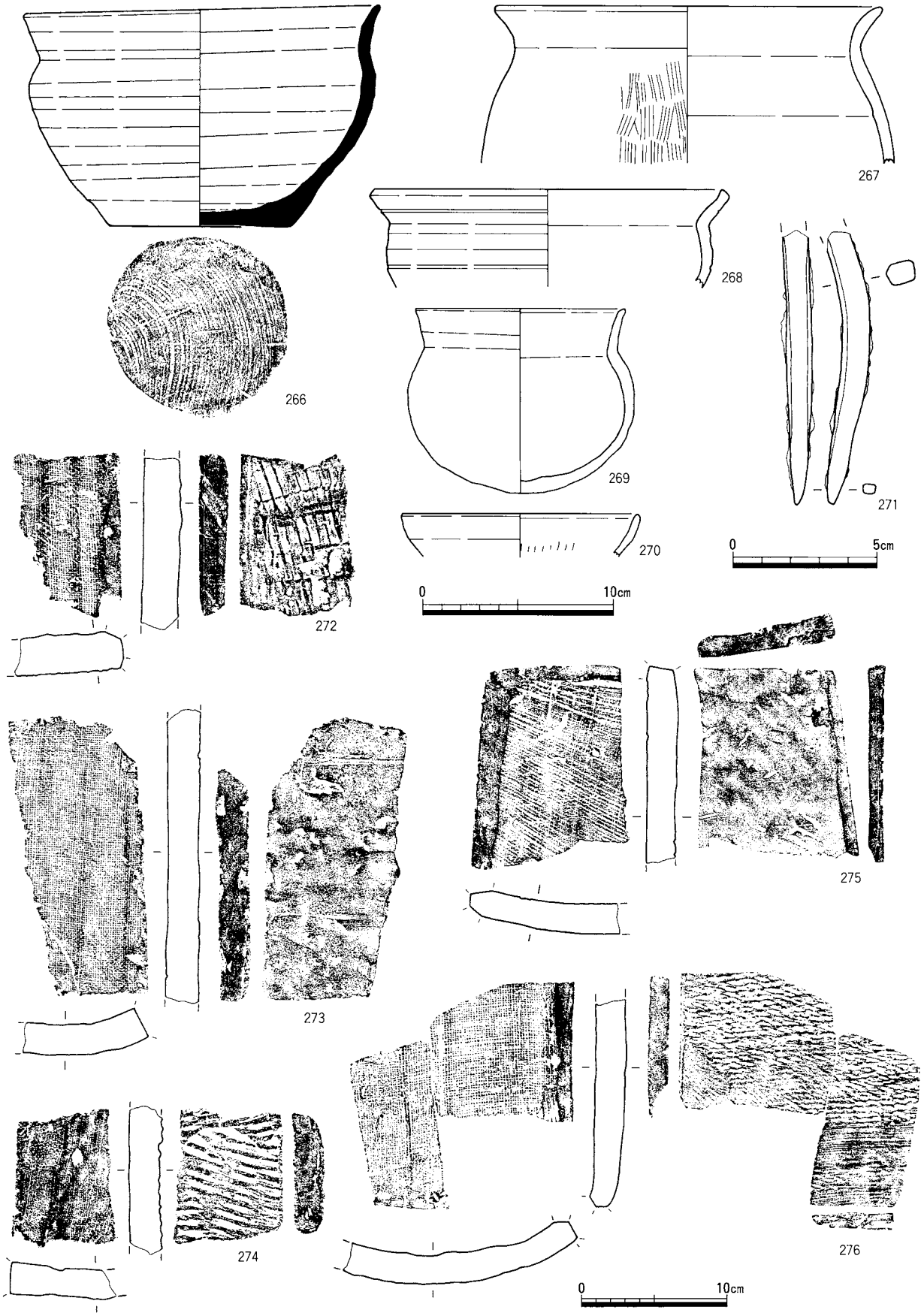
第42図　遺構内出土遺物 (15)



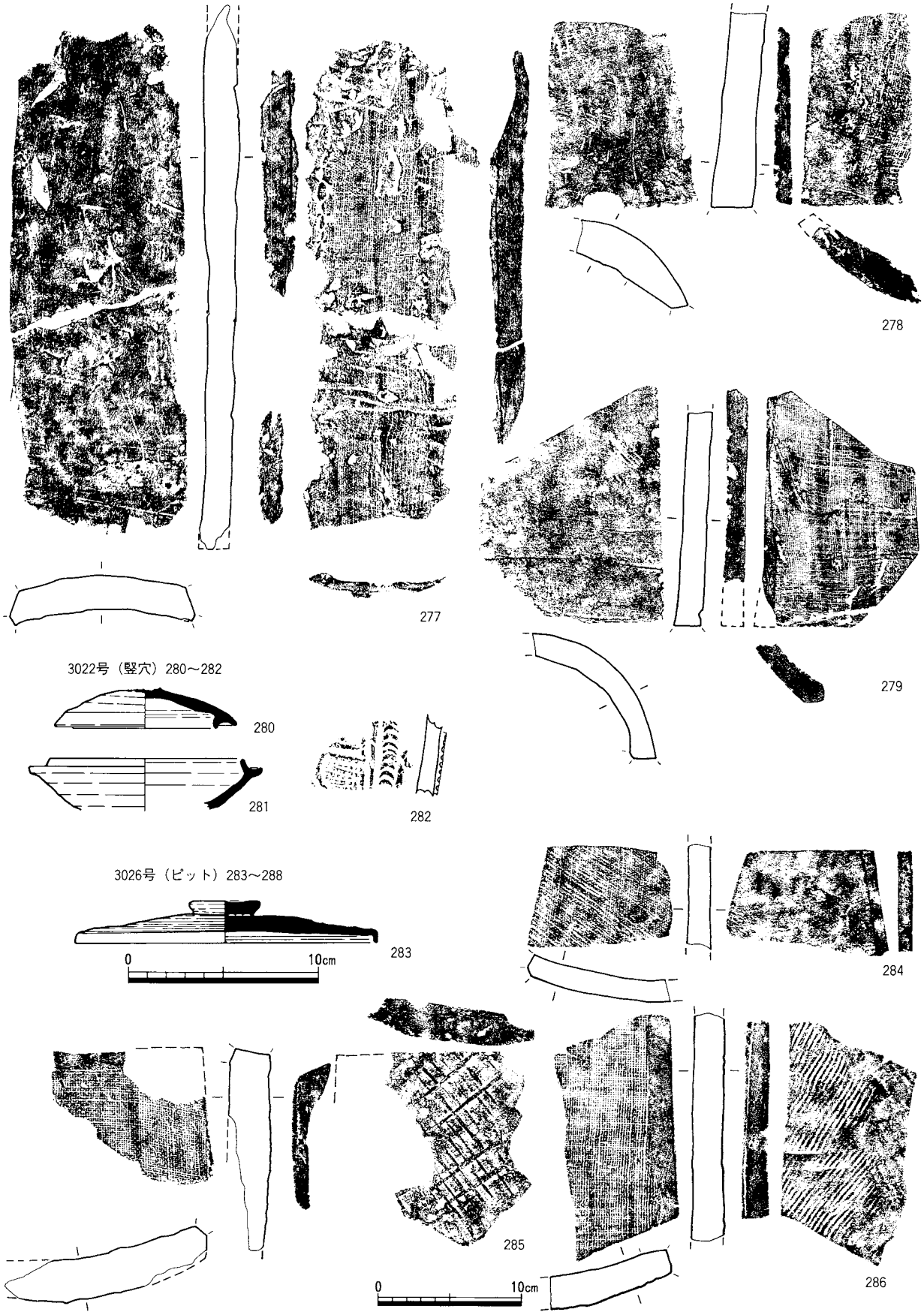
第43図　遺構内出土遺物 (16)



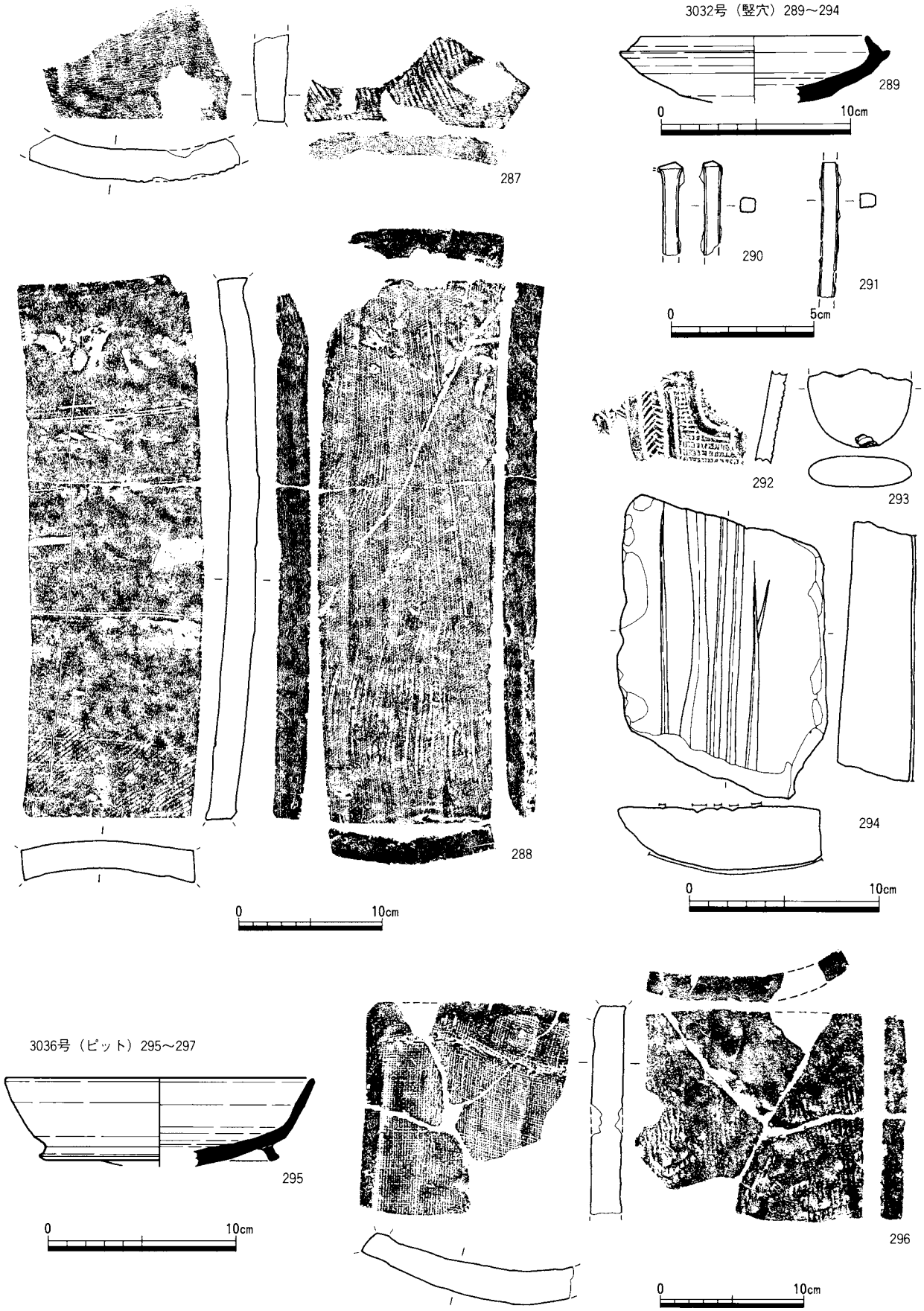
第44図　遺構内出土遺物 (17)



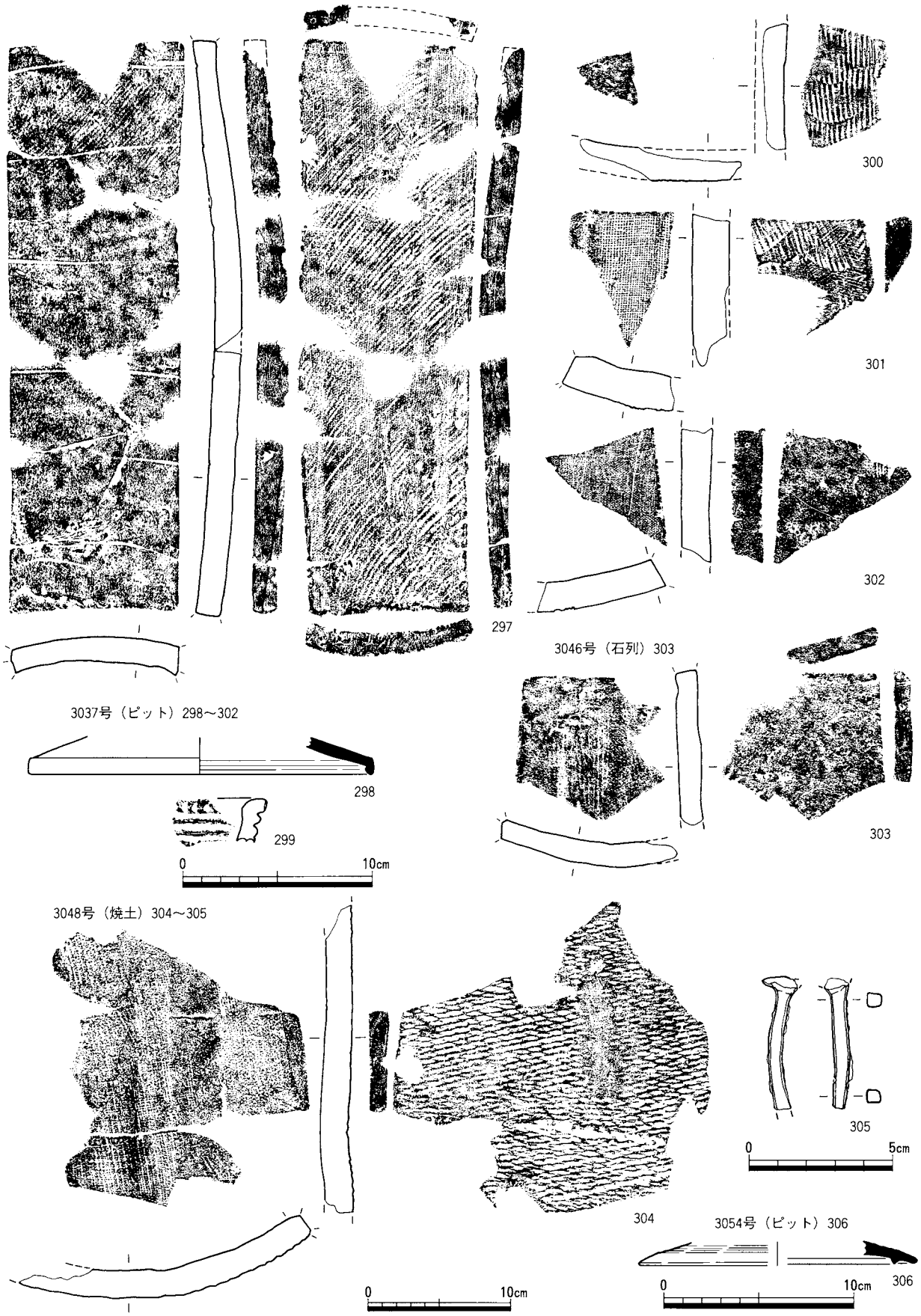
第45図　遺構内出土遺物 (18)



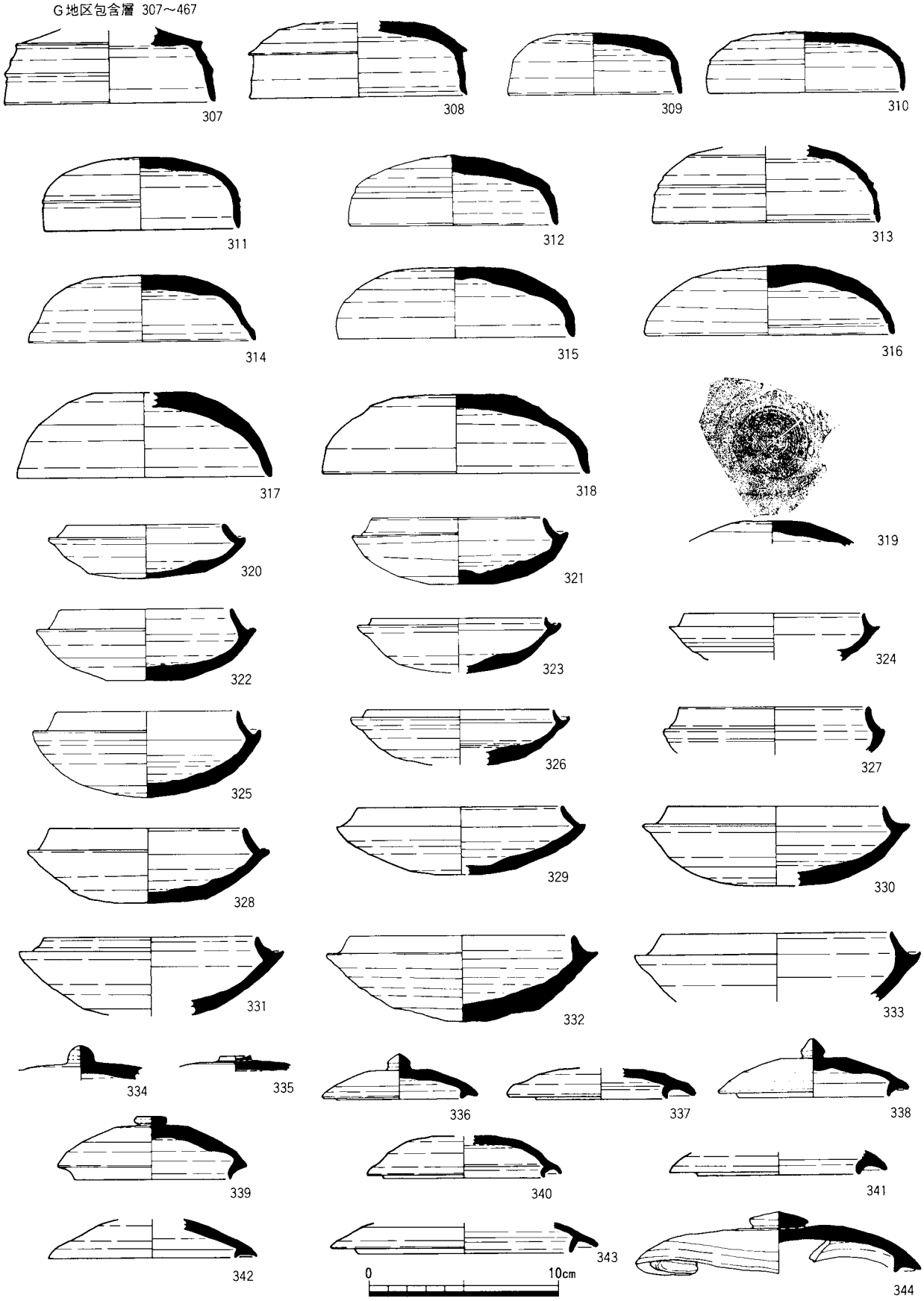
第46図　遺構内出土遺物 (19)



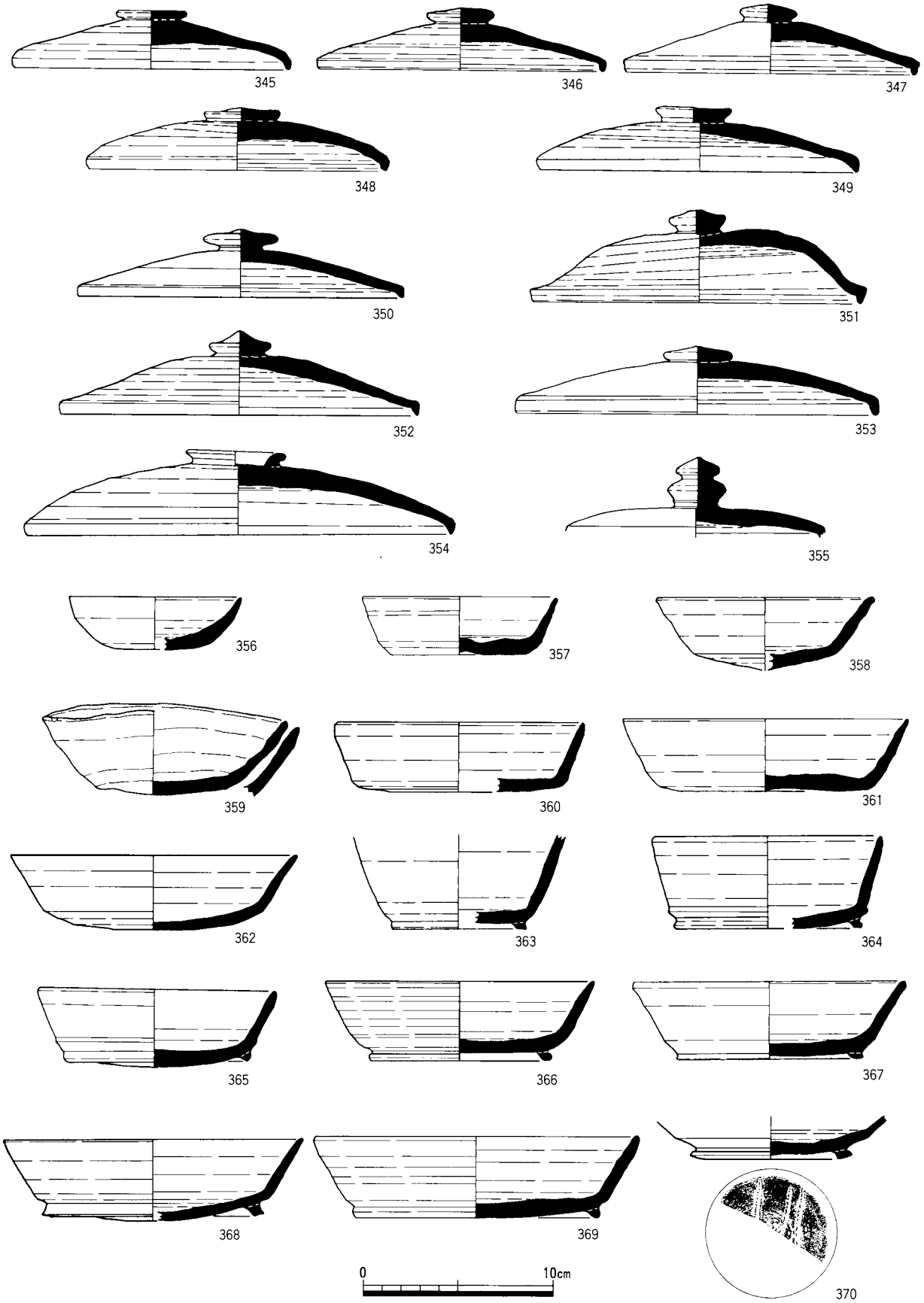
第47図　遺構内出土遺物 (20)



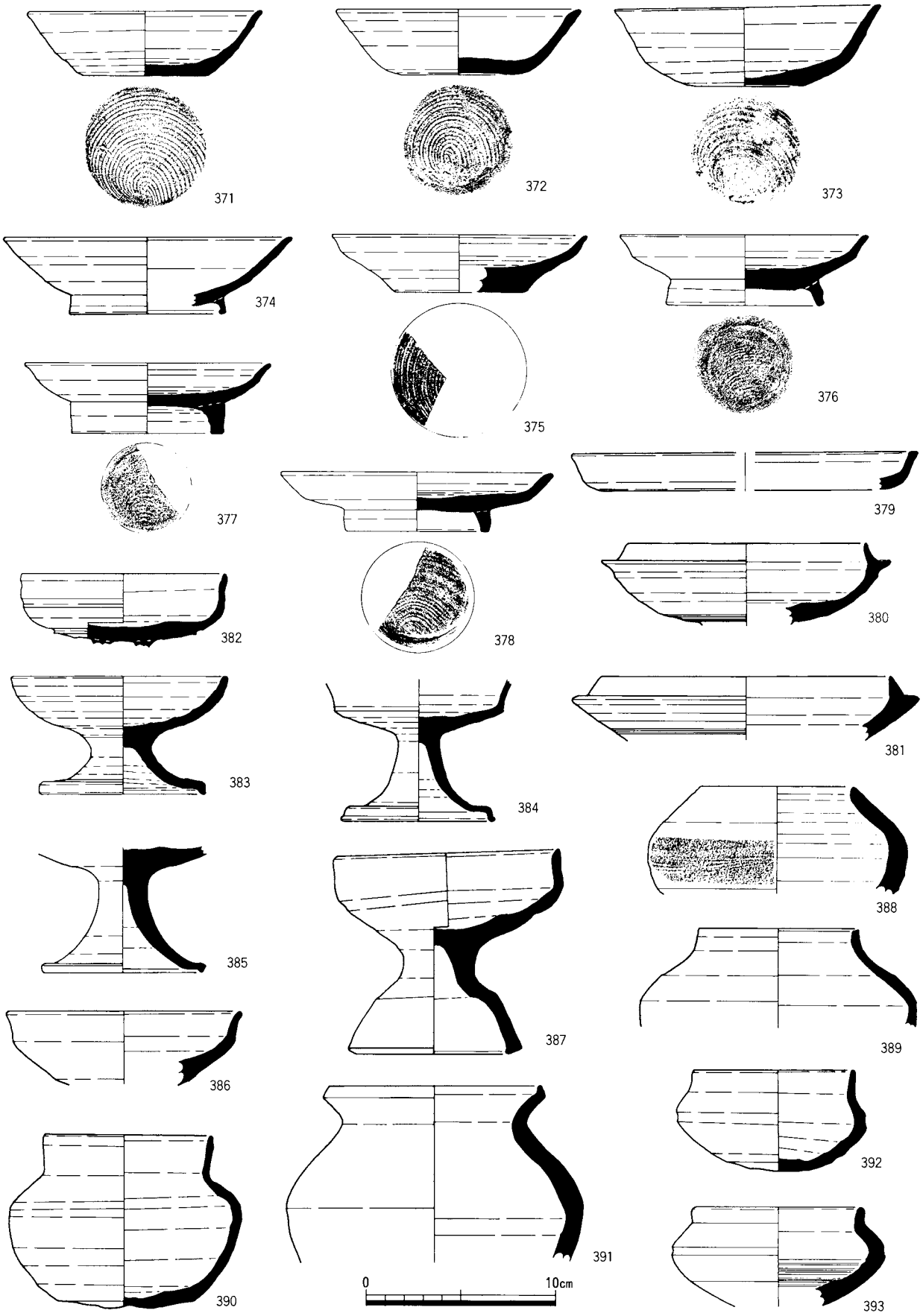
第48図　遺構内出土遺物 (21)



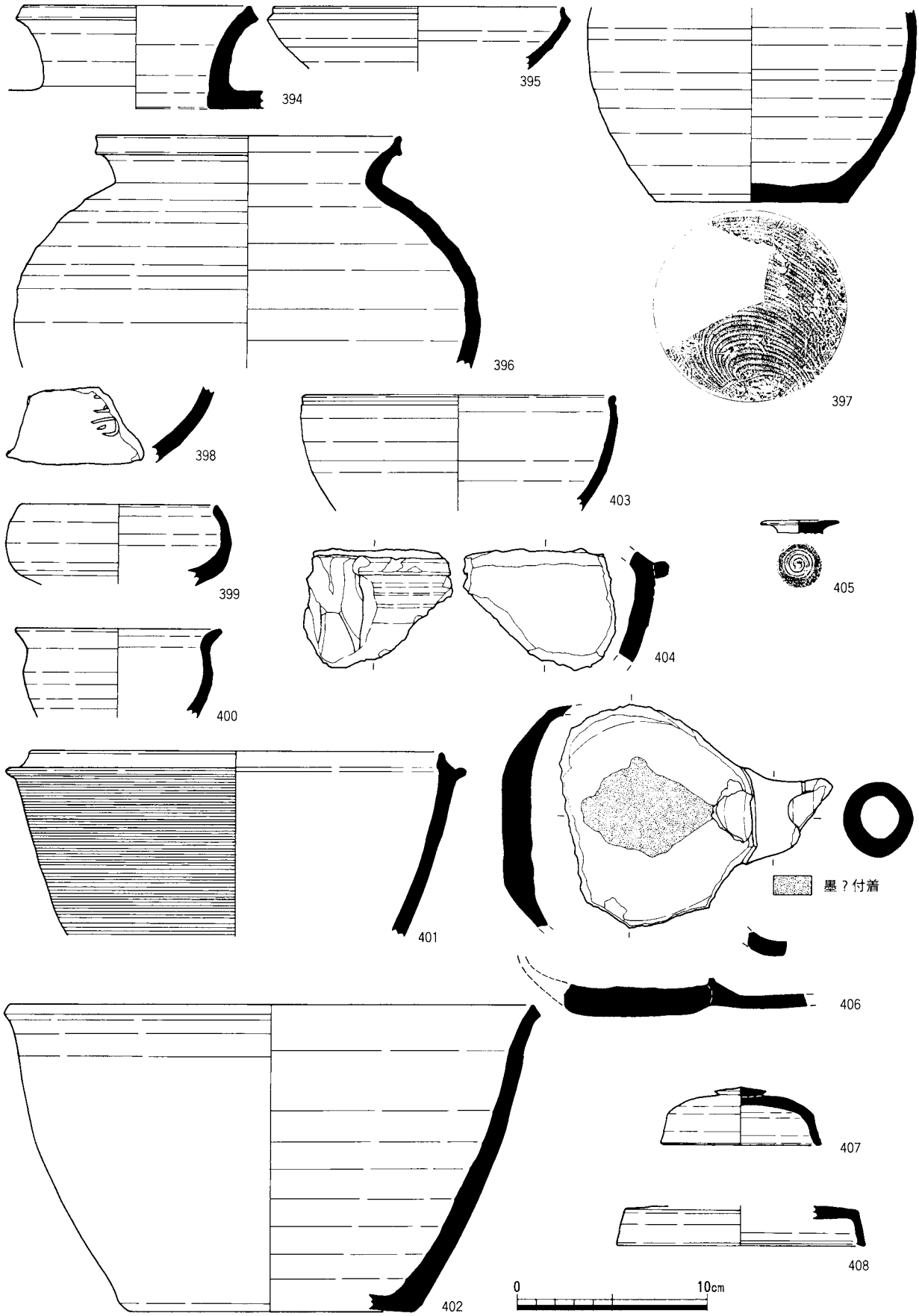
第49図　G地区包含層出土遺物（1）



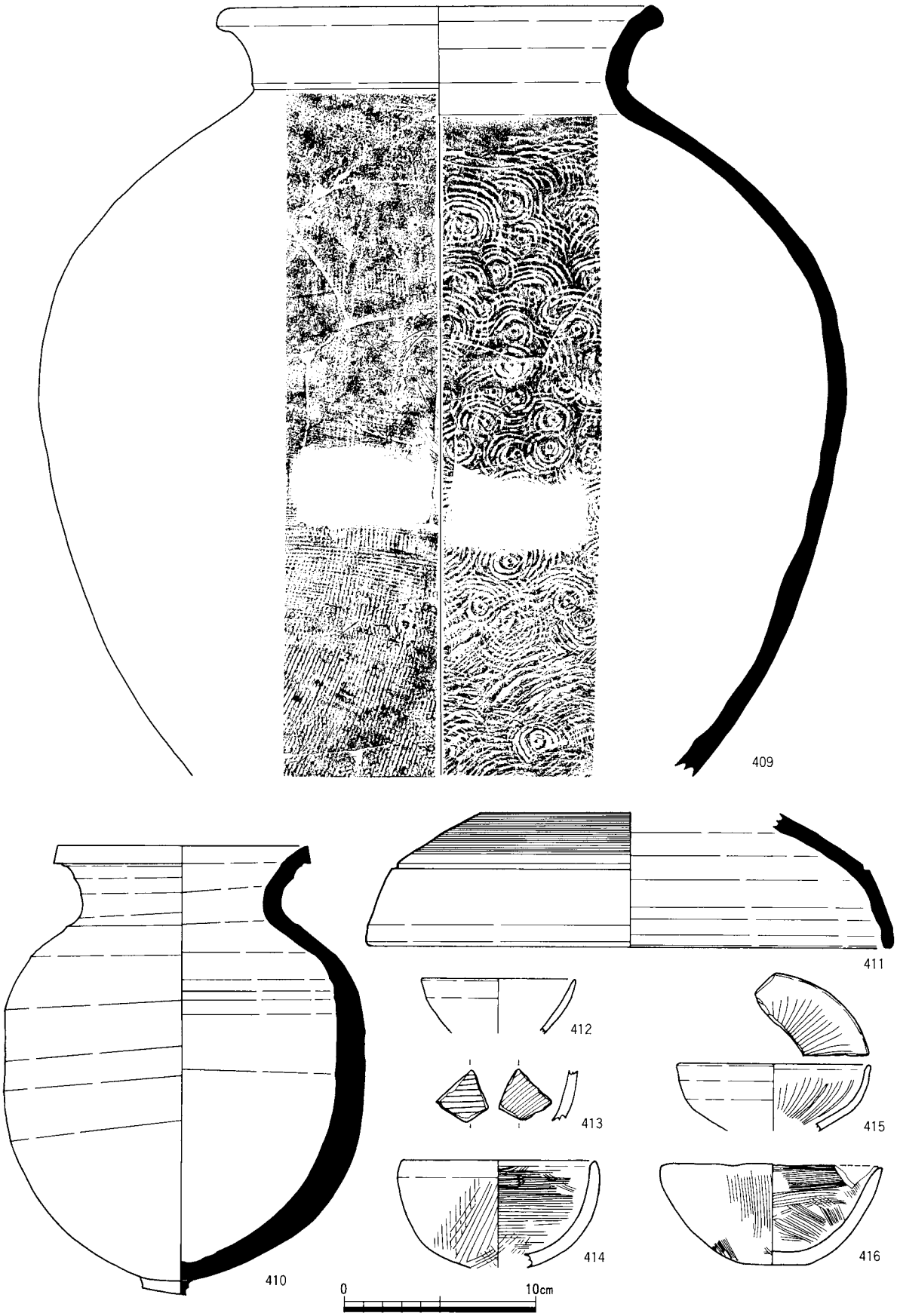
第50図　G地区包含層出土遺物（2）



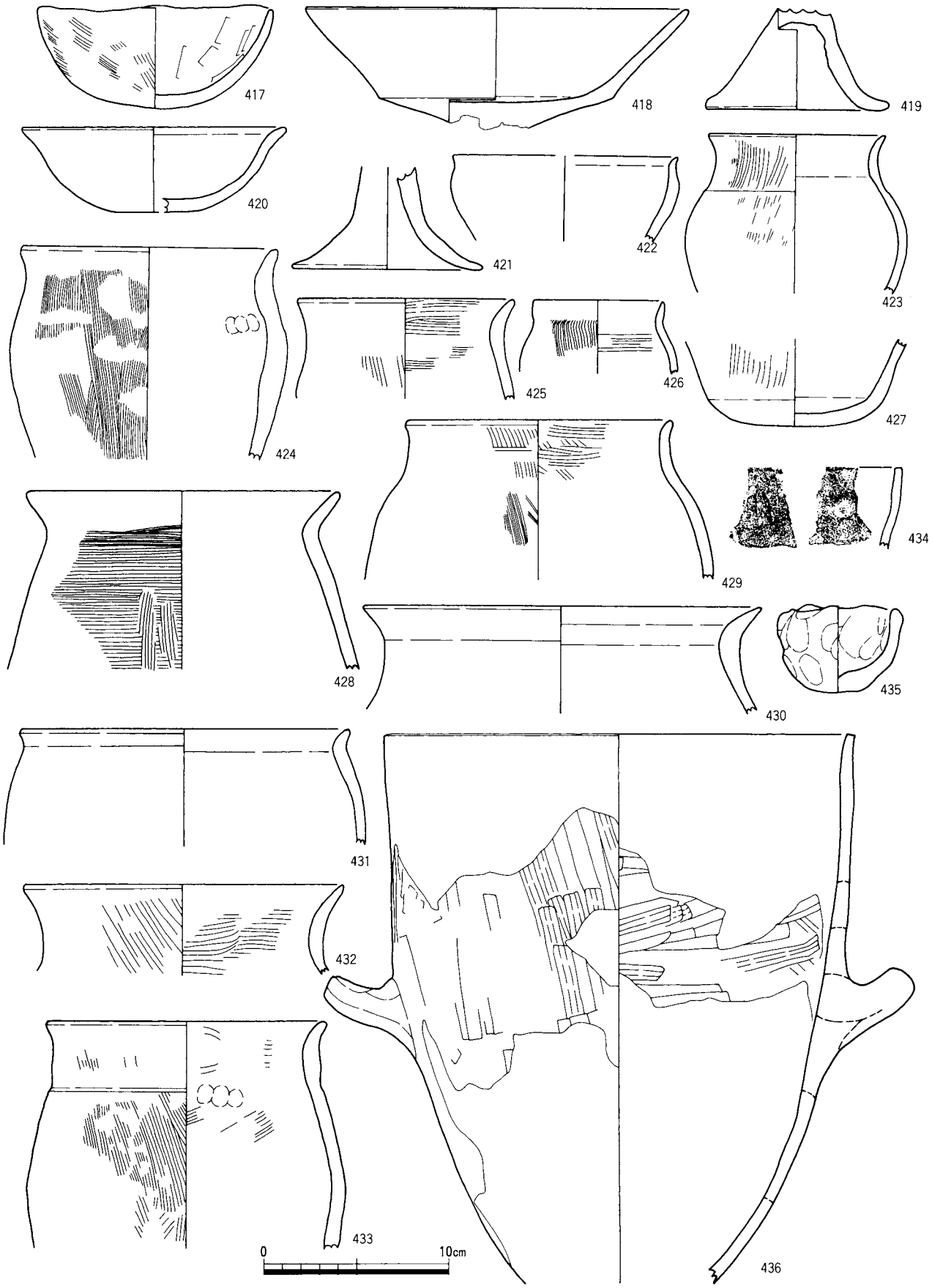
第51図　G地区包含層出土遺物（3）



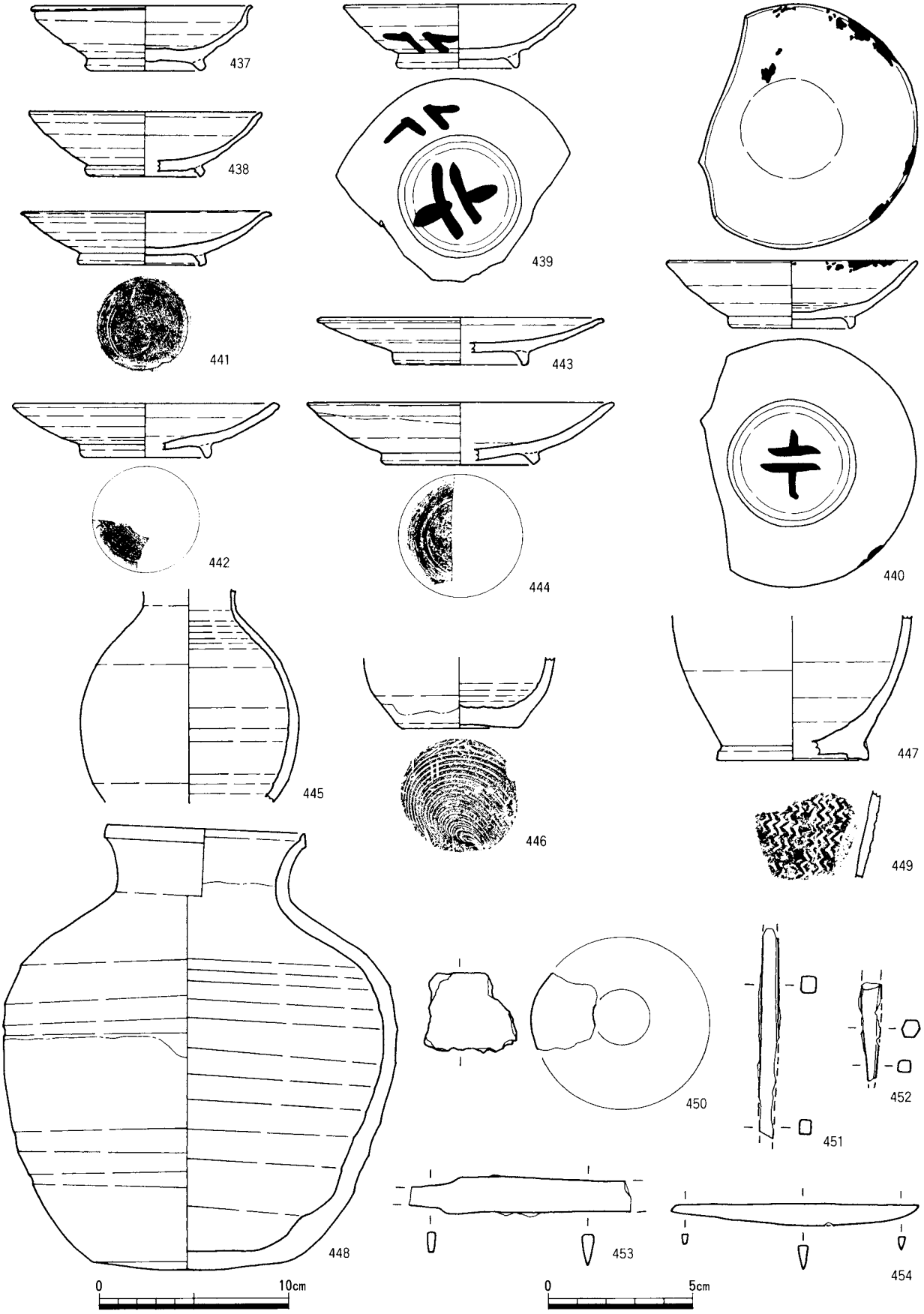
第52図　G地区包含層出土遺物（4）



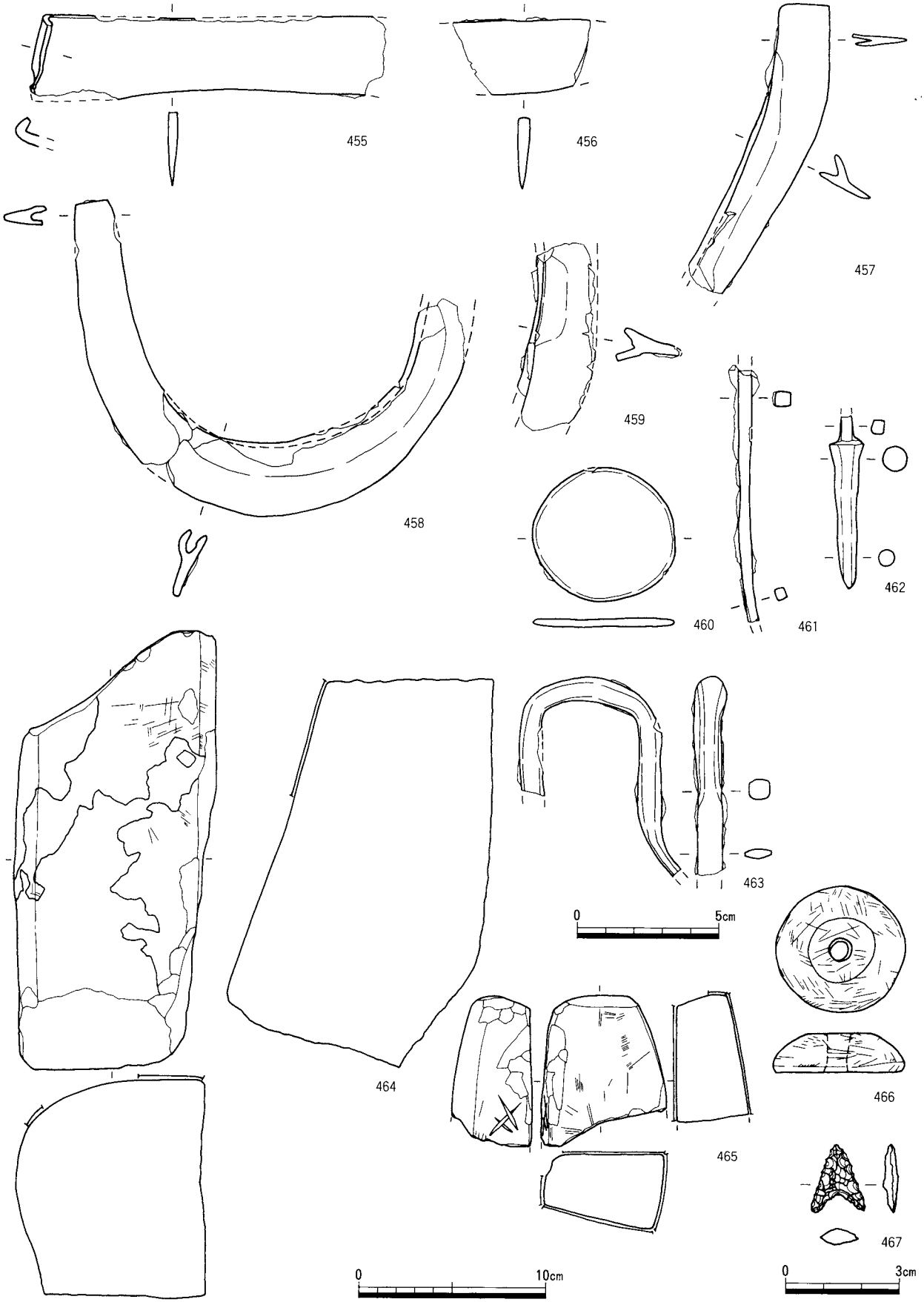
第53図　G地区包含層出土遺物（5）



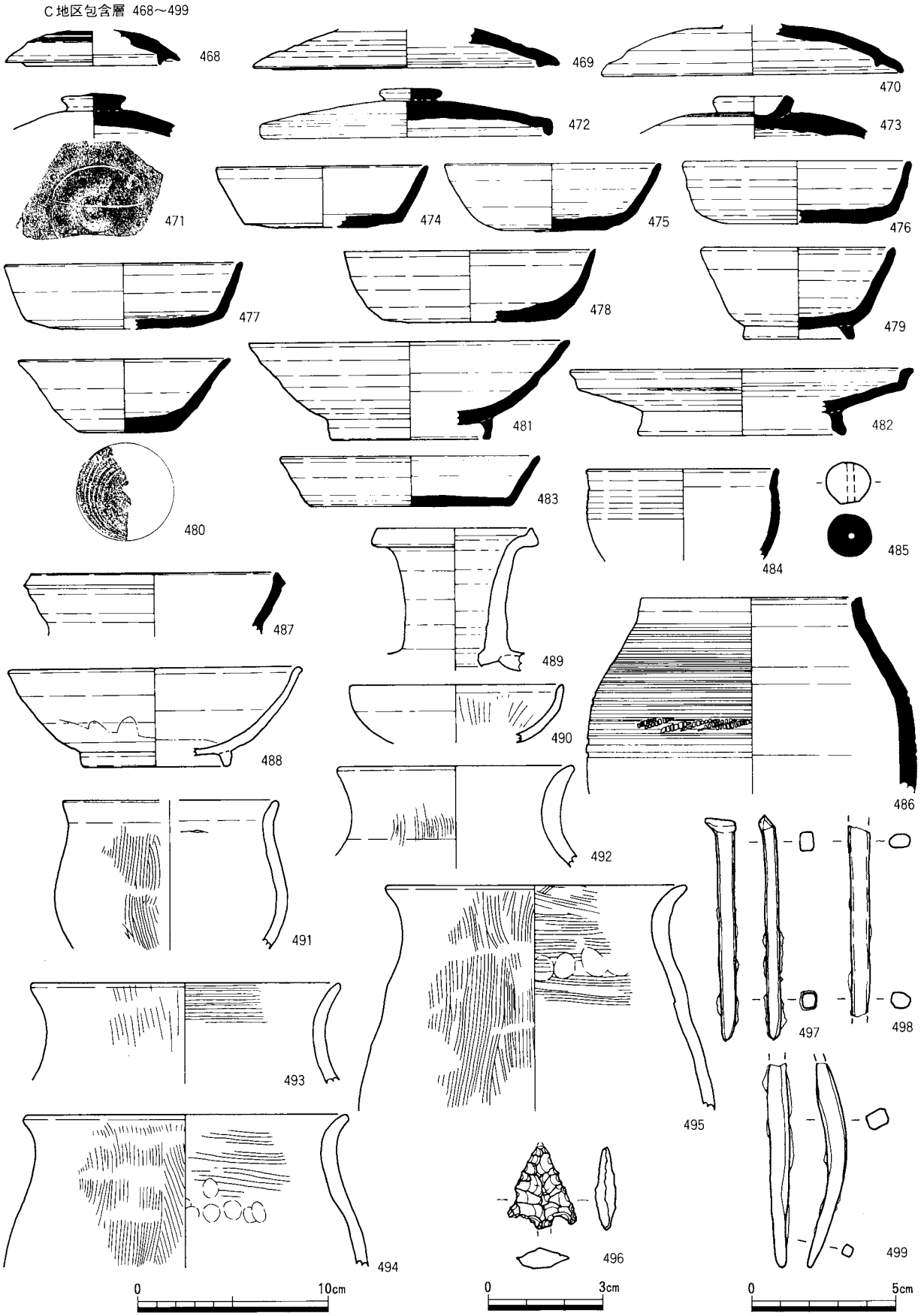
第54図　G地区包含層出土遺物（6）



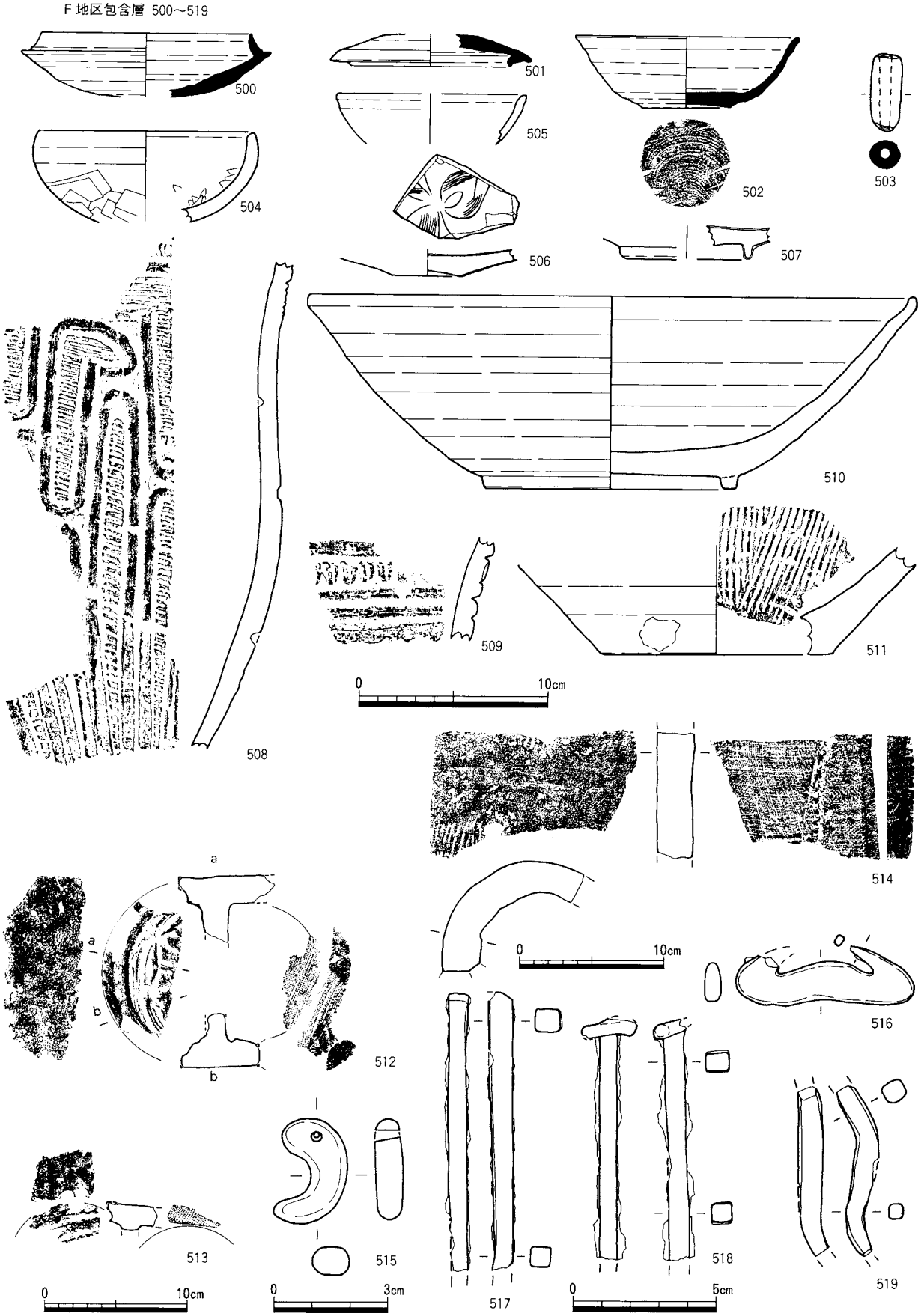
第55図　G地区包含層出土遺物（7）



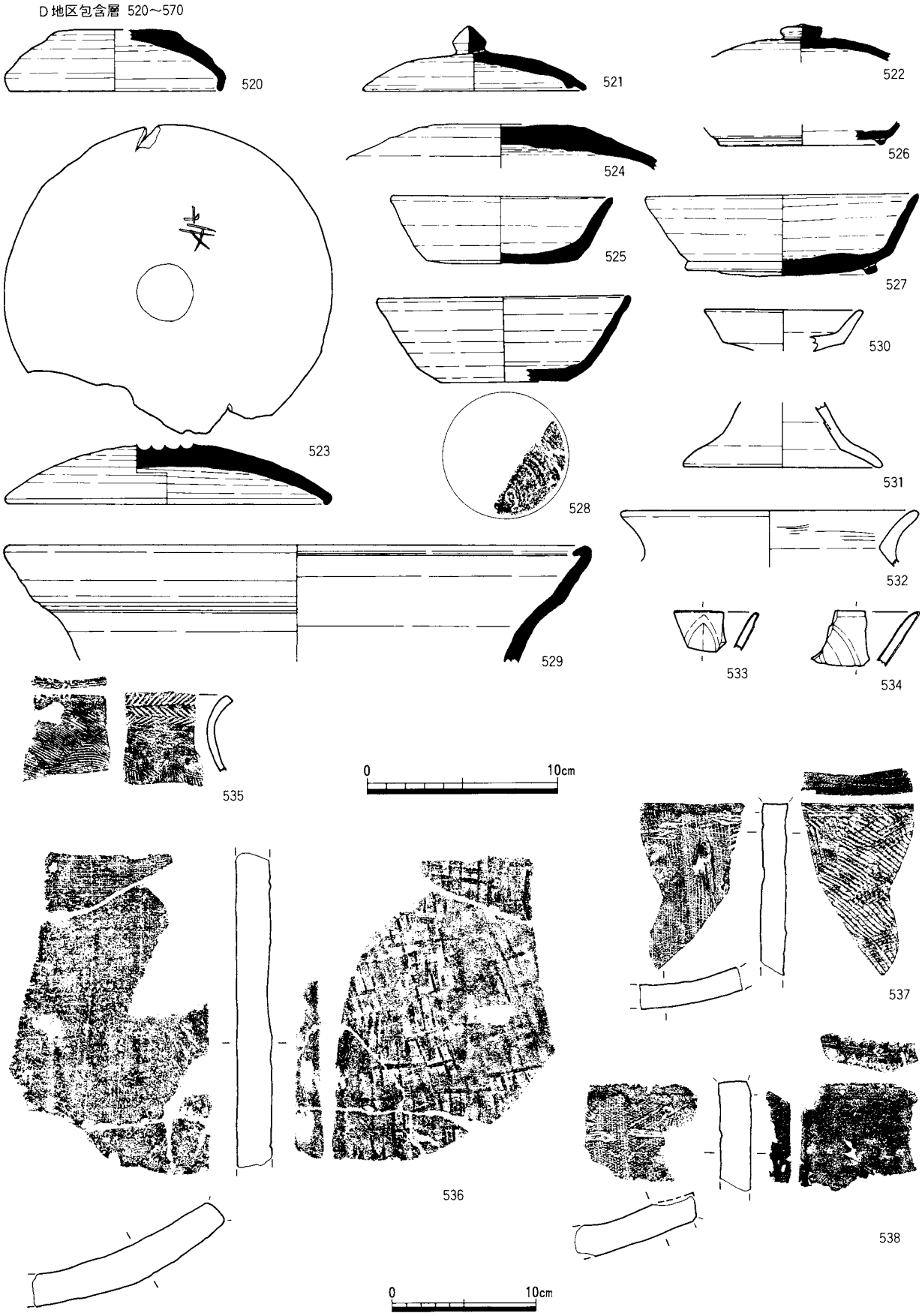
第56図　G地区包含層出土遺物（8）



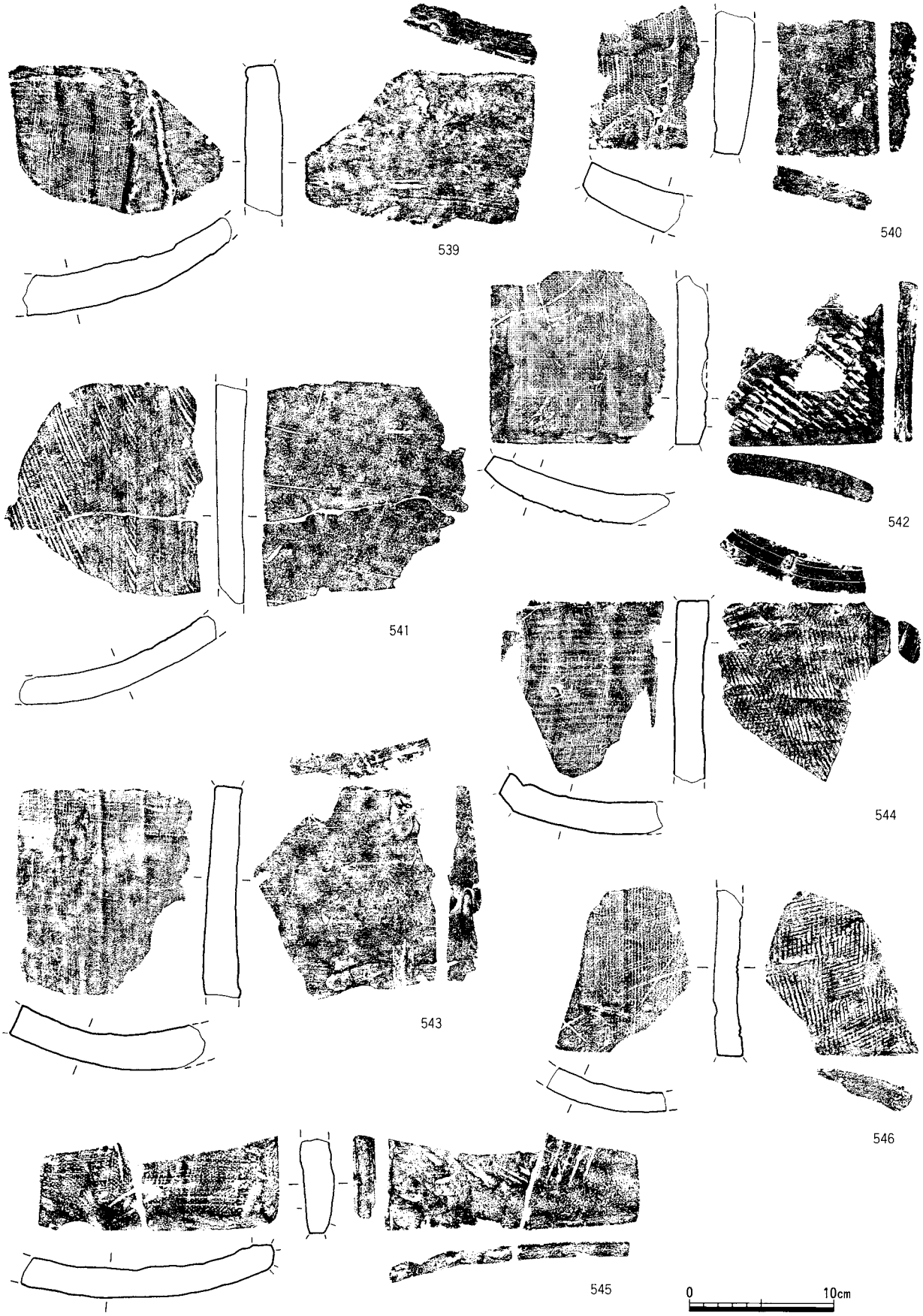
第57図　C地区包含層出土遺物



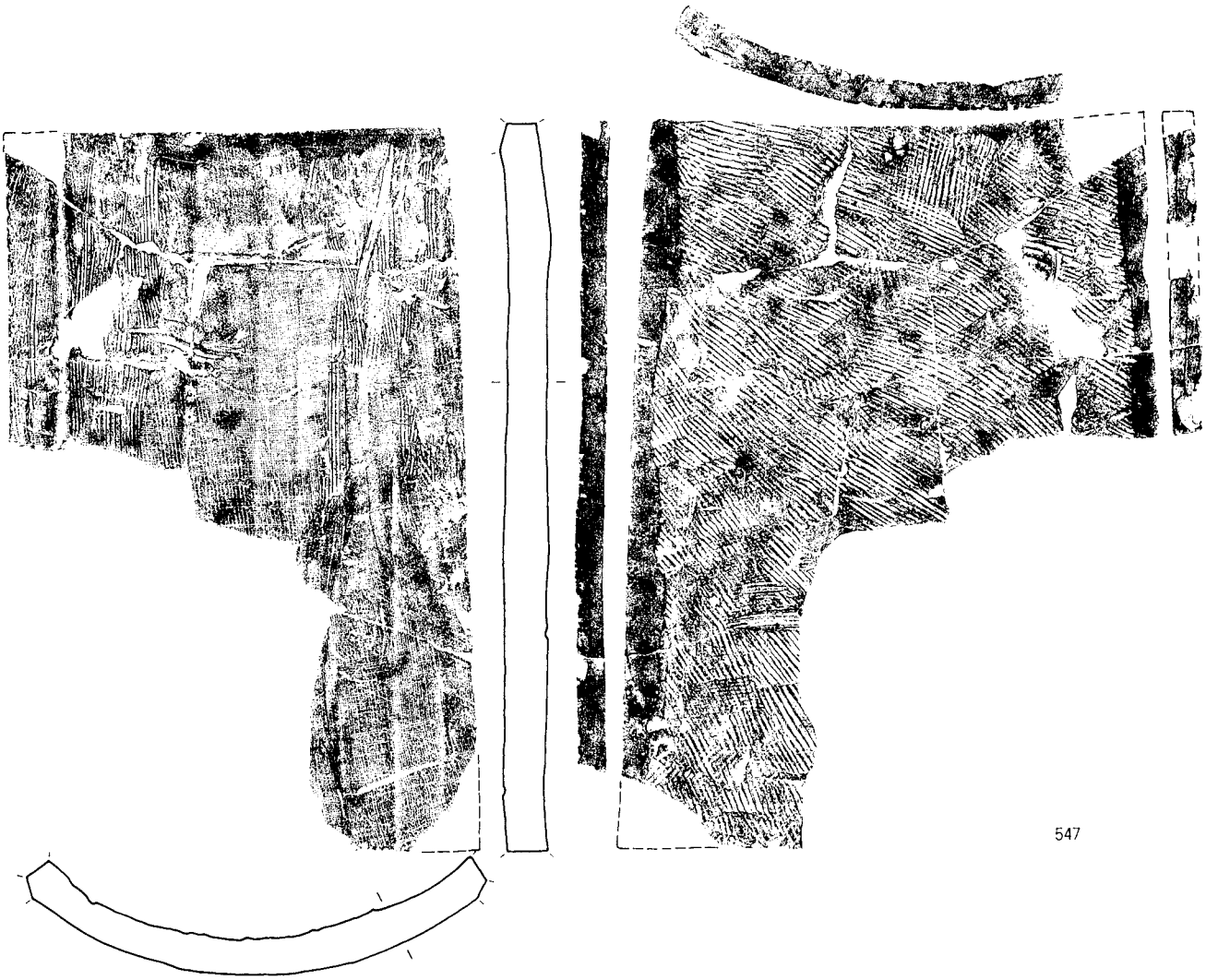
第58図　F地区包含層出土遺物

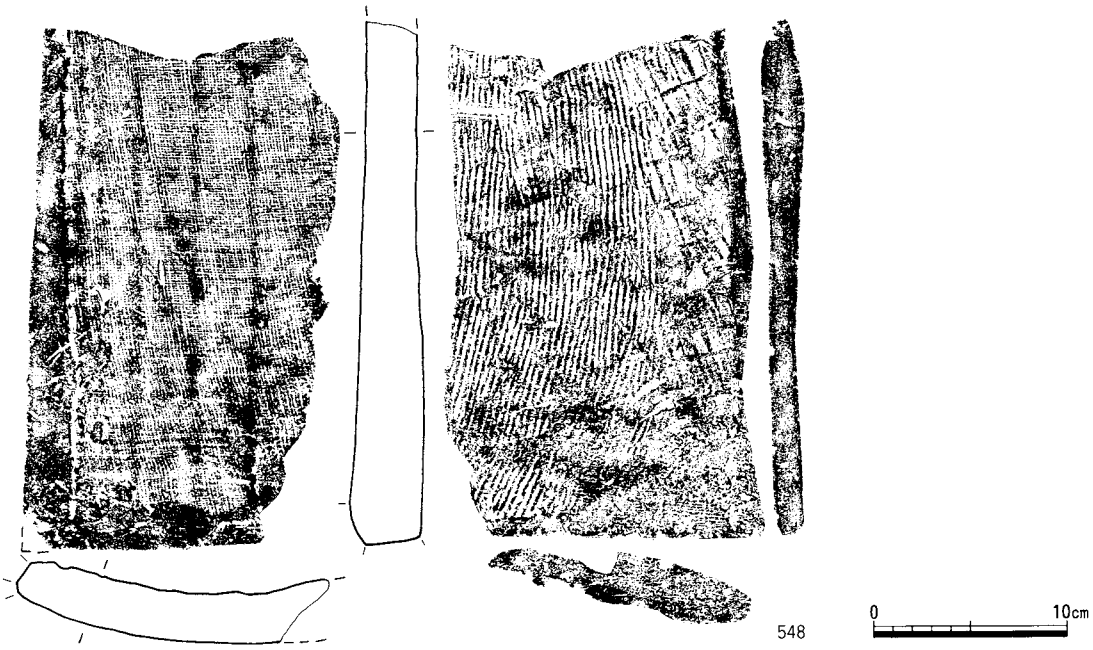


第59図　D地区包含層出土遺物（1）

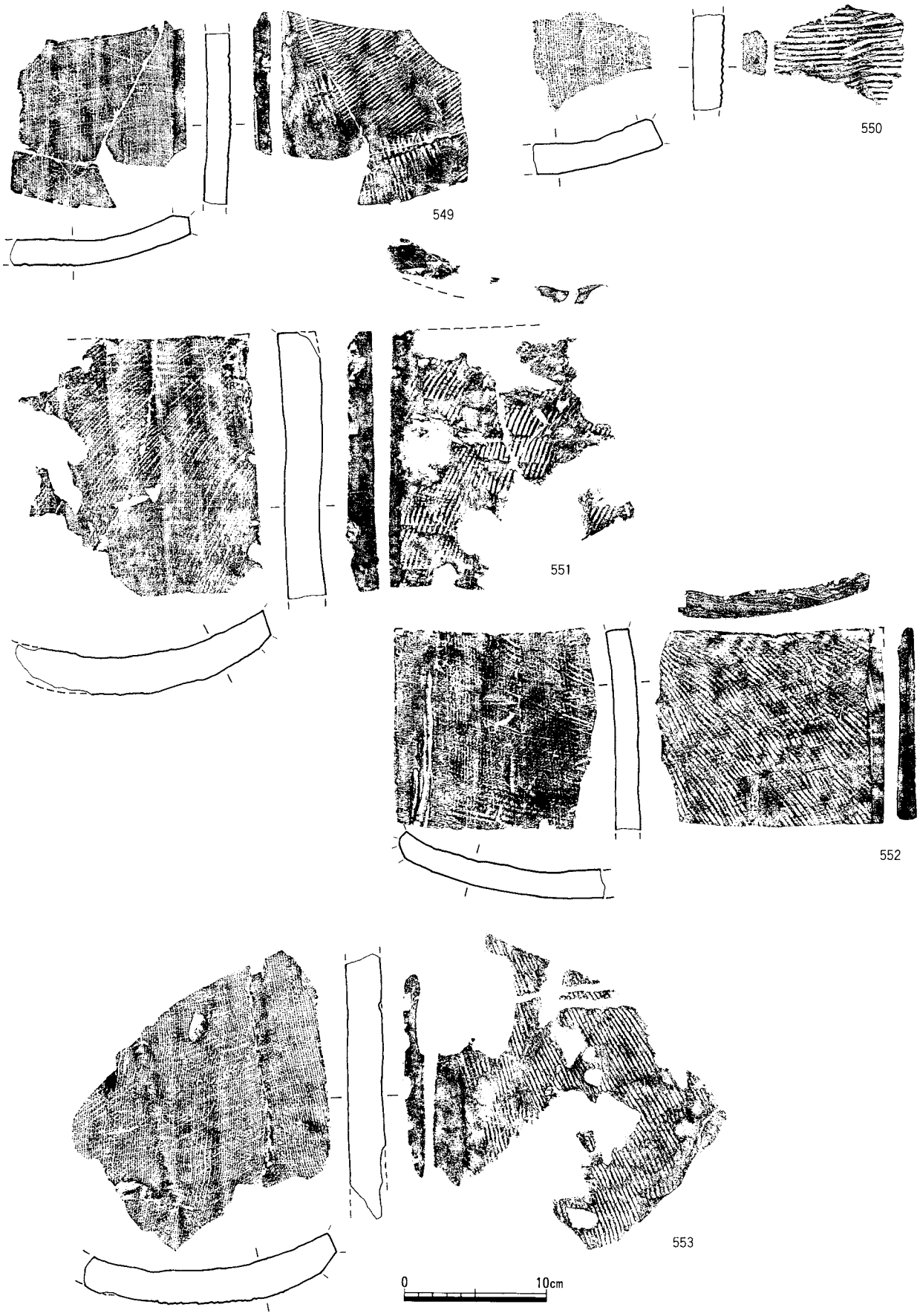


第60図　D地区包含層出土遺物（2）



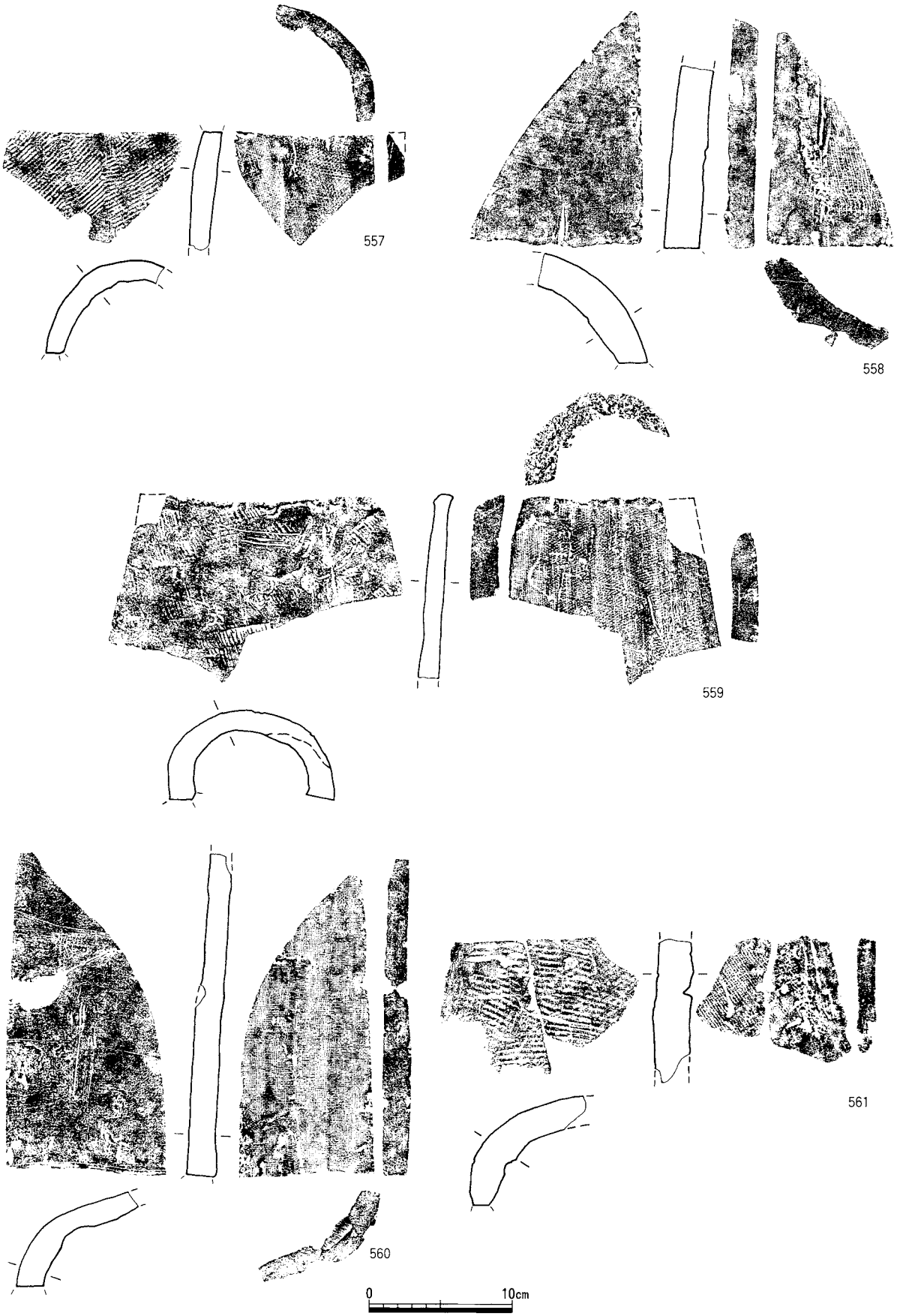


第61図　D地区包含層出土遺物（3）

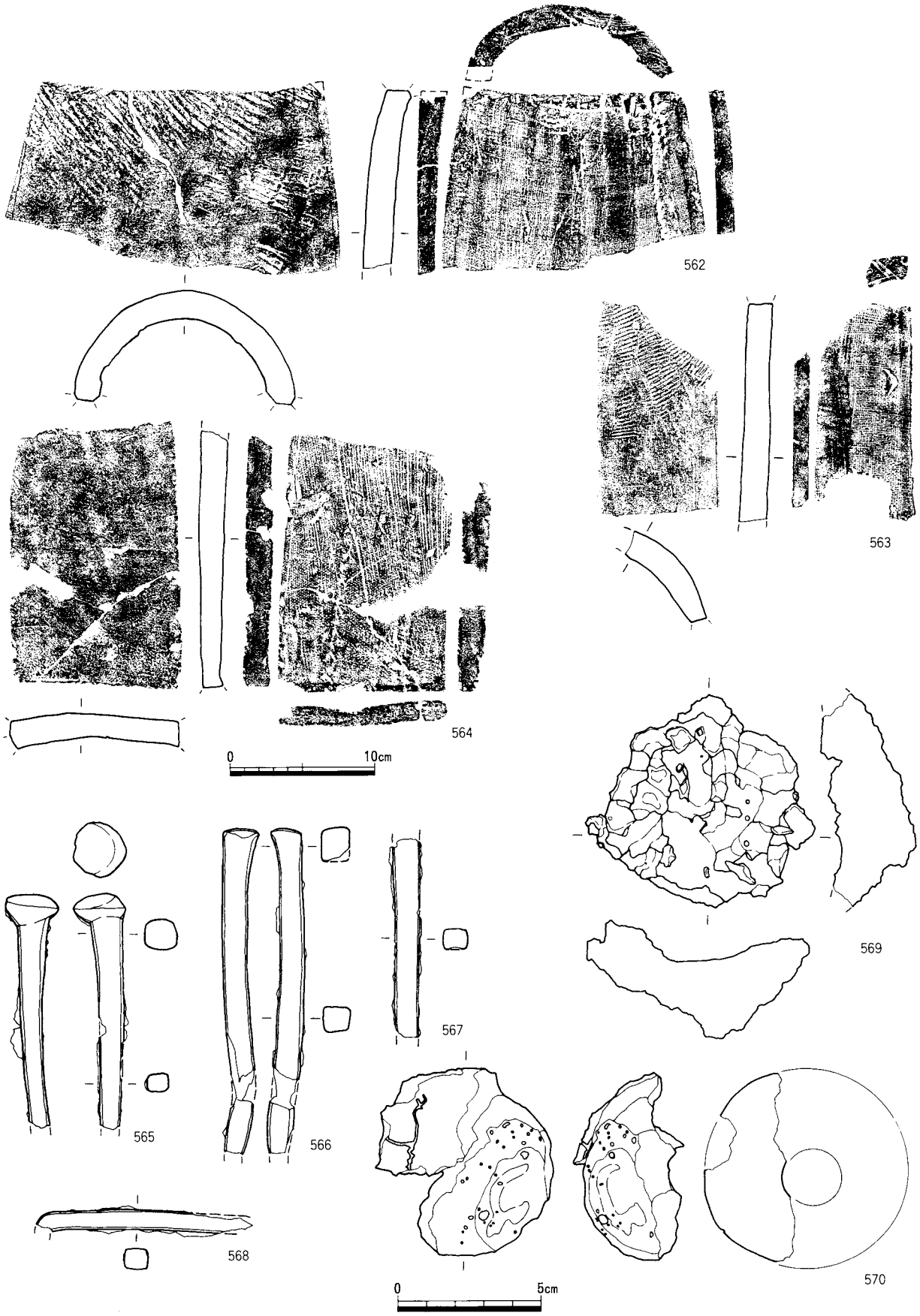


第62図　D地区包含層出土遺物（4）

第63図　D地区包含層出土遺物 (5)



第64図　D地区包含層出土遺物 (6)



第65図　D地区包含層出土遺物（7）

第5章　考察とまとめ

第1節　主要遺物の出土傾向の分析

当遺跡の出土遺物、特に須恵器は、器種・量ともに豊富であり、長期間にわたり継続して消費されたと予想されることと、出土状況にある程度一括性が認められることから、寺院と集落の消長を考察するに当たり検討に耐えうる資料と判断する。検討の対象とする時代は、当遺跡の中心をなす時代、すなわち古墳時代の様相を残す須恵器が出土する時代から灰釉陶器が普及する時代までである。暦年代で言うならば、概ね古墳時代後期の7世紀から平安時代の10世紀頃までに当たる[1)]。

飛騨地域では当該期の須恵器編年は未だ確立されておらず、検討に当たり他地域での編年研究の成果を参照することが必要となる。しかし、当遺跡で出土した須恵器や灰釉陶器の多くは在地産とみられることから、初めから他地域の須恵器編年を当てはめて済ませてしまうことは行うべきではない。他地域での研究成果が当地域でも当てはまるか否か、出土実態に即して検証しなければならないと考える。したがって、既往の研究成果を援用するのは広域に認められる大きな画期に属する事柄にとどめ、地域により大きな差が認められる事柄については、あくまで出土状況その他の当遺跡で得られるデータに立脚することを検討の基本としなければならない。具体的には、①古墳時代の土器様式から律令的土器様式への転換が、律令制が整備された時期に行われたこと、②地域により時期差はあるものの、律令時代器種はヘラ切りに替わって新たに導入された回転糸切り技法により再び様式転換を遂げること、③須恵器に回転糸切り技法が導入された時期よりさらに後に、灰釉陶器が後発の焼き物として新たに普及したこと、以上の3つは当地域でも当てはまる前提事項として受け入れてよいであろう。これに対し、同一器種内での細かい形状の変化の方向性や器種組成の推移については、飛騨地域では未だ他地域との比較検討が行われた例がないため、当地域の遺物による検証を経ずに他地域の研究成果を借用することは控えることとしたい。なお、以下の考察では主に須恵器を検討対象としつつ、土師器と灰釉陶器から得られるデータも必要に応じて使用することとする。

すでに第4章で遺跡の全容を紹介するために遺物破片数の集計結果を示したが、本章ではさらに詳しく検討するために、対象を遺物の器種レベルとし、破片数ではなく接合後の個体数を扱うこととする[2)]。須恵器からは、杯蓋・杯身・小型返り蓋・小型無台杯・返り蓋・摘み蓋・無台杯・有台杯・無台碗・有台碗・有台盤の11器種、灰釉陶器は碗と皿の2器種、土師器は、杯を胎土の精良なものと粗雑なものの2種に分け、これに高杯[3)]を加えて3器種、以上を合わせて16器種を検討対象として選んだ。これらの出土地点別個体数は、すべて巻末の「遺構一覧表」と「遺物包含層一覧表」に記載してある。

須恵器主要11器種については、既往の研究成果を援用し、初現時期を基準にあらかじめ大きく3つのグループに分けることが許されるであろう。次の通りである。

① 古墳時代器種　杯蓋・杯身

② 律令時代前期器種　小型返り蓋・小型無台杯・返り蓋・摘み蓋・無台杯・有台杯

③ 律令時代後期器種　無台碗・有台碗・有台盤

さらに、「律令時代前期器種」としたもののうち、小型返り蓋・小型無台杯・返り蓋の3器種は存続時期が短いと想定されるので、「前期器種」内で小グループを形成すると捉え、特に「律令時代初期器種」と呼ぶこととする。

まず、遺構内出土遺物について調べてみる。複数の器種が確認できたすべての遺構について、その組成を列挙すると第29表のようになる。遺構内出土遺物といえども均質な遺物群というわけではなく、後世の混入品がある程度混じっている可能性は高い。そこで、明らかに後世の遺構である事例と、従来の年代観に照らして組成に時期的な大きなばらつきがみられる事例を除外した上で、このデータを元に、ここに採り上げた主要器種がそれぞれどの器種と共に出土しているのか、すなわち遺構内での出土実態を表にまとめ直してみたのが第30表である[4)]。

第29表　遺構内出土遺物組成分析表

器種 / 遺構番号	須恵器古墳時代器種		須恵器律令時代前期器種						須恵器律令時代後期器種			灰釉陶器碗	灰釉陶器皿	土師器杯(良)	土師器杯(粗)	土師器高杯	備考
			須恵器律令時代初期器種														
	杯蓋	杯身	小型返り蓋	小型無台杯	返り蓋	摘み蓋	無台杯	有台杯	無台碗	有台碗	有台盤						
100号（竪穴）	○	○			△	○	○	○	○							○	無台碗を混入と判断する
102号（ピット）		△	△						△								組成に大きなばらつきがある
172号（溝）	△	△			△		△										
197号（竪穴）						○		○	○								
230号（竪穴）	△	△				○	○	△									
246号（竪穴）	○	○												△	○	△	古墳時代器種のみかたまる典型例
250号（溝）	○	○				△										△	古墳時代器種のみかたまる典型例
260号（溝）	○	○												△		△	古墳時代器種のみかたまる典型例
268号（溝）						△			△			△					
289号（焼土）	△	△															
292号（溝）	○	△															
406号（溝）		△	△			○	○							△			
423号（土坑）						△	○										
466号（溝）		△				△											
467号（溝）						○	△							△			
470号（焼土）					△	○	△									△	
488号（焼土）						△			△			△					
526号（焼土）						○	△	△	△								
529号（集石）		△							△								組成に大きなばらつきがある
531号（竪穴）		○		△			○									△	
533号（焼土）									○	△			△				
549号（溝）		△													△	○	特例、他遺構よりずっと古い
550号（溝）	◎	◎	△		△	◎	◎	◎	◎	△	△	○	○			◎	組成に大きなばらつきがある
684号（焼土）		△				△	△									△	
1004号（土坑）						○	△										
1083号（竪穴）		△			○	◎	○		◎	○	○	◎	◎				杯身・返り蓋・無台杯を混入と判断する
1085号（竪穴）	△						△										
1116号（近世の井戸）					△		△		○		△						近世の遺構なので除外
1120号（焼土）								△	△		△						
1123号（焼土）		△	△			○	△		○		△						ばらつきが大きく年代の判断不能
1132号（焼土）						○	○	△									
2001号（竪穴）		○			○	◎	○	○	○					○		○	杯身・返り蓋を混入と判断する
2004号（近世の土坑）		○				△											近世の遺構なので除外
3036号（ピット）							△	△									

△＝1個体　○＝2～9個体　◎＝10個体以上　　網掛けは除外すべき事例

第30表　主要器種相関表

	杯蓋	杯身	小型返り蓋	小型無台杯	返り蓋	摘み蓋	無台杯	有台杯	無台碗	有台碗	有台盤	灰釉陶器碗	灰釉陶器皿	土師器杯(良)	土師器杯(粗)	土師器高杯
杯蓋		◎			○	◎	◎	○	△					○	△	◎
杯身	◎		△	△	◎	◎	◎	◎	◎	△	△	△	△	◎	○	◎
小型返り蓋		△				△	△							△		
小型無台杯		△					△									△
返り蓋	○	◎				◎	◎	○	◎	△	△	△	△	△		◎
摘み蓋	◎	◎	△		◎		◎	◎	◎	△	△	◎	△	◎		◎
無台杯	◎	◎	△	△	◎	◎		◎	◎	△	△	△	△	◎		◎
有台杯	○	◎			○	◎	◎		◎					△		○
無台碗	△	◎			◎	◎	◎	◎		○	△	◎	○	△		○
有台碗		△			△	△	△		○		△	△	○			
有台盤		△			△	△	△		△	△		△	△			
灰釉陶器碗		△			△	◎	△		◎	△	△		△			
灰釉陶器皿		△			△	△	△		○	○	△	△				
土師器杯（良）	○	◎			△	◎	◎	△	△						△	◎
土師器杯（粗）	△	○	△											△		○
土師器高杯	◎	◎		△	◎	◎	◎	○	○					◎	○	

◎＝共伴が3例以上認められる　○＝共伴が2例認められる　△＝共伴が1例のみ認められる

この2つの表に示された遺構内での出土実態から読みとれる傾向は次の通りである。

①古墳時代の器種である須恵器の杯蓋と杯身は、予想される通り他の器種を交えずこの2器種のセットで出土することが多い。ただし、須恵器の律令時代前期の器種である小型返り蓋・小型無台杯・返り蓋・摘み蓋・無台杯・有台杯、それに土師器杯（良）・土師器杯（粗）・土師器高杯と共に出土することも決して稀ではない[5]。

②須恵器の小型返り蓋と小型無台杯のセットは確認個体数が少ないため傾向を捉えにくいが、須恵器の古墳時代器種である杯身や律令時代前期器種である摘み蓋・無台杯、それに土師器杯（良）や土師器高杯と共に出土している。

③須恵器の返り蓋はほとんどの器種と共に出土しているが、確認個体数が多くないため、傾向を捉えにくい。あえて言えば、須恵器の古墳時代器種と律令時代前期器種、それに土師器高杯と共に出土する傾向がある。

④須恵器の摘み蓋は確認個体数が極めて多く、須恵器の小型無台杯と土師器杯（粗）を除くすべての器種と共に出土した。結果として須恵器の古墳時代器種・律令時代前期器種・律令時代後期器種のいずれとも共に出土している。灰釉陶器と共に出土した例もある。

⑤須恵器の無台杯と有台杯は須恵器の律令時代前期器種と共に出土する傾向が強い。その一方で、須恵器の古墳時代器種や無台碗、土師器杯（良）・土師器高杯と共に出土する傾向も認められる。

⑥須恵器の無台碗は確認個体数が極めて多く、須恵器の小型返り蓋・小型無台杯、それに土師器杯（粗）以外のすべての器種と共に出土している。

⑦須恵器の有台碗と有台盤は確認個体数が多くないため傾向を捉えにくい。灰釉陶器と共に出土することを特徴として挙げることができるくらいである。

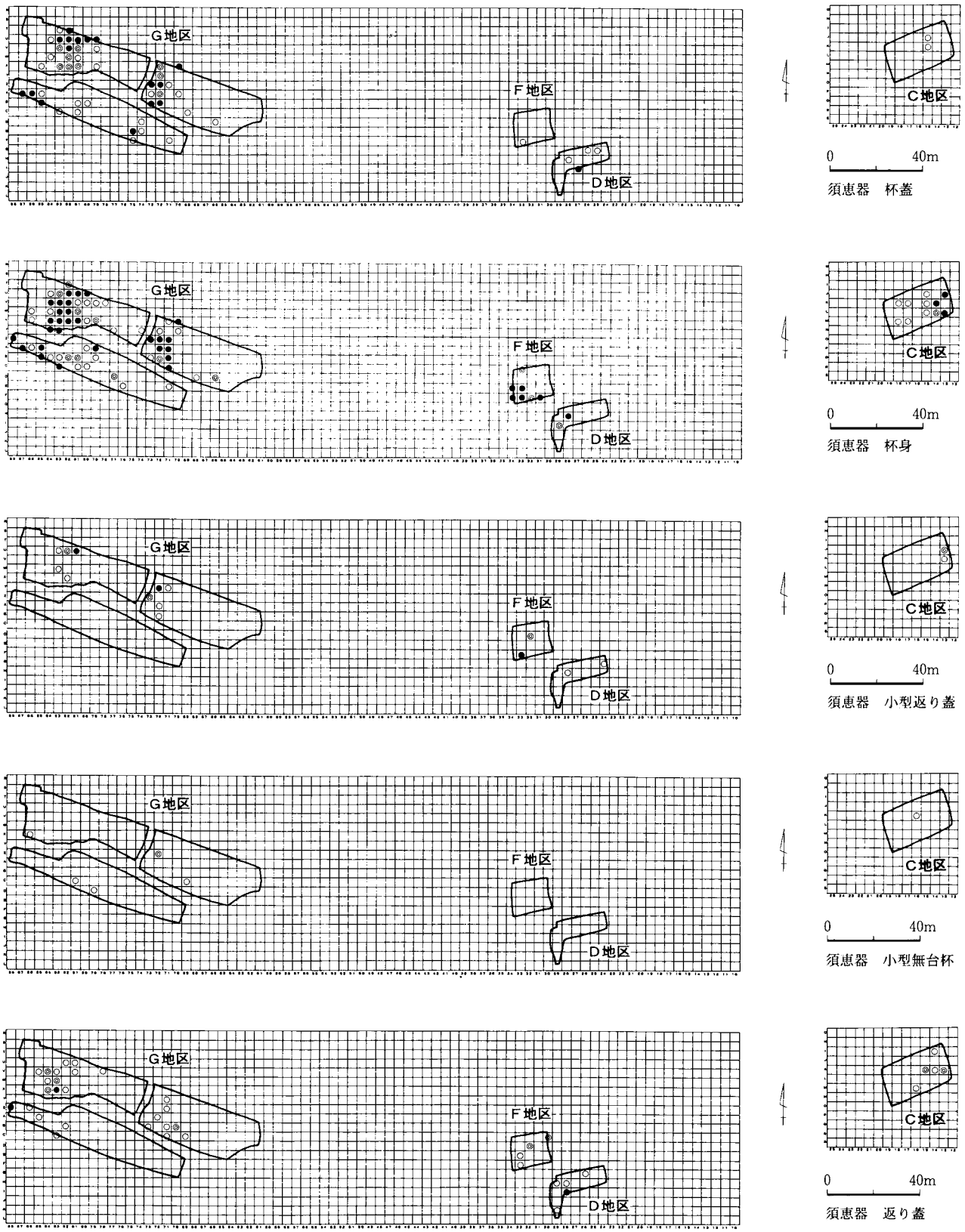
⑧灰釉陶器の碗・皿は須恵器の律令時代後期器種と共に出土する傾向が強い。ただし、律令時代前期器種でも摘み蓋のみは共に出土する傾向がとりあえず認められる。須恵器を交えず灰釉陶器のみが出土する遺構はみられない。

⑨土師器杯（良）と土師器高杯は、須恵器の古墳時代器種と律令時代前期器種と共に出土する傾向が認められる。

⑩土師器杯（粗）は須恵器の古墳時代器種と共に出土する傾向が認められる。

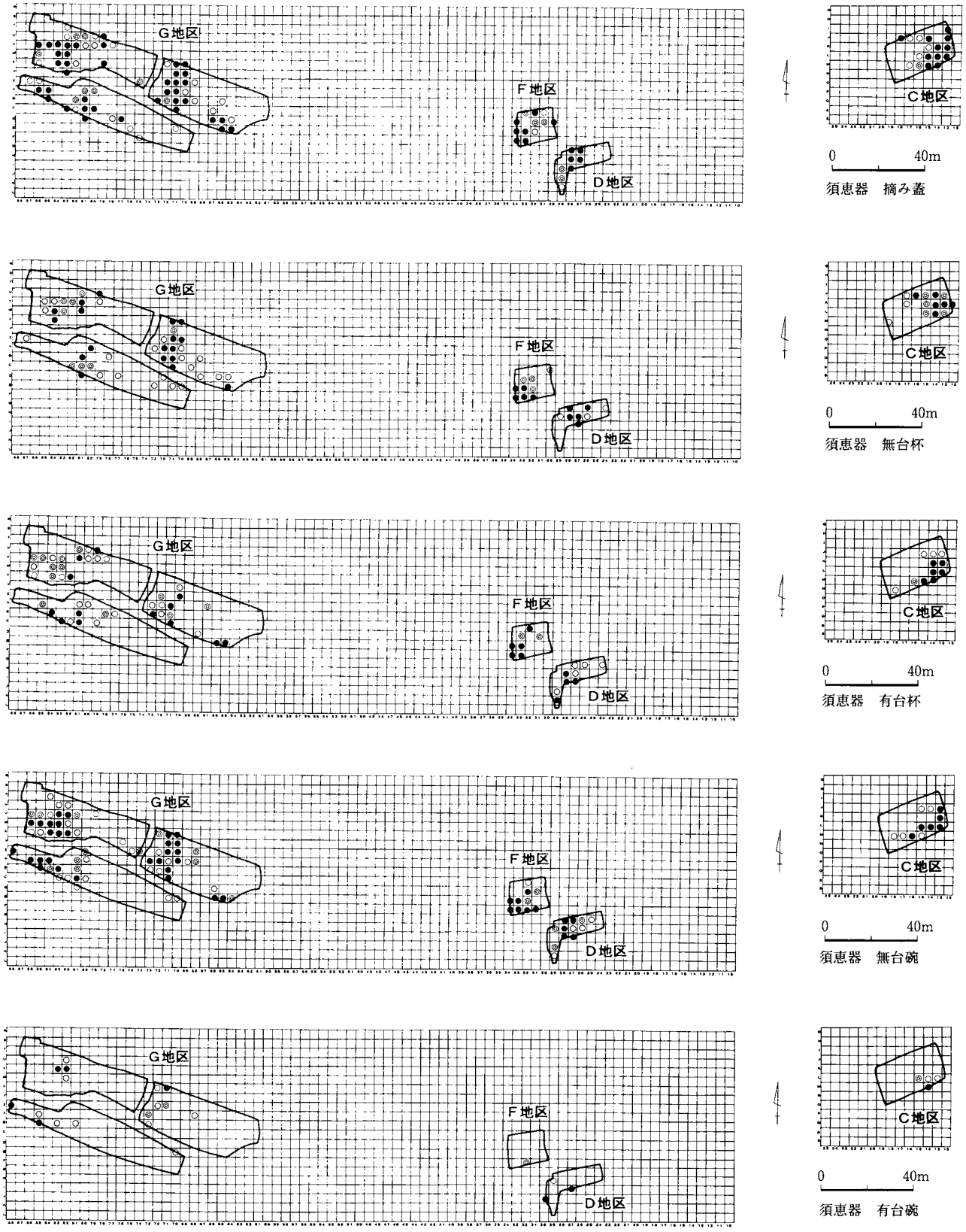
次に、包含層出土遺物について調べてみる。遺構内出土遺物に比べて斉一性を欠くことから、包含層出土遺物はこのような考察への資料として寄与するところは多くはないと予想される。しかしながら、第3章で述べたように、当遺跡では遺構という形で認識できたのはこの地で営まれた生活痕跡のごく一部にすぎない可能性が高いことから、全体傾向を巨視的に把握するには包含層出土遺物を無視するわけにはいかない。遺構内出土遺物から得られた上記の知見を補正ないし再検証するための資料として、包含層出土遺物の活用の方策を工夫すべきであろう。

上記主要器種の包含層出土分について、それぞれの分布範囲と出土密度を図示する[6]（第66図～第68図）。第4章では遺物種別レベルで読みとれる傾向を報告したが、ここで改めて器種レベルでの傾向を捉えることができる。さらに、遺構内出土遺物と包含層出土遺物の出土傾向の相違を明確にするために、各地区の遺構と包含層で、須恵器の古墳時代器種、律令時代初期器種、同前期器種、同後期器種、灰釉陶器がそれぞれどのような割合で出土したかをグラフで示す（第69図）。



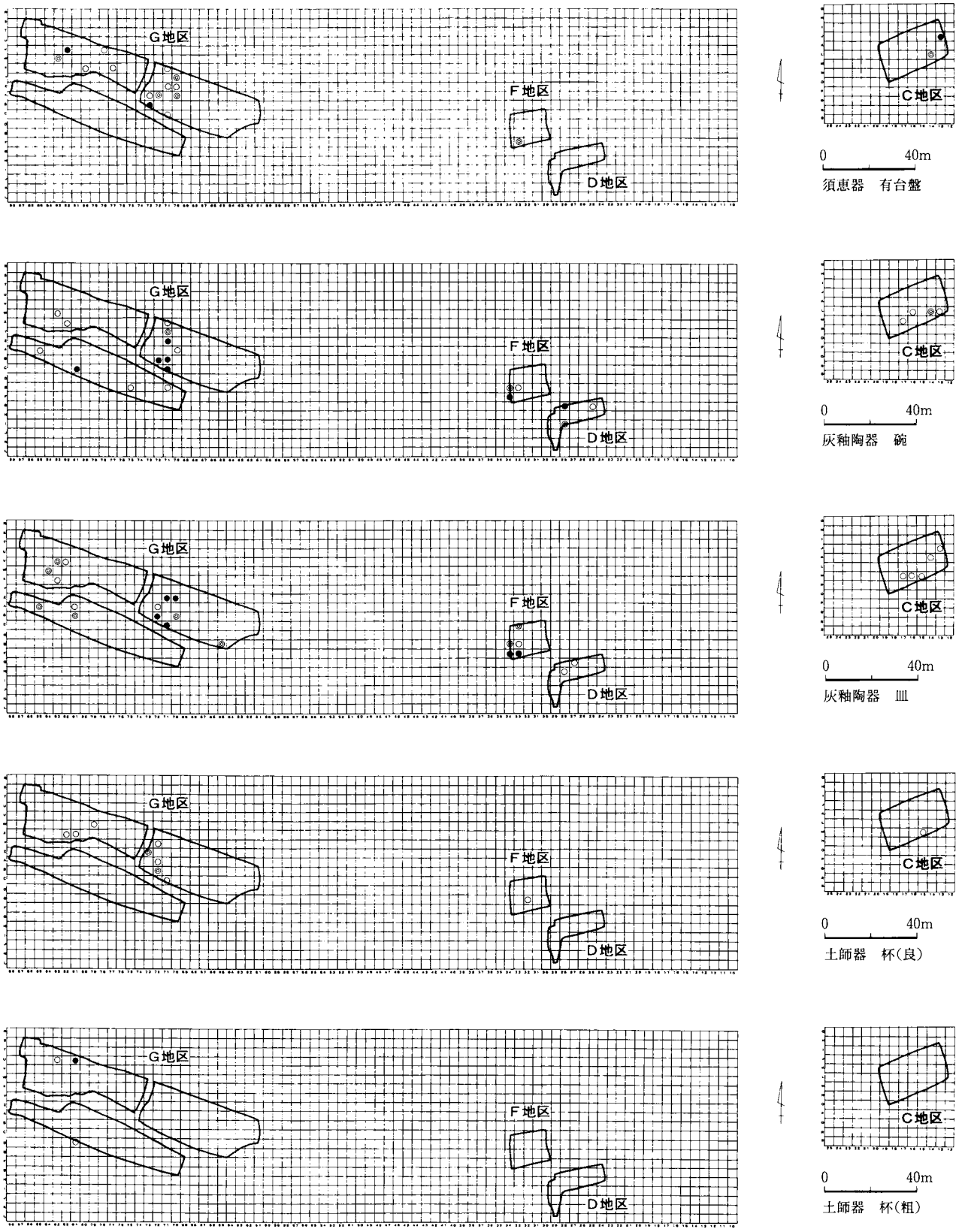
空欄　0～0.06個／m² 未満（1グリッドで1個未満）　○ 0.06～0.13個／m² 未満（1グリッドで1個以上2個未満）　◎ 0.13～0.19個／m² 未満（1グリッドで2個以上3個未満）　● 0.19個／m² 以上（1グリッドで3個以上）

第66図　主要器種の包含層での分布状況 (1)



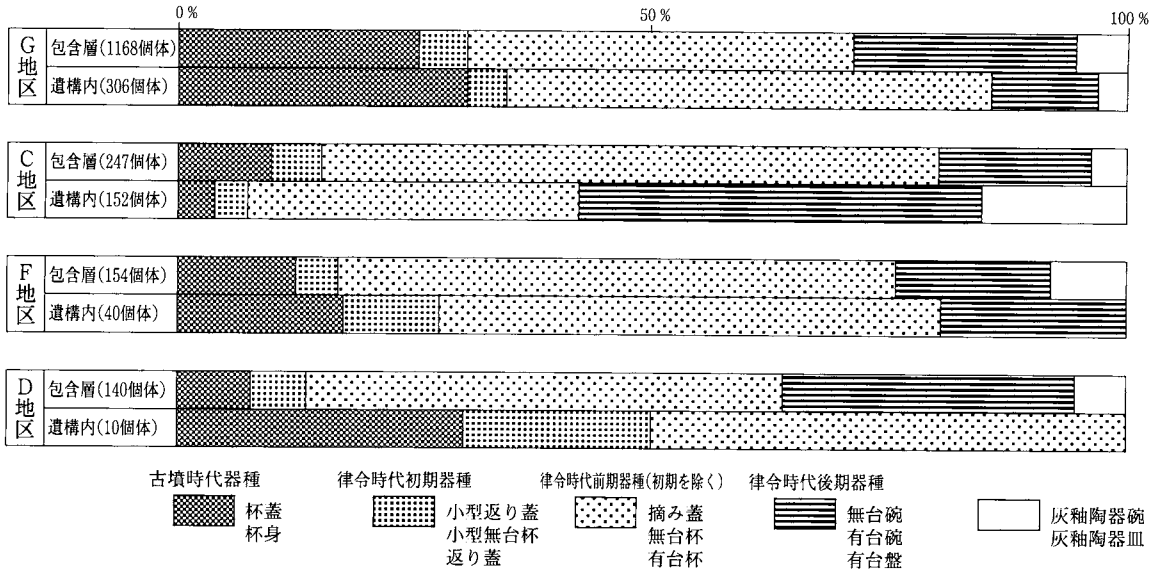
空欄　0～0.06個／m² 未満（1グリッドで1個未満）　○ 0.06～0.13個／m² 未満（1グリッドで1個以上2個未満）　◎ 0.13～0.19個／m² 未満（1グリッドで2個以上3個未満）　● 0.19個／m² 以上（1グリッドで3個以上）

第67図　主要器種の包含層での分布状況 (2)



空欄　0～0.06個／m² 未満（1グリッドで1個未満）　○ 0.06～0.13個／m² 未満（1グリッドで1個以上2個未満）　◎ 0.13～0.19個／m² 未満（1グリッドで2個以上3個未満）　● 0.19個／m² 以上（1グリッドで3個以上）

第68図　主要器種の包含層での分布状況 (3)



第69図　地区別器種組成グラフ

第66～68図から、遺物の帰属時期による分布範囲の差のようなものを読みとることは難しい。やはり、包含層出土遺物は遺構内出土遺物に比べ、使用実態を直に示すような状態で出土することは稀であることを認めなくてはならない。遺構内と包含層とで遺物出土傾向に違いが生じることについては、第69図に示した各地区の包含層と遺構内での器種組成の比較検討結果から裏付けられる。C地区では遺構内出土遺物と包含層出土遺物で不整合がみられることはすでに第4章でふれたが、器種レベルでみた場合、不整合はより鮮明である。包含層では少数派であった須恵器の律令時代後期器種と灰釉陶器が、遺構内では過半数を占めることが確かめられる。つまり、包含層出土遺物の方が遺構内出土遺物より古相を示しているのである。F地区では包含層と遺構内とで組成の傾向は似ているものの、包含層では確認される灰釉陶器が遺構内にはみられないという大きな相違点が認められる。D地区でも、遺構内出土遺物数がごく少ないため不確実ではあるが、須恵器の律令時代後期器種と灰釉陶器は包含層では他地区同様に出土しているにもかかわらず、遺構内からは全く出土していないという著しい不整合がみられるのである。

しかし、第66～68図から新たにわかることもある。まず、須恵器でG地区北端部（U列以北）において高密度を示すのは古墳時代器種である杯蓋と杯身のみであることがわかる。この区域は古墳時代器種が使われた時期に集落が営まれ、その後は衰退したと推測される。さらに、土師器杯（粗）もこの区域で多く出土しており、この器種が須恵器の古墳時代器種に伴うものであることが裏付けられる。ちなみに、土師器杯（良）は全く異なる分布を示しており、両者を別器種と捉えてよいことが確かめられる。次に、須恵器の律令時代初期器種とした小型返り蓋・小型無台杯・返り蓋は、その前後の主要器種に比較して明らかに出土密度が小さく、分布範囲も限られていることがわかる。これは、流通量が限られており、流通期間も短かったことを示すと捉えることができる。近年、7世紀代の須恵器生産の推移について、「杯G（小型無台杯）は杯類の主力生産品となっておらず、大きな流れとしては杯H（杯身）主流の時代から杯B（有台杯）主流の時代に移行する」とする説が有力視されているが[7]、この見解は当遺跡にも当てはまると考えてよいであろう。さらに、灰釉陶器は分布範囲・出土

密度ともに、先行する須恵器の律令時代後期器種に匹敵しえないことも明らかとなる。先に遺構内出土遺物の分析から読みとることができた通り、須恵器を交えず灰釉陶器単独で使われた時期を想定するのは難しく、須恵器の律令時代後期器種を補うような使用法を想定すべきであろう。

さて、ここまでの遺構内出土遺物と包含層出土遺物の分析により明らかになったことで重要と思われるのは、当遺跡では、須恵器の古墳時代後期器種、律令時代前期器種、律令時代後期器種、灰釉陶器、以上の4グループはこの順で現れるとはいえ、一時的という以上の共存期間を持ちつつ移り変わっていることである。これを前提とし、当遺跡の遺構に遺物組成面から古い順に区分を設けるとすると、次のように整理するのが最も無理がないと考える[8]。

Ⅰ期　古墳時代器種のみの時期（遺構・遺物が散発的にしか確認されない時期は除く）。

Ⅱ期　古墳時代器種と律令時代前期器種（初期器種を含む）が混在する時期。

Ⅲ期　律令時代前期器種のみの時期（律令時代初期器種が残るか否かは不明）。

Ⅳ期　律令時代前期器種と律令時代後期器種が混在する時期（律令時代初期器種は残らない）。

Ⅴ期　ほぼ律令時代後期器種のみで（摘み蓋は残る）、さらに灰釉陶器を伴う時期。

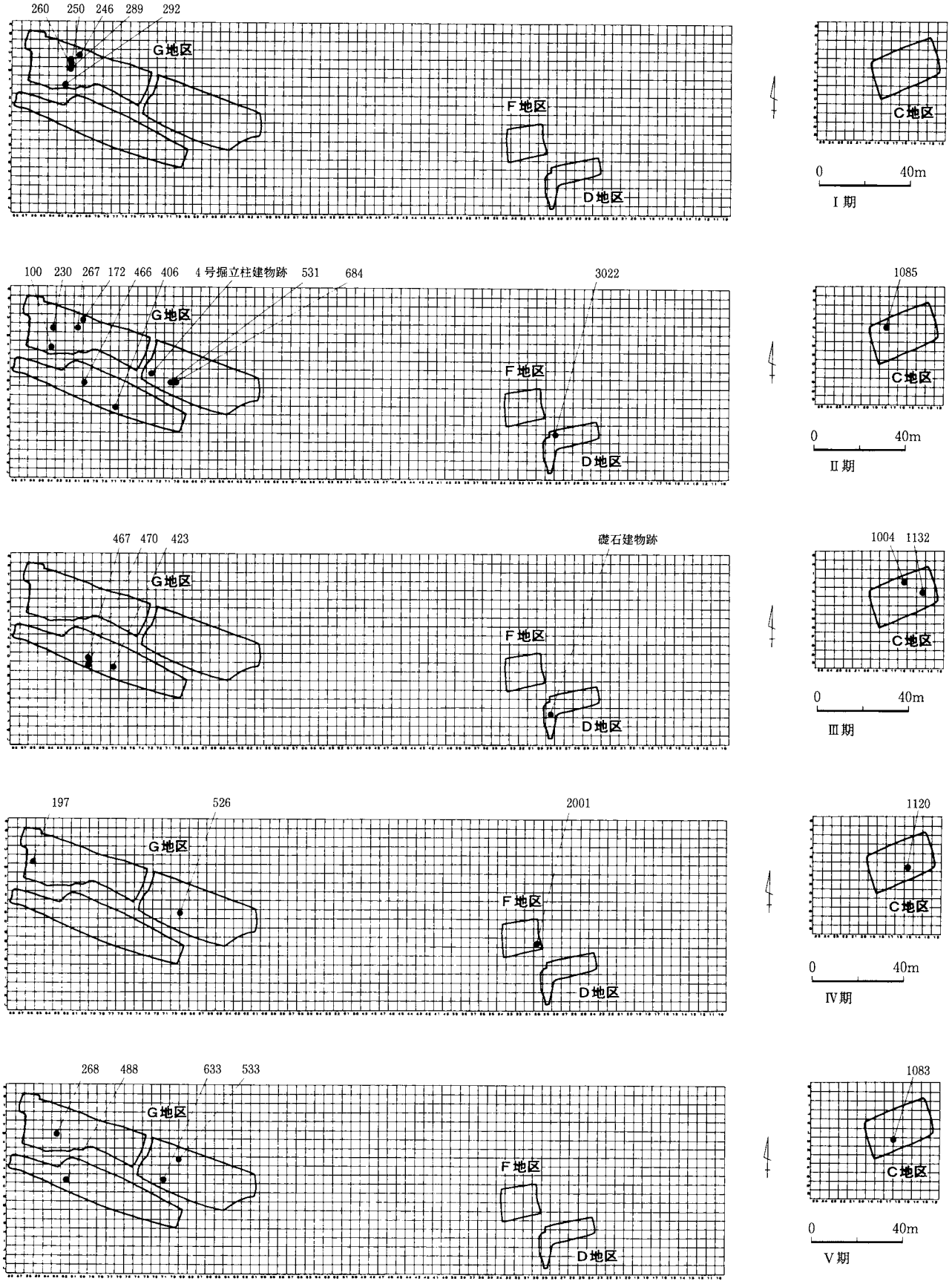
このように区分するならば、先に第29表に掲げた遺構を区分する際に加えなければならない資料操作、換言すれば「整合性を欠くとの理由から一部の遺物を混入品として排除すること」を、最小限に抑えることができる[9]。分析結果を基に今回の調査で検出した遺構を帰属時期毎に分けた結果を表と図として掲げておく（第31表、第70図）。

以上でひとまず分析を終えるが、当遺跡の出土遺物を素材としてさらに考察できることがあるとすれば、個体数に恵まれたいくつかの器種について時期の推移に伴う形態変化を追うことである。補足として、当遺跡では特に数に恵まれた器種である無台碗の形態変化について調べてみたい。Ⅳ期に属する遺構とⅤ期に属する遺構とで、遺構内から出土した須恵器無台碗に法量や形態の差がみられないかを調べるのが有効な方法であろう。これは言い換えれば、灰釉陶器が普及する前の時期の無台碗と灰釉陶器と共伴する無台碗とを見分ける拠り所を探ることである。

対象とするのは実測可能な個体、すなわち本書に図示した個体に限ることとする[10]。手順としては、該当する遺物について、まず、口径・器高・底径を計測して法量の大小を比較し、次に、口径を底形で割った値を求めてプロポーションを比較することとする（第32表）。

第31表　遺構の帰属時期一覧

時期区分	G地区	C地区	F地区	D地区
Ⅰ期	246・250・260・289・292			
Ⅰ期 or Ⅱ期	27 1号掘立柱建物跡・3号掘立柱建物跡			3032
Ⅱ期	100・172・230・267・406・466・531・684 4号掘立柱建物跡	1085		3022
Ⅱ期 or Ⅲ期	618			
Ⅲ期	423・467・470	1004・1132		礎石建物跡
Ⅳ期	197・526	1120	2001	
Ⅳ期 or Ⅴ期	62・628			
Ⅴ期	268・488・533・633	1083		



第70図　遺構分布変遷図

まず法量の平均値の比較からは、Ⅳ期の無台碗に比べⅤ期の無台碗は、口径は0.5cm大きいものの底形は0.1cm下回り、器高はほぼ同じであるとの結果が得られた。つまり、Ⅳ期からⅤ期への推移においては大型化の傾向も小型化の傾向も認めがたい。ただし、器形が変化していることが読みとれる。この点をはっきりさせるために、次に各々の個体の「口径÷底径」の値の平均値を比較すると、Ⅳ期＝2.1、Ⅴ期＝2.3との数値を得ることができた。これはⅤ期の無台碗の方が口径に対して底径が小さく、より体部の傾きの大きい器形になっていることを示している。

代表的な個体を選んで、この形態変化を図で示しておく（第71図）。259がⅣ期、196がⅤ期の代表例である。そもそも須恵器の無台碗は、先行器種である無台杯の底部外面の切り離し技法がヘラ切りから回転糸切りに更新されたことにより派生した器種と考えられるが、無台杯で回転糸切り痕が認められる個体を当遺跡で探すと11がある。この３個体を並べると形態変化がより理解しやすくなる。11では底部外面に回転糸切り痕が認められるとはいえ、それは中央部のみで、底部外面の大部分には無台杯としては珍しく回転ヘラ削り調整が施されている。これは、杯形態の広い底部では糸切り後の底部外面の形状を整形する必要が生じたためと考えられる。その結果として11の底部外面には、底部と体部の境のほかに、底部の中間に屈曲する箇所がみられる。すでに碗形態になっている259でも、底部が小型化したことに伴い第２の屈曲箇所は体部下端付近に移動しているものの、11にみられた２段屈曲の痕跡が残っていることが見て取れる。ところがさらに時代が下るとそのような屈曲はなくなり、体部は底部との境から一直線に斜め上方へ開く196のような形態となるのである。

以上は無台の須恵器食膳具の形態変化の流れの概略を押さえたにすぎないが、今後、当地域での古代遺跡の調査例が増え、検討に適した資料が集積されることにより、より細かい変化を捉えることも可能となるであろう。

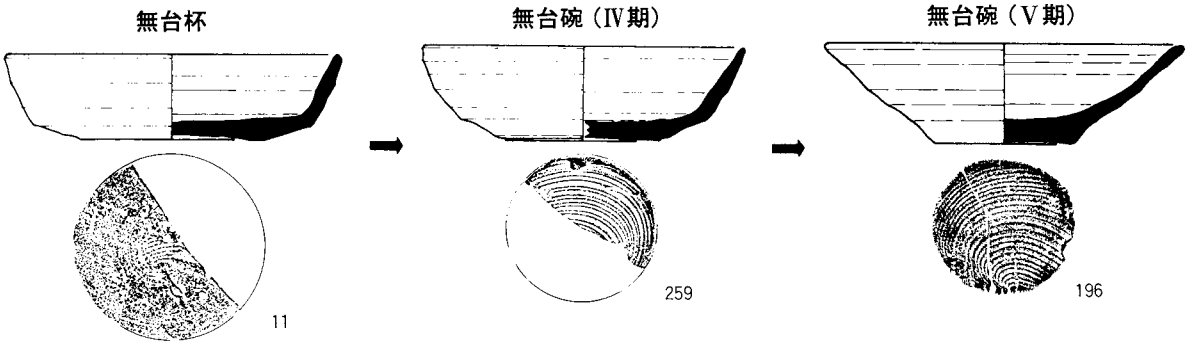
第32表　Ⅳ期とⅤ期の須恵器無台碗の比較

Ⅳ期

出土地点	遺物番号	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	口径÷底径
197号	33	12.0	3.7	6.0	2.0
526号	128	12.6	3.9	6.2	2.0
1120号	240	13.2	3.8	6.0	2.2
2001号	259	12.6	3.7	6.0	2.1
	260	12.2	3.6	5.8	2.1
平　均		12.5	3.7	6.0	2.1

Ⅴ期

出土地点	遺物番号	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	口径÷底径
533号	141	13.4	3.6	6.6	2.0
1083号	190	12.9	3.6	6.2	2.1
	191	13.1	3.6	5.2	2.5
	192	13.0	4.1	5.9	2.2
	193	12.3	3.5	5.7	2.2
	194	13.0	3.3	5.7	2.3
	195	12.9	3.9	6.0	2.2
	196	14.0	3.9	5.6	2.5
平　均		13.0	3.7	5.9	2.3



第71図　須恵器無台杯から無台碗への形態変化

第2節　集落と寺院の消長について

本節では以前の調査での知見も踏まえた上で、当遺跡の集落と寺院の消長について述べ、調査成果のまとめとしたい。

当地域には絶対年代を知る拠り所となる資料がほとんど存在しない。そのため、暦年代を与えつつ述べることは極めて困難である。そこで、尾張、美濃、北陸地方など周辺地域の年代観に照らした場合の各期の始まりの推定年代を示しておくが、これは便宜的な目安程度のものであるとご理解いただきたい。

Ⅰ期

当遺跡でまとまった量の遺物が出始める時期であり、須恵器の食膳具は古墳時代器種のみが使われている。古墳時代中期に遡るとみられる549号遺構（溝）などは例外的事例と判断し、246号遺構（竪穴）・250号遺構（溝）・260号遺構（溝）が現れる時期を画期と考える。これらの遺構から出土した須恵器の年代観から、Ⅰ期の始期の年代は7世紀初頭頃とみることが許されるであろう。

今回の調査範囲内を見る限りでは、この時期の遺構の分布範囲はG地区の北西部に限定されている。平成10年度調査においてC地区でこの時期の遺構を検出しているものの（C－6号住居跡、C－7号住居跡）、平成10年度から12年度にかけて実施した3次にわたる調査を通して、この時期の遺構の確認数は少数にとどまっている。やはり、遺構は点在するものの、遺跡全域において遺構密度は希薄であると判断される。まだ集落は広範囲にわたる広がりを見せておらず、寺院は建立されていないと考えてよいであろう。

Ⅱ期

須恵器の律令時代器種が普及する時期である。遺構数と須恵器の出土量が増大する時期でもある。寿楽寺廃寺の軒丸瓦には、単弁八葉蓮華文軒丸瓦（Ⅰ型式）や忍冬文軒丸瓦（Ⅴ型式）など、瓦当文様が飛鳥時代の特徴を示すものが多いことから、寺院の建立とこの時期における須恵器の消費量の増大とが連動する現象であったとみて大きな不整合は生じないと思われる。この点について確かめるため、Ⅱ期の始期の年代を示すに先立って、寿楽寺廃寺の創建年代について現時点で言えることを整理しておく必要がある。

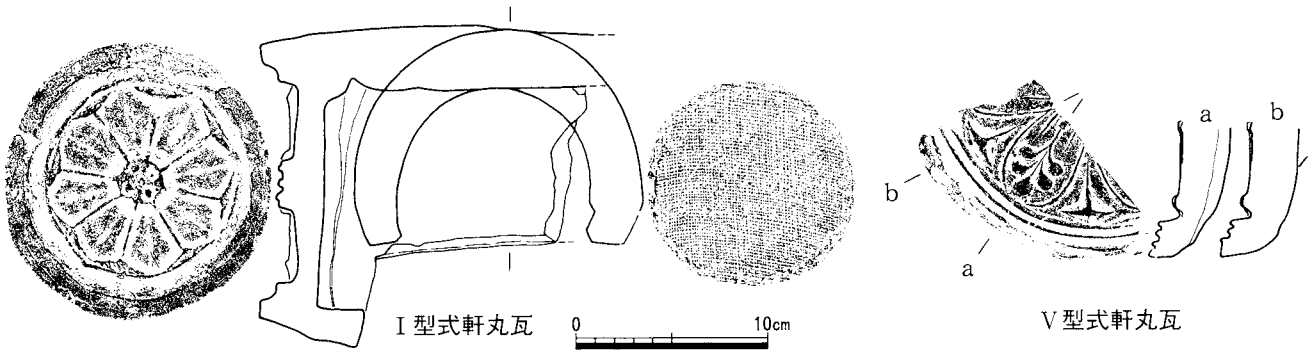
『日本書紀』朱鳥元年（686）十月丙申条にみえる「新羅沙門行心」が配流された「飛騨国伽藍」は、この時期に存在した可能性のある寺院が飛騨地域には寿楽寺廃寺以外にほぼ見当たらないことから、寿楽寺廃寺を指すと考えられる。したがって、寿楽寺廃寺は西暦686年の時点ですでに寺院としての機能を整えており、中央にもその存在が認識されていたことが確実視される[11]。この年代が寿楽寺廃寺の創建年代の下限となる。

一方、創建年代の上限については、暦年代を示す資料が寿楽寺廃寺関連資料中には見当たらないため確定させることが難しいが、とりあえず瓦や造瓦技法の伝播過程に手掛かりを求めることができる。まず、寿楽寺廃寺で以前に出土している忍冬文軒丸瓦（Ⅴ型式、前報告書の722・723番）は、地方寺院における使用例が限られ、飛騨地域でも他の古代寺院では出土していない。この瓦は野中（やちゅう）寺（大阪府羽曳野市）及び尾張元興（がんごう）寺（愛知県名古屋市）で出土した軒丸瓦に極めてよく似た同型瓦であるこ

とが知られている。野中寺で出土した3種類の忍冬文軒丸瓦の内の一つと尾張元興寺のものは同笵であり、瓦当笵使用の前後関係は野中寺が先で尾張元興寺が後であることが確認されている。寿楽寺廃寺のものはそれらと同笵ではないことが判明しており、寿楽寺廃寺の忍冬文軒丸瓦は尾張元興寺のものを簡略化した模作と捉えられる[12]。このことから寿楽寺に忍冬文軒丸瓦が伝わった年代は、野中寺や尾張元興寺の創建年代よりは新しいと考えられる。尾張元興寺では創建年代を示す記年銘資料は出土していないが、野中寺では記年銘資料が2点知られている。寺に伝わる弥勒菩薩半跏思惟像に「丙寅」の台座銘があり、これが西暦666年を示す可能性が高いとされ、さらに、1985年に行われた塔跡の発掘調査において「庚戌年正月」と記された瓦が出土し、「庚戌年」は西暦650年に比定されている。よって、野中寺の創建年代は7世紀中頃と推定される[13]。したがって、忍冬文軒丸瓦の伝播過程からは、寿楽寺廃寺の創建年代の上限は、最も古く見た場合には7世紀第3四半期の初め頃となる。

しかし、寿楽寺廃寺においては、忍冬文軒丸瓦（V型式）は出土量が極めて少量であることから、創建時の軒丸瓦と位置づけることはできない。創建寺の軒丸瓦と推定されるのは、出土量が群を抜いて多い単弁八葉蓮華文軒丸瓦（I型式）とみられる。この軒丸瓦は瓦当文様が衣川（きぬがわ）廃寺（滋賀県大津市）、明科（あかしな）廃寺（長野県明科町）、天狗沢（てんぐさわ）瓦窯（山梨県甲斐市）の出土瓦に似ることが知られており、さらに、第4章でもふれたように、いわゆる一本作り軒丸瓦という特徴的な作りの瓦であることが注目される。これは南滋賀（みなみしが）廃寺（滋賀県大津市）など近江地方にみられ、先に挙げた明科廃寺と天狗沢瓦窯にもみられる技法である。このことから寿楽寺廃寺の創建瓦と推定される一本作り技法による単弁八葉蓮華文軒丸瓦（I型式）は、当時、先進地であった近江の造瓦技法の影響下に作られ、これが明科廃寺や天狗沢瓦窯へ伝えられたとするのが、とりあえず通説となっている[14]。衣川廃寺の創建年代は7世紀中頃[15]、南滋賀廃寺の創建年代は近江大津宮時代（西暦667～672年）とされていることから、寿楽寺廃寺の創建を南滋賀廃寺より遅れるとする通説が確かなら、寿楽寺廃寺の創建の上限は、古く見ても7世紀第3四半期の終わり頃となる。

ただし、近江の衣川廃寺や南滋賀廃寺が寿楽寺廃寺に先行することは未だ実証されてはいない。写真で見る限りでは、衣川廃寺の軒丸瓦は寿楽寺廃寺の軒丸瓦に比べシャープさを欠くなど、寿楽寺廃寺よりむしろ新しい要素が見受けられる。また、両寺の新旧を通説のように考えた場合、先に述べた忍冬文軒丸瓦の伝播過程から導き出される創建の上限年代との間に、やや不整合を生じることともなる。したがって、現時点では寿楽寺廃寺が7世紀第3四半期の初め頃から造営が始まっていた可能性を排除せず、創建年代の上限については無理に確定させずにおくこととしたい。そもそも、寺院の創



第72図　寿楽寺廃寺　I型式・V型式軒丸瓦

建年代とは、発願に始まり、堂塔が次々と建立されて寺院として機能し始めるまでの広い時間幅を持った期間と捉えるべきであるので[16]、現時点では寿楽寺廃寺の創建年代については、7世紀第3四半期から西暦686年の間と時間幅を持って考えておきたい。

ところで、須恵器の律令時代器種が普及する年代については、7世紀後半に入ってからとするのが一般的理解である。寺院の創建と須恵器の律令時代器種の普及とを直接連動すると捉える必然性はないが、7世紀第3四半期頃に寺院の造営活動が始まり、それに伴い寺院の周りの集落が拡大し、ちょうどそのころから普及し始めた須恵器の律令時代器種が集落や寺院でも使われるようになって、その結果、須恵器の消費量が増大したと考えて不自然はないであろう。よって、Ⅱ期の始期の年代については7世紀第3四半期頃と捉えておく。第70図と第31表からも、今回の調査範囲内ではこの時期に遺構数が増え、分布範囲も拡大することが確かめられる。さらに、平成10～11年度調査において検出したE地区からF地区にかけて広がる竪穴住居跡群もほぼこの時期以降の遺構であることなどから、集落が寺域を取り巻くように面的な広がりを見せ、工房や倉庫を伴う寺院の「周辺集落」（第73図）が形成された時期であると言える。寿楽寺廃寺では、回廊に囲まれた「寺院中枢域」（第73図）がこの時期に形成されたと考えられる。

Ⅲ期

須恵器では律令時代前期器種のみが使われた時期であり、古墳時代器種の消滅をもってⅢ期の始期とする。須恵器の古墳時代器種が使用された下限年代については、飛騨地域に限らず全国的にみても現研究段階では明らかにされていないと判断する。そのため、Ⅲ期の始期の年代については、漠然と8世紀前期頃と捉えておくのが妥当であろう。

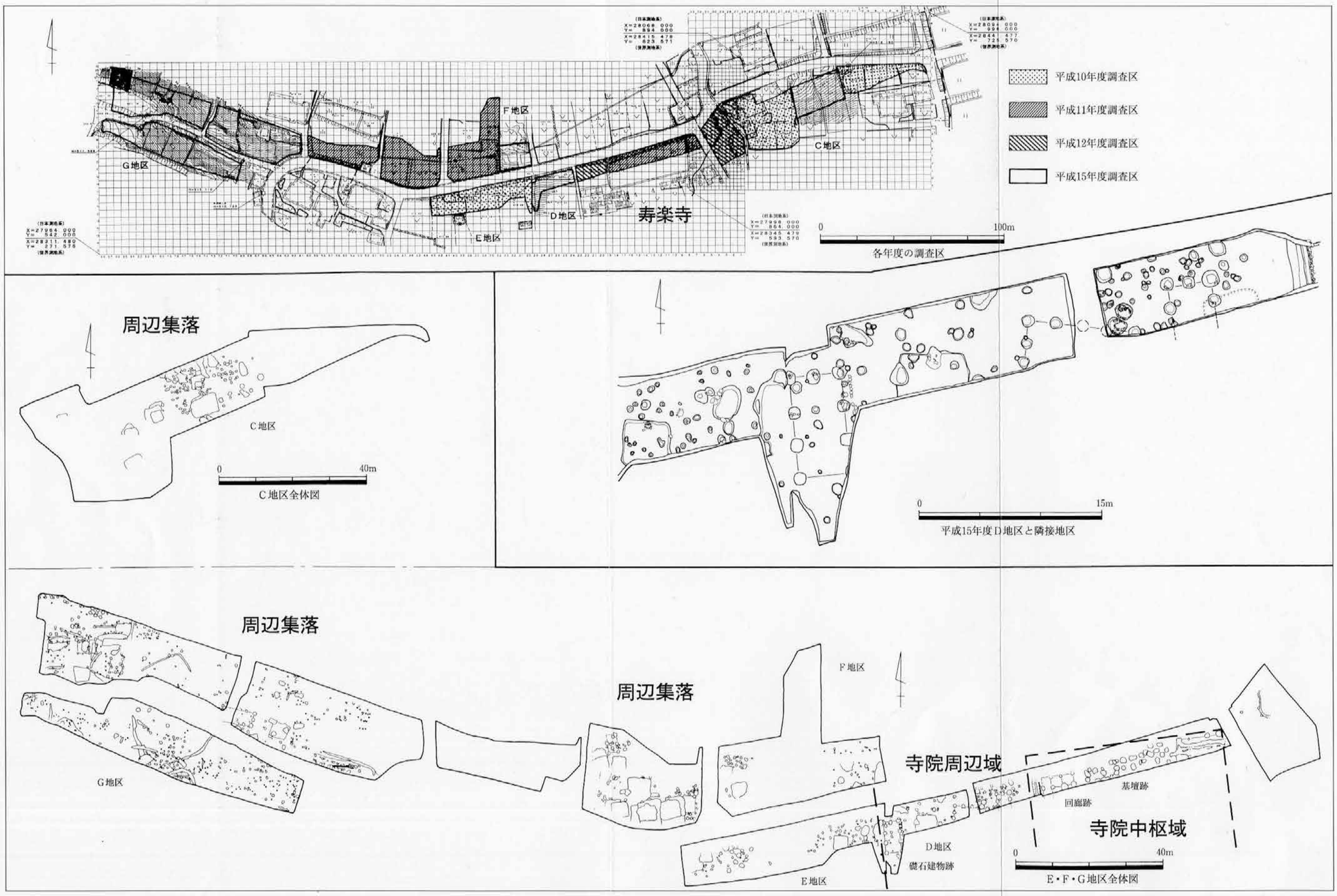
F地区の平成11年度調査区を中心に多数出土している「寺」のヘラ書きのある須恵器は、底部外面に回転糸切り痕が認められる例がないことから、この時期の遺物である。「周辺集落」が寺院と密接な関係を持ちつつ営まれたことが読みとれる。また、僧坊の可能性のあるD地区の礎石建物跡（第21・22図）がこの時期の遺構であることから、「寺院中枢域」の周囲に僧坊をはじめとする寺院関連施設が設けられ「寺院周辺域」（第73図）が形成されたのは、この時期と考えられる。

Ⅳ期

律令時代後期器種が普及する時期である。飛騨地域において回転糸切り技法が定着する時期が明らかとなっていないので、始期の年代を明確にするのは難しい。周辺地域における同技法の導入時期に手掛かりを求めると、美濃須衛窯では8世紀中葉に現れるが定着は灰釉陶器普及後の10世紀代とされる一方で、尾張猿投窯では8世紀中葉（740年前後～770年前後）に定着したとされ、北陸地方でも8世紀後半から9世紀初頭には現れ9世紀代に定着したとされる[17]。美濃須衛窯のケースが当遺跡に当てはまるとは考え難いことから、尾張猿投窯と北陸地方の例から類推し、8世紀後期～9世紀初頭頃に飛騨地域にも同技法が定着したと考えたい。よって、Ⅳ期の始期は8世紀後期～9世紀初頭頃と考えておく。

これまで確認されている寺院名の墨書のある須恵器4点（本書の遺物260、前報告書の9・30・60）は、いずれもこの時期の遺物である。Ⅲ期にはただ「寺」としか記されることのなかった寺院が、Ⅳ期には「高家寺」の名で呼ばれるようになったということができる。

平成11年度調査で検出したD地区の寺院中枢域の推定講堂基壇跡や回廊跡ではこの時期までの遺物


平成10年度調査区
平成11年度調査区
平成12年度調査区
平成15年度調査区
G地区
F地区
E地区
D地区
C地区
寿楽寺
0
100m
各年度の調査区
周辺集落
C地区
0
40m
C地区全体図
0
15m
平成15年度D地区と隣接地区
周辺集落
G地区
周辺集落
F地区
寺院周辺域
基壇跡
回廊跡
寺院中枢域
D地区
礎石建物跡
E地区
0
40m
E・F・G地区全体図

第73図　遺跡全体図

が出土しており、それらの遺構の廃絶時期がⅣ期に収まる可能性が高い。

Ⅴ期

当遺跡において灰釉陶器が普及した時期である。1083号遺構（竪穴）や包含層の出土遺物を見る限りでは在地の製品が多いようであるが、尾張猿投窯の編年に照らせばＯ－53型式からＨ－72型式に相当する特徴を具える個体が多いとみられる。したがって、現研究段階で一般的に受け入れられている年代観では、Ⅴ期の始期は10世紀初頭、終期も10世紀代に収まると考えられる[18]。

「周辺集落」はこの時期まで存続しているが、 寺院関連遺構は確認されなくなる。ただし、これはあくまで調査実施範囲内のみについて、しかも後世に残る出土遺物のみから見た場合の話であって、調査を行っていない現在の寿楽寺の区域についてまでこれが当てはまる確証はない。灰釉陶器普及時期以後、寺院は現寿楽寺の位置に固定され大きく移動することがなかったためⅤ期以降の寺院遺構が調査区内では検出されないにすぎないという可能性もある。そのため、分析結果が必ずしも寺院の廃絶を意味するものではないことに注意が必要である。

注

1）本章で他地域の須恵器・灰釉陶器の編年研究の成果や年代観を援用する場合には、次の文献を参照した。
　東海土器研究会2000『須恵器生産の出現から消滅　猿投窯・湖西窯の編年の再構築』
　古代の土器研究会1997『古代の土器研究－律令的土器様式の西・東５　７世紀の土器－』
　北陸古代手工業生産史研究会1989『北陸の古代手工業生産』

2）確実な遺物のみで比較検討することが肝要と考えるので、ここで扱うのは器種が確実に判別可能な個体に限定する。なお、同一グリッド内で元は同一個体であったと考えることのできる複数破片が出土している場合には、接合できなくとも１個体と数えている。個体数を扱う際に問題となりやすい点は次の通りである。

①識別しやすい器種とそうでない器種とで把握率に相当の差が生じる。例えば須恵器の摘み蓋や返り蓋は口縁端部の小破片のみでも識別可能だが、無台杯と有台杯との識別は、口縁部から体部にかけてのかなり大きな破片であっても底部を全く含まないのであれば困難となる。体部の傾き等から経験的に見分けることができるケースもあるが、今回はそのようなケースではどちらにも数えてはいない。したがってこの例では、摘み蓋と返り蓋、また無台杯と有台杯といった数量比は示し得ているものの、蓋類と杯類の数量比を示すものではないことに注意が必要である。

②杯身については、底部を含まない破片の場合、有蓋高杯である可能性を考慮しなくてはならない。しかし、当遺跡では有蓋高杯と確認された個体は最終的に極めて少数であったので、底部を含まない破片であっても杯身として数えた。

③端部を折り返す蓋は、摘み蓋と平頂蓋の可能性がある。しかし当遺跡では平頂蓋の確認個体がほぼ皆無であったので、ほぼすべて摘み蓋と考えて大勢に影響はないと判断し、摘みの有無が確認できない個体も摘み蓋として数えた。

3）高杯については大半が精良な胎土で作られるとの予測のもと、胎土の質から２種に分けることは行わなかった。結果として以下の考察のための資料としては他の器種に比べ扱いの難しい器種となり、十分な検討資料とすることができなかった。

4）問題点としては１基の遺構内の出土遺物を出土層や出土状況を捨象して合算して個体数を数えており、それらは確実なまとまりを持つとは考えがたいことが挙げられる。また、注意すべき点として、出土個体数の特に多い器種、すなわち摘み蓋や無台碗などは、混入品として出土する率もまた高いことを念頭に置いておきたい。そのような欠点を抱えながらも、およその傾向をつかむには有効な手法と考える。

5）近年、杯Ｈ（杯身）については、律令時代器種の出現と共に消えるのではなく７世紀後半代まで杯類の主力

製品であり、杯Hと杯B（有台杯）との共存時期は従来の編年観で想定されるほど短期間ではないとする見解がある。(尾野善裕1997「東海」『古代の土器研究－律令的土器様式の西・東5　7世紀の土器－』古代の土器研究会、など)。当遺跡でもこの見解が当てはまるとみてよいであろう。

6）土師器高杯については、杯のように胎土の良・粗で分けて数えていないため、省略した。

7）尾野善裕1997「東海」『古代の土器研究－律令的土器様式の西・東5　7世紀の土器－』古代の土器研究会、など。

8）もちろん、遺構残存状態が必ずしも良くはないことから分析には自ずと限界があり、当遺跡の出土遺物のみでは十分に解明できない点も残った。また、各器種の形態変化を細分化して当地域の古代土器の編年を組み立てる作業は、より遺物出土状態のよい遺跡において行うべきであり、今後の課題である。

9）資料操作を行う必要があるのは次の3事例のみである。①100号遺構で無台碗を混入品とする。②1083号遺構で杯身・返り蓋・無台杯を混入品とする。③2001号遺構で杯身・返り蓋を混入品とする。

10）1083号遺構出土遺物のうち、1層から出土した個体については、2層以下に比べ混入品の可能性が高いため除外した。

11）八賀晋2001「「飛騨国伽藍」について」『美濃・飛騨の古墳とその社会』同成社。

12）大塚章1994「寿楽寺廃寺出土の軒丸瓦について」『岐阜県博物館調査研究報告』第15号　岐阜県博物館。梶山勝1997「尾張元興寺出土の忍冬蓮華文軒丸瓦をめぐって」『堅田直先生古希記念論文集』真陽社。

13）羽曳野市教育委員会1986『野中寺－塔跡発掘調査報告－』。

14）例えば、櫛原功一1992「天狗沢瓦窯跡と出土瓦」『天狗沢瓦窯跡と古代甲斐国　第2回敷島歴史フォーラム』敷島町教育委員会。なお、近年、Ⅰ型式軒丸瓦が明科廃寺の軒丸瓦と同笵であることが指摘されている。山路直充2004「甲斐における瓦葺き寺院の出現―天狗沢窯出土鐙瓦の祖型をおって―」『開発と神仏とのかかわり資料集』帝京大学山梨文化財研究所・古代考古学フォーラム実行委員会。

15）滋賀県教育委員会1975『衣川廃寺発掘調査報告』。

16）『日本書紀』と『元興寺縁起』から造営経過をたどることができる飛鳥寺では発願から主要堂塔の造営完了までに22年を要していることが確実視されるのをはじめとして、古代寺院の造営には100年近くかかった例さえ珍しくないとされる。町田章編1989『古代史復元8　古代の宮殿と寺院』講談社。

17）各地域での回転糸切り技法の定着時期を巡る近年の研究動向については、古代の土器研究会2001『古代の土器研究－律令的土器様式の西・東6　須恵器の製作技法とその転換－』を参照した。

18）当遺跡の1.5km西方に位置する岡前遺跡では、住居跡（ＳＢ６）からＯ－53型式に先行するＫ－90型式の特徴を具える灰釉陶器が出土している。したがって、当遺跡での灰釉陶器の出土状況が当地域の典型例ということではない。

引用・参考文献

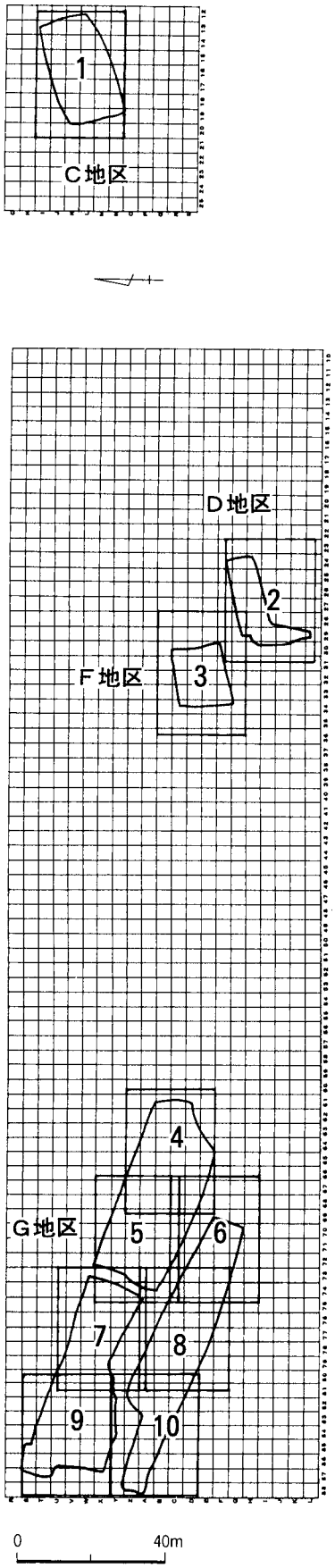
池野正男1992「越中における須恵器生産の終焉」『北陸古代土器研究』第２号　北陸古代土器研究会
上原真人1997『歴史発掘11　瓦を読む』講談社
大塚章1994「寿楽寺廃寺出土の軒丸瓦について」『岐阜県博物館調査研究報告』第15号　岐阜県博物館
江戸遺跡研究会2001『図説　江戸考古学研究事典』柏書房
大脇潔1991「研究ノート　丸瓦の製作技術」『研究論集Ⅸ』奈良国立文化財研究所
尾野善裕1997「東海」『古代の土器研究－律令的土器様式の西・東　７世紀の土器－』古代の土器研究会
梶山勝1997「尾張元興寺出土の忍冬蓮華文軒丸瓦をめぐって」『堅田直先生古希記念論文集』真陽社
岐阜県教育委員会1998『岐阜県文化財図録　記念物』
岐阜県教育委員会1999『岐阜県文化財図録　有形文化財　無形文化財　民俗文化財』
国府町教育委員会1993『半田垣内遺跡　１次・２次発掘調査報告書』
古代の土器研究会1997『古代の土器研究－律令的土器様式の西・東５　７世紀の土器－』
古代の土器研究会2001『古代の土器研究－律令的土器様式の西・東６　須恵器の製作技法とその転換－』
近藤義郎編1994『日本土器製塩研究』青木書店
財団法人岐阜県文化財保護センター1995『岡前遺跡』
財団法人岐阜県文化財保護センター2000『上ヶ平遺跡Ⅰ』
財団法人岐阜県文化財保護センター2001『佐口遺跡』
財団法人岐阜県文化財保護センター2001『針田遺跡』
財団法人岐阜県文化財保護センター2002『太江遺跡・寿楽寺廃寺跡』
財団法人岐阜県文化財保護センター2002『上ヶ平遺跡Ⅱ』
滋賀県教育委員会1975『衣川廃寺発掘調査報告』
敷島町教育委員会1992『天狗沢瓦窯と古代甲斐国　第２回敷島歴史フォーラム』
下畑五夫1997『新ひだ風土記』岐阜新聞社
下畑五夫2002「遺跡の地学的環境（おもに地形と地質）」『太江遺跡・寿楽寺廃寺跡』財団法人岐阜県文化財保護センター
鈴木久男1990「一本造り軒丸瓦の再検討」『畿内と東国の瓦』京都国立博物館
東海土器研究会2000『須恵器生産の出現から消滅　猿投窯・湖西窯編年の再構築』
東北中世考古学会2001『掘立と竪穴　中世遺構論の課題』高志書院
富田禮彦1915『斐太後風土記』大日本地誌体系刊行会
長野県史刊行会1988「明科廃寺跡」『長野県史　考古資料編全１巻（３）　主要遺跡（中信）』
中村亮仁2002「古代における富山県出土の鉄製品－任海宮田遺跡Ａ１・Ａ４・Ｂ１地区出土の鉄製品について－」『富山考古学研究』第５号　財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所

名古屋市教育委員会1994『尾張元興寺跡発掘調査報告書』
楢崎彰一1982「日本古代の陶硯－とくに分類について－」『考古学論考　小林行雄博士古希記念論文集』小林行雄博士古希記念論文集刊行委員会
野沢保・河田清雄ほか1975『飛騨古川地域の地質』地質調査所
八賀晋1992「飛騨の古墳と寺々」『特別展　飛騨のあけぼの　展示図録』岐阜県博物館
八賀晋2001「「飛騨国伽藍」について」『美濃・飛騨の古墳とその社会』同成社
羽曳野市教育委員会1986『野中寺－塔跡発掘調査報告－』
飛騨地学研究会1988『 飛騨の大地を探る』教育出版文化協会
古川町教育委員会1989『上町遺跡Ｃ地点』
古川町教育委員会1991『上町遺跡Ｄ地点』
古川町教育委員会1994『上町遺跡トヨタ地点・０地点・栗原センター地点』
古川町教育委員会1998『杉崎廃寺跡』
古川町教育委員会2001『上町遺跡金子地点・氷見地点』
北陸古代手工業生産史研究会1989『北陸の古代手工業生産』
北陸中世考古学研究会1998『北陸中世の金属器－生産と流通－』
星野直哉1998「飛騨地方古代寺院を考える」『どっこいし』第58号　飛騨考古学会
町田章編1989『古代史復元８　古代の宮殿と寺院』講談社
松村恵司1996「山田寺出土金属製品」『山田寺学報検討会記録Ⅳ』奈良国立文化財研究所
森浩一・八賀晋編1997『飛騨　よみがえる山国の歴史』大巧社
森泰通 1997「東海地方における消費地出土の製塩土器－特に固形塩の問題をめぐって－」『シンポジウム製塩土器の諸問題－古代における塩の生産と流通－』塩の会　シンポジウム実行委員会
山路直充2004「甲斐における瓦葺き寺院の出現―天狗沢窯出土鐙瓦の祖型をおって―」『開発と神仏とのかかわり　資料集』帝京大学山梨文化財研究所・古代考古学フォーラム実行委員会
横田賢次郎1983「福岡県内出土の硯について－分類と編年に関する一試案－」『九州歴史資料館研究論集　９』九州歴史資料館

遺　構　図

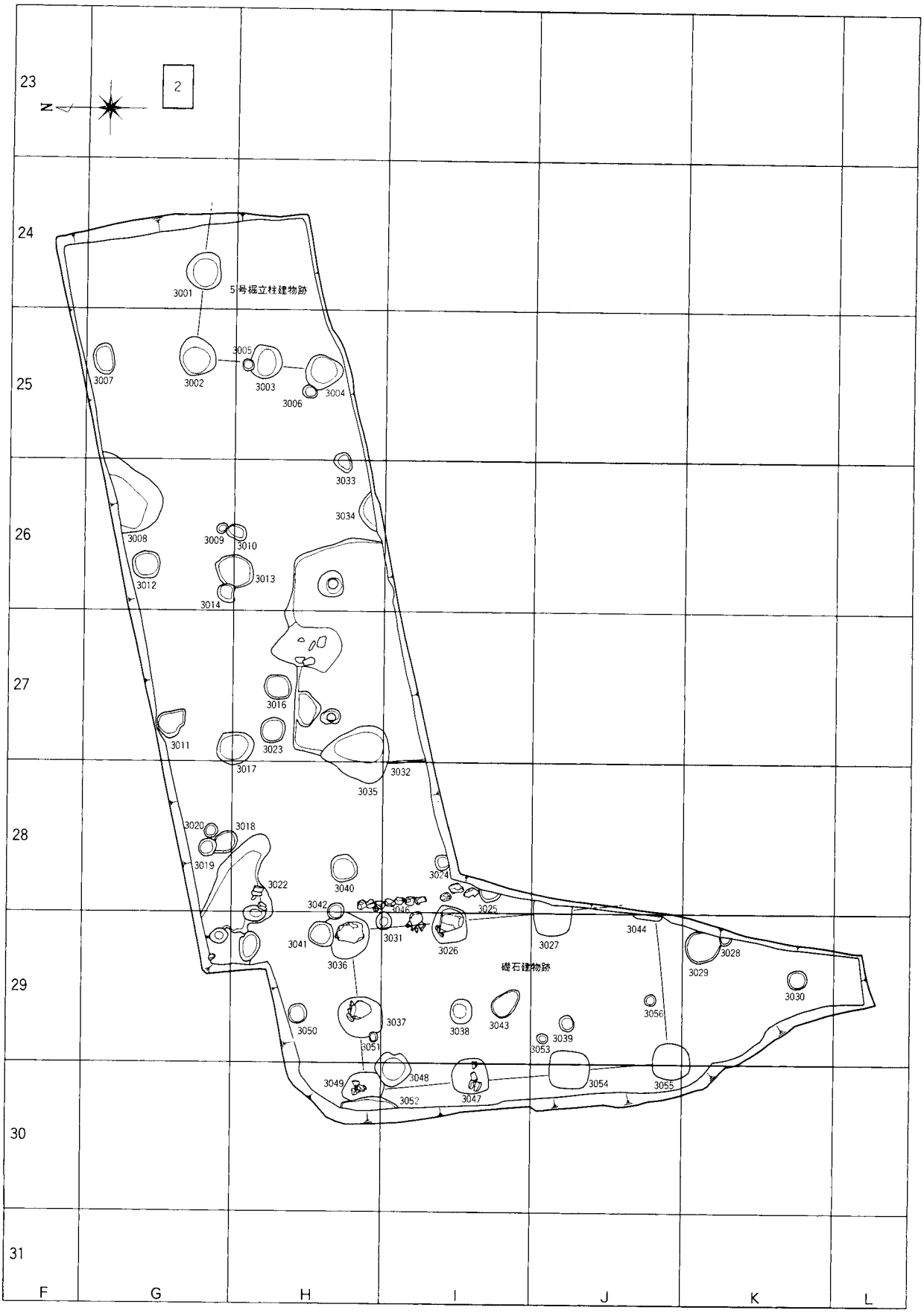
1　全地区分割図　134～144 頁

2　G地区全体図　145・146 頁

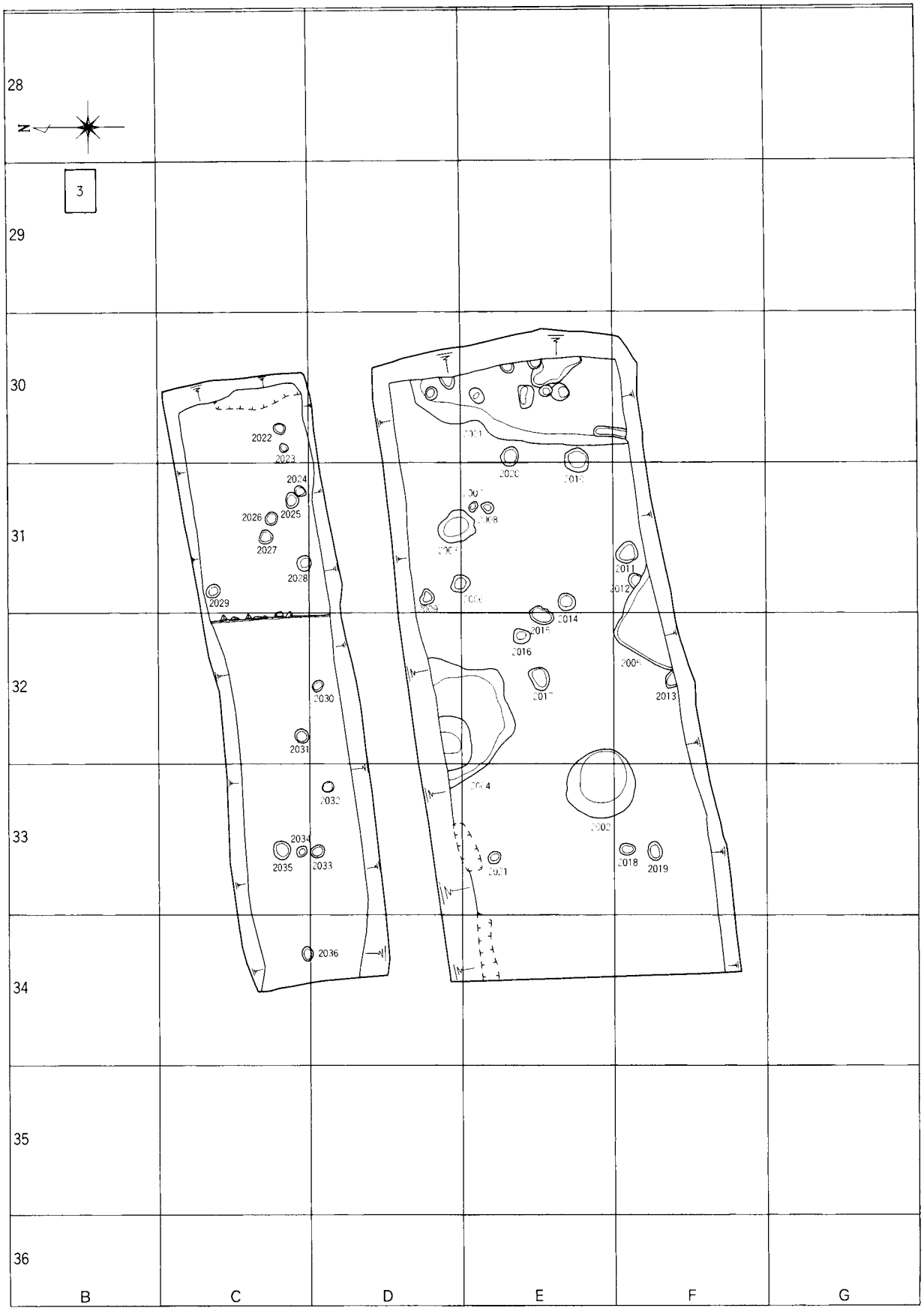

1
C地区
D地区
2
F地区
3
4
G地区
5
6
7
8
9
10
0
40m

太江遺跡　No.1（C地区）

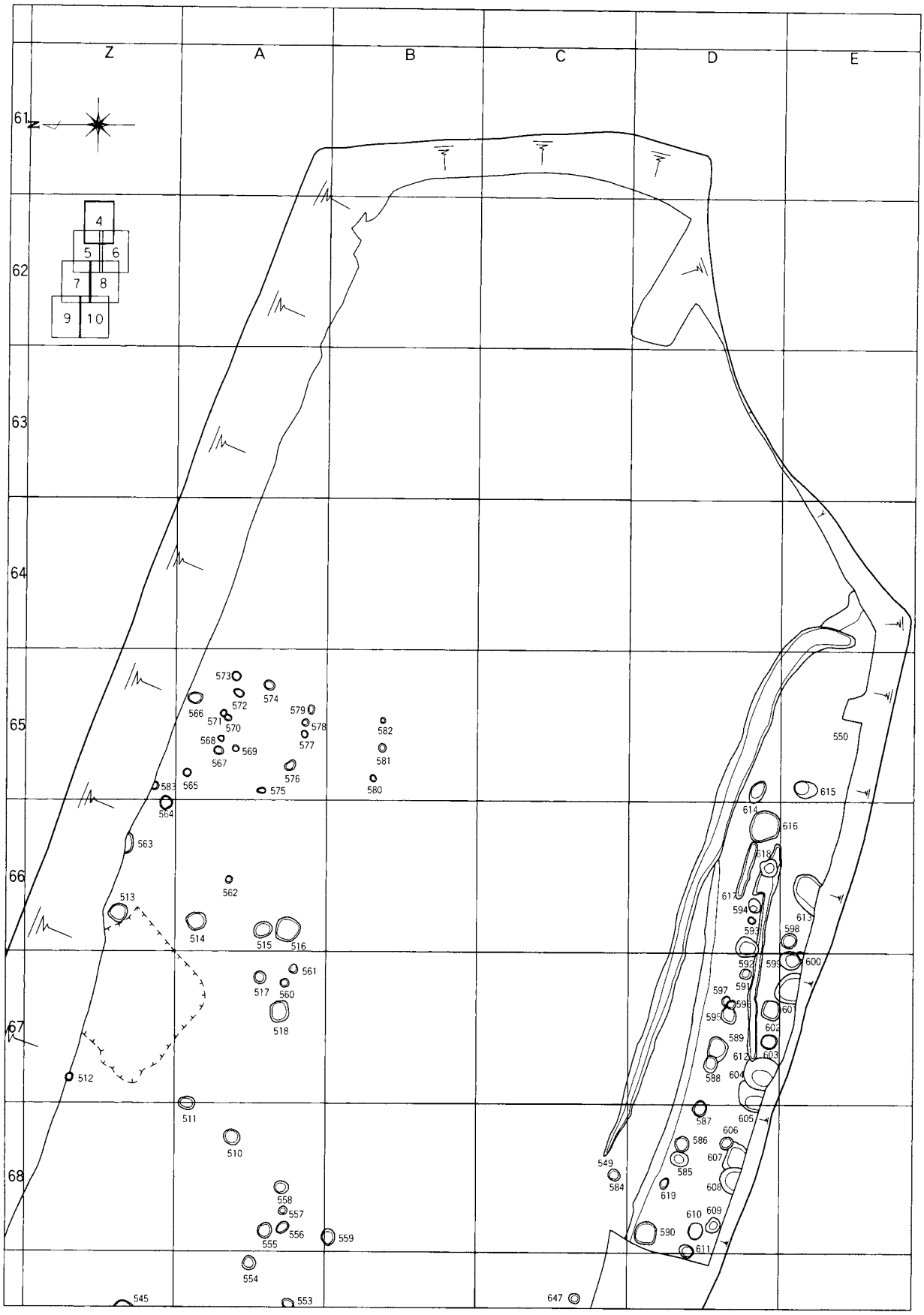
太江遺跡　No.2（D地区）


23
24
25
26
27
28
29
30
31
F
G
H
I
J
K
L
N
2
5号掘立柱建物跡
礎石建物跡
3001
3002
3003
3004
3005
3006
3007
3008
3009
3010
3011
3012
3013
3014
3016
3017
3018
3019
3020
3022
3023
3024
3025
3026
3027
3028
3029
3030
3031
3032
3033
3034
3035
3036
3037
3038
3039
3040
3041
3042
3043
3044
3046
3047
3048
3049
3050
3051
3052
3053
3054
3055
3056

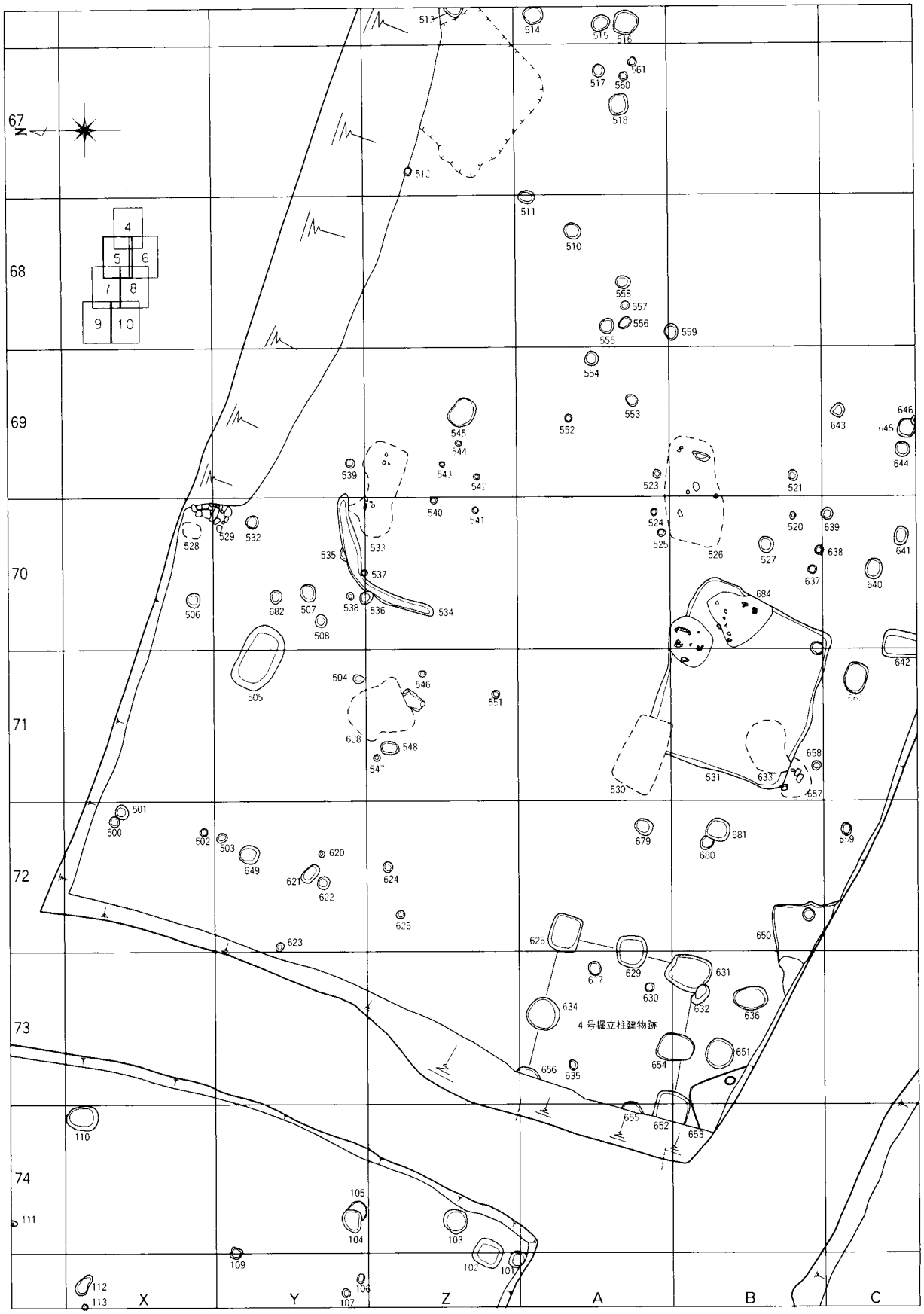
太江遺跡　No.3（F地区）


28
29
30
31
32
33
34
35
36
B
C
D
E
F
G
N
3
2022
2023
2024
2025
2026
2027
2028
2029
2030
2031
2032
2033
2034
2035
2036
2020
2018
2011
2012
2014
2016
2013
2002
2018
2019

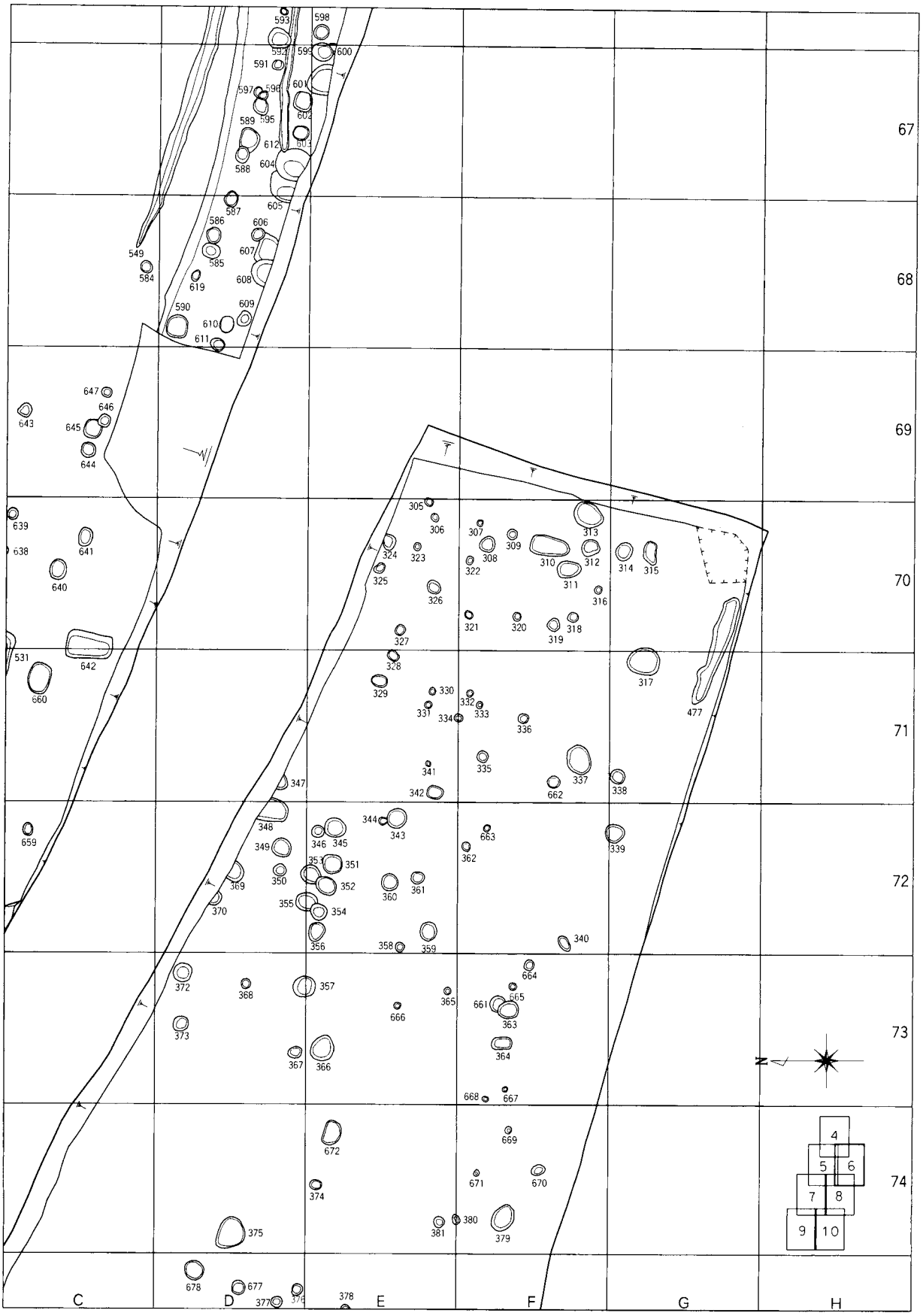
太江遺跡　No.4（G地区）


Z
A
B
C
D
E
61
62
63
64
65
66
67
68
N
4
5
6
7
8
9
10
573
574
572
579
566
571
570
578
568
569
577
567
582
581
576
565
575
580
583
564
563
562
513
514
515
516
561
517
560
518
512
511
510
558
557
556
555
559
554
545
553
647
550
615
614
616
618
617
594
593
613
598
592
599
600
591
597
596
595
601
602
589
612
603
588
604
587
605
606
586
607
549
585
584
619
608
610
609
590
611

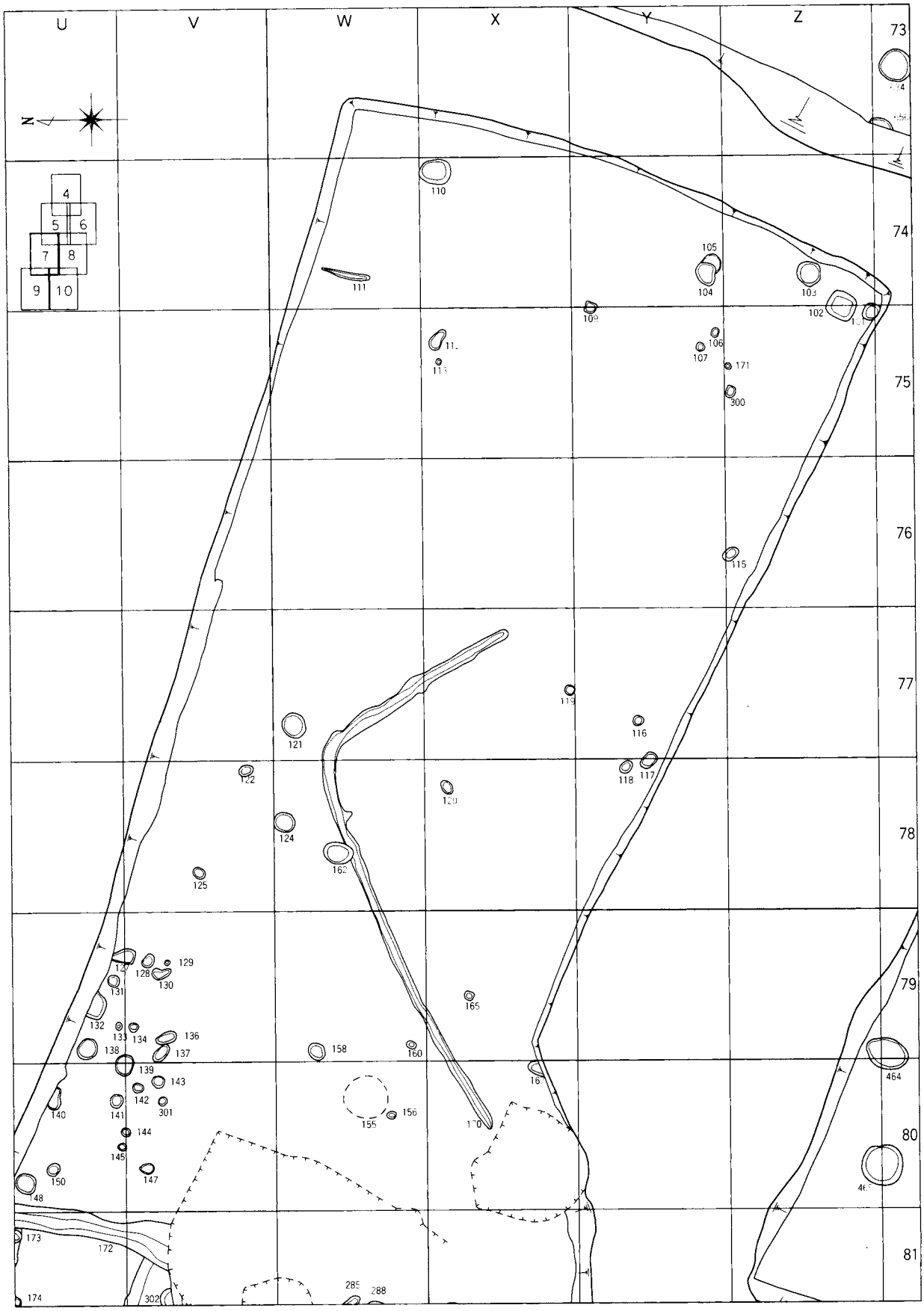
太江遺跡　No.5（G地区）



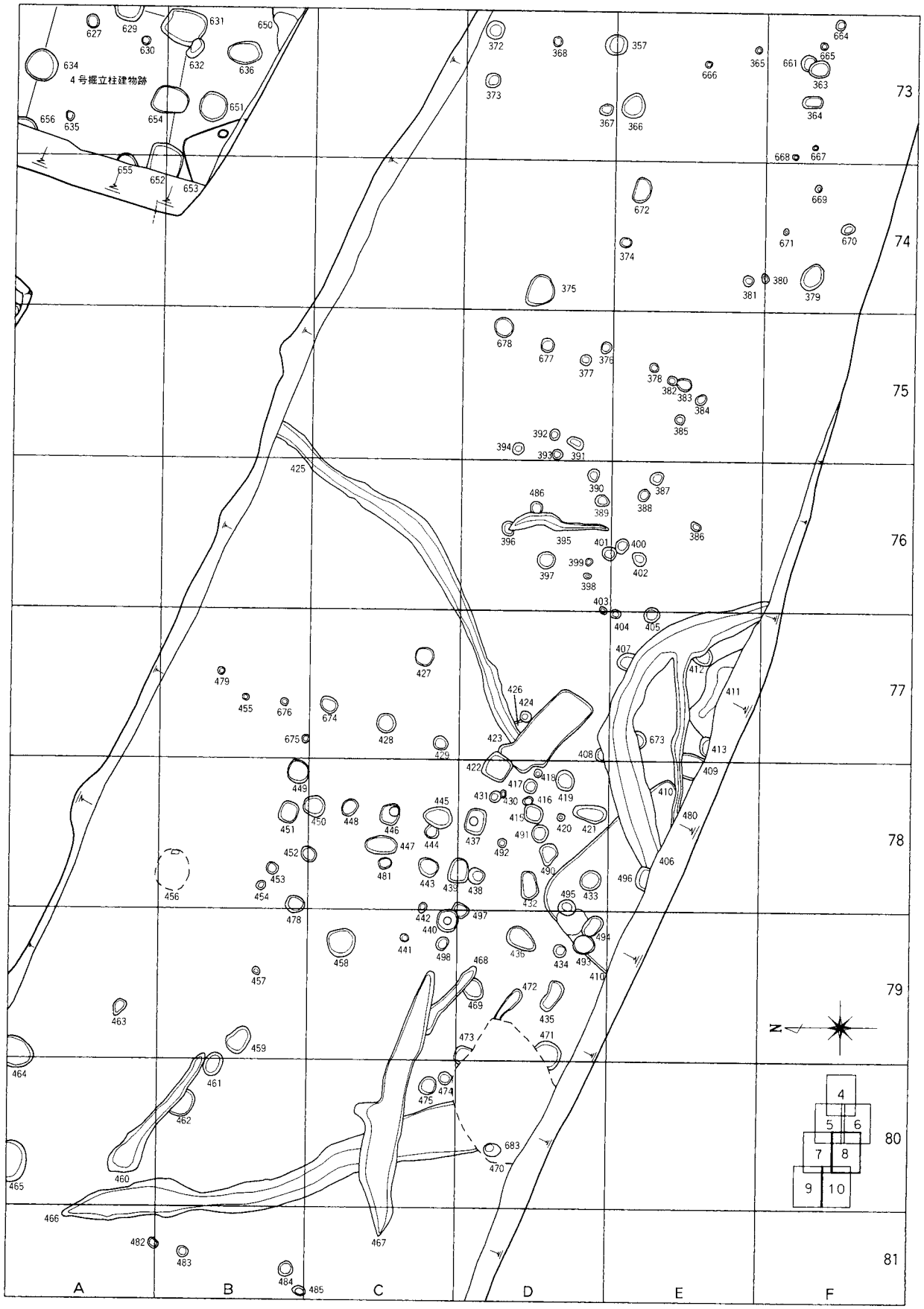
太江遺跡　No.6（G地区）



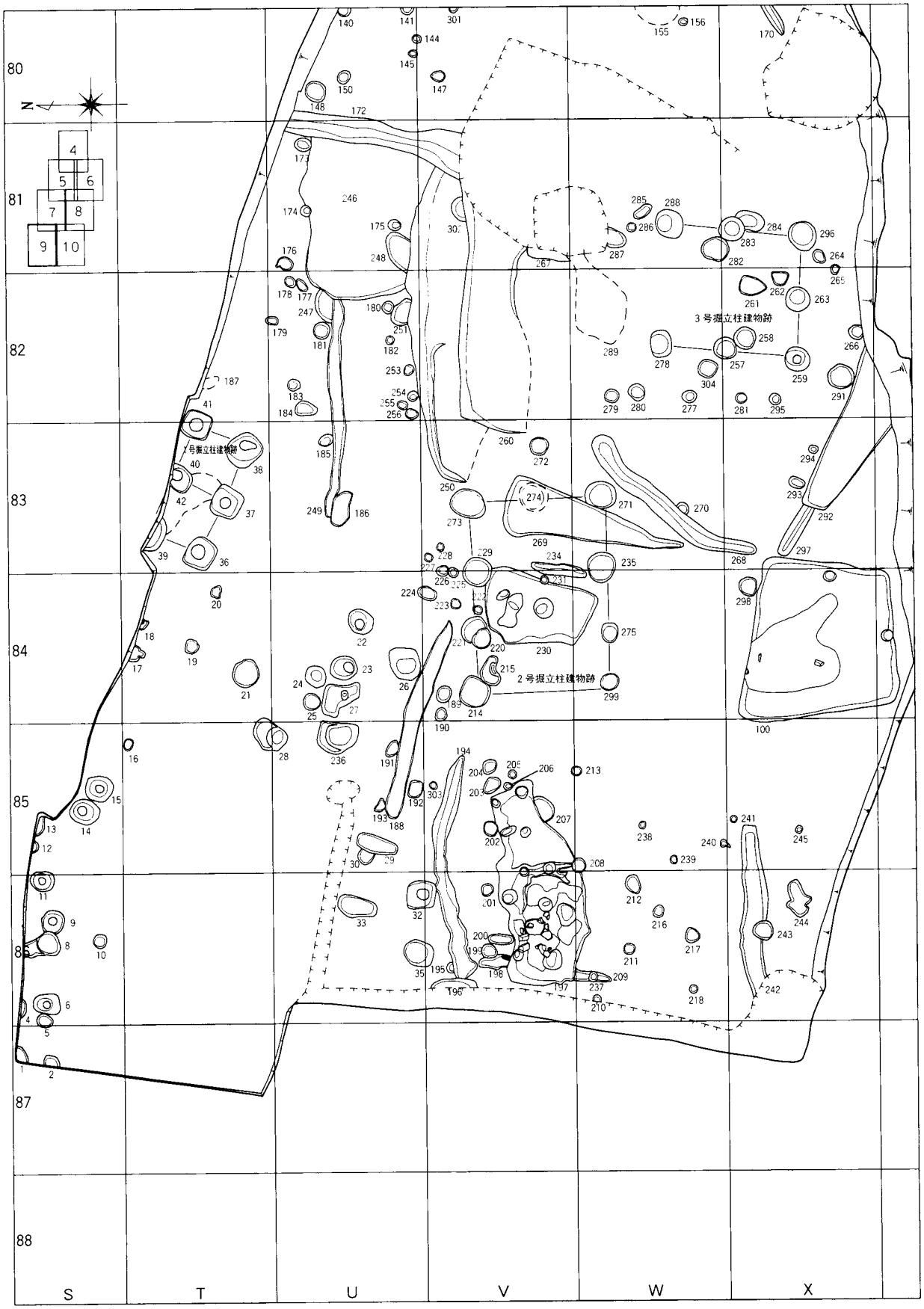
太江遺跡　No.7（G地区）


U
V
W
X
Y
Z
73
74
75
76
77
78
79
80
81
N
4
5
6
7
8
9
10
110
111
105
104
103
102
109
106
107
171
300
115
119
116
118
117
121
122
124
125
162
129
128
130
131
132
133
134
136
138
137
139
143
142
301
140
141
144
145
150
147
148
173
172
174
302
285
288
158
160
165
156
155
464

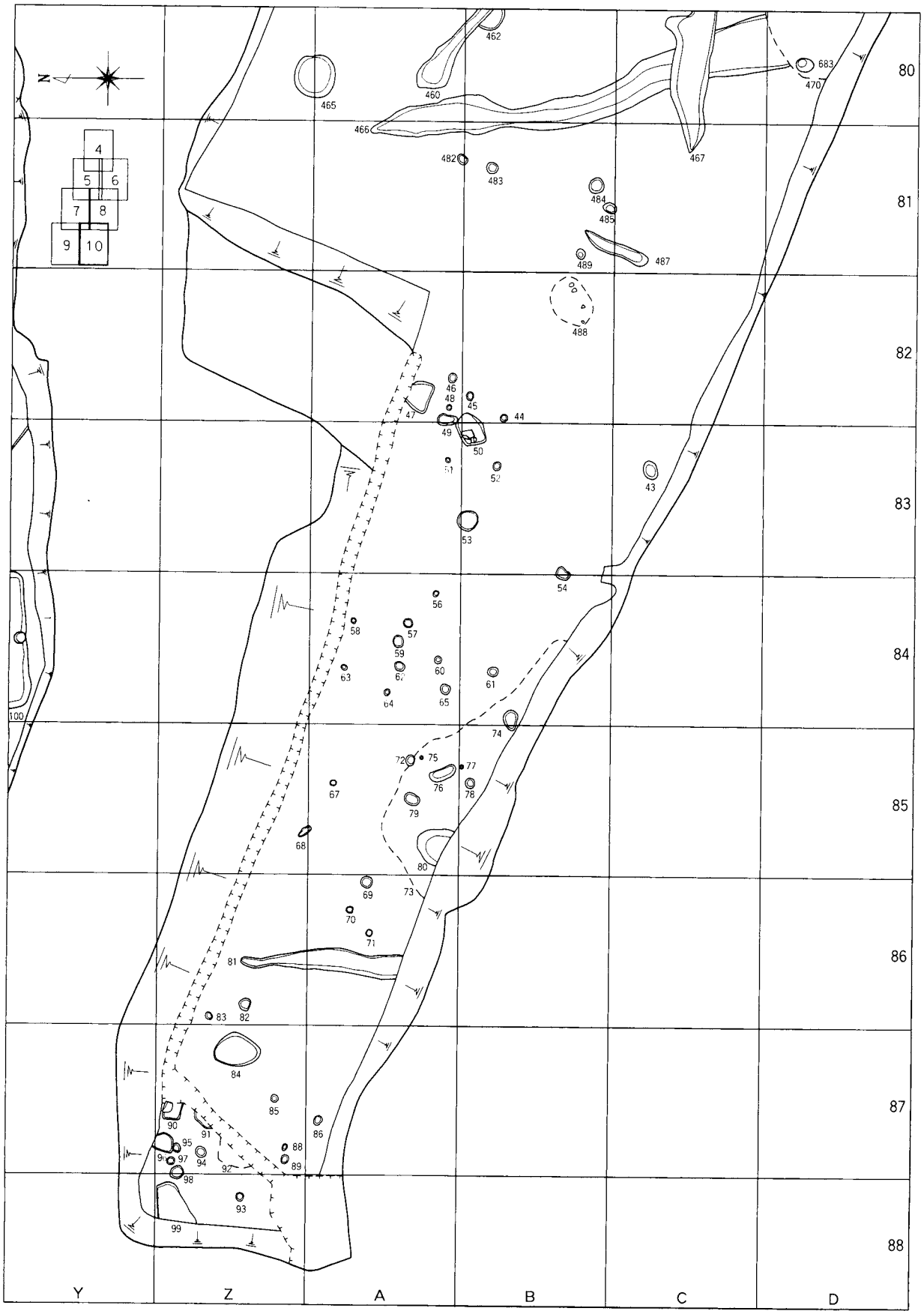
太江遺跡　No.8（G地区）

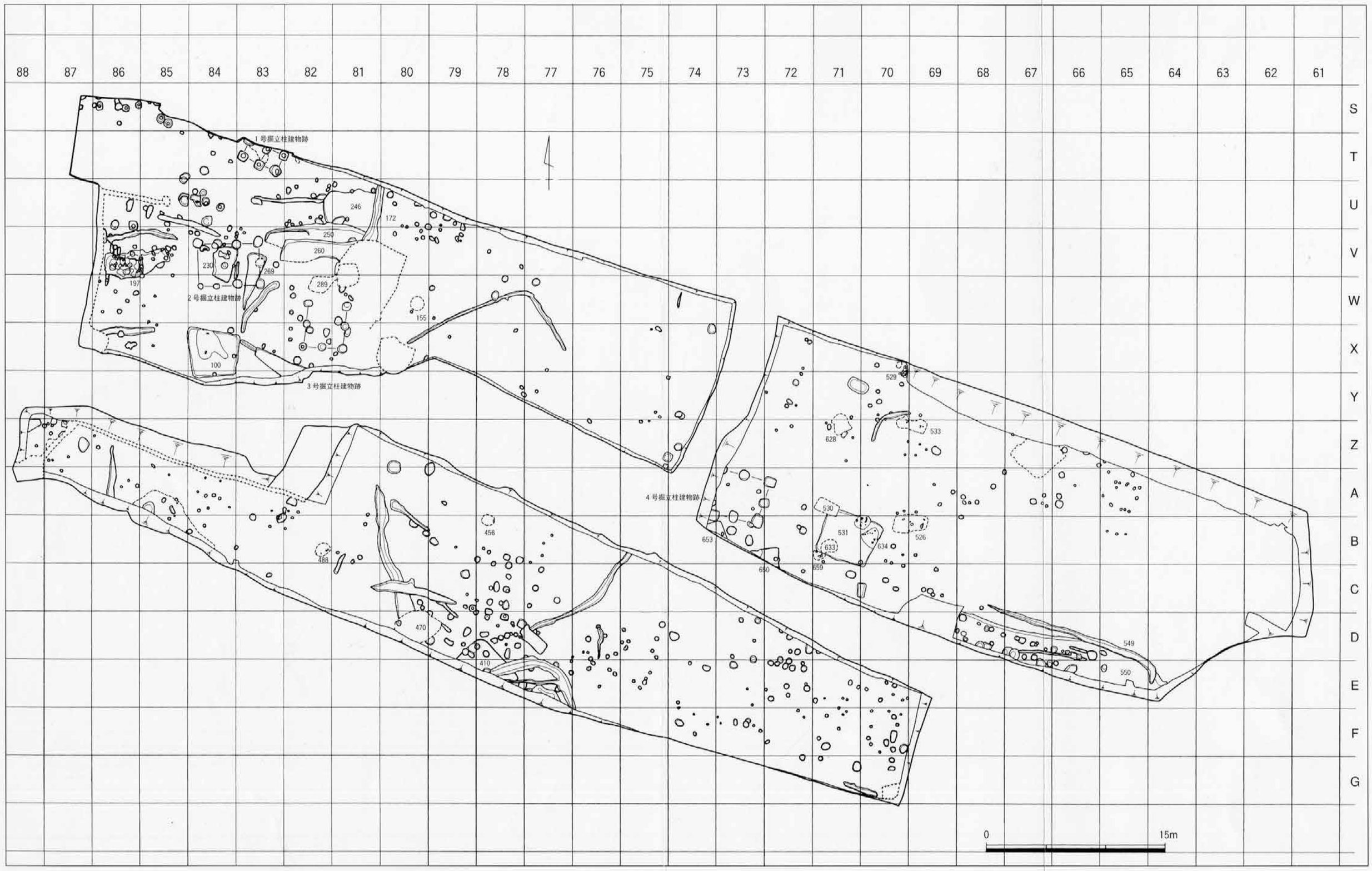


太江遺跡　No.9（G地区）



太江遺跡　No.10（G地区）




88
87
86
85
84
83
82
81
80
79
78
77
76
75
74
73
72
71
70
69
68
67
66
65
64
63
62
61
S
T
U
V
W
X
Y
Z
A
B
C
D
E
F
G
1号掘立柱建物跡
2号掘立柱建物跡
3号掘立柱建物跡
4号掘立柱建物跡
246
172
250
260
230
269
197
289
155
100
529
628
533
530
531
633
634
526
653
659
650
456
488
470
410
549
550
0
15m

太江遺跡　G地区全体図

別　　表

1　遺構一覧表　148～157 頁

・「寸法」欄において「－」は計測不能を意味する。
・「種別」欄において使用した略称は次の通りである。
　Ｐ＝ピット、竪穴＝竪穴建物跡、焼土＝焼土堆積遺構

2　遺物包含層一覧表　158～161 頁

・「面積」欄は四捨五入し小数第一位の値まで表示した。ただし 0.1㎡未満の場合は「0.1」とした。

3　遺物観察表　162～170 頁

・「残存率」欄には、口縁部の平面形が円形である遺物について、完形を 12.0 とした場合の口縁部残存率の値を表示した。

別表１　遺構一覧表

G地区

遺構番号	種別	グリッド	寸法 長軸cm	寸法 短軸cm	寸法 深さcm	層位	出土遺物破片数 土器・陶磁器類 縄文土器	弥生土器	須恵器食膳具	須恵器貯蔵具	須恵器特殊	土師器（良）	土師器（粗）	灰釉陶器	緑釉陶器	輸入磁器	中世陶器	近世陶磁	その他 瓦	金属製品	鍛冶関連遺物	石器・石製品	土製品	計	主要器種個体数 杯蓋	杯身	小型返り蓋	小型無台杯	返り蓋	摘み蓋	無台杯	有台杯	無台碗	有台碗	有台盤	灰釉陶器碗	灰釉陶器皿	土師器杯（良）	土師器杯（粗）	土師器高杯
1	P	87S	－	－	25	1層																																		
2	P	87S	29以上	44	10	1層																																		
4	P	86S	－	－	19	1層				1														1																
5	P	86S・87S	45	35	6	1層																																		
6	P	86S	71	55	24	1層																																		
						2層						3												3																
8	土坑	86S	98以上	69	28	1層																																		
						2層																																		
9	P	86S	59以上	61	18	1層																																		
						2層																																		
10	P	86S	35	35	7	1層																																		
11	P	85S・86S	78	53	38	1層																																		
						2層																																		
12	P	85S	－	－	6	1層																																		
13	P	85S	－	－	7	1層																																		
14	P	85S	80	68	30	1層																																		
						2層																																		
15	P	85S	72	70	22	1層																																		
						2層																																		
16	P	85T	35	30	8	1層																																		
17	P	84T	36以上	45	19	1層																																		
18	P	84T	30	18以上	18	1層				1														1																
19	P	84T	40	35	14	1層																																		
20	P	84T	35	30	10	1層																																		
21	土坑	84T	78	72	15	1層																																		
						2層																																		
22	P	84U	75	60	32	1層																																		
						2層																																		
						3層																																		
23	P	84U	76	64	50	1層																																		
						2層			1				1											2																
24	P	84U	58	54	45	1層																																		
25	P	84U	46	45	27	1層																																		
26	P	84U	85	78	32	1層																																		
27	土坑	84U	126	73	26	1層			2	25														27		1														
						2層																																		
28	土坑	84T・84U・85T・85U	98	70	46	1層						1												1																
						2層																																		
29	土坑	85U	112	50	6	1層																																		
30	P	85U	36以上	44	4	1層																																		
32	P	86U・86V	75	75	24	1層																																		
						2層																																		
33	土坑	86U	108	60	12	1層				1														1																
35	P	86U・86V	80	67	35	1層							1							1				2																
36	P	83T	84	78	40	1層																																		
						2層																																		
37	P	83T	82	80	56	1層																																		
						2層																																		
						3層																																		
						4層																																		
						5層				2			2											4																
38	P	83T	96	82	42	1層						2												2																
						2層			1			1	3							1				6																
39	P	83T	100	30以上	39	1層																																		
40	P	83T	56以上	66	25	1層																																		
						2層						1	2											3																
						3層																																		
41	P	82T・83T	78	76	25	1層																																		
						2層			2	1			1											4	1															
42	焼土	83T	152以上	86以上	16	1層																																		
43	P	83C	52	35	18	1層																																		
44	P	82B	22	20	14	1層																																		
45	P	82B	24	20	17	1層																																		
46	P	82A	26	24	10	1層																																		
47	P	82A	82	62以上	10	1層																																		
48	P	82A	16	15	8	1層																																		
49	P	82A・83A	55	28	7	1層																																		
50	土坑	82A・82B・83A・83B	86	70	28	1層																																		
51	P	83A	15	15	6	1層																																		
52	P	83B	25	24	19	1層				1														1																
53	P	83A・83B	56	55	15	1層			1															1																
54	P	83B・84B	40	35	22	1層																																		
56	P	84A	18	15	9	1層																																		
57	P	84A	26	25	20	1層																																		
58	P	84A	15	15	11	1層			1															1		1														
59	P	84A	34	30	15	1層																																		
60	P	84A	20	20	26	1層																																		
61	P	84B	30	25	23	1層																																		
62	P	84A	30	25	36	1層			2															2									1							
63	P	84A	18	15	12	1層																																		
64	P	84A	20	16	20	1層																																		
65	P	84A	26	26	17	1層																																		
67	P	85A	20	15	10	1層																																		
68	P	85Z・85A	40	18	14	1層							1											1																
69	P	86A	32	32	12	1層																																		
70	P	86A	20	16	15	1層																																		
71	P	86A	20	18	15	1層			1															1																
72	P	85A	30	24	30	1層																																		
73	焼土	84B・85A・85B・86A	775以上	205以上	1	1層																																		
74	P	84B・85B	54	40	11	1層																																		
75	P	85A	10	10	8	1層																																		
76	P	85A	74	30	20	1層																																		
77	P	85B	12	12	13	1層																																		
78	P	85B	30	25	29	1層						1	1											2																
79	P	85A	45	30	12	1層																																		
80	土坑	85A	78以上	102以上	18	1層																																		
81	溝	86Z・86A	421以上	64	14	1層			8	1		4	4											17																1
82	P	86Z	35	30	19	1層			1				3											4																
83	P	86Z	20	20	9	1層																																		
84	土坑	87Z	106	90	24	1層																																		
85	P	87Z	20	20	16	1層																																		
86	P	87A	30	22	10	1層																																		
88	P	87Z	20	15	15	1層																																		
89	P	87Z	25	20	14	1層			2															2																
90	P	87Z	48	44以上	13	1層																																		
91	P	87Z	－	－	19	1層																																		
92	焼土	87Z	107以上	46以上	18	1層																																		
						2層																																		

遺構番号	種別	グリッド	寸法 長軸cm	寸法 短軸cm	寸法 深さcm	層位	出土遺物破片数 土器・陶磁器類 縄文土器	弥生土器	須恵器食膳具	須恵器貯蔵具	須恵器特殊	土師器(良)	土師器(粗)	灰釉陶器	緑釉陶器	輸入磁器	中世陶器	近世陶磁	その他 瓦	金属製品	鍛冶関連遺物	石器・石製品	土製品	計	主要器種個体数 杯蓋	杯身	小型返り蓋	小型無台杯	返り蓋	摘み蓋	無台杯	有台杯	無台碗	有台碗	有台盤	灰釉陶器碗	灰釉陶器皿	土師器杯(良)	土師器杯(粗)	土師器高杯
93	P	88Z	24	22	12	1層																																		
94	P	87Z	30	26	20	1層																																		
95	P	87Z	25	20	23	1層																																		
96	P	87Y・87Z	48以上	50	4	1層																																		
97	P	87Z	22	22	26	1層																																		
98	P	87Z・88Z	36	34	6	1層							1					1						2																
99	土坑	88Z	106以上	96	14	1層																																		
100	竪穴	83X・84X・84Y・85X	430	407	35	1層			77	160		75	150						1	2	1			466	7	2			1	5	3	4	1						2
						2層			6			12	48											66							1								1
						3層						14	8											22															1
						床面直上			1	17		14	23											55															
100-1	竪穴内P		34	28	28	1層			3			2	3											8									1						
100-2	竪穴内P		32	28	23	1層																																		
101	P	74A・74Z・75A・75Z	45	40	11	1層																																		
102	P	74Z・75Z	75	70	32	1層			6	5														11		1	1						1						
103	土坑	74Z	68	64	25	1層																																		
104	P	74Y	70	54	38	1層							1									1		2																
105	P	74Y	26以上	50	19	1層																																		
106	P	75Y	28	20	12	1層																																		
107	P	75Y	25	25	17	1層						1												1																
109	P	74Y・75Y	30	30	6	1層																																		
110	土坑	74X	86	68	23	1層							1											1																
111	土坑	74W	132	17	4	1層																																		
112	P	75X	64	35	20	1層				4														4																
113	P	75X	17	16	12	1層																																		
115	P	76Y・76Z	46	30	19	1層																																		
116	P	77Y	28	28	14	1層																																		
117	P	77Y・78Y	50	34	12	1層																																		
118	P	78Y	38	30	14	1層																																		
119	P	77X	30	28	14	1層																																		
120	P	78X	40	28	10	1層																																		
121	土坑	77W	70	60	12	1層																																		
122	P	78V	42	28	13	1層																																		
124	P	78W	58	56	15	1層						4												4																
125	P	78V	35	30	13	1層																																		
127	P	79U・79V	63以上	40	14	1層																																		
128	P	79V	40	28	23	1層																																		
129	P	79V	15	15	10	1層																																		
130	P	79V	52	32	20	1層																																		
131	P	79U	34	32	20	1層																																		
132	P	79U	74以上	40以上	31	1層						2	2											4																
133	P	79U	20	18	12	1層																																		
134	P	79V	26	25	15	1層																																		
136	P	79V	58	30	22	1層			3															3							1									
137	P	79V	56	30	14	1層																																		
138	P	79U	60	50	35	1層																																		
139	P	79U・80U・79V・80V	58	50	32	1層				1			1											2																
140	P	80U	62	30以上	24	1層						1												1																
141	P	80U	36	35	30	1層																																		
142	P	80V	30	26	10	1層																																		
143	P	80V	35	32	26	1層				1														1																
144	P	80U・80V	25	25	13	1層																																		
145	P	80U・80V	25	20	6	1層																																		
147	P	80V	40	30	20	1層																																		
148	P	80U	60	55	41	1層			1	1			1											3							1									
150	P	80U	40	30	12	1層																																		
155	焼土	80W	118	112	18	1層																																		
156	P	80W	25	20	27	1層																																		
158	P	79W	50	44	18	1層																																		
160	P	79W	26	20	16	1層																																		
162	土坑	78W	80	56	13	1層																																		
165	P	79X	25	24	20	1層																																		
167	P	79X・80X	36以上	32以上	18	1層			1				3											4																
170	溝	77W・77X・78W・79W・79X・80X	1675	45	6	1層																																		
171	P	75Z	20	17	11	1層																																		
172	溝	80U・81U・81V	475以上	110	22	1層			9	7		4	29											49	1	1			1		1									
173	P	81U	45	35	19	1層																																		
174	P	81U	30	30	21	1層																																		
175	P	81U	35	30	15	1層						4	1											5																
176	P	81U	50	35	11	1層				1														1																
177	P	82U	35	25	22	1層																																		
178	P	82U	35	30	14	1層				4														4																
179	P	82T・82U	35	25	15	1層							1											1																
180	P	82U	35	30	12	1層			1															1																
181	P	82U	45	45	27	1層				1			3											4																
182	P	82U	25	25	13	1層																																		
183	P	82U	35	35	24	1層																																		
184	P	82U	60	54	20	1層				2														2																
185	P	83U	40	30	20	1層				2			5											7																
186	P	83U	100	50	12	1層																																		
187	焼土	82T	42	27	4	1層							4											4																
188	溝	84U・84V・85U	550	50	8	1層																																		
189	P	84V	48	35	4	1層																																		
190	P	84V	40	33	11	1層																																		
191	P	85U	50	28以上	7	1層																																		
192	P	85U	45	35	10	1層																																		
193	P	85U	40	25	4	1層																																		
194	溝	85V・86V	600以上	60	18	1層				2			3											5																
195	P	86V	28	18以上	14	1層																																		
196	土坑	86V	125	25以上	26	1層																																		
						2層																																		
197	竪穴	85V・85W・86V・86W	538	223	32	1層	1		97	29		4	157							1		2		291						8		3	5						
197-1	竪穴内P		38	38	8	1層																																		
197-2	竪穴内P		23	21	10	1層			1															1																
197-3	竪穴内P		40	20	14	1層																																		
197-4	竪穴内P		26	26	14	1層																																		
197-5	竪穴内P		34	30	20	1層																																		
197-6	竪穴内P		60	44	12	1層			1				2											3																
197-7	竪穴内P		24	24	8	1層																																		
197-8	竪穴内P		38	36	22	1層			1															1																
197-9	竪穴内P		40	40	18	1層							1											1																
197-10	竪穴内P		56	50	14	1層			1				15											16																
197-11	竪穴内P		28	25	23	1層																																		
197-12	竪穴内焼土		140	56	3	1層			1				8											9									1							
197-13	竪穴内焼土		70	46	6	1層							2											2																

遺構番号	種別	グリッド	寸法 長軸cm	寸法 短軸cm	寸法 深さcm	層位	出土遺物破片数 土器・陶磁器類 縄文土器	弥生土器	須恵器食膳具	須恵器貯蔵具	須恵器特殊	土師器(良)	土師器(粗)	灰釉陶器	緑釉陶器	輸入磁器	中世陶器	近世陶磁	その他 瓦	金属製品	鍛冶関連遺物	石器・石製品	土製品	計	主要器種個体数 杯蓋	杯身	小型返り蓋	小型無台杯	返り蓋	摘み蓋	無台杯	有台杯	無台碗	有台碗	有台盤	灰釉陶器碗	灰釉陶器皿	土師器杯(良)	土師器杯(粗)	土師器高杯
197-14	竪穴内焼土		98	90	14	1層			1				12											13																
						2層																1		1																
						1・2層			1				1							1				3																
198	溝	86V	78以上	46	16	1層																																		
199	P	86V	41	38	27	1層																																		
200	土坑	86V	66	26	7	1層																																		
201	P	86V	35	33	15	1層			1															1																
202	P	85V	45	40	10	1層																																		
203	P	85V	55	40	25	1層				1														1																
204	P	85V	45	35	15	1層																																		
205	P	85V	25	25	17	1層																																		
206	P	85V	25	20	12	1層																																		
207	P	85V	74	41以上	11	1層																																		
208	P	85V・85W・86W	36	36	37	1層			1															1						1										
209	溝	86V・86W	98以上	26	14	1層																																		
210	P	86W	18以上	25	10	1層																																		
211	P	86W	30	30	18	1層																																		
212	P	86W	55	37	22	1層							1											1																
213	P	85V・85W	28	25	13	1層																																		
214	P	84V	82以上	76	20	1層							2											2																
215	土坑	84V	84	58	8	1層			1															1							1									
216	P	86W	35	30	22	1層																																		
217	P	86W	40	35	23	1層																																		
218	P	86W	23	23	14	1層																																		
220	P	84V	56	52	23	1層			2															2						1										
221	P	84V	75	42以上	8	1層						3	1											4																
222	P	84V	30	30	16	1層																																		
223	P	84V	30	29	5	1層																																		
224	P	84U・84V	55	35	27	1層																																		
225	P	83V・84V	30	25	10	1層																																		
226	P	83V・84V	35	30	8	1層																																		
227	P	83V	25	25	10	1層																																		
228	P	83V	30	25	10	1層																																		
229	P	83V・84V	80	80	22	1層																																		
230	竪穴	83V・84V・84W	282	197	14	1層			20	16		2	22							2				62	1	1				1	2	1								
230-1	竪穴内P		53	51	38	1層																																		
230-2	竪穴内P		99	44	31	1層			1															1						1										
230-3	竪穴内P		36	21	11	1層																																		
231	P	84V	26	22	19	1層			1															1						1										
234	溝	83V・84V・83W・84W	150	30	10	1層																																		
235	P	83W・84W	80	74	24	1層																																		
236	土坑	84U・85U	106	80	42	1層				1		1	1											3																
237	P	86W	30	25	30	1層																																		
238	P	85W	22	20	17	1層																																		
239	P	85W	25	20	8	1層																																		
240	P	85W・85X	30	23	15	1層							10											10																
241	P	85X	20	20	26	1層																																		
242	溝	85X・86X	450以上	65	20	1層			1	1			7											9	1															
243	P	86X	55	50	21	1層																																		
244	土坑	86X	104	68	10	1層				1												1		2																
245	P	85X	25	20	−	1層																																		
246	竪穴	81U・82U・81V	420以上	336以上	38	1層			76	324		24	126							2				552	5	6											1	2	1
247	P	82U	95以上	48以上	20	1層			3	2		2	5											12																
248	P	81U・82U	90以上	69以上	26	1層			2	1			2											5	1															
249	溝	82U・83U	587以上	38	10	1層			3	1		2	4											10	1															
250	溝	81U・82U・81V・82V・83V	840	90以上	32	1層	1		40	47		9	77											174	5	3				1										1
251	P	82U	75	40以上	26	1層							2											2																
253	P	82U	30	25	37	1層						1	2											3																
254	P	82U	30	30	18	1層						1												1																
255	P	82U	30	25	12	1層							1											1																
256	P	82U	35	30	13	1層				1		1												2																
257	P	82W・82X	58	56	34	1層							1											1																
258	P	82X	60	60	22	1層						2	1											3																
259	P	82X	60	60	28	1層																																		
						2層							2											2																
260	溝	81V・82V・83V	550以上	190以上	26	1層			16	48		10	54											128	4	2											1		
						2層				3		2	55											60																1
261	P	82X	75	50	20	1層			1															1								1								
262	P	82X	45	40	15	1層																																		
263	P	82X	66	66	36	1層			1	1		2	6											10																1
264	P	81X	35	30	20	1層																																		
265	P	81X・82X	30	25	17	1層						1												1																
266	P	82X	40	37以上	27	1層							2											2																
267	土坑	81V・81W	−	−	−	1層			1															1			1													
268	溝	83W・83X	545	60	14	1層			9	2				2										13						1			1			1				
269	竪穴	83V・83W	484	162	10	1層			5	8		1	17							1				32					1											
270	P	83W	35	24以上	−	1層																																		
271	P	83W	82	72	22	1層							2											2																
						2層						1	2											3																
272	P	83V	50	50	14	1層																																		
273	P	83V	90	78	28	1層																																		
274	P	83V	74	72	19	1層																																		
						2層																																		
275	P	84W	52	44	14	1層																																		
277	P	83W	40	32	8	1層																																		
278	P	82W	55以上	72	44	1層			1	1		1	3											6		1														
279	P	82W	40	35	14	1層																																		
280	P	82W	46	42	21	1層							1											1																
281	P	82X	30	26	18	1層						2	4											6																
282	P	81W・81X	75	65	27	1層				1		1												2																
283	P	81W・81X	66	64	32	1層				1														1																
284	P	81X	64以上	51	17	1層			1				1											2		1														
285	P	81W	55	25	21	1層				3			2											5																
286	P	81W	25	25	19	1層							1											1																
287	P	81W	48以上	50	35	1層																																		
288	P	81W	74	72	28	1層						1	1											2																
289	焼土	81W・82W	250以上	140	32	1層																																		
						2層																																		
						1・2層			6	14		3	24											47	1	1													
289-1	焼土内P		44	34	15	1層																																		
289-2	焼土内P		30	23以上	13	1層																																		
291	P	82X	70	65	26	1層				1														1																
292	溝	82X・82Y・83X・83Y	400以上	135以上	18	1層			21	12		5	29											67	7	1														
293	P	83X	45	30	25	1層			1															1																
294	P	83X	30	20	15	1層																																		
295	P	82X	30	30	12	1層																																		
296	P	81X	78	72	36	1層			2	1			4											7																

遺構番号	種別	グリッド	寸法 長軸cm	寸法 短軸cm	寸法 深さcm	層位	出土遺物破片数 土器・陶磁器類 縄文土器	弥生土器	須恵器食膳具	須恵器貯蔵具	須恵器特殊	土師器(良)	土師器(粗)	灰釉陶器	緑釉陶器	輸入磁器	中世陶器	近世陶磁	その他 瓦	金属製品	鍛冶関連遺物	石器・石製品	土製品	計	主要器種個体数 杯蓋	杯身	小型返り蓋	小型無台杯	返り蓋	摘み蓋	無台杯	有台杯	無台碗	有台碗	有台盤	灰釉陶器碗	灰釉陶器皿	土師器杯(良)	土師器杯(粗)	土師器高杯
297	溝	83X	150以上	35	14	1層																																		
298	P	84X	55	45	5	1層																																		
299	P	84W	48	48	14	1層																																		
300	P	75Z	34	30	9	1層																																		
301	P	80V	25	25	14	1層																																		
302	P	81V	38以上	33以上	50	1層			2				6											8																
303	P	85V	22	20	11	1層																																		
304	P	82W	50	50	18	1層			1				2											3			1													
305	P	69E・70E	20	22	17	1層																																		
306	P	70E	25	20	14	1層																																		
307	P	70F	20	17	7	1層																																		
308	P	70F	42	41	16	1層							2											2																
309	P	70F	30	26	13	1層																																		
310	P	70F	105	55	4	1層																																		
311	P	70F	65	45	19	1層																																		
312	P	70F	50	45	20	1層																																		
313	P	70F	81	65	11	1層																																		
314	P	70G	50	42	26	1層	1																	1																
315	P	70G	40	33	10	1層																																		
316	P	70F	20	20	17	1層																																		
317	土坑	70G・71G	85	70	17	1層																																		
318	P	70F	30	25	15	1層																																		
319	P	70F	35	35	14	1層				1			1											2																
320	P	70F	25	22	17	1層								1										1																
321	P	70F	25	20	11	1層																																		
322	P	70F	22	20	16	1層																																		
323	P	70E	22	20	20	1層																																		
324	P	70E	45	35	18	1層																																		
325	P	70E	35	25	18	1層			3															3																
326	P	70E	40	35	24	1層																																		
327	P	70E	30	25	11	1層																																		
328	P	71E	32	25	11	1層			1															1									1							
329	P	71E	45	31	26	1層			1			1												2																
330	P	71E	20	20	18	1層							2											2																
331	P	71E	20	20	9	1層																																		
332	P	71F	20	17	11	1層																																		
333	P	71F	20	17	5	1層																																		
334	P	71E・71F	25	20	10	1層																																		
335	P	71F	32	30	10	1層				1		2	5											8																
336	P	71F	27	25	12	1層																																		
337	P	71F	77	62	13	1層						1												1																
338	P	71G	40	40	10	1層			1															1																
339	P	72F・72G	50	50	8	1層							1											1																
340	P	72F	45	25	15	1層																																		
341	P	71E	15	15	6	1層																																		
342	P	71E	45	35	5	1層																																		
343	P	72E	54	52	11	1層																																		
344	P	72E	23以上	20	6	1層																																		
345	P	72E	55	51	36	1層																																		
346	P	72E	35	32	10	1層																																		
347	P	71D	—	—	30	1層																																		
348	P	71D・72D	74以上	65以上	25	1層																																		
349	P	72D	55	50	10	1層																																		
350	P	72D	36	32	14	1層																																		
351	P	72E	55	55	20	1層																																		
352	P	72E	57	45	23	1層																																		
353	P	72D・72E	47以上	50	22	1層																																		
354	P	72E	45	40	20	1層																																		
355	P	72D・72E	57	50	11	1層																																		
356	P	72E	50	45	26	1層																																		
357	P	73D・73E	65	60	22	1層						3												3																
358	P	72E	26	25	9	1層																																		
359	P	72E	50	45	10	1層																																		
360	P	72E	45	45	22	1層																																		
361	P	72E	35	31	17	1層																																		
362	P	72F	25	22	14	1層																																		
363	P	73F	55	48	9	1層						1	1											2																
364	P	73F	56	33	18	1層																																		
365	P	73E	20	20	8	1層																																		
366	P	73E	70	60	10	1層																																		
367	P	73D	38	32	9	1層																																		
368	P	73D	26	26	16	1層																																		
369	P	72D	38以上	50	19	1層							1											1																
370	P	72D	—	—	11	1層																																		
372	P	73D	50	47	14	1層			1															1								1								
373	P	73D	40	40	9	1層																																		
374	P	74E	33	28	6	1層																																		
375	P	74D	92	75	8	1層																																		
376	P	75D	35	28	10	1層																																		
377	P	75D	30	30	13	1層																																		
378	P	75E	28	25	14	1層																																		
379	P	74F	77	58	5	1層																																		
380	P	74E・74F	25	20	8	1層																																		
381	P	74E	35	30	22	1層																																		
382	P	75E	25	25	12	1層																																		
383	P	75E	44	35	14	1層																																		
384	P	75E	35	28	13	1層																																		
385	P	75E	28	28	16	1層																																		
386	P	76E	30	22	12	1層																																		
387	P	76E	40	35	14	1層																																		
388	P	76E	35	30	11	1層																																		
389	P	76D	40	35	17	1層						1	1											2																
390	P	76D	35	35	18	1層																																		
391	P	75D	47	30	8	1層																																		
392	P	75D	30	28	13	1層																																		
393	P	75D	30	30	10	1層																																		
394	P	75D	35	32	21	1層						2												2																
395	溝	76D	290	40	18	1層																																		
396	P	76D	40	32以上	14	1層																																		
397	P	76D	50	48	12	1層																																		
398	P	76D	22	20	16	1層																																		
399	P	76D	20	20	8	1層																																		
400	P	76E	40	35	12	1層																																		
401	P	76D・76E	48	38	7	1層																																		
402	P	76E	42	35	20	1層																																		
403	P	76D・77D	24	18	11	1層																																		
404	P	76E・77D・77E	30	23	9	1層																																		
405	P	76E・77E	43	40	12	1層							1											1																
406	溝	76E・77D・77E・78D・78E	925以上	106	22	1層					66	12	195											273		1	1			5	2						1	
407	P	77E	36以上	50	9	1層																																		

遺構番号	種別	グリッド	寸法 長軸cm	寸法 短軸cm	寸法 深さcm	層位	出土遺物破片数 土器・陶磁器類 縄文土器	弥生土器	須恵器食膳具	須恵器貯蔵具	須恵器特殊	土師器(良)	土師器(粗)	灰釉陶器	緑釉陶器	輸入磁器	中世陶器	近世陶磁	その他 瓦	金属製品	鍛冶関連遺物	石器・石製品	土製品	計	主要器種個体数 杯蓋	杯身	小型返り蓋	小型無台杯	返り蓋	摘み蓋	無台杯	有台杯	無台碗	有台碗	有台盤	灰釉陶器碗	灰釉陶器皿	土師器杯(良)	土師器杯(粗)	土師器高杯
408	P	77D・78D	20以上	38以上	15	1層																																		
409	P	77E・78E	—	70以上	15	1層				1														1																
410	竪穴	78D・78E・79D・79E	464以上	202以上	15	1層			2	6		4	17								1			30															
						2層							2											2																
411	土坑	77E	256	70以上	56	1層																																		
						2層				2		1	6											9																
						3層			1	4		4	14											23															1
412	P	77E	26以上	50	34	1層						3												3																
413	P	77E	23以上	46	5	1層			3	1			3											7							1									
415	P	78D	55	46	24	1層			1			1												2																
416	P	78D	30	20以上	9	1層																																		
417	P	78D	38	37	9	1層				1														1																
418	P	78D	25	23	13	1層																																		
419	P	78D	56	50	14	1層			1				2											3																
420	P	78D	22	20	12	1層																																		
421	P	78D	90	48	16	1層																																		
422	P	77D・78D	70	70	18	1層						5	6											11													1			
423	土坑	77D・78D	253	100	12	1層																																		
						2層			1															1																
						3層			1			1	4											6																
						4層			6	4			25											35						1	2									
424	P	77D	30	30	22	1層																																		
425	溝	75B・75C・76B・76C・76D・77C・77D	1070以上	70	38	1層																																		
426	P	77D	—	—	10	1層																																		
427	P	77C	50	50	8	1層																																		
428	P	77C	54	54	17	1層																																		
429	P	77C	38	35	10	1層																																		
430	P	78D	22	17	10	1層																																		
431	P	78D	35	60	9	1層							2											2																
432	P	78D	80	47	17	1層																																		
433	P	78D	66	54	29	1層			3	2														5						1										
434	P	79D	33	33	20	1層																																		
435	P	79D	86	46	12	1層																																		
436	P	79D	88	56	21	1層				1														1																
437	P	78D	68	58	23	1層				1		1	2											4																
438	P	78D	45	45	13	1層																																		
439	P	78C・78D	66	56	24	1層			1			1	11											13																
440	P	78C・79C・79D	63	64	32	1層			1			1	2										1	5																
441	P	79C	21	25	8	1層																																		
442	P	78C・79C	30	23	12	1層																																		
443	P	78C	62	50	15	1層							1											1																
444	P	78C	33以上	38	26	1層																																		
445	P	78C	80	56	12	1層						1												1																
446	P	78C	66	52	14	1層																																		
447	P	78C	87	50	14	1層						1	4											5																
448	P	78C	50	40	9	1層																																		
449	P	78B・78C	60	35	20	1層			1				2											3																
450	P	78B・78C	60	55	10	1層																																		
451	P	78B	58	50	9	1層																																		
452	P	78B・78C	45	38	10	1層																																		
453	P	78B	35	35	8	1層																																		
454	P	78B	26	25	7	1層																																		
455	P	77B	20	18	7	1層																																		
456	焼土	78A・78B	110	92	20	1層			4	3		1	25											33						1										
						2層																																		
457	P	79B	25	20	11	1層																																		
458	P	79C	76	74	25	1層							11											11																
459	P	79B	75	58	11	1層							1											1																
460	溝	79B・80A・80B	410	83	10	1層			8	7		1	3											19																
461	P	79B・80B	64	49	20	1層																																		
462	P	80B	80	43以上	37	1層				1		1	6											8																
463	P	79A	48	35	13	1層																																		
464	P	79Z・79A・80Z・80A	116	83	16	1層						4												4																1
465	土坑	80Z・80A	114	108	35	1層				6		3	8											17																
						2層			1			3	4											8						1										
						1・2層														1		1	1	3																
466	溝	80A・80B・80C・80D・81A・81B	1105以上	152以上	16	1層																																		
						2層			12	13		5	18											48		1				1										
						3層																																		
467	溝	79C・80C・81C	740	136	19	1層			32	30		25	244										1	332						2	1						1		
468	溝	79C・79D	180以上	42	6	1層				2			1											3																
469	P	79D	50以上	55	15	1層				1			1											2																
470	焼土	79D・80C・80D	376	256	35	1層	1		34	10		19	162	1						2			69	298				1		1	1								
						2層			2			3	5											10						2										1
						1・2層			1				2											3						1										
471	P	79D・80D	56以上	78	22	1層				1			2											3																
472	溝	79D	100以上	32	4	1層																																		
473	P	79C・79D・80D	36以上	44以上	17	1層							2											2																
474	P	80C	35	35	9	1層						1												1																
475	P	80C	50	45	11	1層				1														1																
477	溝	70G・71G	305	50	8	1層			1															1							1									
478	P	78B・79B	50	48	10	1層																																		
479	P	77B	20	20	10	1層																																		
480	溝	77E・78E	450以上	50	22	1層						11	15											26													1		
481	P	78C	37	36	6	1層						1												1													1		
482	P	81A・81B	30	25	16	1層																																		
483	P	81B	30	30	22	1層																																		
484	P	81B	40	40	19	1層			1	2														3																
485	P	81B・81C	35	26	17	1層				1			4											5																
486	P	76D	30以上	35	16	1層																																		
487	溝	81B・81C	184	35	14	1層			1	1			1											3										1						
488	焼土	82B	128	102	18	1層			22	11		5	15	1										54						1			1		1					
						2層				1														1																
489	P	81B	25	25	19	1層																																		
490	P	78D	60	50	18	1層																																		
491	P	78D	48	48	10	1層																																		
492	P	78D	25	25	10	1層																																		
493	P	79D	56	56	23	1層																																		
494	P	79D	61以上	43	19	1層																																		
495	P	78D・79D	48	43	11	1層						1	1											2																
496	P	78E	34以上	63以上	17	1層				1														1																
497	P	78C・78D・79C・79D	45	39以上	7	1層																																		
498	P	79C	40	30	11	1層																																		
500	P	72X	30	28	9	1層			1	3		6	9											19																
501	P	72X	40	36	12	1層																																		

遺構番号	種別	グリッド	寸法 長軸cm	寸法 短軸cm	寸法 深さcm	層位	出土遺物破片数 土器・陶磁器類 縄文土器	弥生土器	須恵器食膳具	須恵器貯蔵具	須恵器特殊	土師器（良）	土師器（粗）	灰釉陶器	緑釉陶器	輸入磁器	中世陶器	近世陶磁	その他 瓦	金属製品	鍛冶関連遺物	石器・石製品	土製品	計	主要器種個体数 杯蓋	杯身	小型返り蓋	小型無台杯	返り蓋	摘み蓋	無台杯	有台杯	無台碗	有台碗	有台皿	灰釉陶器碗	灰釉陶器皿	土師器杯（良）	土師器杯（粗）	土師器高杯
502	P	72X	22	22	12	1層																																		
503	P	72Y	30	25	18	1層																																		
504	P	71Y	30	28	18	1層																																		
505	土坑	70Y・71Y	176	106	23	1層			1	1														2																
506	P	70X	40	40	15	1層							1											1																
507	P	70Y	50	40	14	1層																																		
508	P	70Y	32	32	6	1層																																		1
510	P	68A	48	40	9	1層						1												1																
511	P	67A・68A	46	38	11	1層																																		
512	P	67Z	20	20	14	1層																																		
513	P	66Z	50	50	16	1層						1	1											2																
514	P	66A	55	45以上	23	1層																																		
515	P	66A	50	42	12	1層																																		
516	P	66A	90	62	25	1層																																		
517	P	67A	34	30	9	1層																																		
518	P	67A	58	50	17	1層																																		
520	P	70B	20	18	11	1層																																		
521	P	69B	30	25	18	1層				1														1																
523	P	69A	25	23	20	1層				1			1											2																
524	P	70A	20	20	10	1層																																		
525	P	70A	23	20	12	1層																																		
526	焼土	69A・69B・70A・70B	282	150	10	1層			16	5			40											61						3	1	1	1							
527	P	70B	45	40	15	1層																																		
528	焼土	70X	110	86	26	1層							2											2																
						2層																																		
						3層																																		
						4層						1												1																
529	集石	70X・70Y	175以上	90以上	—	1層			7			3	8											18		1							1							
530	焼土	71A・71B	196	110	19	1層			1				2											3																
						2層							1											1																
531	竪穴	70A・70B・70C・71A・71B・71C	453	400	27	1層							2											2																
						2層	1		32	8		32	107								1			181		3		1			2								1
						1・3層			1			1	5											7																
						3層							39											39																
						4層							6											6																
						カマド床面直上			1				2											3							1									
531-4	竪穴内P		38	34	12	1層			2				2											4																
532	P	70Y	34	34	12	1層							1											1																
533	焼土	69Y・69Z・70Y・70Z	250	106	24	1層			17	3		1	38	2										61									2	1			1			
534	溝	69Y・70Y・70Z	440	45	14	1層			2	1		3	7											13																
535	P	70Y	—	—	18	1層																																		
536	P	70Y・70Z	40	32	7	1層																																		
537	P	70Y・70Z	18	16	10	1層																																		
538	P	70Y	20	20	6	1層																																		
539	P	69Y	24	22	11	1層																																		
540	P	69Z・70Z	20	18	9	1層				1														1																
541	P	70Z	18	18	30	1層			1				1											2							1									
542	P	69Z	18	18	16	1層																																		
543	P	69Z	20	16	24	1層																																		
544	P	69Z	20	14	9	1層																																		
545	P	69Z	80	64	34	1層																																		
546	P	71Z	20	18	10	1層																																		
547	P	71Z	18	18	13	1層																																		
548	P	71Z	49	35	18	1層																																		
549	溝	64D・64E・65D・65E・66D・67D・68C・68D	1625	65	42	1層			2	1		41	104											148		1													1	4
550	溝	64E	1800以上	280以上	47	1層			8	7		5	8											28	1	1				1	1									1
		65D				1層			5	2		13	35									1		56	1					1		2								1
		65E				1層			149	73		83	97	24	1				1			1		429	2	4	1			13	12	11	4		1	1	2			3
		66D				1層			60	50		56	111	1							1			279	3					10		6	3							1
						2層																																		
		66E				1層				30		12	29	2										73		1				1	1	3	3	1						
		67D				1層				30		47	60									1	1	139	3	3				8	1									
		67E				1層			22	8		21	11	3										65					1	1	1		3			1				2
		68D				1層			9	10		10	26											55		2					1	1								1
		69D				1層			1	3		3	15											22		1														1
551	P	71Z	22	22	8	1層																																		
552	P	69A	22	20	18	1層																																		
553	P	69A	36	28	17	1層																																		
554	P	69A	28	28	23	1層																																		
555	P	68A	40	40	20	1層																																		
556	P	68A	38	25	7	1層																																		
557	P	68A	22	22	16	1層																																		
558	P	68A	42	40	13	1層																																		
559	P	68A・68B	44	36	12	1層																																		
560	P	67A	24	24	43	1層			2				3											5								1								
561	P	67A	26	24	13	1層						5												5																1
562	P	66A	20	20	10	1層																																		
563	P	66Z	57以上	22以上	21	1層																																		
564	P	65Z・66Z	40	35	20	1層																																		
565	P	65A	22	22	12	1層																																		
566	P	65A	40	30	26	1層				1														1																
567	P	65A	26	22	16	1層																																		
568	P	65A	18	16	27	1層																																		
569	P	65A	18	18	4	1層																																		
570	P	65A	20	18	26	1層																																		
571	P	65A	20	18	11	1層																																		
572	P	65A	30	20	16	1層																																		
573	P	65A	25	25	19	1層																																		
574	P	65A	30	25	19	1層																																		
575	P	65A	25	15	8	1層																																		
576	P	65A	35	25	16	1層																																		
577	P	65A	20	16	17	1層																																		
578	P	65A	20	20	16	1層																																		
579	P	65A	25	18	5	1層																																		
580	P	65B	20	15	14	1層																																		
581	P	65B	25	20	10	1層																																		
582	P	65B	16	15	8	1層																																		
583	P	65Z	22	16以上	17	1層																																		
584	P	68C	35	30	25	1層			1			1	1											3	1															
585	P	68D	50	40	28	1層				1														1																
586	P	68D	45	40	6	1層																																		
587	P	67D・68D	45	40	10	1層																																		
588	P	67D	45	38	16	1層																																		
589	P	67D	54以上	58	22	1層				1														1																
590	P	68D	58	56	18	1層																																		
591	P	67D	30	25	13	1層																																		

遺構番号	種別	グリッド	寸法 長軸cm	寸法 短軸cm	寸法 深さcm	層位	出土遺物破片数 土器・陶磁器類 縄文土器	弥生土器	須恵器食膳具	須恵器貯蔵具	須恵器特殊	土師器(良)	土師器(粗)	灰釉陶器	緑釉陶器	輸入磁器	中世陶器	近世陶磁	その他 瓦	金属製品	鍛冶関連遺物	石器・石製品	土製品	計	主要器種個体数 杯蓋	杯身	小型返り蓋	小型無台杯	返り蓋	摘み蓋	無台杯	有台杯	無台碗	有台碗	有台盤	灰釉陶器碗	灰釉陶器皿	土師器杯(良)	土師器杯(粗)	土師器高杯
592	P	66D・67D	60	54	22	1層																																		
593	P	66D	22	18	4	1層																																		
594	P	66D	40	32	20	1層																																		
595	P	67D	50	40	10	1層																																		
596	P	67D	27	25	6	1層																																		
597	P	67D	30	18以上	19	1層																																		
598	P	66E	40	40	4	1層																																		
599	P	66E・67E	55	50	16	1層																																		
600	P	66E・67E	—	30	12	1層																																		
601	P	67D・67E	63以上	82以上	46	1層			2			1	4											7					1										
602	P	67D・67E	50	50	14	1層																																		
603	P	67D	42	40	24	1層			1															1																
604	P	67D	85以上	86	47	1層			1				2											3	1															
605	P	67D・68D	63以上	67以上	29	1層																																		
606	P	68D	38	30	—	1層																																		
607	P	68D	50以上	68以上	48	1層			3															3		1														
608	P	68D	48以上	73以上	30	1層																																		
609	P	68D	40	35	22	1層																																		
610	P	68D	45	38	26	1層																																		
611	P	68D・69D	40	34	14	1層																																		
612	溝	66D・66E・67D	580	53	2	1層																																		
613	P	66E	76以上	80	22	1層			1				2											3																
614	P	65D・66D	66	36	17	1層																																		
615	P	65E	64	45	23	1層																																		
616	P	66D	92	80	16	1層						1	1											2																
617	溝	66D	157	25	10	1層																																		
618	P	66D	52	50	36	1層			1															1			1													
619	P	68D	32	22	4	1層																																		
620	P	72Y	20	17	10	1層																																		
621	P	72Y	56	34	16	1層							1											1																
622	P	72Y	37	30	15	1層																																		
623	P	72Y	25	20	20	1層																																		
624	P	72Z	30	26	16	1層																																		
625	P	72Z	25	22	12	1層																																		
626	P	72A	98	80	54	1層			3	1		3	3											10		1														
627	P	73A	35	33	14	1層																																		
628	焼土	71Y・71Z	178	162	30	1層			5	3			4											12									1							
						2層																																		
						3層							1											1																
						4層						2	4											6																
						1～4層			1															1															
629	P	72A・73A	84	80	34	1層			2			2	3											7			1													
630	P	73A	25	23	18	1層																																		
631	P	73A・73B	111	93	36	1層			1			5	6											12	1															
632	P	73B	58	34	36	1層			1	1		1	2											5																
633	焼土	71B	138以上	132	28	1層			4	1		1	14	10								1		31											3					
						2層			1															1																
						3層			1	3		1	2	1										8																
						4層																																		
634	P	73A	86	84	18	1層			1			7	1											9																
635	P	73A	30	23	9	1層																																		
636	土坑	73B	90	62	32	1層							1											1																
637	P	70B	25	23	7	1層																																		
638	P	70B・70C	25	24	12	1層			2															2						1										
639	P	70C	30	30	5	1層			1															1																
640	P	70C	55	47	13	1層																																		
641	P	70C	50	38	12	1層																																		
642	土坑	70C・71C	90以上	72	28	1層			2	1			3	1										7																
643	P	69C	40	40	15	1層																																		
644	P	69C	40	35	27	1層																																		
645	P	69C	45	45	16	1層																																		
646	P	69C	35	34	11	1層																																		
647	P	69C	30	28	13	1層																																		
649	P	72Y	55	53	23	1層																																		
650	竪穴	72B・72C・73B	182以上	118以上	13	1層							9											9																
						2層							2											2																
650-1	竪穴内P		34	32	7	1層																																		
651	P	73B	80	74	33	1層																																		
652	P	73A・73B・74A・74B	80以上	90	42	1層			1															1		1														
653	竪穴	73B・74B	132以上	110以上	11	1層			1	1		1	1											4						1										
653-1	竪穴内P		30	24	9	1層																																		
654	P	73A・73B	94	70	50	1層						2	1									1		4																
655	P	73A・74A	—	—	20	1層																																		
656	P	73Z・73A	22以上	68	22	1層						1	1											2																1
657	焼土	71B	100	70以上	12	1層							1											1																
						2層																																		
658	P	71B	26	26	34	1層																																		
659	P	72C	34	28	16	1層																																		
660	P	71C	80	60	18	1層			1				1											2																
661	P	73F	44	42	21	1層																																		
662	P	71F	35	32	11	1層																																		
663	P	72F	20	20	10	1層																																		
664	P	73F	30	25	19	1層																																		
665	P	73F	22	22	7	1層																																		
666	P	73E	20	20	8	1層																																		
667	P	73F	16	15	10	1層																																		
668	P	73F	18	15	7	1層							1											1																
669	P	74F	20	18	8	1層																																		
670	P	74F	40	28	10	1層																																		
671	P	74F	20	20	6	1層																																		
672	P	74E	68	46	8	1層																																		
673	P	77E	21以上	49以上	14	1層																																		
674	P	77C	50	40	22	1層																																		
675	P	77B	25	20	10	1層																																		
676	P	77B	23	23	9	1層																																		
677	P	75D	40	38	20	1層						3	1											4																
678	P	75D	55	52	7	1層																																		
679	P	72A	50	42	31	1層																																		
						床面直上						3												3												1			
680	P	72B	35以上	34	23	1層																																		
681	P	72B	62	56	28	1層			1															1																
682	P	70Y	38	32	11	1層																																		
683	P	80D	44	36	23	1層																																		
684	焼土	70B	155	146以上	26	1層			17			8	55							1		1		82		1				1	1									1
G地区遺構内出土遺物							5		998	1197		747	2734	49	1			1	2	16	4	12	72	5838	48	45	7	1	5	79	42	33	31	3	2	7	3	8	3	31

C地区

遺構番号	種別	グリッド	寸法 長軸cm	寸法 短軸cm	寸法 深さcm	層位	出土遺物破片数 土器・陶磁器類 縄文土器	弥生土器	須恵器食膳具	須恵器貯蔵具	須恵器特殊	土師器(良)	土師器(粗)	灰釉陶器	緑釉陶器	輸入磁器	中世陶器	近世陶磁	その他 瓦	金属製品	鍛冶関連遺物	石器・石製品	土製品	計	主要器種個体数 杯蓋	杯身	小型返り蓋	小型無台杯	返り蓋	摘み蓋	無台杯	有台杯	無台碗	有台碗	有台盤	灰釉陶器碗	灰釉陶器皿	土師器杯(良)	土師器杯(粗)	土師器高杯
1002	土坑	13J・14J・13K・14K	380	200	58	1層			19	14			5					7		2		3		50						1										
1003	焼土	15J	110	92	18	1層			3	18			9					1		1				32																
						2層																																		
1004	土坑	15J・16J・16I	312以上	276	32	1層																																		
						2層			1	2														3																
						3層			3	4								8						15						2	1									
1005	竪穴	16K・17K・17L	391	348以上	15	1層			6	5			80									1		92						1										
1006	竪穴	17J・17K	153以上	116以上	12	1層							5											5																
1007	溝(自然流路)	16J・17J・16K・17K	500以上	210	26	1層			3			1						1						5																
1008	P	17K	40以上	45	20	1層																																		
1009	P	17K	40	32以上	8	1層																																		
1010	P	17K	—	—	38	1層																																		
1012	P	15J	35	33	17	1層																																		
1013	P	15J	96	62	34	1層			3	1			1											5					1											
1014	P	15J・14J	105	80	32	1層																																		
1015	P	13I・13J	45	40	16	1層																																		
1016	P	14J	70	62	17	1層																																		
1017	P	14J・15J	70	63	32	1層																																		
1018	P	14J	84	72	42	1層																																		
1019	P	14J・15J・14K・15K	70	50	20	1層																																		
1020	P	15J	56	56	14	1層																																		
1021	P	15K	48	48	24	1層																																		
1022	P	15K	60	50	34	1層																																		
1023	P	15J・15K	80	54	32	1層																																		
1024	P	15J・15K	45	40	9	1層																																		
1025	P	15K	50	43	16	1層																																		
1026	P	15J・15K	96	90	26	1層			1															1																
1027	P	16K	80	70	21	1層							2											2																
1028	P	16J	45	40	33	1層																																		
1029	P	16J	45	45	22	1層			1															1																
1031	P	15J・16J	70	66	36	1層																																		
1032	P	15J	70	60	40	1層																																		
1033	P	15J	35	25	15	1層			1															1																
1034	P	15I	52	50	22	1層							1											1																
1035	P	17J	30	30	30	1層																																		
1036	P	17J	50	48	24	1層																																		
1037	P	17J	66	60	20	1層																																		
1038	P	17J	18以上	20	40	1層																																		
1039	P	17J	30	30	33	1層							1											1																
1040	P	17J	18	15	15	1層																																		
1041	P	18J	55	46	18	1層																																		
1042	P	17K	30	28	6	1層																																		
1043	P	17K・18K	47	40	4	1層																																		
1044	P	16L	34	28	24	1層																																		
1046	P	16L	96	62	29	1層																																		
1047	P	16L・17L	32	30	14	1層																																		
1048	P	17L	106	59以上	40	1層																																		
1052	P	17L・18L	50	40	4	1層																																		
1053	P	18L	70	60	15	1層																																		
1054	P	18K・18L	66	60	25	1層																																		
1055	P	18K	84	77	13	1層																																		
1056	P	18K	40	34	12	1層																																		
1059	土坑	18K・19K	162	93	24	1層			1															1																
1060	P	18K	60	60	36	1層																																		
1061	P	18K・19K	80	56	30	1層																																		
1063	P	17J	33	32	22	1層																																		
1064	P	17J・17K	58	56	18	1層																																		
1065	土坑	19K	143以上	58以上	11	1層																																		
1066	P	19K	42	40	8	1層																																		
1067	土坑	19K	152	80	34	1層			5															5	2															
1068	P	19K	60	48	21	1層														1				1																
1071	土坑	19K・19L	121	84	25	1層																																		
						2層																																		
						3層																																		
						4層																																		
						5層																																		
1072	P	19K	80	78	29	1層																																		
1073	P	18K	65	64	10	1層							1											1																
1074	P	19L	53	50	25	1層																																		
1076	P	18L	70	52	7	1層																																		
1077	P	18L	49以上	44	24	1層																																		
1078	P	18L	70	48	13	1層																																		
1079	P	18L	58	47	6	1層																																		
1080	P	18L	58	46	30	1層																																		
1081	P	18K・18L	70	56	19	1層																																		
1082	P	17K・17L・18K・18L	86	55	12	1層																																		
1083	竪穴	15L・15M・16L・16M・17L・17M	732	538	48	1層			300	145		54	155	36				2	1	2		2		697		1			1	11	4		29		3	5	2			
						2層			98	36		1	40	33						1				209					1	4			9	3	2	7	4			
						3層			57	44		6	41	6						2		1		157						4	1		2			1				
						4層			15	4		1	1	6										27						2			3	1			4			
						5層			1	2			1	1										5												1				
1083-1	竪穴内P		87	44	19	1層																																		
1083-2	竪穴内P		101	57	34	1層			1	1														2										1						
1083-3	竪穴内P		116	77	24	1層																																		
1083-4	竪穴内P		157以上	63	43	1層																																		
1083-5	竪穴内P		38	36	32	1層																																		
1083-6	竪穴内P		75	39	31	1層				1			3											4																
1083-7	竪穴内P		40	28	18	1層																																		
1083-8	竪穴内P		14	10	12	1層																																		
1083-9	竪穴内P		49	40	12	1層																																		
1083-10	竪穴内P		33	29	15	1層																																		
1083-11	竪穴内P		42	32	24	1層																																		
1083-12	竪穴内P		26	24	8	1層																																		
1083-13	竪穴内P		30	23	28	1層																																		
1083-14	竪穴内P		34	30	10	1層																																		
1083-15	竪穴内P		32	32	22	1層																																		
1083-16	竪穴内P		62	38	33	1層																																		
1083-17	竪穴内P		94	49	16	1層																																		
1083-18	竪穴内P		29	24	23	1層																																		
1083-19	竪穴内P		42	29	14	1層																																		
1083-20	竪穴内P		28	28	10	1層																																		

遺構番号	種別	グリッド	寸法 長軸cm	寸法 短軸cm	寸法 深さcm	層位	出土遺物破片数 土器・陶磁器類 縄文土器	弥生土器	須恵器食膳具	須恵器貯蔵具	須恵器特殊	土師器（良）	土師器（粗）	灰釉陶器	緑釉陶器	輸入磁器	中世陶器	近世陶磁	その他 瓦	金属製品	鍛冶関連遺物	石器・石製品	土製品	計	主要器種個体数 杯蓋	杯身	小型返り蓋	小型無台杯	返り蓋	摘み蓋	無台杯	有台杯	無台碗	有台碗	有台盤	灰釉陶器碗	灰釉陶器皿	土師器杯（良）	土師器杯（粗）	土師器高杯
1083-21	竪穴内P		36	28	10	1層																																		
1083-22	竪穴内P		25	23	6	1層																																		
1083-23	竪穴内P		34	27	8	1層																																		
1083-24	竪穴内P		71	50	30	1層																																		
1083-25	竪穴内P		48	26	9	1層																																		
1083-26	竪穴内P		49	38	28	1層																																		
1083-27	竪穴内P		26	26	12	1層																																		
1083-28	竪穴内P		76	76	35	1層																																		
1083-29	竪穴内P		51	50	30	1層																																		
1083-30	竪穴内P		28	28	18	1層																																		
1083-31	竪穴内P		36	33	24	1層																																		
1083-32	竪穴内P		32	28	13	1層																																		
1083-33	竪穴内P		46	33	12	1層																																		
1083-34	竪穴内P		89	56	33	1層																																		
1083-35	竪穴内P		39	27以上	10	1層																																		
1083-36	竪穴内P		39以上	36	10	1層																																		
1083-37	竪穴内P		58	44	30	1層			2															2	1															
1083-38	竪穴内P		38	32	20	1層																																		
1083-39	竪穴内P		76	49	15	1層			2															2																
1083-40	竪穴内P		43	28	5	1層																																		
1083-41	竪穴内P		30	22	7	1層																																		
1083-42	竪穴内P		39	38	20	1層																																		
1084	P	17M	60	60	27	1層																																		
1085	竪穴	17K・18J・18K	374以上	252以上	6	1層			8	6			30											44	1					1										
						2層																																		
						3層																																		
1085-1	竪穴内土坑		138以上	73以上	32	1層																																		
1085-2	竪穴内P		46以上	36以上	18	1層							1											1																
1085-3	竪穴内P		61	53	38	1層							2											2														1		
						2層																																		
1085-4	竪穴内P		28	28	42	1層																																		
1085-5	竪穴内P		40	32	32	1層																																		
1085-6	竪穴内P		56	42	50	1層																																		
1085-7	竪穴内P		56	38	30	1層																																		
1086	P	18J	30	30	18	1層																																		
1087	P	18J	36	32	37	1層																																		
1088	P	18M	110	56	45	1層			1															1																
1089	P	18M	74	60	18	1層																																		
1090	P	18M	65	64	36	1層			1															1																
1091	P	17N	39以上	42	23	1層																																		
1092	土坑	16M・17M・16N・17N	127以上	206	12	1層			2	4			1											7																
1093	土坑	16M・16N	110以上	96以上	34	1層			6															6																
1095	P	17M	34	34	－	1層																																		
1096	P	17M・18M	86	50	5	1層																																		
1097	P	18M	80	66	24	1層																																		
1098	P	18M	46	40	32	1層																																		
1099	P	18M・18L	74	60	16	1層																																		
1100	P	18L	48	42	21	1層																																		
1105	P	18M	60	52	27	1層																																		
1106	P	18L	64	35	14	1層																																		
1109	P	16L	50	46	28	1層																																		
1110	P	16L・16K	56	55	20	1層							2											2																
1111	P	15K	86	80	42	1層				1														1																
1112	P	15K	88	68	40	1層																																		
1114	P	19L・19M	106	74	30	1層																																		
1115	P	19M	38	24	10	1層																																		
1116	井戸	12K・13K	176	174	104	1層			19	17								9				1		46					1		1		4		1					
						2層																																		
1117	土坑	13L	100	98	46	1層			5	5			2					1						13																
1118	P	18L・19L	70	55	12	1層																																		
1119	P	16K・17K	100	94	16	1層																																		
1120	焼土	15L	123	120	18	1層			5	4			17											26							1	1		1					
1121	焼土	15L	110	88	28	1層			13	4			8									1		26						2										
						2層						1	2											3																
						3層																																		
						4層																																		
						5層			2															2						1										
1122	P	14L	45	30	26	1層																																		
1123	焼土	13L・14L	260	148	16	1層			45	20			19	1						1		1		87		1	1			6	1		3		1					
1124	P	14K	65	44	21	1層			1	1														2																
1125	P	14K	64以上	67	36	1層																																		
1126	P	14K・15K	86	53	30	1層																																		
1127	P	15L	75	52	20	1層						1												1																
1128	P	15M	60	60	18	1層			4	2														6																
1129	P	16K・17K	93	70	29	1層																																		
1130	P	16K・17K	94	63	29	1層																																		
1131	土坑	17K・17L	170	100	27	1層							3											3																
1132	焼土	14K・14L	118	114	30	1層			14	1			19											34					3	4	1									
1136	竪穴	16L・17L	410以上	60以上	34	1層			11	22		1	21											55					1											
C地区遺構内出土遺物									660	364		66	473	83				29	1	10		10		1696	4	2	1		4	38	13	2	51	5	8	14	10		1	
F地区																																								
2001	竪穴	30D・30E・30F	562以上	228以上	34	1層			140	81		47	79	6				33						386		5			4	8	8	2	6				2		2
						床面直上			3															3						1										
2001-1	竪穴内P		36	32	22	1層							1											1																
2001-2	竪穴内P		32以上	39	20	1層				1														1																
2001-3	竪穴内P		45	33	24	1層														1				1																
2001-4	竪穴内P		28以上	33	30	1層																																		
2001-5	竪穴内P		62	40	30	1層			1															1						1										
2001-6	竪穴内P		33	33	18	1層			1										1					2																
2001-7	竪穴内P		46	46	29	1層						1												1																
2001-8	竪穴内P		23以上	37	14	1層																																		
2001-9	竪穴内土坑		112以上	75以上	24	1層			4	1			3											8									1							
						2層																																		
2001-10	竪穴内溝		88以上	24以上	8	1層																																		
2002	土坑	32E・32F・33E・33F	188	180	30	1層			2	1			1					1						5																
						2層			2	1								5	1	1				10																
						3層																																		
2003	土坑	31D・31E	96	83	12	1層			3															3									1							
2004	土坑	32D・32E・33D・33E	350以上	200以上	103	1層																																		
						2層																																		
						3層																																		
						1～3層			6	4		1						25	2	2				40		2				1										
2005	竪穴	31F・32F	186以上	180以上	21	1層			5	5		2	10					1	2					25																
2006	P	31D・31E	48	45	10	1層																																		
2007	P	31E	30	20	12	1層																																		
2008	P	31E	35	30	11	1層																																		

遺構番号	種別	グリッド	寸法 長軸cm	寸法 短軸cm	寸法 深さcm	層位	出土遺物破片数 土器・陶磁器類 縄文土器	弥生土器	須恵器食膳具	須恵器貯蔵具	須恵器特殊	土師器(良)	土師器(粗)	灰釉陶器	緑釉陶器	輸入磁器	中世陶器	近世陶磁	その他 瓦	金属製品	鍛冶関連遺物	石器・石製品	土製品	計	主要器種個体数 杯蓋	杯身	小型返り蓋	小型無台杯	返り蓋	摘み蓋	無台杯	有台杯	無台碗	有台碗	有台盤	灰釉陶器碗	灰釉陶器皿	土師器杯(良)	土師器杯(粗)	土師器高杯
2009	P	31D	45	40	6	1層																																		
2010	P	30E・31E	62	62	23	1層							1											1																
2011	P	31F	60	58	16	1層			2															2																
2012	P	31F	30以上	38	14	1層																																		
2013	P	32F	—	—	19	1層																																		
2014	P	31E	48	46	15	1層																																		
2015	P	31E・32E	68	42	27	1層																																		
2016	P	32E	45	38	12	1層																																		
2017	P	32E	64	50	12	1層																																		
2018	P	33F	43	32	14	1層																																		
2019	P	33F	52	40	15	1層																																		
2020	P	30E・31E	53	48	7	1層																																		
2021	P	33E	48	33	23	1層																																		
2022	P	30C	34	30	18	1層																																		
2023	P	30C	25	25	9	1層																																		
2024	P	31C	35	30	10	1層																																		
2025	P	31C	42	38	34	1層																																		
2026	P	31C	35	33	14	1層																																		
2027	P	31C	40	35	20	1層																																		
2028	P	31C・31D	42	40	13	1層					1													1																
2029	P	31C	40	35	14	1層																																		
2030	P	32D	34	26	15	1層					1													1																
2031	P	32C	40	37	7	1層																																		
2032	P	33D	33	28	9	1層																																		
2033	P	33D	40	35	19	1層																																		
2034	P	33C	30	28	8	1層																																		
2035	P	33C	48	48	21	1層																																		
2036	P	34C・34D	40	30	12	1層																																		
F地区遺構内出土遺物									169	96		51	95	6				32	39	4				492		7			4	11	8	2	8				2		2
D地区																																								
3001	P	24G	102	93	41	1層																																		
3002	P	25G	106	96	50	1層			2				1											3																
3003	P	25H	90	78以上	36	1層							1											1																
						2層																																		
3004	P	25H	100	93	42	1層																																		
						2層																																		
3005	P	25H	32	26	25	1層																																		
3006	P	25H	42	35	20	1層																																		
3007	P	25G	82	57	20	1層																																		
3008	土坑	25G・26G	105以上	172	34	1層												4						4																
						2層			9	4									13					26						1										
3009	P	26G	32	27	10	1層																																		
3010	P	26G・26H	55	40	23	1層																																		
3011	P	27G	86	70	10	1層				1														1																
3012	P	26G	74	74	39	1層																																		
3013	P	26G・26H	100	65	67	1層				1									1					2																
3014	P	26G・26H	50	48	17	1層																																		
3016	P	27H	70	65	34	1層			1															1																
3017	P	27G・27H・28G・28H	102	84	43	1層																																		
3018	P	28G・28H	62以上	57	34	1層																																		
3019	P	28G	48	47	16	1層																																		
3020	P	28G	39	36	12	1層																																		
3022	竪穴	28G・28H・29G・29H	350以上	174	28	1層	2		6				19											27																
						2層			1				3											4			1													
3022-1	竪穴内P		48	40	26	1層			1															1		1														
3022-2	竪穴内P		80	56	12	1層																																		
3022-3	竪穴内P		63	41	6	1層																																		
3023	P	27H	68	66	26	1層			1															1																
3024	P	28I	36以上	40	24	1層				1														1																
3025	P	28I	—	—	7	1層																																		
3026	P	28I・29I	102	94	70	1層	1		5	2			8						6					22																
3027	P	28J・29J	84以上	100	50	1層																																		
						2層																																		
						1・2層							1											1																
3028	P	29K	—	—	17	1層																																		
3029	P	29K	95以上	84	20	1層			1										1					2																
3030	P	29K	55	50	36	1層																																		
3031	P	28I・29I・29H	46	42	26	1層																																		
3032	竪穴	26H・26I・27H・27I・28I	586	310以上	30	1層	25	1	4	3		1	5							2		3		44		1														
						2層																1		1																
3032-1	竪穴内土坑		92	54以上	18	1層	2																	2																
3032-2	竪穴内P		56	40	43	1層	1																	1																
						2層																																		
3032-3	竪穴内P		70	70	43	1層																																		
						2層	3																	3																
3033	P	25H・26H	58	45	27	1層																																		
3034	P	26H	—	—	30	1層																																		
3035	土坑	27H・27I・28H・28I	181	154	18	1層	9	1	2				1									3		16																1
3036	P	28H・29H	120	98以上	85	1層			1										1					2																
						2層		1	6	2			2						21					32							1	1								
3037	P	29H・29I	128	112	79	1層	1		2	2			1						7					13																
						2層			2				1											3						1										
						3層													2					2																
						1・2層			6	1			5											12							1									
3038	P	29I	68	60	27	1層																																		
3039	P	29J	45	35	16	1層																																		
3040	P	28H	74	74	44	1層			1	1			1											3																
3041	P	29H	72	68	21	1層																																		
3042	P	28H・28I・29H・29I	46	42	25	1層																																		
3043	P	29I	88	60	20	1層																																		
3044	P	29J・28J	20以上	73以上	23	1層						2												2																
3046	石列	28H・28I	330	—	—	1層			4	1			1						3					9																
3047	P	29I・30I	96	96	77	1層				1			1						2					4																
						2層				2														2																
3048	焼土	29I・30I・29H・30H	96	96	25	1層			1	2									5	1				9																
3049	P	30H・30I	112	66以上	116	1層			6	1			2						9					18																
3050	P	29H	50	50	27	1層																																		
3051	P	29I	28	24	16	1層																																		
3052	土坑	30H・30I	156	36以上	28	1層	1		2															3		1														
3053	P	29J	30	26	30	1層																																		
3054	P	29J・30J	106	101	74	1層			2	2									1					5						1										
						2層													1					1																
						1・2層			3	1		1							3					8																
3055	P	29J・29K・30J・30K	100	98	43	1層			2										2					4																
						2層																																		
						1・2層			1	1									6					8																
3056	P	29J	30	30	5	1層																																		
D地区遺構内出土遺物							45	3	72	29		4	53					4	84	3		7		304		3	1		1	2	2	1						1	

別表 2　遺物包含層一覧表

G地区

グリッド	面積 m²	層位	出土遺物破片数																	主要器種個体数														
			土器・陶磁器類												その他																			
			縄文土器	弥生土器	須恵器食膳具	須恵器貯蔵具	須恵器特殊	土師器(良)	土師器(粗)	灰釉陶器	緑釉陶器	輸入磁器	中世陶器	近世陶磁	瓦	金属製品	鍛冶関連遺物	石器・石製品	土製品	計	杯蓋	杯身	小型返り蓋	小型無台杯	返り蓋	摘み蓋	無台杯	有台杯	無台碗	有台碗	有台盤	灰釉陶器碗	灰釉陶器皿	土師器杯(良)	土師器杯(粗)	土師器高杯
61B	1.0	Ⅱ																																	
61C	2.2	Ⅱ																																	
61D	0.1	Ⅱ																																	
62A	0.1	Ⅱ																																	
62B	13.8	Ⅱ																																	
62C	16.0	Ⅱ																																	
62D	3.8	Ⅱ																																	
63A	3.9	Ⅱ																																	
63B	16.0	Ⅱ			1					1				1						3															
63C	16.0	Ⅱ																																	
63D	13.0	Ⅱ																																	
63E	0.3	Ⅱ																																	
64A	10.0	Ⅱ				1														1															
64B	16.0	Ⅱ																																	
64C	16.0	Ⅱ																																	
64D	16.0	Ⅱ																																	
64E	6.6	Ⅱ			7	4		2	10	1				1						25								1							
65Z	0.7	Ⅱ																																	
65A	15.4	Ⅱ																																	
65B	16.0	Ⅱ																																	
65C	16.0	Ⅱ																																	
65D	16.0	Ⅱ			4	2		2	12											20						1	1								
65E	8.0	Ⅱ			78	41		7	17	4				1						148						4	3	8	7				1		
66Z	6.0	Ⅱ																																	
66A	16.0	Ⅱ																																	
66B	16.0	Ⅱ			2	1		2												5						1									
66C	16.0	Ⅱ																																	
66D	16.0	Ⅱ			25	33		7	55											120	1	2				5	1		1						1
66E	4.7	Ⅱ			25	11		7	11	2										56						5		1	1						
67Z	9.6	Ⅱ	1		1	1		1	3											7															
67A	16.0	Ⅱ			3			2	1											6								2							
67B	16.0	Ⅱ																																	
67C	16.0	Ⅱ			4	3		3	20											30						1									
67D	15.7	Ⅱ	1		33	14		3	36											87						3									
67E	1.2	Ⅱ																																	
68Y	0.5	Ⅱ			1	1														2															
68Z	14.8	Ⅱ			3					2										5								2							
68A	16.0	Ⅱ			5	7		4	5	2										23								2	1						
68B	16.0	Ⅱ			1															1							1								
68C	15.7	Ⅱ						1	4											5															
68D	11.5	Ⅱ			14	1		2	9											26		1					1	1							
69Y	7.2	Ⅱ																																	
69Z	16.0	Ⅱ			5	10		1	3											19						1									
69A	16.0	Ⅱ			3	4		1	1						1					10								1							
69B	16.0	Ⅱ			1			4												5						1									
69C	12.0	Ⅱ			22	6		29	47						1					105	1			1	1		1								
69D	0.2	Ⅱ			10	3		1	16											30	1						2		1						
69E	1.3	Ⅱ																																	
69F	1.5	Ⅱ			5	4		1												10															
70X	4.2	Ⅱ			33	16		1	16					1						67	1	1				3	1		2						
70Y	15.9	Ⅱ	1		65	28		8	54	1										157		1				5		1	3		2				
70Z	16.0	Ⅱ	1		113	45		12	84	6				1				1		263						6	3	3	5		1		3		1
70A	16.0	Ⅱ			61	26		13	74	4										178	1					1	1		4		2	1			1
70B	16.0	Ⅱ	2		68	38		21	136	5										270					2	3	1						2		1
70C	15.0	Ⅱ						7	6											13															1
70D	0.1	Ⅱ																																	
70E	9.3	Ⅱ			7	1														8							1		1	1					
70F	16.0	Ⅱ			3															3															
70G	12.0	Ⅱ																																	
71X	9.6	Ⅱ			58	16		8	42	3										127		1				2	3		7	4	1	1			1
71Y	16.0	Ⅱ	1		103	27		8	56	7				2	1					205			1		1	3	2		11			2			
71Z	16.0	Ⅱ	3		185	72		16	159	14				1	3					453	1	3			1	10	3		16	2	1	4	6		3
71A	16.0	Ⅱ			127	44		25	175	1				2						374		3				9	6	3	1						
71B	16.0	Ⅱ			141	37		41	157	11					2					389		3			1	14	6	2	9			3			1
71C	9.3	Ⅱ			77	19		23	71	9				3	1					203		3			1	2	5	2	2		1	5	2	1	
71D	1.0	Ⅱ			5	1				1										7								1				1			
71E	15.2	Ⅱ			16	7		3	5	1										32		1				1	1		1			1			
71F	16.0	Ⅱ			2				2											4	1														
71G	10.3	Ⅱ																																	
72X	11.0	Ⅱ	1		20	15		3	19					1				1		60	2					1			2	1					
72Y	15.8	Ⅱ			42	17		38	107					1				1		206	2	1	4										1		1
72Z	16.0	Ⅱ	1		147	31		27	202					3						411	7	11		2		3	1	2	1	1					1
72A	16.0	Ⅱ			143	39		30	181	12								1		406	2	4	1		1	5	7	1	4		2		1	1	1
72B	15.8	Ⅱ			123	30		28	174	11					3					369	6	2	1			2	3	1	1			5	3	2	2
72C	3.0	Ⅱ			3	1		6	11						1					22															
72D	8.7	Ⅱ			2	1			9											12							1								
72E	16.0	Ⅱ																																	
72F	16.0	Ⅱ						1												1															
72G	5.5	Ⅱ																																	
73W	2.2	Ⅱ																																	
73X	2.7	Ⅱ																																	
73Y	1.3	Ⅱ																																	
73Z	8.0	Ⅱ	1		34	9		9	23	1				1						78	3	3	1											1	
73A	15.1	Ⅱ			90	24		10	34	1				4						163	1						1	1	6	2	1				
73B	10.0	Ⅱ	1		66	18		14	82	3								1		185	2	1			1	4		2	1	1	2				
73C	1.9	Ⅱ																																	
73D	15.5	Ⅱ				1		1	3											5															

グリッド	面積 m²	層位	出土遺物破片数 土器・陶磁器類 縄文土器	弥生土器	須恵器食膳具	須恵器貯蔵具	須恵器特殊	土師器(良)	土師器(粗)	灰釉陶器	緑釉陶器	輸入磁器	中世陶器	近世陶磁	その他 瓦	金属製品	鍛冶関連遺物	石器・石製品	土製品	計	主要器種個体数 杯蓋	杯身	小型返り蓋	小型無台杯	返り蓋	摘み蓋	無台杯	有台杯	無台碗	有台碗	有台盤	灰釉陶器碗	灰釉陶器皿	土師器杯(良)	土師器杯(粗)	土師器高杯
73E	16.0	Ⅱ			2	1		2	16											21							1									
73F	15.8	Ⅱ						2	2											4																1
73G	1.3	Ⅱ																																		
74W	10.3	Ⅱ						1								1				2																
74X	16.0	Ⅱ																																		
74Y	13.4	Ⅱ			4	3		3	20											30		1														
74Z	6.2	Ⅱ			22	22								4						48									1							
74A	0.5	Ⅱ			2	2														4										1						
74B	0.8	Ⅱ																																		
74C	10.4	Ⅱ																																		
74D	16.0	Ⅱ			1											1				2	1															
74E	16.0	Ⅱ			1				1											2	1															
74F	12.6	Ⅱ							1											1																
75V	0.4	Ⅱ																																		
75W	15.0	Ⅱ																																		
75X	16.0	Ⅱ			1			1	3											5																
75Y	16.0	Ⅱ			2	1		3	1											7																
75Z	12.5	Ⅱ			6	10														16						2			1							
75A	0.1	Ⅱ																																		
75B	1.8	Ⅱ																																		
75C	15.8	Ⅱ																																		
75D	16.0	Ⅱ				1														1																
75E	16.0	Ⅱ			6	4			10	1										21	3											1				
75F	8.2	Ⅱ	1		9	5			17											32	1					1										
76V	4.4	Ⅱ				1														1																
76W	16.0	Ⅱ																																		
76X	16.0	Ⅱ			1	1			2											4																
76Y	16.0	Ⅱ	4		1	1		1	1	1										9									1							
76Z	4.8	Ⅱ				2			1											3																
76B	8.3	Ⅱ																																		
76C	16.0	Ⅱ																																		
76D	16.0	Ⅱ																																		
76E	16.0	Ⅱ			4	15		2	1											22		1				1										
76F	3.0	Ⅱ																																		
77V	8.6	Ⅱ	1																	1																
77W	16.0	Ⅱ																																		
77X	16.0	Ⅱ			1	1		23	2											27											1					1
77Y	13.1	Ⅱ			2				1											3		1														
77Z	0.1	Ⅱ																																		
77A	1.0	Ⅱ																																		
77B	15.0	Ⅱ			9	1														10								1								
77C	16.0	Ⅱ																																		
77D	16.0	Ⅱ			18	32		3	45											98		2				4	1									
77E	12.7	Ⅱ			3	12		5	17											37																1
78U	0.1	Ⅱ																																		
78V	13.7	Ⅱ	2		19	16		3	11											51		1			1	1		1			1					1
78W	16.0	Ⅱ						2												2																
78X	16.0	Ⅱ			3	1		1	2											7																
78Y	5.0	Ⅱ																																		
78A	7.8	Ⅱ				2		5	2											9																
78B	16.0	Ⅱ			3	1		4	10											18							1	2								1
78C	16.0	Ⅱ																																		
78D	16.0	Ⅱ			6	23		3	13											45						1										
78E	6.2	Ⅱ																																		
79U	3.0	Ⅱ			17	37		3	15											72	2					1		1								
		Ⅱ 2			7	14														21							1									
79V	16.0	Ⅱ	3		53	31		9	23											119	1	1				4	1	1	1							1
79W	16.0	Ⅱ			7	1		13	35									1		57														1		
79X	13.5	Ⅱ			25	6		2	15									1		49	1	2				3										
79Y	0.1	Ⅱ																																		
79Z	0.5	Ⅱ																																		
79A	14.2	Ⅱ			8	6		19	34											67		3														1
79B	16.0	Ⅱ			10	4		4	18											36		1														
79C	16.0	Ⅱ			3	5		1	8											17								1								
79D	15.3	Ⅱ			5	13		5	16											39				1			1									
79E	4.2	Ⅱ																																		
80U	10.0	Ⅱ			45	44		8	55									2		154	4	12				1		1								
		Ⅱ 2			26	46	1	2	5											80	1	1														
80V	16.0	Ⅱ			23	11		4	22									1		61		1				1		1								
80W	16.0	Ⅱ	2		1	5		5	37											50																
80X	14.8	Ⅱ			8	7		3	18											36		1									1					
80Z	6.0	Ⅱ			7															7									1							
80A	16.0	Ⅱ			29	47		20	49	1				1				2		149		1				2	4	1	1							3
80B	16.0	Ⅱ			10	98														108	1															
80C	16.0	Ⅱ			35	22		3	25							1				86		1				4	2		1							1
80D	12.7	Ⅱ			8	2		2	2							1				15																1
81T	1.0	Ⅱ			14	19		5	29											67	1	2				1										1
81U	15.6	Ⅱ			136	126		16	103					1				1		383	3	10	4		1	1	2	2							2	1
		Ⅱ 2			31	73		3	91									1		199		1				1									1	
81V	16.0	Ⅱ			114	78		23	63	2										280	2	1			1	1	8	3	2							
81W	16.0	Ⅱ			13	12		17	78											120	1	2					3									
81X	15.0	Ⅱ	2		21	21		27	80											151	2	4							1					1		2
81Z	7.7	Ⅱ																																		
81A	15.2	Ⅱ			25	96		3	17	1										142						2		1	2				1			
81B	16.0	Ⅱ	1		199	646	1	43	188	19						1		2		1100	1	2				20	13	5	2	1			2			1
81C	15.9	Ⅱ			79	272		23	141	7						1		1		524	1	1		1		10	2	3	3			3				1
81D	8.3	Ⅱ			18	30		8	6											62						3	2		1						1	
82T	5.7	Ⅱ			8	4		4	22							1				39	3	1														

グリッド	面積 m²	層位	出土遺物破片数 土器・陶磁器類 縄文土器	弥生土器	須恵器食膳具	須恵器貯蔵具	須恵器特殊	土師器(良)	土師器(粗)	灰釉陶器	緑釉陶器	輸入磁器	中世陶器	近世陶磁	その他 瓦	金属製品	鍛冶関連遺物	石器・石製品	土製品	計	主要器種個体数 杯蓋	杯身	小型返り蓋	小型無台杯	返り蓋	摘み蓋	無台杯	有台杯	無台碗	有台碗	有台盤	灰釉陶器碗	灰釉陶器皿	土師器杯(良)	土師器杯(粗)	土師器高杯
82U	16.0	I			4	8														12	1															
		II			94	144		27	206							1		2		474	6	12	2		1	2			1	1						
82V	16.0	II			202	190		15	78	10				1				2		498	3	4				3	2		10	6	3		1			1
82W	16.0	II			77	74		22	62	2								1		238	2	8							1	1						
82X	15.2	II			113	72		42	94	1						1				323	2	4	1		1	1		3	3			1		1		2
82Y	0.4	II																1		1																
82A	5.8	II				1														1																
82B	16.0	II			19	48		8	11	2										88		2			1	2										
82C	14.4	II			18	32		4	8									1		63						1	2	1	1							
83T	11.1	II			7	6		11	18							1				43	1					1										1
83U	16.0	II			41	58		28	67									1		195	9	2	1			1			1						1	2
83V	16.0	II			183	133		16	49	7								1		389	2	9			1	5	2	2	4	3			2			
83W	16.0	II			206	117		11	70	6								2		412		8	1		2	14	2	2	6		2	1				1
83X	16.0	II			132	201		28	99	4						1		1		466	2	9			6	3		1	4				1			1
83Y	2.2	II			8	35		12	20					1						76		1				1										3
83A	10.8	II			2	2			1											5																
83B	15.9	II			20	12		7	6											45		1							3	1						1
83C	10.3	II			37	19		5	2											63	1	2			1	2		2	1							1
84S	0.6	II																																		
84T	14.6	II			5	5														10									1							
84U	16.0	II			15	17		1	7					2				1		43	1	1														
84V	16.0	II			81	99		5	23	1						1		1		211		3			2	8	1	1	1							1
84W	16.0	II			98	64		10	39	4				2		2		1		220	1	1			1	6	2	2	3				2			1
84X	16.0	II			108	81		13	58	32								1		293		8			2	8	2	2	6							2
84Y	3.0	II			13	7		2	2											24		1														
84A	14.7	II	2		20	20		2	8									2		54									9		1					1
84B	11.6	II			17	11		3	1											32		1						3	2							
84C	0.1	II																																		
85S	6.4	II																																		
85T	16.0	II																																		
85U	16.0	II																																		
85V	16.0	II			86	102		6	35	2					2			1		234					1	8	1	2	2							
85W	16.0	II			51	38		7	40					1				2		139							1		3							
85X	14.6	II	1		30	46		12	76							1	1			167	1								1							2
85Y	0.3	II				1		1												2																
85Z	4.2	II																																		
85A	15.6	II			90	54		1	22	3								1		171	1	3			1	5		2	13	1		1	2			
85B	2.2	II			8	5		3	7											23	2	1				1			1	1						
86S	10.7	II																																		
86T	16.0	II																																		
86U	14.4	II																																		
86V	15.2	II			85	20			7									2		114						4		2	2							
86W	16.0	II			69	36		5	26					1						137		1				2		1	4							
86X	10.0	II			27	17		5	4									1		54		1		1		1		1	1							
86Y	0.1	II			16	3			4											23									1							
86Z	10.5	II			12	11		2	25											50					1	1										
86A	10.6	II			46	51		5	37											139	4	1				2			3							1
87S	3.3	II																																		
87T	6.6	II																																		
87W	1.8	II																																		
87X	2.2	II																																		
87Y	0.2	II																																		
87Z	15.4	II			9	21		4	11									1		46						1	1									1
87A	4.1	II			6	4			6											16	1	1														
88Y	0.4	II			3	1		1												5					1				1							
88Z	4.3	I			19	10														29					2				2	1						
		II			13	5		3	12											33		1														
G地区グリッド不明					472	317		21	87	13				49	2			5		966	5	10	1		3	15	3	9	17	3	1	2	4			1
小計			33		5660	4842	2	1120	4834	222				86	4	28	1	48		16880	107	191	18	6	39	259	117	91	219	33	23	32	33	9	5	56

C地区

12K	4.8	II			11	8			5					1						25							1								
12L	1.7	II																																		
13I	5.3	II			20	12		1	6					7		1		1		48						1										
13J	13.4	II			105	64			49	3				10	1	1		1		234		4	2			6	2	1	4		3		1			
13K	16.0	II			125	83	1	11	52	7				7						286			1		2	11	4	7	4							2
13L	12.8	II	1		91	65		2	35	1						1		1		197		3				8	2	4	3	1		1				
14I	9.8	II			9	5			2					2				1		19					1											
14J	16.0	II			19	14		1	7					5	1					47							4	1	1							
14K	16.0	II			118	95		4	65	6				3	1	1				293		4			1	7	3	7					1			
14L	16.0	II			57	110		9	46	22				1				1		246		2				18	8	3	4	1	2	2				1
14M	4.0	II			18	17			9	3										47						2		1		1						
15I	6.1	II			8	2			1					5						16																
15J	16.0	II			42	12		2	11					3		1				71	1	1				6	2	1	1							
15K	16.0	II			28	12		2	9						1	1		1		54	1	1			2	1	2									
15L	16.0	II	1		76	47		4	44	1				2				1		176		1				7	2		6	2						1
15M	10.5	II			32	12		4	5	1						1				55						4		5	1				1	1		
16I	1.7	II			2				1					1						4																
16J	16.0	II			24	5			5					7						41						1	4									
16K	16.0	II			4	4		2	13					3						26				1												1
16L	16.0	II			14	11		1	4	1				2						33						1						1				
16M	15.3	II	1		30	29			8	2					1					71					1	2		2	4				1			
16N	1.0	II																																		
17J	11.0	II			3				9											12						1	1									
17K	16.0	II			7	6		1	27											41		1					1									1
17L	16.0	II			5	3			14					3						25																
17M	16.0	II			12	4			2	2				4						24		1				1			1			1	1			
17N	6.0	II																																		
18J	4.1	II			3	1			6					1						11						1										
18K	16.0	II			4	2			7					1						14		1														

グリッド	面積 ㎡	層位	出土遺物破片数 土器・陶磁器類 縄文土器	弥生土器	須恵器食膳具	須恵器貯蔵具	須恵器特殊	土師器(良)	土師器(粗)	灰釉陶器	緑釉陶器	輸入磁器	中世陶器	近世陶磁	その他 瓦	金属製品	鍛冶関連遺物	石器・石製品	土製品	計	主要器種個体数 杯蓋	杯身	小型返り蓋	小型無台杯	返り蓋	摘み蓋	無台杯	有台杯	無台碗	有台碗	有台盤	灰釉陶器碗	灰釉陶器皿	土師器杯(良)	土師器杯(粗)	土師器高杯
18L	16.0	Ⅱ			2	3														5																
18M	16.0	Ⅱ			9	5			1					5						20		1							1						
18N	12.1	Ⅱ			4	1														5								1							
19J	0.1	Ⅱ																																		
19K	12.6	Ⅱ				2														2																
19L	14.5	Ⅱ			1	6												2		9																
19M	12.2	Ⅱ			8	3			1											12							1									
19N	6.4	Ⅱ			5	2								2						9																
19O	0.1	Ⅱ																																		
C地区グリッド不明					134	72		1	11					32	1			1		252		2			2	6	3	1	2						
小計			3		1030	717	1	45	455	49				107	6	7		10		2430	2	22	3	1	9	84	40	34	32	5	5	5	5	1		6
F地区																																				
30C	6.0	Ⅰ2	10		6	1								10						27					1		1								
30D	3.9	Ⅰ2			7	2			3	1				3	3					19						3										
30E	11.0	Ⅰ			3															3																
		Ⅰ2				3									2					5																
30F	0.8	Ⅰ2																																		
31C	12.0	Ⅰ2			2	7		1	1					25	1					37						1										
31D	6.7	Ⅰ			1	2			2					4						9																
		Ⅰ2			14	3			1					1	2					21						1		1	1							
31E	16.0	Ⅱ			5	2								4	5	1				17																
31F	3.1	Ⅰ2			5	6									1					12		1							1							
32C	8.5	Ⅰ2			14	19		1						33		1				68						2		2	1							
32D	6.1	Ⅰ			4									3	1					8																
		Ⅰ2			30	21		2	3					49	2					107			1		1	1	1		2							
32E	16.0	Ⅰ2	1		38	39		3		1					5	4				91						1	2		2					1		
32F	6.4	Ⅰ2			27	28		3	7	5					19	1		1		91		1					5		3	1						
33C	7.0	Ⅰ2			6	6			5					8						25						1										
		Ⅱ	2		16	10		4	10	1				7				1		51		1											1			1
33D	5.8	Ⅰ2			3	5								11						19								1								
		Ⅱ	2		15	7		1	2			1		7	3	1				39							1									
33E	15.5	Ⅰ2			102	56		1	9	4				103	12	1		1		289		1			1	4	7	2	2			1	1			
		Ⅱ			40	31		3	13	4				3	6	1		1		102		3				1	2	1	1							
33F	9.7	Ⅰ2	1		76	58		7	3	7	1			37	29			2		221	1	3	2		1	1	2	6	2				1			
		Ⅱ			39	25		2	2	4				4	11	2				89		1				1	8	2			1		2			
34C	2.6	Ⅰ2	4		11	8		2	3			2		10	3			3		46																
		Ⅱ			3	3	1	3	8						1					19																
34D	2.4	Ⅰ2			11	12		3	3					46	3	1				79						1										
		Ⅱ			3	4		4	3					1						15																
34E	6.0	Ⅰ2	1		91	59		10	47	3		1		62	21	1		3		299		2				2	12	2	2			1	1			2
34F	4.4	Ⅰ2			40	24		2	2	4				38	8			1		119						2	1	3	2							
		Ⅱ			53	56		1	12	8				5	28			1		164		5				1	2	2	4			2	2			
F地区グリッド不明					10	26		1	3	4				29	9					82							1					1				
小計			21		675	523	1	54	142	46	1	4		503	175	14		14		2173	1	18	3		4	23	45	22	23	1	1	5	8	1		3
D地区																																				
24F	0.9	Ⅰ	1		6	9		1	11	1				2	2					33						1			1			1		1		
24G	8.1	Ⅰ			12	12		9	16					9	1					59							1	1								2
		Ⅱ			1											1				2			1													
24H	4.8	Ⅰ																																		
25F	0.4	Ⅰ			5	4			9	1		1								20		1														
25G	15.3	Ⅰ			7	4		10	17			1		3		1				43	1															2
		Ⅱ			9	4		2	5	1				1						22									1			1				1
25H	11.7	Ⅰ																																		
26G	12.0	Ⅰ	2	13	36	30		41	103	2				7	6			3		243	1				1		4	1	1							2
		Ⅱ			5	3			3					2	9	1	1	1		25									1							
26H	15.4	Ⅰ			2	2			4					1						9																
		Ⅱ	4		7	8		1	3					6	2			4		35							1		1							1
26I	0.2	Ⅱ																																		
27G	8.6	Ⅰ	2		34	25		7	31	1		1		20				1		122						1			4							2
		Ⅱ	3		14	6		4	6	1				2	4			1		41						2		1	1				1			
27H	16.0	Ⅰ	1		21	6			3					19	5			2		57						4			1							
		Ⅱ	8	2	22	11			20					2	16			1		82						3	3	1								
27I	2.9	Ⅱ	1		34	5		1	11	1				1	33					87	2						1	3	1	1						1
28G	5.0	Ⅰ			1	11								1						13									1							
		Ⅱ			8	4		1	3	1				1						18						1	1		1			1				
28H	16.0	Ⅰ			4	4			7					3	6			1		25					1											
		Ⅱ	9		156	48		16	49	2	1			25	121			3		430	1	3	1			13	5	3	9				1			
28I	7.6	Ⅱ	8		53	33		3	12	3				7	136	2	1	3		261					2	4		2	7			1				
28J	0.5	Ⅱ			3	2			1					1						7									1							
29G	1.0	Ⅰ			4	1			6					1						12							1		1							
		Ⅱ			4	3		2	2					6	2					19						2										
29H	12.0	Ⅰ			9	8		5	11					4	17					54										1						
		Ⅱ			26	5			10					2	37			1		81					1		1		2							
29I	16.0	Ⅱ			27	8		1	6	2				11	26	3		2		86		2				2										
29J	15.9	Ⅰ			6	4								30	14			1		55								1	1							
		Ⅱ			10				1	1				5		1				18						2			1							
29K	10.0	Ⅰ												4	3					7																
		Ⅱ			10	3								6	4					23					1	1		2	1							
29L	0.9	Ⅱ																																		
30H	2.3	Ⅱ			1				1					1	1					4																
30I	4.5	Ⅰ			2	4			4					5	4					19																
30J	3.1	Ⅰ			1	2		1						24	4					32										1						
		Ⅱ			1	2		2						1		1		1		8																
30K	0.3	Ⅰ												6						6																
D地区グリッド不明					26	25		11	18	2		1		19	7					109						1			2	1		2				
小計			39	15	567	296		118	373	19	1	4		238	460	10	2	25		2167	5	6	2		6	37	18	15	39	4		6	2	1		11

別表 3　遺物観察表

遺物番号	地区	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	台径	残存率	観察事項
1	G	27号	1層	須恵器	杯身					0	最大径 11.0cm。体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。胎土密で砂粒の混入少ない。堅緻。
2	G	27号	1層	須恵器	横瓶					0	口頸部内外面回転ナデ。体部内面に同心円当て具痕。体部外面に格子叩き痕。
3	G	38号	2層	金属製品	不明	(残存 6.0)	(0.3)	(残存 1.4)			鉄製。実測図の一点鎖線部分は木質。刀子の鞘か。ほぼ床面直上で出土。
4	G	41号	2層	須恵器	杯身	14.0				0.8	体部内外面回転ナデ。
5	G	62号	1層	須恵器	無台碗	14.4	3.8	7.6		1.3	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。
6	G	81号	1層	須恵器	高杯	14.8				5.0	杯部内面回転ナデ。杯部の体部外面回転ナデ。杯部の底部外面回転ヘラ削り。底部外面に脚部のハガレ痕あり。86ZグリッドⅡ層と接合。
7	G	100号	1層	須恵器	杯蓋	11.0	3.6			1.3	天井部内面回転ナデ。天井部外面ヘラ切り後不調整。体部内外面回転ナデ。焼成あまく灰色を呈する。
8	G	100号	1層	須恵器	杯身	11.0				1.2	体部内外面回転ナデ。
9	G	100号	1層	須恵器	摘み蓋	21.0	3.8			9.6	天井部内面回転ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。摘み部回転ナデ。体部内外面回転ナデ。
10	G	100号	1層	須恵器	摘み蓋	13.0	3.8			1.1	天井部内面回転ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。摘み部回転ナデ。体部内外面回転ナデ。
11	G	100号	2層	須恵器	無台杯	13.2	3.3	11.0		5.4	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。底部外面に回転糸切り痕。底部内面平滑化。
12	G	100号	1層	須恵器	有台杯	13.3	3.6	10.9	10.1	1.9	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。
13	G	100号	1層	須恵器	有台杯	18.4	3.9	15.8	14.3	2.6	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。
14	G	100-1号	1層	須恵器	無台碗	13.2	4.2	8.1		5.1	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。焼成あまく灰白色を呈する。
15	G	100号	1層	須恵器	有台皿？				16.9	0	底部内面回転ナデ。高台内外面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。84XグリッドⅡ層と接合。
16	G	100号	1層	須恵器	鉢			14.8		0	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面摩滅のため調整不明。焼成あまく灰白色を呈する。
17	G	100号	1層	土師器	高杯			9.5		0	内外面摩滅のため調整不明。胎土粗く砂粒の混入多い。
18	G	100号	2層	土師器	甕	14.8				3.5	体部外面に縦方向のハケ目。口頸部内面と体部外面に煤付着。
19	G	100号	床面直上	須恵器	甕	40.0	76.7			5.1	最大径 75.4cm。口頸部内外面回転ナデ。頸部内面指オサエ。体部との境に指？オサエ。体部の頸部付近の内面ナデ・オサエ、同心円当て具痕がかすかに残る。それ以外の体部内面に横方向のハケ目。底部内面ナデ・オサエ。体部外面・底部外面に平行叩き痕。1層と接合。
20	G	100号	1層	鍛冶関連遺物	鉄滓	(7.4)	(3.1)	(6.0)			碗形滓。重さ133g。
21	G	100号	1層	金属製品	刀子	(残存 3.4)	(0.3)	(残存 2.0)			鉄製。
22	G	124号	1層	土師器	皿	11.8	2.9	4.3		12.0	底部内面から体部内面にかけてハケ目。口縁部外面強い横方向ナデによる「面取り」。体部外面・底部外面ナデ・オサエ。手捏成形。胎土密で砂粒の混入少ない。橙色を呈する。
23	G	176号	1層	須恵器	甕	17.2				1.3	口頸部内外面回転ナデ。体部内面に当て具痕。体部外面に叩き痕。
24	G	197号	1層	須恵器	摘み蓋	13.0	2.9			3.6	天井部内面回転ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。摘み部摩滅のため調整不明。体部内外面回転ナデ。
25	G	197号	1層	須恵器	摘み蓋	17.0				2.9	天井部内面回転ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。体部内外面回転ナデ。
26	G	197号	1層	須恵器	摘み蓋	18.0	5.1			12.0	天井部内面回転ナデ後ナデ・オサエ。天井部外面回転ヘラ削り。摘み部回転ナデ。体部内外面回転ナデ。
27	G	197号	1層	須恵器	無台杯？	16.0		12.6		3.4	体部内外面回転ナデ。
28	G	197号	1層	須恵器	有台杯				10.6	0	底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。底部外面中央部に回転糸切り痕か。底部内面平滑化。
29	G	197号	1層	須恵器	有台杯	14.2	3.5	10.6	9.3	3.8	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。底部内面平滑化。
30	G	197号	1層	須恵器	有台杯	10.0	3.8	7.8	6.8	4.6	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り後ナデ・オサエ。底部内面平滑化。
31	G	197号	1層	須恵器	無台碗？	10.8				2.5	体部内外面回転ナデ。焼成あまく灰黄色を呈する。
32	G	197号	1層	須恵器	無台碗？	12.0		7.0		2.6	体部内外面回転ナデ。
33	G	197号	1層	須恵器	無台碗	12.0	3.7	6.0		12.0	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。焼成ややあまく明褐色を呈する。
34	G	197号	1層	須恵器	壺または鉢			6.2		0	体部内外面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。焼成あまく灰白色を呈する。
35	G	197-12号	1層	須恵器	鉢？	20.8				1.6	体部内外面回転ナデ。
36	G	197号	1層	須恵器	鉢			18.0		0	体部内面回転ナデ。底部内面回転ナデ。体部外面回転ヘラ削り。底部外面摩滅のため調整不明。体部内面・底部内面平滑化。
37	G	197号	1層	土師器	製塩土器					0	体部内面ナデ・オサエ。体部外面縦方向の粗い板ナデ。胎土に砂粒の混入少ない。
38	G	197号	1層	土師器	甕	9.2				1.0	口頸部内面ナデ・オサエ。頸部外面から体部外面にかけて縦方向のハケ目。体部内面に縦方向のハケ目。
39	G	197号	1層	土師器	甕	18.0				0.5	体部内面に横方向のハケ目。
40	G	197号	1層	土師器	甕	17.6				1.7	口頸部内面ナデ・オサエ。口頸部外面横方向ナデ。体部内面ナデ・オサエ。体部外面横方向ナデ。
41	G	197-14号	2層	石製品	砥石	(52.8)	(8.1)	(41.9)			確認される砥面は表面1面で、幅の広い線条が認められる。ただし全面被熱し劣化が著しいため、砥面は部分的にしか残っていない。裏面にも部分的に平滑化と線条が認められ、砥面として使用された可能性がある。石材は砂岩。
42	G	197号	1層	石製品	砥石	(18.1)	(7.5)	(21.1)			砥面は表面・右側面・裏面の3面で、幅の広い線条が認められる。石材は粒子の粗い砂岩。
43	G	197号	1層	石製品	砥石	(20.3)	(7.1)	(16.5)			砥面は表面と左側面の2面で、細かな線条が認められる。ただし下端面と右側面以外は被熱し劣化が著しいため、砥面は部分的にしか残っていない。石材は砂岩。
44	G	197-14号	1・2層	金属製品	不明	(残存 4.0)	(0.6)	(残存 0.7)			鉄製。表面にごく薄い木質が付着している。
45	G	215号	1層	須恵器	無台杯	12.1	4.0	6.0		2.6	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ヘラ切り後、粗いナデ・オサエ。
46	G	220号	1層	須恵器	摘み蓋	20.9				1.9	天井部内面回転ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。体部内外面回転ナデ。焼成あまく淡黄色を呈する。
47	G	230号	1層	須恵器	杯蓋	11.8	3.7			1.1	天井部内面回転ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。体部内外面回転ナデ。外面に自然釉付着。
48	G	230号	1層	須恵器	杯身	11.3				2.8	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ・オサエ。底部外面自然釉付着のため調整不明。
49	G	230号	1層	須恵器	摘み蓋	20.0				1.6	天井部外面回転ヘラ削り。体部内外面回転ナデ。焼成ややあまく灰黄色を呈する。
50	G	230号	1層	須恵器	無台杯	12.7	4.9	8.4		4.2	体部内外面回転ナデ。底部内面摩滅のため調整不明。底部外面ヘラ切り後、粗いナデ。
51	G	230号	1層	須恵器	無台杯	12.5	4.0	7.4		3.2	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面摩滅のため調整不明。
52	G	230号	1層	須恵器	甕	34.1				1.3	口頸部内外面回転ナデ。
53	G	230号	1層	須恵器	有台杯	12.6	3.3		9.6	4.1	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。底部内面平滑化。
54	G	230号	1層	土師器	甕	10.0				1.7	口頸部内面に横方向のハケ目。口頸部外面横方向ナデ。体部内面に斜め方向のハケ目。体部外面摩滅のため調整不明。
55	G	230号	1層	金属製品	刀子	(残存 19.6)	(0.6)	(2.4)			鉄製。
56	G	230号	1層	金属製品	鉄鏃	(残存 8.4)	(0.8)	(残存 3.9)			鉄製。
57	G	240号	1層	土師器	甕	16.0				1.8	口頸部内外面横方向ナデ。体部内外面横方向ナデ。
58	G	244号	1層	石製品	打製石斧	(10.6)	(2.4)	(5.6)			石材は凝灰岩とみられる。
59	G	246号	1層	須恵器	杯蓋	10.4	3.8			10.3	天井部内面回転ナデ後ナデ・オサエ。天井部外面回転ヘラ削り。体部内外面回転ナデ。

遺物番号	地区	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	台径	残存率	観察事項
60	G	246号	1層	須恵器	杯蓋	12.2	3.6			5.2	天井部内面回転ナデ。天井部外面に自然釉付着。体部内外面回転ナデ。81UグリッドⅡ層と接合。
61	G	246号	1層	須恵器	杯蓋	15.3	5.3			1.6	天井部内面回転ナデ後ナデ・オサエ。天井部外面回転ヘラ削り。体部内外面回転ナデ。焼成あまく灰白色を呈する。
62	G	246号	1層	須恵器	杯蓋	12.0	3.9			1.3	天井部内面回転ナデ後ナデ・オサエ。天井部外面回転ヘラ削り。体部内外面回転ナデ。
63	G	246号	1層	須恵器	杯身	12.9				1.8	体部内外面回転ナデ。
64	G	246号	1層	須恵器	杯身	11.6	3.2	6.8		12.0	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後、中央部ナデ・オサエ。底部外面回転ヘラ削り後、中央部ナデ・オサエ。
65	G	246号	1層	須恵器	杯身	10.3		5.2		0.7	体部内外面回転ナデ。堅緻。
66	G	246号	1層	須恵器	杯身	11.5	4.0			3.3	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面粗いナデ・オサエ。胎土密。堅緻。
67	G	246号	1層	須恵器	高杯	11.0				1.2	杯部内外面回転ナデ。杯部内面に自然釉付着。
68	G	246号	1層	須恵器	高杯	14.2	9.2	9.4		4.1	杯部・脚部内外面回転ナデとみられるが、摩滅のため明確ではない。焼成あまく灰白色を呈する。
69	G	246号	1層	須恵器	短頸壺	11.6	10.0	7.3		4.0	口頸部内外面回転ナデ。体部内面・底部内面・体部外面上半部回転ナデ。体部外面下半部・底部外面回転ヘラ削り。81UグリッドⅡ層と接合。
70	G	246号	1層	須恵器	壺			5.2		0	頸部内外面回転ナデ。体部内面回転ナデ。体部外面上半部回転ナデ、下半部ナデ・オサエ。底部内面細かい平行線状当て具によるオサエ。底部外面ヘラ切り後ナデ・オサエ。250号遺構1層・81UグリッドⅡ層と接合。
71	G	246号	1層	須恵器	甕	29.6				1.1	口頸部内外面回転ナデ。体部内面ナデ・オサエ。体部外面に叩き痕。
72	G	246号	1層	須恵器	甕	12.0	15.3			3.0	口頸部内外面回転ナデ。体部外面回転ナデ。底部外面粗いヘラ削り・ナデ・オサエ。体部外面に自然釉付着。282号遺構1層と接合。
73	G	246号	1層	土師器	杯	13.1	5.1			4.7	体部内面ナデ・オサエ。体部外面に横方向のハケ目。底部内面ナデ・オサエ。底部外面摩滅のため調整不明。ゆがみ著しい。胎土粗く砂粒の混入多い。
74	G	246号	1層	土師器	杯	12.0				3.1	体部内面横方向ナデ。体部外面に縦方向のハケ目。胎土粗く砂粒の混入多い。
75	G	246号	1層	土師器	高杯	10.8				11.0	杯部の口縁部内外面横方向ナデ。杯部の体部から底部にかけての内外面斜め方向ナデ。脚部内外面横方向ナデ。胎土密で砂粒の混入少ない。
76	G	246号	1層	土師器	甕	11.0				1.7	口頸部内面に横方向のハケ目。口頸部外面に縦方向のハケ目。体部内外面摩滅のため調整不明。
77	G	246号	1層	金属製品	釘？	(残存 5.7)	(0.7)	(残存 0.8)			鉄製。ほぼ床面直上で出土。
78	G	246号	1層	金属製品	刀子	(残存 3.9)	(0.4)	(残存 1.1)			鉄製。刀子の切先。
79	G	250号	1層	須恵器	高杯？	11.0				1.6	杯部の体部内外面回転ナデ。杯部の底部内面回転ナデ。杯部の底部外面回転ヘラ削り。
80	G	250号	1層	須恵器	甕	18.0				3.9	口頸部内外面回転ナデ。体部内面に同心円当て具痕。体部外面に粗い平行叩き痕。
81	G	250号	1層	土師器	甕	14.8				2.3	口頸部内面に横方向のハケ目。口頸部外面摩滅のため調整不明。
82	G	260号	1層	須恵器	杯蓋	9.0	3.1			5.0	天井部内面回転ナデ。天井部外面ヘラ切り後、丁寧なナデ・オサエ。体部内外面回転ナデ。内面に平滑化が認められないことから、無台杯ではなく杯蓋と判断した。
83	G	260号	1層	須恵器	杯蓋	14.0	3.3			1.7	天井部内面回転ナデ後ナデ・オサエ。天井部外面回転ヘラ削り。体部内外面回転ナデ。胎土粗い。
84	G	260号	1層	須恵器	無台盤	13.6	3.6	6.2		0.6	体部内面回転ナデ。体部外面上半部回転ナデ、下半部外面回転ヘラ削り。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面回転ヘラ削り。
85	G	260号	1層	須恵器	無台皿	15.0	2.7	11.0		2.6	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。
86	G	260号	2層	須恵器	短頸壺	10.2				1.7	口頸部内外面回転ナデ。体部内面回転ナデ。体部外面上半部回転ナデ、下半部回転ヘラ削り。
87	G	260号	1層	土師器	杯	10.0				2.0	体部内面横方向ナデ。底部内面ナデ・オサエ後、体部内面から底部内面にかけて縦方向の線状ミガキ。体部上半部外面横方向ナデ。体部下半部外面から底部外面にかけてナデ・オサエ。胎土密で砂粒の混入少ない。
88	G	260号	1層	土師器	甕	12.1				1.6	内面と口頸部外面は摩滅のため調整不明。体部外面に斜め方向のハケ目。焼成あまく灰白色を呈する。
89	G	260号	2層	土師器	甕	14.9				2.3	内外面摩滅のため調整不明。
90	G	260号	2層	土師器	甕	16.9				11.0	口頸部内面摩滅著しいが、横方向のハケ目。口頸部外面横方向ナデ。頸部内面に指と板による圧痕。体部内面板ナデ。体部外面に縦方向のハケ目。
91	G	267号	1層	須恵器	小型返り蓋	9.0				1.6	体部内面回転ナデ。体部外面自然釉付着のため調整不明。胎土に砂粒の混入多い。
92	G	269号	1層	金属製品	刀子	(残存 12.2)	(0.4)	(残存 2.0)			鉄製。ほぼ床面直上で出土。
93	G	278号	1層	須恵器	杯身	10.0				1.1	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。
94	G	289号	1・2層	須恵器	杯身	12.0	3.8	6.2		2.8	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ・オサエ。底部外面回転ヘラ削り。胎土粗く砂粒の混入多い。
95	G	289号	2層	須恵器	短頸壺	9.1	5.5	4.2		6.2	口頸部内外面・体部内面・体部外面上半部回転ナデ。体部外面下半部回転ヘラ削り。底部内面ナデ・オサエ。底部外面回転ヘラ削り。
96	G	292号	1層	須恵器	杯蓋	9.4	3.2			9.1	天井部内面回転ナデ。天井部外面粗い回転ヘラ削り。体部内外面回転ナデ。83XグリッドⅡ層と接合。
97	G	292号	1層	須恵器	杯身	10.2				1.7	体部内外面回転ナデ。
98	G	292号	1層	須恵器	甕	9.0	10.5			2.0	口頸部外面回転ナデ。口頸部内面と体部外面上半部に自然釉付着。体部外面下半部回転ヘラ削り。底部外面丁寧なナデ・オサエ。口頸部内面に「×」のヘラ書き。83XグリッドⅡ層・83WグリッドⅡ層と接合。
99	G	292号	1層	須恵器	短頸壺	10.1	9.1	4.4		3.0	口頸部内外面回転ナデ。体部内面回転ナデ。下端部除く体部外面回転ナデ、下端部回転ヘラ削り。底部内面回転ナデ後ナデ・オサエ。底部外面ヘラ切り後、粗いナデ・オサエ。
100	G	292号	1層	土師器	手捏土器	5.2	3.3	2.7		12.0	内外面指オサエ。胎土粗く砂粒の混入多い。
101	G	296号	1層	須恵器	高杯	13.6				0.9	杯部の体部外面回転ナデ。杯部の底部外面回転ヘラ削りか。杯部の体部内面・底部内面自然釉付着のため調整不明。胎土粗い。
102	G	406号	1層	須恵器	摘み蓋	16.4	3.7			1.9	天井部内面回転ナデ後ナデ・オサエ。天井部外面回転ヘラ削り。摘み部回転ナデ。体部内外面回転ナデ。
103	G	406号	1層	須恵器	小型返り蓋	8.8				2.4	体部内面回転ナデ。体部外面に自然釉付着。
104	G	406号	1層	須恵器	短頸壺	10.1				1.6	口頸部内外面回転ナデ。体部内外面回転ナデ。
105	G	406号	1層	須恵器	短頸壺	7.1				1.7	口頸部内外面回転ナデ。体部内外面回転ナデ。
106	G	406号	1層	土師器	甕	15.2	31.2	8.6		2.4	口頸部内面に横方向のハケ目。口頸部外面摩滅するが縦方向のハケ目がわずかに残る。体部内面中央部に横方向のハケ目。体部外面に縦方向のハケ目。底部内外面摩滅のため調整不明。
107	G	406号	1層	土師器	杯					0	体部内面から底部内面にかけて横方向ナデ後、縦～斜め方向の線状ミガキ。底部内面ナデ・オサエ。胎土密で砂粒の混入少ない。480号遺構1層に同一個体とみられる破片1点あり。
108	G	413号	1層	須恵器	無台杯	13.0	4.0	7.4		1.2	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ・オサエ。内面に炭付着。
109	G	423号	4層	須恵器	摘み蓋	14.0				2.5	体部内外面回転ナデ。
110	G	423号	4層	須恵器	無台杯	11.0	3.6	8.9		2.1	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面摩滅のため調整不明。焼成あまく黒色を呈する。
111	G	423号	4層	須恵器	無台杯	12.9	3.4	7.3		1.5	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ナデ・オサエ。
112	G	456号	1層	土師器	甕	15.2				2.8	口頸部内面に横方向のハケ目。口頸部外面横方向ナデ。体部内面摩滅のため調整不明。体部外面に縦方向と斜め方向のハケ目。
113	G	466号	2層	須恵器	杯身	11.0				1.6	体部内外面回転ナデ。
114	G	466号	2層	須恵器	甕	10.3	9.4	4.0		8.2	口頸部内外面回転ナデ。体部外面上半部回転ナデ。体部外面下半部回転ヘラ削り。底部外面ヘラ切り後、粗い回転ヘラ削り。
115	G	466号	2層	土師器	甕	7.2				2.1	口頸部内面に横方向のハケ目。口頸部外面に縦方向のハケ目。体部内面ナデ・オサエ。体部外面に横方向のハケ目。体部外面下半部被熱。
116	G	467号	1層	須恵器	広口壺	21.0				0.6	口頸部内外面回転ナデ。体部内外面回転ナデ。焼成あまく灰白色を呈する。
117	G	467号	1層	土師器	杯	15.0				0.9	体部内面横方向ナデ後、縦方向の線状ミガキ。体部外面横方向ナデ。内外面に赤彩。胎土密で砂粒の混入少ない。
118	G	470号	1・2層	須恵器	摘み蓋	15.2	3.3			5.5	天井部内面回転ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。摘み部回転ナデ。体部内外面回転ナデ。

遺物番号	地区	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	台径	残存率	観察事項
119	G	470号	1層	須恵器	甕	19.8				2.3	口頸部内外面回転ナデ。体部内面に同心円当て具痕。体部外面に格子叩き痕。
120	G	470号	1層	土師器	甕	16.0				1.5	口頸部内外面横方向ナデ。体部外面に縦方向のハケ目。
121	G	470号	1層	金属製品	鎌	(残存 14.6)	(0.5)	(3.7)			鉄製。あるいは刀の二次利用品か。
122	G	470号	1層	土製品	不明	(残存 8.8)	(2.7)	(5.2)			スサ混じり粘土塊。
123	G	477号	1層	須恵器	無台杯	10.4		6.3		2.0	体部内外面回転ナデ。底部外面ナデ・オサエ。
124	G	480号	1層	土師器	杯	14.2	5.5	7.6		9.5	体部内面横方向ナデ。体部外面上半部横方向ナデ後、横方向の線状ミガキ、下半部手持ちヘラ削り。底部内面横方向ナデ。底部外面手持ちヘラ削り。胎土密で砂粒の混入少ない。
125	G	480号	1層	土師器	製塩土器					0	体部内外面ナデ・オサエ。胎土に砂粒の混入少ない。
126	G	488号	1層	須恵器	有台碗	16.0				4.7	体部内外面回転ナデ。底部は残存しないが、口径・器高から有台碗と推定した。
127	G	488号	1層	灰釉陶器	碗	16.6	6.3		7.7	4.0	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。体部・底部内面平滑化。底部の一部が焼成あまく灰白色を呈する。
128	G	526号	1層	須恵器	無台碗	12.6	3.9	6.2		0.8	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。
129	G	526号	1層	土師器	甕	18.5				4.2	口頸部内外面回転ナデ。体部上半部内外面回転ヘラ削り（あるいはカキ目）。体部下半部内面ナデ・オサエ。体部下半部外面に縦方向の幅の広いハケ目。
130	G	529号	1層	須恵器	杯身	10.5				1.3	体部外面回転ナデ。体部内面に自然釉付着。石と石の間から出土。
131	G	529号	1層	須恵器	無台碗	11.6	3.3	4.9		11.2	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。
132	G	529号	1層	土師器	甕					0	内面摩滅のため調整不明。外面に縦方向の幅の広いハケ目。外面に煤付着。
133	G	531号	2層	須恵器	杯身	9.8	3.4			2.8	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ヘラ切り後、粗いナデ・オサエ。
134	G	531号	2層	須恵器	小型無台杯	9.6	4.0	7.6		5.0	体部内外面回転ナデ。底部内面調整不明、平滑化。底部外面ヘラ切り後ナデ・オサエ。堅緻。
135	G	531号	2層	須恵器	無台杯	11.8	4.0	7.6		2.1	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ・オサエ。
136	G	531号	2層	須恵器	無台杯	14.2	4.6	11.4		5.6	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ・オサエ。
137	G	531号	カマド床面直上	須恵器	無台杯	13.6	3.4	9.6		2.1	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面工具？によるナデ・オサエ。
138	G	531号	2層	鍛冶関連遺物	鉄滓	(残存 3.1)	(1.7)	(残存 3.0)			底面に土付着。重さ11g。
139	G	531号	2層	土師器	甕	18.0				1.2	口頸部内外面横方向ナデ。土師器としては堅緻で灰黄色を呈する。
140	G	531号	カマド床面直上	土師器	甕	15.2				1.6	口頸部内面に横方向のハケ目。口頸部外面に縦方向のハケ目。体部内面に横方向と斜め方向のハケ目。体部外面に縦方向と斜め方向のハケ目。
141	G	533号	1層	須恵器	無台碗	13.4	3.6	6.6		0.3	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。底部内面平滑化。
142	G	533号	1層	須恵器	有台碗	16.8	5.7		8.0	1.2	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。体部内面と体部外面下半部に自然釉付着。底部内面に重ね焼痕。底部内面平滑化。
143	G	533号	1層	土師器	甕	19.3				0.9	口頸部内外面回転ナデ。体部内面横方向のカキ目。体部外面回転ヘラ削り（あるいはカキ目）。
144	G	549号	1層	須恵器	杯身？	10.8				2.7	体部内外面回転ナデ。たちあがり部を除く外面に自然釉付着。あるいは有蓋高杯か。65Eグリッドで出土。
145	G	549号	1層	土師器	高杯？	11.0				1.5	内外面摩滅のため調整不明。胎土粗く砂粒の混入多い。67Dグリッドで出土。
146	G	549号	1層	土師器	高杯	11.0	8.8	8.6		4.1	内外面摩滅のため調整不明。胎土密で砂粒の混入少ない。明赤褐色を呈する。66Dグリッドで出土。
147	G	549号	1層	土師器	甕	15.9				12.0	口頸部内外面横方向ナデ。体部内面上端部板状工具による削り、その他はナデ・オサエ。体部外面ナデ・オサエ。体部外面に煤付着。67Dグリッドで出土。
148	G	550号	1層	須恵器	杯蓋	10.4	4.0			4.5	天井部内面回転ナデ後ナデ・オサエ。天井部外面粗い回転ヘラ削り。体部内外面回転ナデ。64Eグリッドで出土。
149	G	550号	1層	須恵器	杯蓋	11.8	3.6			6.1	天井部内面回転ナデ後ナデ・オサエ。天井部外面ヘラ切り後ナデ・オサエ。体部内外面回転ナデ。67Dグリッドで出土。
150	G	550号	1層	須恵器	摘み蓋	14.1	2.9			1.9	天井部内外面回転ナデ。摘み部回転ナデ。体部内外面回転ナデ。65Eグリッドで出土。
151	G	550号	1層	須恵器	無台杯	11.2	3.5	7.0		11.3	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ヘラ切り後、粗いナデ・オサエ。胎土に砂粒の混入多い。堅緻だが褐色～明赤褐色を呈する。65Eグリッドで出土。
152	G	550号	1層	須恵器	無台杯	12.0	3.9	6.3		3.4	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ヘラ切り後、粗いナデ・オサエ。66Eグリッドで出土。
153	G	550号	1層	須恵器	有台杯	15.0	5.4	12.4	11.0	7.0	体部内外面回転ナデ。底部内外面回転ナデ。内面平滑化。65Eグリッドで出土。
154	G	550号	1層	須恵器	無台皿	18.4	3.4	12.5		3.4	体部内外面・底部内面、摩滅のため調整不明。底部外面回転ヘラ削り。焼成あまく淡黄色～暗灰色を呈する。67Dグリッドで出土。
155	G	550号	1層	須恵器	壺	11.4	5.0		7.5	2.1	体部内面回転ナデ。体部外面上半部回転ナデ、下半部回転ヘラ削り。底部外面回転ナデ。65Eグリッドで出土。
156	G	550号	1層	須恵器	短頸壺	11.7				1.3	口頸部内外面回転ナデ。体部内外面回転ナデ。66Dグリッドで出土。
157	G	550号	1層	土師器	甕	17.2				1.2	内面摩滅のため調整不明。頸部から体部にかけての外面に縦方向のハケ目。66Eグリッドで出土。
158	G	550号	1層	金属製品	鎌	(残存 13.1)	(0.4)	(3.0)			鉄製。66Dグリッドで出土。
159	G	560号	1層	須恵器	有台杯	11.5	4.3	9.5	9.5	6.6	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。
160	G	618号	1層	須恵器	返り蓋	11.8				1.3	天井部内面回転ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。体部内外面回転ナデ。
161	G	628号	1層	須恵器	有台碗	17.6	6.4		8.2	5.7	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。底部内面平滑化。底部内面に重ね焼痕。
162	G	629号	1層	須恵器	小型返り蓋	9.9				0.8	天井部内面回転ナデ後ナデ・オサエ。天井部外面回転ヘラ削り。体部内外面回転ナデ。
163	G	633号	1層	石製品	砥石	(16.5)	(12.5)	(4.5)			確認される砥面は石の側面にあたる狭い1面のみ。石材は砂岩。
164	G	633号	1層	灰釉陶器	碗				6.2	0	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ・オサエ。底部外面回転ヘラ削り。
165	G	638号	1層	須恵器	摘み蓋	15.3				2.1	体部内外面回転ナデ。
166	G	652号	1層	須恵器	杯身	9.6	3.4	4.6		3.2	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後、中央部ナデ・オサエ。底部外面ヘラ切り後ナデ・オサエ。外面に自然釉付着。
167	G	653号	1層	須恵器	摘み蓋	16.1				1.2	体部内外面回転ナデ。
168	G	679号	床面直上	土師器	有台杯	13.8	5.8	6.5	9.0	8.0	体部内面横方向ナデ後、縦方向の線状ミガキ。体部外面上半部横方向ナデ、下半部左横方向のヘラ削り。底部内面丁寧なナデ・オサエ。底部外面の高台外側3本単位の縦方向のハケ目、高台内外面横方向ナデ、高台内側ナデ・オサエ。体部外面に粘土継ぎ目。全面に赤彩。ただし高台を除く外面は大部分剥落。
169	G	684号	1層	須恵器	摘み蓋	19.4				6.4	天井部内面回転ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。体部内外面回転ナデ。焼きゆがみ著しい。
170	G	684号	1層	須恵器	無台杯	12.6	4.1	7.0		9.4	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面摩滅のため調整不明。体部内面・底部内面に漆？付着。焼成あまく灰白色を呈する。
171	C	1003号	1層	金属製品	釘	(残存 2.4)	(0.4)	(残存 0.7)			鉄製。犬釘。
172	C	1003号	1層	土師器	甕					0	体部外面に縦方向のハケ目。体部内面に横方向のハケ目。
173	C	1005号	1層	須恵器	摘み蓋	17.2				1.0	天井部内面回転ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。体部内外面回転ナデ。
174	C	1005号	1層	土師器	甕	16.0				3.0	口頸部内面に横方向のハケ目。口縁部外面指オサエ。頸部から体部にかけての外面に縦方向のハケ目。
175	C	1005号	1層	土師器	甕	11.4				4.0	口頸部から体部にかけての内面ナデ・オサエ。口縁部外面横方向ナデ。頸部から体部にかけての外面に縦方向のハケ目。
176	C	1005号	1層	石製品	砥石	(9.5)	(1.7)	(2.5)			広い砥面は表面1面で光沢があり、細かな線条が認められる。左側面上端部と右側面下端部にも細かな線条あり。全面平滑化。石材は粘板岩とみられる極めて粒子の細かい石。
177	C	1083号	2層	須恵器	摘み蓋	16.8				1.5	体部内外面回転ナデ。体部外面端部に自然釉付着。
178	C	1083号	3層	須恵器	摘み蓋	17.8				5.1	天井部内面回転ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。体部内外面回転ナデ。外面に重ね焼痕。1層と接合。
179	C	1083号	3層	須恵器	摘み蓋	12.6				2.1	天井部内外面回転ナデ。体部内外面回転ナデ。
180	C	1083号	4層	須恵器	摘み蓋	13.8				0.8	天井部内面回転ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。体部内外面回転ナデ。3層と接合。
181	C	1083号	3層	須恵器	無台杯	12.0	3.7	8.9		4.6	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。
182	C	1083号	1層	須恵器	無台杯	12.7	3.4	10.0		1.1	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後、中央部ナデ・オサエ。底部外面回転糸切り後回転ヘラ削り。

遺物番号	地区	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	台径	残存率	観察事項
183	C	1083号	1層	須恵器	無台碗	12.7	3.9	6.2		1.2	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。体部内面と体部外面上半部に自然釉付着。底部内面平滑化。
184	C	1083号	1層	須恵器	無台碗	12.8	3.6	6.2		2.6	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後、中央部ナデ・オサエ。底部外面に回転糸切り痕。
185	C	1083号	1層	須恵器	無台碗	12.8	3.6	6.7		1.6	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。底部内面平滑化。
186	C	1083号	1層	須恵器	無台碗	13.4	3.9	6.1		3.2	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。
187	C	1083号	1層	須恵器	無台碗	12.8	3.5	5.5		3.1	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ・オサエ。底部外面に回転糸切り痕。底部内面平滑化。
188	C	1083号	1層	須恵器	無台碗	13.5	3.9	6.1		8.1	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。底部内面平滑化。胎土に砂粒の混入少ない。堅緻。
189	C	1083号	1層	須恵器	無台碗	12.9	4.3	5.2		1.3	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。
190	C	1083号	2層	須恵器	無台碗	12.9	3.6	6.2		11.2	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。底部内面平滑化。1層と接合。
191	C	1083号	2層	須恵器	無台碗	13.1	3.6	5.2		3.0	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。体部内面に自然釉付着。底部内面に重ね焼痕。1層と接合。
192	C	1083号	2層	須恵器	無台碗	13.0	4.1	5.9		0.7	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後、中央部ナデ・オサエ。底部外面に回転糸切り痕。1層と接合。
193	C	1083号	3層	須恵器	無台碗	12.3	3.5	5.7		4.0	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。
194	C	1083号	4層	須恵器	無台碗	13.0	3.3	5.7		12.0	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。底部内面平滑化。堅緻。1・3層と接合。
195	C	1083号	4層	須恵器	無台碗	12.9	3.9	6.0		5.9	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。底部内面平滑化。
196	C	1083号	4層	須恵器	無台碗	14.0	3.9	5.6		0.3	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。焼成あまくにぶい黄橙色を呈する。1層と接合。
197	C	1083号	1層	須恵器	有台碗	15.5	4.3		8.2	0.5	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転糸切り後回転ナデ。体部内面に自然釉付着。底部内面に重ね焼痕。底部内面平滑化。
198	C	1083号	2層	須恵器	有台碗	14.6	4.4		6.9	7.2	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。堅緻。
199	C	1083号	2層	須恵器	有台碗	15.2	4.7		8.0	4.4	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ・オサエ。底部外面に回転糸切り痕。
200	C	1083号	2層	須恵器	有台碗	15.6	4.8		8.1	7.3	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。体部内面に自然釉付着。底部内面に重ね焼痕。底部内面平滑化。堅緻。1層と接合。
201	C	1083号	4層	須恵器	有台碗	16.2	5.3		8.1	8.2	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。体部内面に自然釉付着。底部内面に重ね焼痕。3層と接合。
202	C	1083号	1層	須恵器	有台盤	14.4	3.9		8.4	0.1	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。体部内面に自然釉付着。底部内面に重ね焼痕。底部内面平滑化。胎土密で砂粒の混入少ない。堅緻。
203	C	1083号	2層	須恵器	有台盤	13.5	3.1		7.1	6.1	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。体部内面に自然釉付着。底部内面に重ね焼痕。底部内面平滑化。堅緻。
204	C	1083号	3層	須恵器	甕	19.5				2.3	口頸部内外面回転ナデ。体部内面ナデ・オサエ。体部外面に平行叩き痕。堅緻。
205	C	1083号	3層	須恵器	甕	28.9				1.3	口頸部内外面回転ナデ。体部内面に当て具痕。
206	C	1083号	4層	須恵器	鉢			22.0		0	体部内面回転ナデ。体部外面に叩き痕。2層と接合。
207	C	1083号	1層	須恵器	鉢	19.8				0.7	口頸部内外面回転ナデ。体部内外面回転ナデ。
208	C	1083号	3層	須恵器	壺	11.7				1.8	口頸部内外面回転ナデ。体部内外面回転ナデ。外面に自然釉付着。
209	C	1083号	1層	土師器	甕	18.0				2.3	口頸部内外面回転ナデ。体部内面摩滅のため調整不明。体部外面にカキ目。
210	C	1083号	1層	土師器	甕	9.5				1.3	口頸部内外面横方向ナデ。体部内外面横方向ナデ。
211	C	1083号	2層	土師器	甕	11.8				1.4	内外面摩滅のため調整不明。
212	C	1083号	2層	土師器	甕	11.0				0.9	口頸部から体部にかけての内面横方向ナデ。頸部から体部にかけての外面に縦方向のハケ目。
213	C	1083号	2層	土師器	甕	8.2				3.1	口頸部内面に横方向のハケ目。口縁部外面横方向ナデ。体部内面横方向ナデ。頸部から体部にかけての外面に縦方向のハケ目。
214	C	1083号	3層	土師器	甕					不明	口頸部内面に横方向のハケ目。口頸部外面に縦方向のハケ目。
215	C	1083号	3層	土師器	甕	17.8	31.2	7.8		3.1	口頸部内外面横方向ナデ。体部内面に横方向のハケ目。体部外面に縦～斜め方向のハケ目。底部内外面ナデ・オサエ。1136号遺構1層と接合。
216	C	1083号	1層	土師器	手捏土器					不明	内外面指オサエ。
217	C	1083号	2層	灰釉陶器	碗	13.2	3.7		7.1	3.8	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ・オサエ。底部外面回転ヘラ削り。
218	C	1083号	2層	灰釉陶器	碗	12.8	4.0		6.7	9.1	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転糸切り後ナデ・オサエ。体部内面に自然釉付着。底部内面に重ね焼痕。
219	C	1083号	3層	灰釉陶器	碗	15.8	5.1		7.4	6.9	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転糸切り後ナデ・オサエ。胎土粗く砂粒の混入多い。1・2層と接合。
220	C	1083号	5層	灰釉陶器	碗	16.0	4.8		7.7	4.6	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。体部内面に自然釉付着。底部内面に重ね焼痕。底部内面平滑化。2層と接合。
221	C	1083号	2層	灰釉陶器	皿	13.0	2.8		7.4	12.0	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面粗いナデ・オサエ。底部外面に回転糸切り痕。底部内面平滑化。
222	C	1083号	4層	灰釉陶器	皿	12.7	2.6		6.4	5.1	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。1・2層と接合。
223	C	1083号	4層	灰釉陶器	皿	13.0	2.6		6.7	10.0	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。底部内面平滑化。3層と接合。
224	C	1083号	4層	灰釉陶器	皿	13.4	2.4		7.4	1.8	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。
225	C	1083号	4層	灰釉陶器	皿	13.8	3.1		6.6	4.3	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転糸切り後ナデ・オサエ。底部内面平滑化。3層と接合。
226	C	1083号	1層	瓦	平瓦	(残存 6.6)	(2.0)	(残存 10.1)			凹面に布目。凸面に太平行叩き痕。端面ヘラ削り。
227	C	1083号	2層	金属製品	飾り金具	(3.2)	(0.7)	(3.0)			鉄製。軸の断面正方形。頭は菱形。
228	C	1083号	3層	金属製品	釘	(残存 5.9)	(0.6)	(残存 0.9)			鉄製。折釘。
229	C	1083号	1層	金属製品	釘？	(残存 3.6)	(0.5)	(残存 0.8)			鉄製。
230	C	1083号	3層	金属製品	不明	(残存 1.7)	(0.2)	(残存 0.5)			鉄鏃の茎か。
231	C	1083号	1層	金属製品	刀子	(残存 3.9)	(0.4)	(残存 0.9)			鉄製。刀子の切先。
232	C	1083号	3層	石製品	管玉	(3.5)	(1.3)	(1.3)			片面から穿孔。石材は碧玉。
233	C	1083号	1層	石製品	磨製石斧	(11.3)	(4.0)	(6.4)			石材は玢岩か。
234	C	1083号	1層	石製品	砥石	(28.7)	(7.7)	(19.4)			砥面は表面と左側面の2面で、細かな線条が認められる。石材は砂岩。
235	C	1085号	1層	須恵器	杯蓋	9.2	2.7			0.8	天井部内面回転ナデ。天井部外面ヘラ切り後ナデ・オサエ。体部内外面回転ナデ。
236	C	1085号	1層	須恵器	有台杯	8.7	3.1	6.0	6.1	4.4	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ヘラ切り後回転ナデ。
237	C	1085号	1層	土師器	甕					0	体部内面横方向ナデ。体部外面に縦方向のハケ目。体部内面に粘土継ぎ目。17Jグリッド II 層と接合。
238	C	1116号	1層	近世陶器	鉢				12.7	0	底部内外面に灰釉。高台接地面は露胎。
239	C	1116号	1層	近世陶器	湯呑	9.2				2.0	体部内面に灰釉。体部外面上半部に灰釉、下半部は鉄釉の上に灰釉を一部重ねる。
240	C	1120号	1層	須恵器	無台碗	13.2	3.8	6.0		1.1	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。
241	C	1121号	1層	須恵器	摘み蓋	18.7	4.2			6.8	天井部内面回転ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。摘み部摩滅のため調整不明。体部内外面回転ナデ。焼成あまく灰黄色を呈する。
242	C	1121号	5層	須恵器	摘み蓋	14.7	3.5			10.0	天井部内面回転ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。摘み部回転ナデ。体部内外面回転ナデ。
243	C	1121号	2層	土師器	甕					0	体部内面に横方向のハケ目。体部外面に縦方向のハケ目。
244	C	1121号	1層	石製品	紡錘車		(1.2)				片面から穿孔。石材は滑石。重さ8g。
245	C	1123号	1層	須恵器	小型返り蓋	7.6				2.3	天井部内面回転ナデ。天井部外面カキ目。体部内外面回転ナデ。
246	C	1123号	1層	須恵器	摘み蓋	17.0				3.9	天井部外面回転ヘラ削り。体部内外面回転ナデ。
247	C	1123号	1層	須恵器	摘み蓋	17.6				1.5	天井部内面回転ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。体部内外面回転ナデ。
248	C	1123号	1層	須恵器	摘み蓋	18.0				2.0	天井部外面回転ヘラ削り。体部内外面回転ナデ。体部外面端部に自然釉付着。
249	C	1123号	1層	須恵器	無台碗	11.8	4.1	5.3		1.5	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。
250	C	1123号	1層	土師器	甕					0	体部外面に縦方向のハケ目。体部内面に横方向と斜め方向のハケ目。
251	C	1132号	1層	須恵器	無台杯	12.0	4.7	6.8		4.2	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面丁寧なナデ・オサエ。

遺物番号	地区	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	台径	残存率	観察事項
252	C	1132号	1層	土師器	甕	11.2				1.7	口頸部内面に横方向のハケ目。口頸部外面から体部外面にかけて縦方向と斜め方向のハケ目。体部内面に縦方向と斜め方向のハケ目。
253	C	1136号	1層	須恵器	摘み蓋	16.6	3.9			4.0	天井部内面回転ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。摘み部回転ナデ。体部内外面回転ナデ。
254	C	1136号	1層	須恵器	壺			6.0		0	体部内面回転ナデ。体部外面上半部回転ナデ、下半部回転ヘラ削り。底部内面回転ナデ。底部外面工具によるナデ・オサエ。体部外面上半部と底部内面に自然釉付着。胎土密で砂粒の混入少ない。
255	F	2001号	床面直上	須恵器	返り蓋	16.0				4.8	天井部内面回転ナデ。天井部外面回転ナデ。体部内面回転ナデ。体部外面自然釉付着のため調整不明。1層と接合。
256	F	2001号	床面直上	須恵器	摘み蓋	13.2	3.0			7.3	天井部内面回転ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。摘み部回転ナデ。体部内外面回転ナデ。内外面に重ね焼痕。明赤褐色を呈するが堅緻。
257	F	2001号	1層	須恵器	無台杯	11.0	3.3	7.0		1.5	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ナデ・オサエ。
258	F	2001号	1層	須恵器	無台杯			9.6		0	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面の調整不明。底部外面にヘラ書き「井カ」。焼成あまく灰白色を呈する。
259	F	2001号	1層	須恵器	無台碗	12.6	3.7	6.0		1.6	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。
260	F	2001号	1層	須恵器	無台碗	12.2	3.6	5.8		11.0	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。体部外面に墨書「高家寺」。底部外面にヘラ書き「×」。
261	F	2001号	1層	須恵器	壺	9.2				2.4	口頸部内外面回転ナデ。体部内外面回転ナデ。
262	F	2001号	1層	須恵器	鉢鉢？			6.4		0	体部内面回転ナデ。体部外面上半部回転ナデ、下半部回転ヘラ削り。底部内面回転ナデ。体部外面回転ヘラ削り。堅緻。
263	F	2001号	1層	須恵器	鉢			9.2		0	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ・オサエ。底部外面ナデ・オサエ。
264	F	2001号	1層	須恵器	鉢			10.8		0	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。
265	F	2001号	1層	須恵器	鉢			11.2		0	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ナデ・オサエ。
266	F	2001号	1層	須恵器	鉢	18.7	11.3	9.6		4.8	口頸部内外面回転ナデ。体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。焼成ややあまく明赤褐色～明黄褐色を呈する。
267	F	2001-9号	1層	土師器	甕	20.1				1.1	口頸部内外面横方向ナデ。体部内面横方向ナデ。体部外面に縦方向のハケ目。胎土は他の土師器甕と同じであるが、還元炎焼成のため灰色を呈する。
268	F	2001号	1層	土師器	甕	18.6				1.9	口頸部内外面回転ナデ。体部内外面回転ナデ。
269	F	2001号	1層	土師器	甕	11.0	9.7			6.7	口頸部内外面横方向ナデ。体部内外面ナデ・オサエ。底部内外面ナデ・オサエ。胎土密で砂粒の混入少ない。
270	F	2001号	1層	土師器	杯？	12.3				1.3	体部内面横方向ナデ後、下半部に縦方向の線状ミガキ。体部外面上半部横方向ナデ、下半部ナデ・オサエ。胎土密で砂粒の混入少ない。
271	F	2001-3号	1層	金属製品	釘	(残存 9.7)	(1.0)	(残存 1.1)			鉄製。
272	F	2001号	1層	瓦	平瓦	(残存 12.0)	(2.5)	(残存 7.6)			凹面に布目。側面ヘラ削り。凸面に格子叩き痕。焼成あまく灰白色を呈する。
273	F	2001号	1層	瓦	平瓦	(残存 20.5)	(2.1)	(残存 8.9)			凹面に布目。側面ヘラ削り。凸面は叩き痕をナデ・オサエ・ヘラ削りにより消す。堅緻。
274	F	2001号	1層	瓦	平瓦	(残存 10.5)	(2.1)	(残存 7.5)			凹面に布目。側面ヘラ削り。凸面に太平行叩き痕。凹面に布の綴じ合わせ痕。
275	F	2001号	1層	瓦	平瓦	(残存 13.8)	(2.0)	(残存 10.5)			凹面に布目。側面ヘラ削り。凸面は太平行叩き痕を横方向のヘラ削りにより消す。端面ヘラ削り。凹面に粘土板切り離し痕。
276	F	2001号	1層	瓦	平瓦	(残存 14.5)	(2.0)	(残存 16.3)			凹面に布目。側面ヘラ削り。凸面に縄叩き痕、カキ目調整を施す部分あり。端面ヘラ削り。
277	F	2001号	1層	瓦	熨斗瓦	(残存 38.0)	(2.4)	(12.9)			凸面ナデ・オサエ・ヘラ削り、叩き痕は認められない。側面ヘラ削り。凹面に布目。端面ヘラ削り。
278	F	2001号	1層	瓦	丸瓦	(残存 13.6)	(2.8)	(残存 7.7)			凸面は叩き痕をナデ・オサエ・ヘラ削りにより消す。側面ヘラ削り。凹面に布目。端面ヘラ削り。
279	F	2001号	1層	瓦	丸瓦	(残存 14.9)	(1.6)	(残存 8.6)			凸面は細平行叩き痕をナデ・オサエにより消す。側面ヘラ削り。凹面に布目。端面ヘラ削り。
280	D	3022号	2層	須恵器	小型返り蓋	7.5				12.0	天井部内面回転ナデ後ナデ・オサエ。天井部外面回転ヘラ削り。体部内外面回転ナデ。
281	D	3022-1号	1層	須恵器	杯身	10.2				0.8	体部内外面回転ナデ。
282	D	3022号	1層	縄文土器	深鉢					0	胴部外面に半截竹管状工具による半隆起線文。半隆起線文上に爪形文を施す。半隆起線文の間を格子目文で充填する。縄文時代中期。
283	D	3026号	1層	須恵器	摘み蓋	15.7	2.2			7.6	天井部内面回転ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。摘み部回転ナデ。体部内外面回転ナデ。内面に重ね焼痕。検出面下32cmにて出土。
284	D	3026号	1層	瓦	平瓦	(残存 7.3)	(1.5)	(残存 9.9)			凹面に布目。側面ヘラ削り。凸面は叩き痕をナデ・オサエ・ヘラ削りにより消す。凹面に粘土板切り離し痕。検出面下48cmで出土。
285	D	3026号	1層	瓦	平瓦	(残存 14.2)	(2.9)	(残存 14.1)			凹面に布目。側面ヘラ削り。凸面に格子叩き痕。焼成あまく淡黄色を呈する。検出面下30cmで出土。
286	D	3026号	1層	瓦	平瓦	(残存 16.0)	(2.2)	(残存 8.3)			凹面に布目。側面ヘラ削り。凸面に細平行叩き痕。検出面下25cmで出土。
287	D	3026号	1層	瓦	平瓦	(残存 6.1)	(2.1)	(残存 14.9)			凹面に布目。凸面に細平行叩き痕。端面ヘラ削り。焼成あまく灰白色を呈する。
288	D	3026号	1層	瓦	熨斗瓦	(38.3)	(2.0)	(12.2)			凸面は細平行叩き痕をナデ・オサエ・ヘラ削りにより消す。側面ヘラ削り。凹面に布目。端面ヘラ削り。凹面に粘土板切り離し痕。検出面下47cmと55cmで出土。
289	D	3032号	1層	須恵器	杯身	12.2				1.4	体部内面回転ナデ。体部外面上半部回転ナデ、下半部回転ヘラ削り。底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。
290	D	3032号	1層	金属製品	釘	(残存 3.3)	(0.5)	(残存 0.9)			鉄製。切釘か。
291	D	3032号	1層	金属製品	釘？	(残存 4.8)	(0.5)	(残存 0.7)			鉄製。
292	D	3032-2号	1層	縄文土器	深鉢					0	胴部外面に半截竹管状工具による半隆起線文と貼付隆帯。貼付隆帯上に矢羽根状の沈線。半隆起線文の間を格子目文で充填する。縄文時代中期。
293	D	3032号	2層	石製品	石錘	(残存 4.1)	(1.6)	(5.4)			石材は砂岩。重さ54g。
294	D	3032号	1層	石製品	砥石	(15.6)	(3.4)	(11.0)			砥面は表面と裏面の2面で、幅の広い線条が認められる。石材は砂岩。
295	D	3036号	2層	須恵器	有台杯	16.3		13.2	12.6	0.2	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。
296	D	3036号	2層	瓦	平瓦	(残存 14.6)	(2.2)	(残存 15.0)			凹面に布目。側面ヘラ削り。凸面に細平行叩き痕。焼成あまく灰白色を呈する。検出面下77～80cmで出土。
297	D	3036号	2層	瓦	熨斗瓦	(40.2)	(1.8)	(11.7)			凸面は細平行叩き痕をナデ・オサエ・ヘラ削りにより消す。側面ヘラ削り。凹面に布目。端面ヘラ削り。凹面に粘土板切り離し痕。検出面下70～75cmで出土。28Hグリッド Ⅱ層と接合。
298	D	3037号	2層	須恵器	摘み蓋	18.1				0.6	体部内外面回転ナデ。外面に自然釉付着。
299	D	3037号	1層	縄文土器	深鉢					不明	口縁部外面に半截竹管状工具による爪形文と横方向の半隆起線文。縄文時代中期。
300	D	3037号	1層	瓦	平瓦	(残存 8.8)	(残存 1.5)	(残存 11.1)			凹面摩滅のため布目の有無不明。凸面に細平行叩き痕。焼成あまく浅黄橙色を呈する。検出面下50cmで出土。
301	D	3037号	3層	瓦	平瓦	(残存 10.6)	(2.5)	(残存 7.9)			凹面に布目。側面ヘラ削り。凸面に細平行叩き痕。焼成あまく灰白色を呈する。
302	D	3037号	3層	瓦	平瓦	(残存 9.4)	(2.1)	(残存 8.9)			凹面に布目。側面ヘラ削り。凸面は細平行叩き痕をナデ消す。灰色を呈する。堅緻。
303	D	3046号	1層	瓦	平瓦	(残存 10.3)	(1.6)	(残存 12.3)			凹面に布目。側面ヘラ削り。凸面摩滅のため調整不明。端面ヘラ削り。焼成あまく橙色を呈する。
304	D	3048号	1層	瓦	平瓦	(残存 21.6)	(1.9)	(残存 20.4)			凹面に布目。側面ヘラ削り。凸面に細平行叩き痕。
305	D	3048号	1層	金属製品	釘	(残存 4.7)	(0.5)	(残存 1.3)			鉄製。折釘か。
306	D	3054号	1層	須恵器	返り蓋					0.9	体部内外面回転ナデ。
307	G	70X	Ⅱ層	須恵器	杯蓋	11.2				4.5	天井部内面回転ナデ後ナデ・オサエ。天井部外面自然釉付着のため調整不明。体部内外面回転ナデ。内外面に炭素分が吸着し、黒色を呈する。胎土密で砂粒の混入少ない。堅緻。
308	G	83V	Ⅱ層	須恵器	杯蓋	11.4				3.5	天井部内面回転ナデ後、中央部にナデ。天井部外面回転ヘラ削り。体部内外面回転ナデ。胎土密で砂粒の混入少ない。堅緻。
309	G	69C	Ⅱ層	須恵器	杯蓋	9.0	3.2			8.0	天井部内面回転ナデ。天井部外面ヘラ切り後、丁寧なナデ・オサエ。体部内外面回転ナデ。内面に自然釉付着。
310	G	72Z	Ⅱ層	須恵器	杯蓋	10.2	3.2			3.4	天井部内面回転ナデ後ナデ・オサエ。天井部外面回転ヘラ削り。体部内外面回転ナデ。
311	G	73B	Ⅱ層	須恵器	杯蓋	10.2	3.8			5.0	天井部内面回転ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。体部内外面回転ナデ。
312	G	72B	Ⅱ層	須恵器	杯蓋	11.0	3.7			2.8	天井部内面回転ナデ後ナデ・オサエ。天井部外面回転ヘラ削り。体部内外面回転ナデ。

遺物番号	地区	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	台径	残存率	観察事項
313	G	81U	Ⅱ層	須恵器	杯蓋	11.9				5.0	天井部外面回転ヘラ削り。天井部内面回転ナデ。体部内外面回転ナデ。高杯の可能性もあるかもしれないが外面にくらべ内面の調整が粗いことから杯蓋と判断した。
314	G	69D	Ⅱ層	須恵器	杯蓋	12.0	3.5			1.0	天井部内面回転ナデ後ナデ。天井部外面ヘラ切り後ナデ・オサエ。体部内外面回転ナデ。無台杯として使用した可能性あり。
315	G	87A	Ⅱ層	須恵器	杯蓋	12.4	3.7			10.0	内面と外面下半部回転ナデ。外面上半部回転ヘラ削り。外面に砂の融着あり。
316	G	81X	Ⅱ層	須恵器	杯蓋	13.0	3.7			6.8	天井部内面回転ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。体部内外面回転ナデ。胎土に砂粒の混入多い。
317	G	83U	Ⅱ層	須恵器	杯蓋	13.4	4.4			3.6	天井部内面回転ナデ後ナデ・オサエ。天井部外面回転ヘラ削り。体部内外面回転ナデ。胎土粗い。
318	G	69C	Ⅱ層	須恵器	杯蓋	14.0	4.1			5.5	天井部内面回転ナデ後ナデ・オサエ。天井部外面ヘラ切り後ナデ・オサエ。体部内外面回転ナデ。無台杯として使用した可能性あり。68D グリッドⅡ層と接合。
319	G	72Z	Ⅱ層	須恵器	杯蓋					0	天井部内面回転ナデ後ナデ・オサエ。天井部外面回転ヘラ削り。体部内外面回転ナデ。天井部外面にヘラ書き「×」。
320	G	84X	Ⅱ層	須恵器	杯身	8.4	2.8			10.7	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り後ナデ・オサエ。
321	G	82U	Ⅱ層	須恵器	杯身	9.2	3.5			12.0	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ・オサエ。底部外面回転ヘラ削り。胎土密。堅緻。
322	G	81X	Ⅱ層	須恵器	杯身	9.2	3.7			1.0	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ・オサエ。底部外面回転ヘラ削り。
323	G	83V	Ⅱ層	須恵器	杯身	9.2				3.0	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ナデ・オサエ。外面に自然釉付着。
324	G	71A	Ⅱ層	須恵器	杯身	9.4				2.5	体部内面回転ナデ。体部外面上半部回転ナデ、下半部粗いカキ目。外面に自然釉付着。
325	G	81U	Ⅱ層	須恵器	杯身	9.7	4.5			2.5	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ・オサエ。底部外面回転ヘラ削り。焼成は特にあまい方ではないが、灰褐色～褐色を呈する。
326	G	81X	Ⅱ層	須恵器	杯身	9.8				2.8	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ・オサエ。底部外面回転ヘラ削り。
327	G	72A	Ⅱ層	須恵器	杯身	10.0				1.5	体部内外面回転ナデ。
328	G	84X	Ⅱ層	須恵器	杯身	10.3	3.9			10.8	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ・オサエ。底部外面ヘラ切り後ナデ・オサエ。
329	G	79A	Ⅱ層	須恵器	杯身	10.6	3.5			4.0	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ・オサエ。底部外面に自然釉付着。
330	G	72A	Ⅱ層	須恵器	杯身	11.3	4.1			1.7	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ・オサエ。底部外面回転ヘラ削り。
331	G	72Z	Ⅱ層	須恵器	杯身	11.4				0.5	体部内外面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。有蓋高杯の可能性あり。
332	G	81X	Ⅱ層	須恵器	杯身	11.7	4.5			7.0	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ・オサエ。底部外面ヘラ切り後、粗いナデ・オサエ。
333	G	73Z	Ⅱ層	須恵器	杯身	12.0				1.0	体部内外面回転ナデ。堅緻。
334	G	71Y	Ⅱ層	須恵器	小型返り蓋					0	天井部内面回転ナデ。天井部外面に自然釉付着。
335	G	72Y	Ⅱ層	須恵器	小型返り蓋？					0	天井部内面回転ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。体部内外面回転ナデ。
336	G	72B	Ⅱ層	須恵器	小型返り蓋	6.6	2.4			1.0	天井部内面回転ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。摘み部回転ナデ。体部内外面回転ナデ。天井部外面に自然釉付着。
337	G	72A	Ⅱ層	須恵器	小型返り蓋	6.9				2.4	体部外面自然釉付着のため調整不明。体部内面回転ナデ。
338	G	82U	Ⅱ層	須恵器	小型返り蓋	7.8	3.0			10.8	天井部内面回転ナデ。体部内面回転ナデ。外面は自然釉付着のため調整不明。胎土密で砂粒の混入少ない。堅緻。81U グリッドⅡ層と接合。
339	G	83U	Ⅱ層	須恵器	小型返り蓋	8.2	3.3			1.2	天井部内面回転ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。摘み部回転ナデ。体部内外面回転ナデ。
340	G	72Y	Ⅱ層	須恵器	小型返り蓋	8.5				2.3	天井部内面回転ナデ。天井部外面自然釉付着のため調整不明。体部内外面回転ナデ。
341	G	72Y	Ⅱ層	須恵器	小型返り蓋	8.5				1.8	体部外面自然釉付着のため調整不明。体部内面回転ナデ。
342	G	82U	Ⅱ層	須恵器	小型返り蓋	8.7				6.0	天井部内面回転ナデ後ナデ・オサエ。天井部外面自然釉付着のため調整不明。体部内外面回転ナデ。胎土に砂粒の混入多い。
343	G	72Y	Ⅱ層	須恵器	返り蓋	11.1				0.8	天井部外面回転ヘラ削り。体部内外面回転ナデ。
344	G	71B	Ⅱ層	須恵器	返り蓋	14.9	3.4			7.5	天井部内面回転ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。摘み部回転ナデ。体部内外面回転ナデ。焼きゆがみ著しい。72A グリッドⅡ層と接合。
345	G	71A	Ⅱ層	須恵器	摘み蓋	14.5	3.0			6.0	天井部内面回転ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。摘み部回転ナデ。体部内外面回転ナデ。
346	G	67D	Ⅱ層	須恵器	摘み蓋	15.0	3.2			3.0	天井部内面回転ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。摘み部回転ナデ。体部内外面回転ナデ。
347	G	72A	Ⅱ層	須恵器	摘み蓋	15.0	3.7			5.6	天井部内面回転ナデ後ナデ。体部内面回転ナデ。折り返し部外面回転ナデ。折り返し部以外の体部外面に自然釉付着。
348	G	71A	Ⅱ層	須恵器	摘み蓋	15.5	3.2			12.0	天井部内面回転ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。摘み部回転ナデ。体部内外面回転ナデ。
349	G	71A	Ⅱ層	須恵器	摘み蓋	16.4	3.3			11.0	天井部内面回転ナデ後ナデ・オサエ。天井部外面回転ヘラ削り。摘み部回転ナデ。体部内外面回転ナデ。
350	G	81B	Ⅱ層	須恵器	摘み蓋	17.0	3.5			2.6	天井部内面回転ナデ後ナデ・オサエ。天井部外面回転ヘラ削り。摘み部回転ナデ。体部内外面回転ナデ。
351	G	86W	Ⅱ層	須恵器	摘み蓋	17.0	4.8			6.0	天井部内面回転ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。摘み部回転ナデ。体部内外面回転ナデ。86V グリッドⅡ層と接合。
352	G	80U	Ⅱ層	須恵器	摘み蓋	18.6	4.3			4.3	天井部内面回転ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。摘み部回転ナデ。体部内外面回転ナデ。外面に自然釉付着。
353	G	70Y	Ⅱ層	須恵器	摘み蓋	18.8	3.5			6.0	天井部内面回転ナデ後ナデ・オサエ。天井部外面回転ヘラ削り。摘み部回転ナデ。体部内面回転ナデ。折り返し部除く体部外面回転ヘラ削り。折り返し部外面回転ナデ。外面の大部分に自然釉付着。外面に砂の融着あり。71B グリッドⅡ層と接合。
354	G	79V	Ⅱ層	須恵器	摘み蓋	22.2	4.4			8.3	天井部内面回転ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。摘み部回転ナデ。体部内外面回転ナデ。外面に自然釉付着。
355	G	84X	Ⅱ層	須恵器	摘み蓋					0	天井部内面回転ナデ。体部内面回転ナデ。天井部外面と体部外面自然釉付着のため調整不明。
356	G	79D	Ⅱ層	須恵器	小型無台杯	9.0	2.7	5.8		2.1	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ナデ・オサエ。
357	G	81C	Ⅱ層	須恵器	小型無台杯	10.2	3.0	7.0		0.2	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ・オサエ。内面に自然釉付着。
358	G	71X	Ⅱ層	須恵器	無台杯	11.4		7.4		1.7	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ヘラ切り後、粗いナデ・オサエ。
359	G	79D	Ⅱ層	須恵器	無台杯	12.8	4.4	6.8		11.9	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ヘラ切り後工具よる粗いナデ・オサエ。焼きゆがみ著しい。無台杯の体部とみられる破片1点が体部外面に融着。体部内面と体部外面上半部に自然釉付着（重ね焼の痕跡）。
360	G	84X	Ⅱ層	須恵器	無台杯	13.0	3.6	10.6		2.3	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。
361	G	71B	Ⅱ層	須恵器	無台杯	14.8	3.7	11.0		0.7	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ、中央部回転ナデ後ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ・オサエ。底部内面平滑化。
362	G	81B	Ⅱ層	須恵器	無台杯	15.0	3.9	11.4		5.6	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。底部内面平滑化。
363	G	81C	Ⅱ層	須恵器	有台杯			7.8	7.0	0	体部内外面回転ナデ。底部内外面回転ナデ。
364	G	71B	Ⅱ層	須恵器	有台杯	12.0	4.8	9.6	9.8	1.3	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。
365	G	78B	Ⅱ層	須恵器	有台杯	12.5	4.1	9.8	9.8	7.5	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。
366	G	78B	Ⅱ層	須恵器	有台杯	14.0	4.1	10.0	9.6	3.2	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ・オサエ。
367	G	71A	Ⅱ層	須恵器	有台杯	14.2	4.0	9.6	9.7	3.9	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ヘラ切り後、粗いナデ・オサエ・静止ヘラ削り。
368	G	81B	Ⅱ層	須恵器	有台杯	15.6	4.3	12.0	11.5	3.5	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。
369	G	77B	Ⅱ層	須恵器	有台杯	17.0	4.4	13.6	12.8	4.0	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面摩滅のため調整不明。焼成あまく灰白色を呈する。
370	G	72A	Ⅱ層	須恵器	有台杯			10.1	8.4	0	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後、中央部ナデ・オサエ。底部外面回転ヘラ削り。底部外面にヘラ書き。
371	G	84A	Ⅱ層	須恵器	無台碗	12.4	3.4	6.6		9.2	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。底部内面に重ね焼痕。底部内面平滑化。

遺物番号	地区	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	台径	残存率	観察事項
372	G	71Z	Ⅱ層	須恵器	無台碗	12.8	3.4	6.8		2.0	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。底部内面平滑化。体部内面・底部内面に自然釉付着。
373	G	80Z	Ⅱ層	須恵器	無台碗	13.8	4.2	6.0		7.0	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。
374	G	70B	Ⅱ層	須恵器	有台碗	15.2	4.0		8.2	1.9	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。体部内面・底部内面に自然釉付着。堅緻で灰色を呈する。
375	G	70Y	Ⅱ層	須恵器	無台盤	13.2	3.0	7.0		1.7	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。体部内面に自然釉付着。底部内面に重ね焼痕。底部内面平滑化。
376	G	84A	Ⅱ層	須恵器	有台盤	12.9	3.7		8.2	1.8	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。体部内面に自然釉付着。底部内面に重ね焼痕。底部内面平滑化。胎土密で砂粒の混入少ない。堅緻。
377	G	70Y	Ⅱ層	須恵器	有台盤	13.0	3.7		8.0	4.0	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面粗いナデ・オサエ。底部外面に回転糸切り痕。底部内面に重ね焼痕。底部内面平滑化。堅緻。
378	G	70Z	Ⅱ層	須恵器	有台盤	14.2	3.1		7.4	4.6	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。底部内面平滑化。
379	G	71Z	Ⅱ層	須恵器	無台皿？	18.0	2.0	15.2		0.2	体部内外面回転ナデ。
380	G	80C	Ⅱ層	須恵器	有蓋高杯	12.4				3.4	杯部の体部内面回転ナデ。杯部の体部外面上半部回転ナデ、下半部回転ナデ後オサエ。杯部の底部内面回転ナデ。杯部の底部外面カキ目。堅緻。
381	G	79X	Ⅱ層	須恵器	有蓋高杯？	15.2				2.5	杯部の体部内面回転ナデ。杯部の体部外面上半部回転ナデ、下半部回転ヘラ削り。底部外面カキ目。胎土粗い。
382	G	72Z	Ⅱ層	須恵器	高杯	10.7				4.7	杯部の体部内外面回転ナデ。杯部の底部内面回転ナデ後ナデ・オサエ。杯部の底部外面自然釉付着のため調整不明。
383	G	83X	Ⅱ層	須恵器	高杯	11.4	6.2	8.7		6.0	杯部内外面・脚部内面下半部・脚部外面回転ナデ。杯部内面中央部ナデ・オサエ。脚部内面上半部ナデ・オサエ。
384	G	72Z	Ⅱ層	須恵器	高杯			8.0		0	杯部の体部内外面回転ナデ。杯部の底部内外面回転ナデ。脚部の内外面回転ナデ。
385	G	82U	Ⅱ層	須恵器	高杯			8.4		0	杯部の底部内外面回転ナデ。脚部の内外面回転ナデ。
386	G	72B	Ⅱ層	須恵器	高杯？	12.4				2.5	杯部の体部内外面回転ナデ。杯部の底部内外面回転ナデ。
387	G	82U	Ⅱ層	須恵器	高杯	11.8	10.5	9.1		9.6	杯部の体部内外面回転ナデ。杯部の底部内面回転ナデ後ナデ・オサエ。杯部の底部外面回転ヘラ削り。脚部内外面回転ナデ。
388	G	81W	Ⅱ層	須恵器	壺	8.2				1.7	体部内面回転ナデ。体部外面上半部回転ナデ、中央部カキ目、下端部回転ヘラ削り。胎土粗い。
389	G	84W	Ⅱ層	須恵器	短頸壺	8.3				2.9	口頸部内外面回転ナデ。体部内外面回転ナデ。内外面に炭素分が吸着し、黒色を呈する。堅緻。
390	G	83U	Ⅱ層	須恵器	短頸壺	8.9	9.1	7.2		6.7	口頸部内外面回転ナデ。体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ・オサエ。底部外面ヘラ切り不調整。82UグリッドⅡ層・83XグリッドⅡ層と接合。
391	G	77E	Ⅱ層	須恵器	壺	11.0				2.1	口頸部内外面回転ナデ。体部内外面回転ナデ。
392	G	81W	Ⅱ層	須恵器	短頸壺	8.4	5.2	5.4		3.0	口頸部内外面回転ナデ。体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ・オサエ。底部外面回転ヘラ削り。81XグリッドⅡ層と接合。
393	G	78D	Ⅱ層	須恵器	短頸壺	9.0				3.0	口頸部内外面回転ナデ。体部内面上半部回転ナデ、下半部カキ目（工具を使用した回転ナデ）。体部外面上半部回転ナデ、下半部回転ヘラ削り。
394	G	81C	Ⅱ層	須恵器	壺	12.0				6.0	口頸部内外面回転ナデ。
395	G	67D	Ⅱ層	須恵器	壺	15.2				1.1	体部内面回転ナデ。体部外面上半部回転ナデ、下半部回転ヘラ削り。
396	G	81B	Ⅱ層	須恵器	壺	16.0				4.1	口頸部内外面回転ナデ。体部内外面回転ナデ。焼成あまく灰白色を呈する。
397	G	81B	Ⅱ層	須恵器	壺			10.0		0	体部内外面回転ナデ。底部内面自然付着のため調整不明。底部外面に回転糸切り痕。胎土密。堅緻。
398	G	71Z	Ⅱ層	須恵器	鉢または壺					0	内外面回転ナデ。外面に刻書「寺」。
399	G	82W	Ⅱ層	須恵器	鉢	10.4				1.3	体部内外面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。
400	G	80A	Ⅱ層	須恵器	鉢	11.0				1.6	口頸部内外面回転ナデ。体部内外面回転ナデ。
401	G	81W	Ⅱ層	須恵器	鉢	21.9				1.6	口頸部内外面回転ナデ。体部内面回転ナデ。体部外面カキ目。
402	G	81B	Ⅱ層	須恵器	鉢	27.6	16.1	15.0		0.3	体部内外面回転ナデ。底部を焼成後穿孔しているとみられる。焼成あまく灰白色を呈する。
403	G	70B	Ⅱ層	須恵器	鉄鉢	16.4				3.2	体部内面回転ナデ。体部外面上半部回転ナデ、下半部回転ヘラ削り。71BグリッドⅡ層と接合。
404	G	85A	Ⅱ層	須恵器	鉢？					0	体部内外面回転ナデ。把手付の鉢か。
405	G	80U	Ⅱ2層	須恵器	蓋？	4.1	0.7	2.4		2.1	上面自然釉付着のため調整不明。側面回転ナデ。底面に丁寧な回転ヘラ切り痕。胎土密で砂粒の混入少ない。堅緻。
406	G	81B	Ⅱ層	須恵器	硯						残存長14.3cm。把手内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ・オサエ。把手部上面に円形の孔を穿つ。把手付中空円面硯と推定。
407	G	78B	Ⅱ層	須恵器	壺蓋	8.5	3.0			5.3	天井部内面回転ナデ。天井部外面自然釉付着のため調整不明。体部内外面回転ナデ。
408	G	84X	Ⅱ層	須恵器	壺蓋	13.0				0.3	天井部内面回転ナデ。天井部外面自然釉付着のため調整不明。体部内外面回転ナデ。
409	G	82U	Ⅱ層	須恵器	甕	23.0				7.0	口頸部内外面回転ナデ。体部内面に同心円当て具痕。体部外面に平行叩き痕。82VグリッドⅡ層・83UグリッドⅡ層と接合。
410	G	83U	Ⅱ層	須恵器	甕	13.0	22.6			7.3	口頸部内外面回転ナデ。体部上半部内外面回転ナデ。体部下半部内面に当て具痕、外面に叩き痕。底部内面に当て具痕。底部外面に叩き痕。83VグリッドⅡ層と接合。
411	G	81V	Ⅱ層	須恵器	貯蔵具の蓋	27.2				0.8	天井部内面回転ナデ。天井部外面カキ目。体部内外面回転ナデ。
412	G	81X	Ⅱ層	土師器	杯？	8.0				3.3	体部内外面回転ナデ。
413	G	72A	Ⅱ層	土師器	杯？					0	体部内面横方向ナデ後、斜め方向の線状ミガキ。体部外面横方向ナデ後、横方向の線状ミガキ。
414	G	81D	Ⅱ層	土師器	杯	10.0				2.2	体部内面から底部内面にかけて横方向と斜め方向のハケ目。体部外面から底部外面にかけて縦方向と斜め方向のハケ目。胎土粗い。
415	G	82X	Ⅱ層	土師器	杯？	10.0				2.2	体部内面から底部内面にかけて横方向ナデ後、縦方向の線状ミガキ。体部外面横方向ナデ。底部外面ナデ・オサエ。胎土密で砂粒の混入少ない。
416	G	83U	Ⅱ層	土師器	杯	11.4	5.3	3.3		10.5	体部内面に横方向と斜め方向のハケ目。体部外面に縦方向と斜め方向のハケ目。底部内面ナデ・オサエ。底部外面ナデ・オサエ。
417	G	81U	Ⅱ層	土師器	杯	12.6	5.3			11.3	体部内面板ナデ。体部から底部にかけての外面斜め方向のハケ目。底部内面ナデ・オサエ。胎土粗く砂粒の混入多いが、内面は平滑に調整してある。
418	G	77X	Ⅱ層	土師器	高杯	20.4				5.5	摩滅のため内外面の調整不明。杯部の底部外面に脚部の剥離痕。
419	G	83W	Ⅱ層	土師器	高杯			9.8		0	内外面摩滅のため調整不明。胎土粗く砂粒の混入多い。
420	G	83X	Ⅱ層	土師器	高杯？	14.2				1.9	内外面摩滅のため調整不明。胎土密で砂粒の混入少ない。
421	G	85X	Ⅱ層	土師器	高杯			10.2		0	内外面摩滅のため調整不明。胎土密で砂粒の混入少ない。
422	G	74Y	Ⅱ層	土師器	甕？					不明	体部内外面調整不明。
423	G	79A	Ⅱ層	土師器	甕	9.4				3.3	口頸部外面から体部外面にかけて縦方向のハケ目。内面は摩滅のため調整不明。
424	G	83Y	Ⅱ層	土師器	甕	13.8				1.6	口頸部内面横方向ナデ。頸部内面指オサエ。口縁部外面横方向ナデ。頸部外面から体部外面にかけて縦方向のハケ目。
425	G	81D	Ⅱ層	土師器	甕	11.6				2.2	口頸部内面に横方向のハケ目。口頸部外面摩滅のため調整不明。体部内面に横方向のハケ目。体部外面に縦方向のハケ目。
426	G	82X	Ⅱ層	土師器	甕	6.9				0.8	口頸部内外面摩滅のため調整不明。体部内面の一部に横方向のハケ目。体部外面に縦方向のハケ目。
427	G	81X	Ⅱ層	土師器	甕			6.8		0	体部外面に縦方向のハケ目。
428	G	70Y	Ⅱ層	土師器	甕	16.8				1.2	口頸部内面横方向ナデ。口頸部外面横方向ナデ。体部内面横方向ナデ。体部外面に横方向と縦方向のハケ目。
429	G	83W	Ⅱ層	土師器	甕	14.2				2.2	口頸部内面に横方向と斜め方向のハケ目。口頸部外面に縦方向と横方向のハケ目。体部外面に縦方向のハケ目。
430	G	82U	Ⅱ層	土師器	甕	21.2				1.7	内外面摩滅のため調整不明。
431	G	71A	Ⅱ層	土師器	甕	17.6				2.0	口頸部内外面横方向ナデ。体部内面横方向ナデ。体部外面不定方向ナデ。内面は黒褐色を呈する。
432	G	81B	Ⅱ層	土師器	甕	17.2				1.1	口頸部内面に横方向のハケ目。口頸部外面に斜め方向のハケ目。
433	G	72A	Ⅱ層	土師器	甕	15.0				1.7	口頸部内面に横方向のハケ目。頸部内面指オサエ。口頸部外面に縦方向のハケ目。体部内面に斜め方向のハケ目。体部外面に縦方向のハケ目。

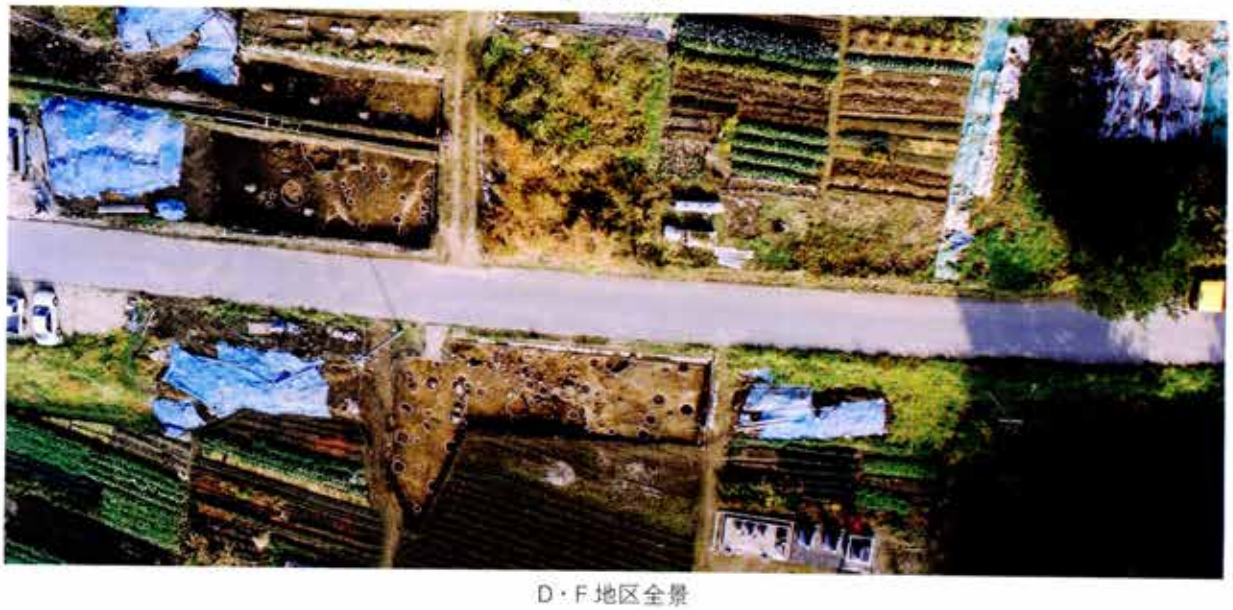
遺物番号	地区	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	台径	残存率	観察事項
434	G	71A	Ⅱ層	土師器	製塩土器					不明	体部内面ナデ・オサエ。体部外面縦方向の粗い板ナデ。胎土に砂粒の混入少ない。
435	G	80D	Ⅱ層	土師器	手捏土器	6.6	4.7	3.0		12.0	内外面指オサエ。胎土密で砂粒の混入少ない。
436	G	82U	Ⅱ層	土師器	甑	25.0				0.8	体部内面横方向の粗い板ナデ。体部外面縦方向の粗い板ナデ。81UグリッドⅡ層と接合。
437	G	71C	Ⅱ層	灰釉陶器	碗	11.6	3.4		6.4	5.1	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ナデ・オサエ。体部内面に自然釉付着。底部内面に重ね焼痕。
438	G	71C	Ⅱ層	灰釉陶器	碗	12.2	3.4		6.3	0.8	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。底部内面平滑化。
439	G	71B	Ⅱ層	灰釉陶器	碗	12.1	3.3		6.4	7.0	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。底部内面に重ね焼痕。底部内面平滑化。体部外面と底部外面に墨書。
440	G	71B	Ⅱ層	灰釉陶器	碗	13.0	3.6		6.6	7.0	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転糸切り後回転ヘラ削り。底部内面平滑化。口縁部内外面に墨？付着。底部外面に墨書。
441	G	70Z	Ⅱ層	灰釉陶器	皿	13.2	2.8		6.8	4.0	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転糸切り後ナデ・オサエ。底部内面平滑化。
442	G	71Z	Ⅱ層	灰釉陶器	皿	14.0	2.8		7.0	1.3	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転糸切り後ナデ・オサエ。
443	G	70B	Ⅱ層	灰釉陶器	皿	15.0	2.5		7.1	2.2	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。体部内面に自然釉付着。底部内面に重ね焼痕。底部内面平滑化。
444	G	81B	Ⅱ層	灰釉陶器	皿	16.0	3.2		8.2	1.8	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転糸切り後ナデ・オサエ。口縁部外面と体部内面に灰釉。
445	G	81B	Ⅱ層	灰釉陶器	瓶					0	体部内外面回転ナデ。体部外面に灰釉。81CグリッドⅡ層と接合。
446	G	82B	Ⅱ層	灰釉陶器	瓶			6.2		0	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。体部外面に灰釉。
447	G	81B	Ⅱ層	灰釉陶器	瓶				7.8	0	体部内面回転ナデ。体部外面下半部回転ヘラ削り。底部内面灰釉（自然釉？）付着のため調整不明。底部外面回転ナデ。体部外面に灰釉。
448	G	84X	Ⅱ層	灰釉陶器	瓶	10.4	23.2	9.9		3.0	口頸部内外面回転ナデ。体部内外面回転ナデ。底部内面ナデ・オサエ。底部外面ナデ・オサエ。口頸部内面に灰釉。口頸部外面と体部上半部外面に灰釉。
449	G	67D	Ⅱ層	縄文土器	深鉢					0	外面に縦方向の山形の押型文。縄文時代早期。
450	G	85X	Ⅱ層	鍛冶関連遺物	羽口						外面やや硬化。推定外径6cm、内径2cm。
451	G	72B	Ⅱ層	金属製品	釘？	(残存 7.4)	(0.6)	(残存 0.7)			鉄製。
452	G	83X	Ⅱ層	金属製品	釘？	(残存 3.4)	(0.6)	(残存 0.7)			鉄製。
453	G	69C	Ⅱ層	金属製品	刀子	(残存 7.8)	(0.4)	(残存 1.3)			鉄製。
454	G	71Y	Ⅱ層	金属製品	刀子	(8.6)	(0.4)	(0.9)			鉄製。
455	G	72C	Ⅱ層	金属製品	鎌	(残存 12.6)	(0.3)	(残存 3.0)			鉄製。
456	G	83T	Ⅱ層	金属製品	鎌？	(残存 4.8)	(0.4)	(残存 2.7)			鉄製。
457	G	82T	Ⅱ層	金属製品	鍬・鋤先	(残存 10.3)	(1.0)	(残存 4.9)			鉄製。
458	G	72B	Ⅱ層	金属製品	鍬・鋤先	(11.3)	(0.8)	(残存 13.8)			鉄製。
459	G	82U	Ⅱ層	金属製品	鍬・鋤先	(残存 6.7)	(1.2)	(残存 2.7)			鉄製。
460	G	71B	Ⅱ層	金属製品	不明	(4.8)	(0.3)	(5.0)			円盤状の鉄製品。中心に貫通孔が認められないため、紡錘車とは考え難い。
461	G	71Z	Ⅱ層	金属製品	不明	(残存 8.9)	(0.6)	(残存 0.7)			鉄製。釘か鉄鏃の茎。
462	G	84W	Ⅱ層	金属製品	不明	(残存 6.1)	(0.9)	(1.2)			鉄製。
463	G	81C	Ⅱ層	金属製品	不明	(残存 7.0)	(0.7)	(残存 5.7)			馬具の鐙の鉸具か。
464	G	86V	Ⅱ層	石製品	砥石	(23.1)	(14.1)	(10.7)			砥面は表面・左側面・右側面の3面で、細かな線条が認められる。ただし上端面と裏面以外は被熱し劣化が著しいため、砥面は部分的にしか残っていない。石材は砂岩。197号遺構検出地点で出土。
465	G	80A	Ⅱ層	石製品	砥石	(残存 8.0)	(4.2)	(6.5)			砥面は表面・左側面・裏面の3面で、細かな線条と金属器によるとみられる傷が認められる。右側面と上端面も平滑化。石材は凝灰岩とみられる白色の石。
466	G	82U	Ⅱ層	石製品	紡錘車	(3.4)	(1.1)	(3.4)			両面から穿孔。石材はホルンフェルス。重さ18g。
467	G	83U	Ⅱ層	石製品	石鏃	(1.8)	(0.4)	(1.4)			石材は黒曜石。
468	C	13J	Ⅱ層	須恵器	小型返り蓋	7.0				1.5	天井部外面カキ目。体部内外面回転ナデ。
469	C	14I	Ⅱ層	須恵器	返り蓋	14.0				0.7	天井部内面回転ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。体部内外面回転ナデ。
470	C	16M	Ⅱ層	須恵器	返り蓋	12.8				2.4	天井部内面回転ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。体部内外面回転ナデ。
471	C	13K	Ⅱ層	須恵器	摘み蓋					0	天井部内面回転ナデ。天井部外面自然釉付着のため調整不明。摘み部回転ナデ。底部内面にヘラ書き。
472	C	14K	Ⅱ層	須恵器	摘み蓋	15.2	2.5			1.3	天井部内面回転ナデ後ナデ・オサエ。天井部外面回転ヘラ削り。摘み部回転ナデ。体部内外面回転ナデ。14LグリッドⅡ層と接合。
473	C	14K	Ⅱ層	須恵器	摘み蓋					0	天井部内回転ナデ後ナデ・オサエ。天井部外面上半部カキ目、下半部回転ヘラ削り。体部内外面回転ナデ。胎土密で砂粒の混入少ない。堅緻。
474	C	15L	Ⅱ層	須恵器	無台杯	11.0	3.2	8.2		1.6	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ・オサエ。
475	C	16K	Ⅱ層	須恵器	無台杯	11.2	3.5	5.9		0.3	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ・オサエ。
476	C	13J	Ⅱ層	須恵器	無台杯	11.8	3.3	8.8		1.7	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。
477	C	16J	Ⅱ層	須恵器	無台杯	12.5	3.4	10.2		3.3	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。
478	C	16J	Ⅱ層	須恵器	無台杯	13.0	3.7	9.0		2.0	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ・オサエ。焼成あまく灰白色を呈する。
479	C	15J	Ⅱ層	須恵器	有台杯	10.1	4.7	7.2	5.8	0.9	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面摩滅のため調整不明。焼成あまく黄褐色を呈する。
480	C	15L	Ⅱ層	須恵器	無台碗	11.1	3.9	5.1		1.8	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。底部内外面褐色を呈する。胎土粗い。
481	C	15L	Ⅱ層	須恵器	有台碗	16.6	5.1		8.3	0.8	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ナデ・オサエ。体部内面に自然釉付着。底部内面に重ね焼痕。底部内面平滑化。
482	C	13J	Ⅱ層	須恵器	有台盤	17.7	3.4		10.8	0.6	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。焼成あまく灰色～灰白色を呈する。
483	C	13J	Ⅱ層	須恵器	無台皿	13.5	2.6	10.1		2.7	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。底部平面平滑化。
484	C	13K	Ⅱ層	須恵器	壺	10.0				1.0	口頸部内外面回転ナデ。体部内外面回転ナデ。堅緻。13LグリッドⅡ層と接合。
485	C	13K	Ⅱ層	須恵器	陶丸	(2.1)	(2.2)	(2.3)			外面丁寧なナデ・オサエ。図の下端面のみヘラ削り。
486	C	13K	Ⅱ層	須恵器	壺	11.4				1.5	口頸部内外面回転ナデ。体部内面回転ナデ。体部外面カキ目。体部外面に列点文。堅緻。
487	C	16K	Ⅱ層	須恵器	壺	13.0				2.3	口頸部内外面回転ナデ。
488	C	14L	Ⅱ層	灰釉陶器	碗	15.4	5.1		7.9	0.7	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。体部内外面に灰釉。
489	C	14L	Ⅱ層	灰釉陶器	長頸瓶	8.0				1.6	口頸部内外面回転ナデ。口頸部内外面に灰釉。
490	C	15M	Ⅱ層	土師器	杯	11.1				1.6	体部内面横方向ナデ後、縦方向の線状ミガキ。体部外面上半部横方向ナデ、下半部ナデ・オサエ。
491	C	16M	Ⅱ層	土師器	甕	11.3				0.7	口頸部外面横方向ナデ。体部外面に縦方向のハケ目。内面摩滅のため調整不明。
492	C	14K	Ⅱ層	土師器	甕	12.3				3.0	頸部外面に縦方向のハケ目。
493	C	15J	Ⅱ層	土師器	甕	16.2				1.0	口頸部内面に横方向のハケ目。口頸部外面に縦方向のハケ目。
494	C	15L	Ⅱ層	土師器	甕	17.0				1.0	口頸部内面に横方向のハケ目。頸部内面指オサエ。口頸部外面から体部外面にかけて縦方向のハケ目。
495	C	17L	Ⅱ層	土師器	甕	15.5				1.7	口頸部内面から体部上半部内面にかけて横方向のハケ目。頸部内面指オサエ。体部下半部内面横方向ナデ。口頸部外面から体部外面にかけて縦方向のハケ目。
496	C	15K	Ⅱ層	石製品	石鏃	(残存 2.2)	(0.5)	(1.8)			石材は下呂石。
497	C	13L	Ⅱ層	金属製品	釘	(残存 7.8)	(0.5)	(1.1)			鉄製。折釘。
498	C	14K	Ⅱ層	金属製品	不明	(残存 6.6)	(0.6)	(残存 0.7)			鉄製。釘か。
499	C	15J	Ⅱ層	金属製品	釘？	(残存 7.2)	(0.8)	(残存 0.8)			鉄製。
500	F	33C	Ⅱ層	須恵器	杯身	11.0				1.5	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ・オサエ。底部外面回転ヘラ削り。堅緻。

遺物番号	地区	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	台径	残存率	観察事項
501	F	33F	Ⅰ2層	須恵器	小型返り蓋	8.4				1.8	天井部内面回転ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。体部内外面回転ナデ。
502	F	31D	Ⅰ2層	須恵器	無台碗	11.7	3.7	4.7		12.0	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。
503	F	34C	Ⅱ層	須恵器	陶錘	(4.0)	(1.5)	(1.6)			外面ナデ・オサエ。
504	F	33C	Ⅱ層	土師器	杯？	11.3				1.7	体部内面横方向ナデ。底部内面ヘラ磨き。体部上半部外面横方向ナデ。体部下半部外面から底部外面にかけてヘラ削り。胎土密で砂粒の混入少ない。あるいは高杯か。
505	F	33F	Ⅰ2層	緑釉陶器	碗					不明	体部内外面回転ナデ。体部内外面に緑釉。胎土密で砂粒の混入少ない。堅緻。
506	F	34E	Ⅰ2層	輸入磁器	青磁皿			3.6		0	体部内外面と底部内面に青磁釉（緑色）。底部外面露胎。底部内面に花文。
507	F	33D	Ⅱ層	輸入磁器	青磁碗					0	底部内面と高台内側までの底部外面に青磁釉（明るい緑色）。高台より内側の底部外面露胎。
508	F	30C	Ⅰ2層	縄文土器	深鉢					0	胴下半部の破片。外面に縦方向を主とする半截竹管状工具による半隆起線文、その間をやや右下がりに斜行する横方向の櫛状工具による沈線で充塡する。橙色を呈する。縄文時代中期前葉。新保・新崎式。
509	F	33C	Ⅱ層	縄文土器	深鉢					0	口縁部外面に半截竹管状工具による横方向の半隆起線文と連華文。橙色を呈する。縄文時代中期前葉。新保・新崎式。
510	F	34E	Ⅱ層	近世陶器	鉢	31.7	10.1		13.2	3.1	体部内外面と底部内外面に光沢のある淡黄色の灰釉系の釉。高台端部のみ露胎。底部外面回転ヘラ削り。底部内面に重ね焼痕。
511	F	32D	Ⅰ2層	近世陶器	擂鉢			12.1		0	体部内面から底部内面にかけて擂目。体部外面回転ナデ、下端部に強い指オサエ。
512	F	不明	Ⅰ層	瓦	軒丸瓦	(残存 6.7)					瓦当復元径13.4cm。単弁八葉蓮華文軒丸瓦。瓦当部から丸瓦部にかけての凸面ヘラ削り。丸瓦部凹面から瓦当裏面にかけて布目。瓦当裏面下半部に丸瓦痕跡あり。丸瓦痕跡端面ヘラ削り。堅緻。
513	F	33E	Ⅰ2層	瓦	軒丸瓦	(残存 3.6)					瓦当外区から丸瓦部にかけての破片。瓦当部から丸瓦部にかけての凸面ヘラ削り。丸瓦部凹面に布目。焼成ややあまく橙色を呈する。
514	F	32F	Ⅰ2層	瓦	丸瓦	(残存 8.6)	(2.6)	(残存 9.8)			凸面は細平行叩き痕をナデ・オサエ・ヘラ削りにより消す。側面ヘラ削り。凹面に布の綴じ合わせ痕。堅緻。
515	F	33E	Ⅱ層	石製品	勾玉	(2.8)	(0.8)	(1.8)			片面から穿孔。石材は橙色のめのう。
516	F	33D	Ⅱ層	金属製品	火打鎌？	(残存 2.1)	(0.6)	(6.2)			鉄製。
517	F	33F	Ⅱ層	金属製品	釘	(残存 9.8)	(0.8)	(0.7)			鉄製。犬釘か。
518	F	33E	Ⅱ層	金属製品	釘	(残存 8.6)	(0.8)	(1.9)			鉄製。円頭釘。
519	F	32F	Ⅰ2層	金属製品	釘？	(残存 6.1)	(0.8)	(残存 1.0)			鉄製。
520	D	25G	Ⅰ層	須恵器	杯蓋	11.2	3.2			1.6	天井部内面回転ナデ後、中央部にナデ。天井部外面ヘラ切り後ナデ・オサエ。体部内外面回転ナデ。内面に自然釉付着。
521	D	24G	Ⅱ層	須恵器	小型返り蓋	10.2	3.4			6.2	天井部内面回転ナデ。体部内面回転ナデ。外面自然釉付着のため調整不明。
522	D	28H	Ⅱ層	須恵器	小型返り蓋？					0	天井部内面回転ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。摘み部回転ナデ。体部内外面回転ナデ。体部内面に自然釉付着。
523	D	28H	Ⅱ層	須恵器	摘み蓋	17.0				8.8	天井部内面回転ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。体部内外面回転ナデ。天井部外面にヘラ書き「寺」。
524	D	28H	Ⅱ層	須恵器	平頂蓋？					0	天井部内面回転ナデ後ナデ・オサエ。天井部外面回転ヘラ削り。体部内外面回転ナデ。
525	D	28H	Ⅱ層	須恵器	無台杯	11.5	3.5	7.8		8.9	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ・オサエ。焼成あまく灰白色を呈する。
526	D	29K	Ⅱ層	須恵器	有台杯？			9.6	8.7	0	底部内面回転ナデ。底部外面に自然釉付着。堅緻。
527	D	28H	Ⅱ層	須恵器	有台杯	14.2	4.2	10.9	10.0	4.3	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。
528	D	29H	Ⅱ層	須恵器	無台碗	13.2	4.4	6.6		0.8	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。焼成あまく橙色を呈する。
529	D	24F	Ⅰ層	須恵器	鉢	30.6				2.6	体部内外面回転ナデ。25Gグリッド Ⅰ層・27Gグリッド Ⅰ層と接合。
530	D	25G	Ⅰ層	土師器	高杯？	8.2				2.2	杯部の体部内外面横方向回転ナデ。杯部の底部内外面調整不明。
531	D	26G	Ⅰ層	土師器	高杯			10.4		0	脚部外面横方向ナデ。脚部中央部内面工具か板による横方向ナデ、裾部内面横方向ナデ。
532	D	26G	Ⅰ層	土師器	甕	15.4				1.5	口頸部内面に横方向のハケ目。口頸部外面横方向ナデ。
533	D	27G	Ⅰ層	輸入磁器	青磁碗					不明	体部内外面に青磁釉（緑色）。体部外面に鎬蓮弁文。
534	D	25F	Ⅰ層	輸入磁器	青磁碗					不明	体部内外面に青磁釉（明るい緑色）。体部外面に鎬蓮弁文。
535	D	27H	Ⅱ層	弥生土器	甕					不明	口縁部内面に工具による羽状の刺突。頸部外面にハケ目。体部内外面にハケ目。
536	D	28H	Ⅱ層	瓦	平瓦	(残存 21.9)	(2.5)	(残存 13.5)			凹面に布目。側面摩滅のため調整不明。凸面に格子叩き痕。焼成あまく浅黄橙色を呈する。
537	D	28H	Ⅱ層	瓦	平瓦	(残存 12.0)	(1.6)	(残存 7.1)			凹面に布目。凸面に細平行叩き痕。端面ヘラ削り。
538	D	28H	Ⅱ層	瓦	平瓦	(残存 7.6)	(2.1)	(残存 8.3)			凹面に布目。側面ヘラ削り。凸面は叩き痕をナデ消す。端面ヘラ削り。凸面の一部に布目痕。
539	D	28H	Ⅰ層	瓦	平瓦	(残存 10.5)	(2.5)	(残存 14.5)			凹面に布目。凸面は叩き痕をナデ消す。端面ヘラ削り。
540	D	28H	Ⅱ層	瓦	平瓦	(残存 10.0)	(2.7)	(残存 7.0)			凹面に布目。側面ヘラ削り。凸面は叩き痕をナデ消す。端面ヘラ削り。
541	D	28H	Ⅱ層	瓦	平瓦	(残存 15.2)	(1.8)	(残存 13.7)			凹面に布目、ただしナデ消す部分が多い。凸面は叩き痕をナデ・オサエ・ヘラ削りにより消す。
542	D	28H	Ⅱ層	瓦	平瓦	(残存 11.7)	(2.1)	(残存 12.9)			凹面に布目。側面ヘラ削り。凸面に格子叩き痕。端面ヘラ削り。
543	D	28Ⅰ	Ⅱ層	瓦	平瓦	(残存 14.7)	(2.0)	(残存 13.7)			凹面に布目。側面ヘラ削り。凸面は叩き痕をヘラ削り・オサエにより消す。端面ヘラ削り。堅緻。
544	D	28H	Ⅱ層	瓦	平瓦	(残存 12.7)	(2.0)	(残存 11.5)			凹面に布目。側面ヘラ削り。凸面に細平行叩き痕。端面ヘラ削り。
545	D	28Ⅰ	Ⅱ層	瓦	平瓦	(残存 6.5)	(2.1)	(残存 17.6)			凹面に布目。側面ヘラ削り。凸面に平行叩き痕。
546	D	28Ⅰ	Ⅱ層	瓦	平瓦	(残存 11.4)	(1.6)	(残存 8.3)			凹面に布目。凸面に細平行叩き痕。端面ヘラ削り。
547	D	28Ⅰ	Ⅱ層	瓦	平瓦	(42.2)	(2.3)	(26.5)			凹面に布目、一部を工具でナデ消す。側面ヘラ削り。凸面に細平行叩き痕。端面ヘラ削り。
548	D	29Ⅰ	Ⅱ層	瓦	平瓦	(残存 27.9)	(2.7)	(残存 16.6)			凹面に布目。側面ヘラ削り。凸面に細平行叩き痕。端面ヘラ削り。
549	D	28Ⅰ	Ⅱ層	瓦	平瓦	(残存 12.0)	(1.7)	(残存 12.8)			凹面に布目。側面ヘラ削り。凸面に細平行叩き痕。29HグリッドⅡ層と接合。
550	D	28Ⅰ	Ⅱ層	瓦	平瓦	(残存 6.7)	(2.1)	(残存 9.1)			凹面に布目。側面ヘラ削り。凸面に細平行叩き痕。
551	D	29H	Ⅱ層	瓦	平瓦	(残存 18.6)	(2.4)	(残存 18.0)			凹面に布目。側面ヘラ削り。凸面に細平行叩き痕。端面ヘラ削り。凹面に粘土板切り離し痕。
552	D	29Ⅰ	Ⅱ層	瓦	平瓦	(残存 14.1)	(1.7)	(残存 14.4)			凹面に布目。側面ヘラ削り。凸面に細平行叩き痕。端面ヘラ削り。凹面に粘土板切り離し痕。
553	D	28Ⅰ	Ⅱ層	瓦	平瓦	(残存 18.6)	(2.5)	(残存 17.4)			凹面に布目。側面ヘラ削り。凸面に細平行叩き痕。
554	D	26G	Ⅱ層	瓦	丸瓦	(残存 7.9)	(1.8)	(残存 11.0)			凸面は細平行叩き痕をナデ・オサエ・ヘラ削りにより消す。側面ヘラ削り。凹面に布目。端面ヘラ削り。堅緻。
555	D	28Ⅰ	Ⅱ層	瓦	丸瓦	(残存 8.4)	(1.7)	(残存 10.6)			凸面ナデ・オサエ・ヘラ削り。側面ヘラ削り。凹面に布目。堅緻。
556	D	28Ⅰ	Ⅱ層	瓦	丸瓦	(推定 40.2)	(2.3)	(推定 14.1)			凸面は細平行叩き痕をナデ・オサエ・ヘラ削りにより消す。側面ヘラ削り。凹面に布目。端面ヘラ削り。凹面に布の綴じ合わせ痕。凹面に粘土板切り離し痕。
557	D	27H	Ⅰ層	瓦	丸瓦	(残存 8.3)	(1.5)	(残存 8.3)			凸面に細平行叩き痕。側面ヘラ削り。凹面に布目。端面ナデ・ヘラ削り。堅緻。
558	D	28H	Ⅱ層	瓦	丸瓦	(残存 12.7)	(2.5)	(残存 7.7)			凸面ナデ・オサエ・ヘラ削り。側面ヘラ削り。凹面に布目。端面ヘラ削り。凹面に布の綴じ合わせ痕。堅緻。
559	D	27Ⅰ	Ⅱ層	瓦	丸瓦	(残存 12.8)	(1.3)	(11.5)			凸面に細平行叩き痕。側面ヘラ削り。凹面に布目。狭端面粗いナデ・オサエ。
560	D	28Ⅰ	Ⅱ層	瓦	丸瓦	(残存 22.4)	(1.8)	(残存 8.5)			凸面ナデ・オサエ・ヘラ削り。側面ヘラ削り。凹面に布目。端面ヘラ削り。堅緻。
561	D	28Ⅰ	Ⅱ層	瓦	丸瓦	(残存 9.9)	(2.4)	(残存 8.2)			凸面に太平行叩き痕。側面ヘラ削り。凹面に布目。凹面に布の綴じ合わせ痕。
562	D	29H	Ⅱ層	瓦	丸瓦	(残存 12.4)	(1.9)	(15.3)			凸面に太平行叩き痕。側面ヘラ削り。凹面に布目。凹面に布の綴じ合わせ痕。
563	D	28Ⅰ	Ⅱ層	瓦	丸瓦	(残存 15.1)	(1.9)	(残存 5.6)			凸面は細平行叩き痕をナデ・オサエ・ヘラ削りにより消す。側面ヘラ削り。凹面に布目。端面ヘラ削り。
564	D	28H	Ⅱ層	瓦	熨斗瓦	(残存 17.8)	(1.8)	(11.9)			凸面は叩き痕をナデ・オサエ・ヘラ削りにより消す。側面ヘラ削り。凹面に布目。端面ヘラ削り。凹面に布の綴じ合わせ痕。凹面に粘土板切り離し痕。
565	D	28Ⅰ	Ⅱ層	金属製品	釘	(残存 8.2)	(1.1)	(残存 1.9)			鉄製。円頭釘。
566	D	29Ⅰ	Ⅱ層	金属製品	釘	(残存 11.3)	(1.0)	(残存 1.3)			鉄製。切釘。
567	D	24G	Ⅱ層	金属製品	釘？	(残存 7.0)	(0.7)	(残存 1.1)			鉄製。
568	D	28Ⅰ	Ⅱ層	金属製品	不明	(残存 7.6)	(0.8)	(残存 0.9)			鉄製。鎹あるいは釘か。
569	D	26G	Ⅱ層	鍛冶関連遺物	鉄滓	(残存 7.4)	(2.7)	(7.7)			底面に土付着。碗形滓。重さ176g。
570	D	28Ⅰ	Ⅱ層	鍛冶関連遺物	羽口						外面硬化。外面に鉱滓付着。推定外径7cm、内径2cm。

写　真　図　版

G地区東半部全景

C地区全景



D・F地区全景

図版 2

G地区調査前状況　北西から

G地区西半部全景

100号遺構(竪穴)　南から

197号遺構(竪穴)　南から

470号遺構(焼土)　南から

3032号遺構(竪穴)　南から

531号遺構(竪穴)　南から

531号遺構(竪穴)カマド　南から

1083号遺構(竪穴)　南から

1083号遺構(竪穴)カマド　南から

礎石建物跡全景　南から

礎石建物跡全景　北から

D地区全景

図版 4

礎石建物跡　柱穴断面(3037号)　南から

礎石建物跡　柱穴断面(3036号)　南から

礎石建物跡　柱穴断面(3026号)　西から

礎石建物跡　柱穴断面(3027号)　西から

礎石建物跡　柱穴断面(3049号)　西から

礎石建物跡　柱穴断面(3047号)　西から

礎石建物跡　柱穴断面(3054号)　西から

礎石建物跡　柱穴断面(3055号)　西から

33

320

406

159

161

307

387

266

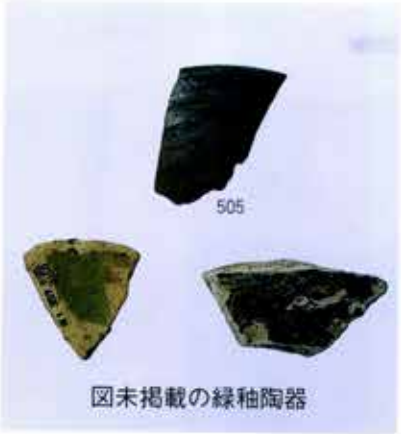
448

440

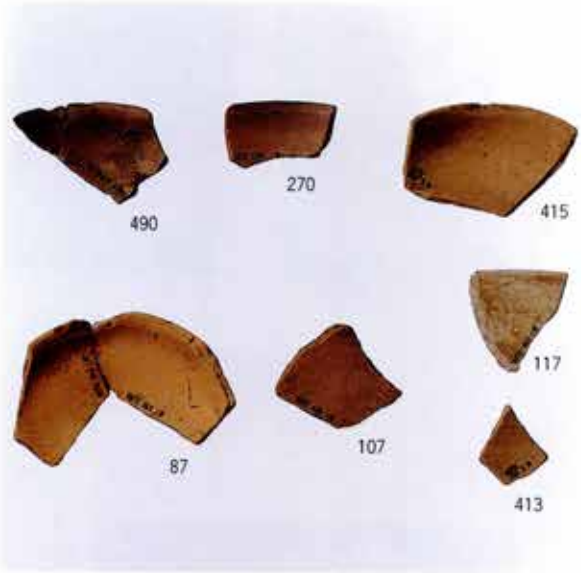
439

図版 6

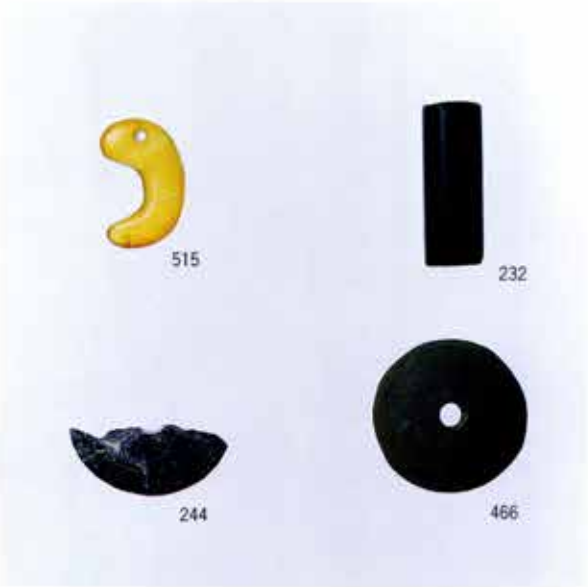
533
534
507
506


505
図未掲載の緑釉陶器

434
37
125


490
270
415
117
87
107
413

450
570
569
138
20

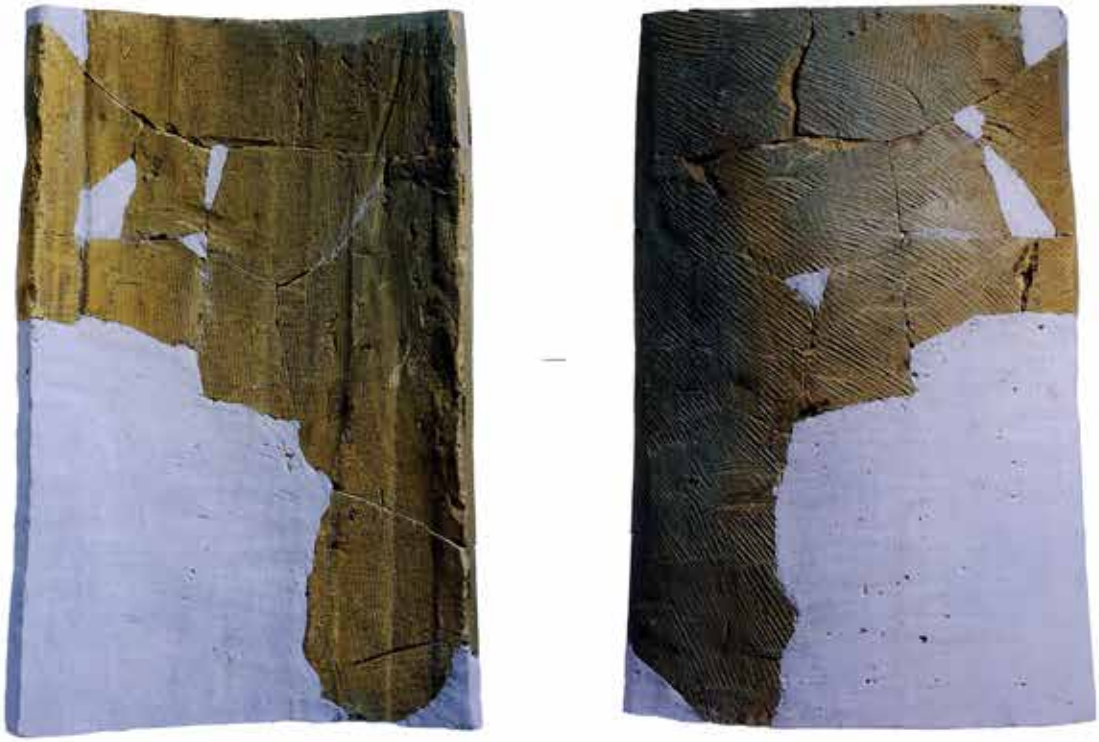

515
232
244
466

41

図版 8

556

288



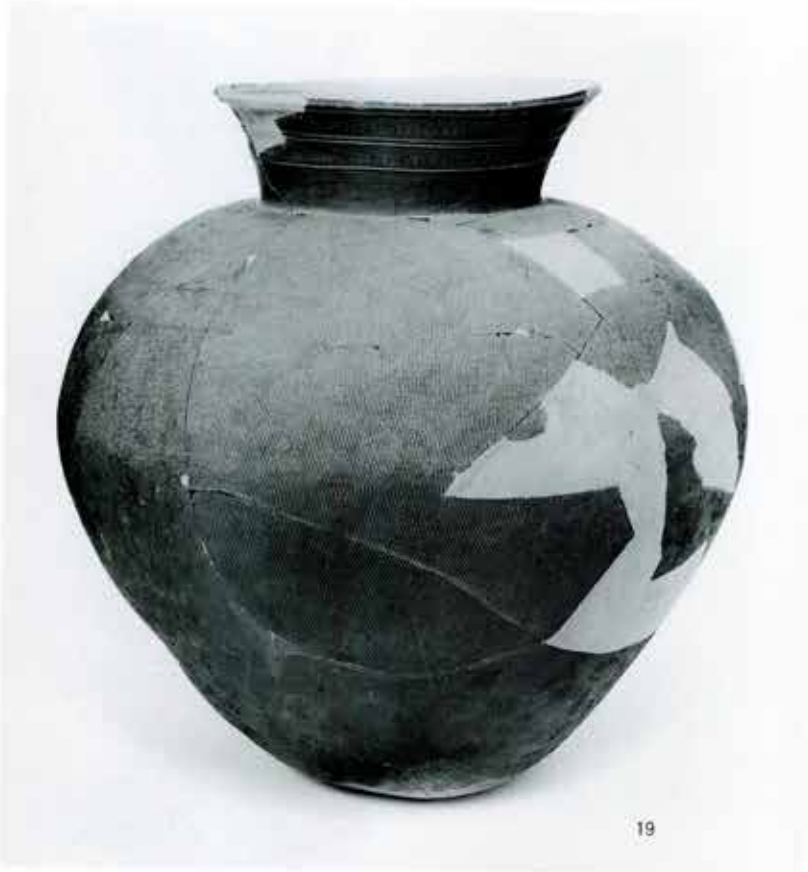
547

2

6

7

9


19

11

13

26

29

30

53

59

60

42

64

66

68

69

図版10

70

98

118

72

100

122

73

102

127

95

106

134

136

96

142

99

114

147

148

149

151

153

155

170

175

178

181

186

187

188

190

193

194

195

196

198

199

200

201

203

204

218

220

225

図版12

222

241

256

223

242

258

234

253

269

254

277

297

280

283

294

308

309

310

311

313

315

316

318

319

321

325

328

330

332

338

339

342

344

347

348

349

図版14

351

353

354

355

359

362

364

365

367

369

370

371

373

377

378

382

383

384

385

390

392

398

402

407

409

410

418

419

421

426

435

437

441

445

471

485 405

502

511

512

521

523

525

527

図版16

144

389

487

334

335

408

503

473

208

391

393

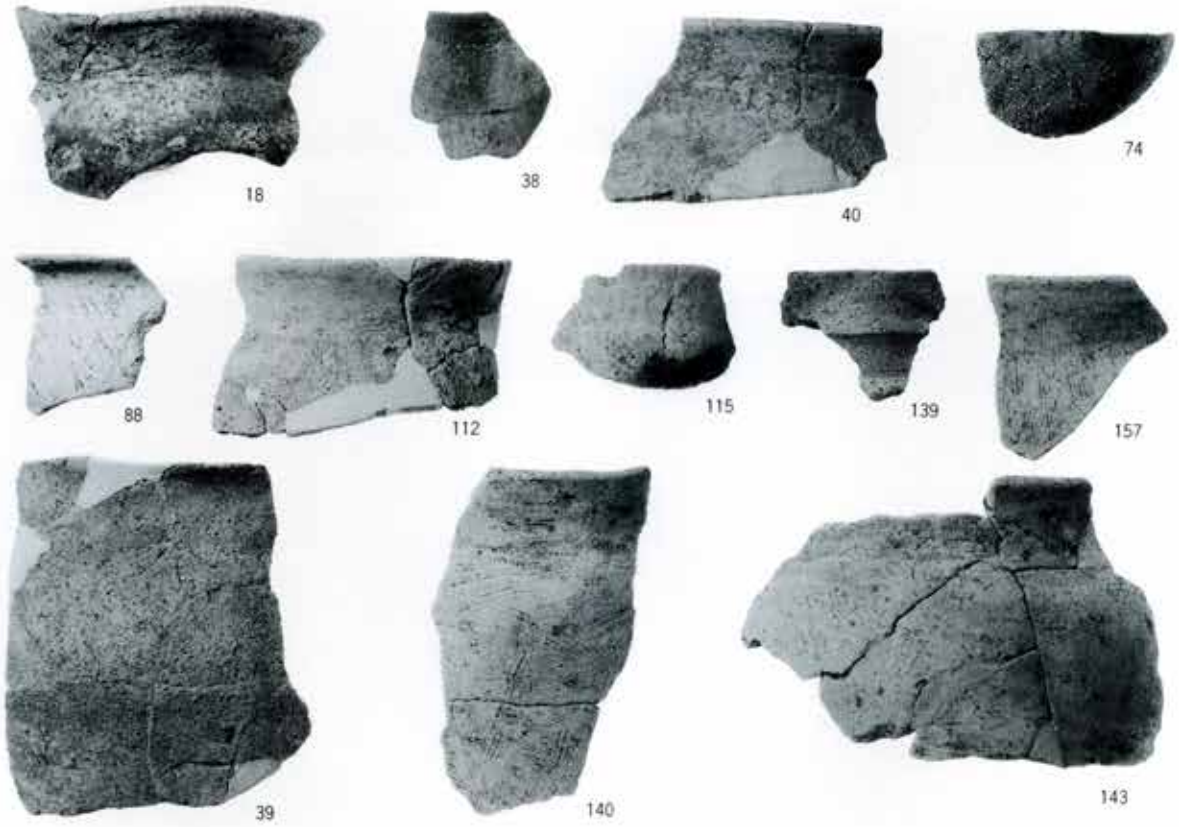
486

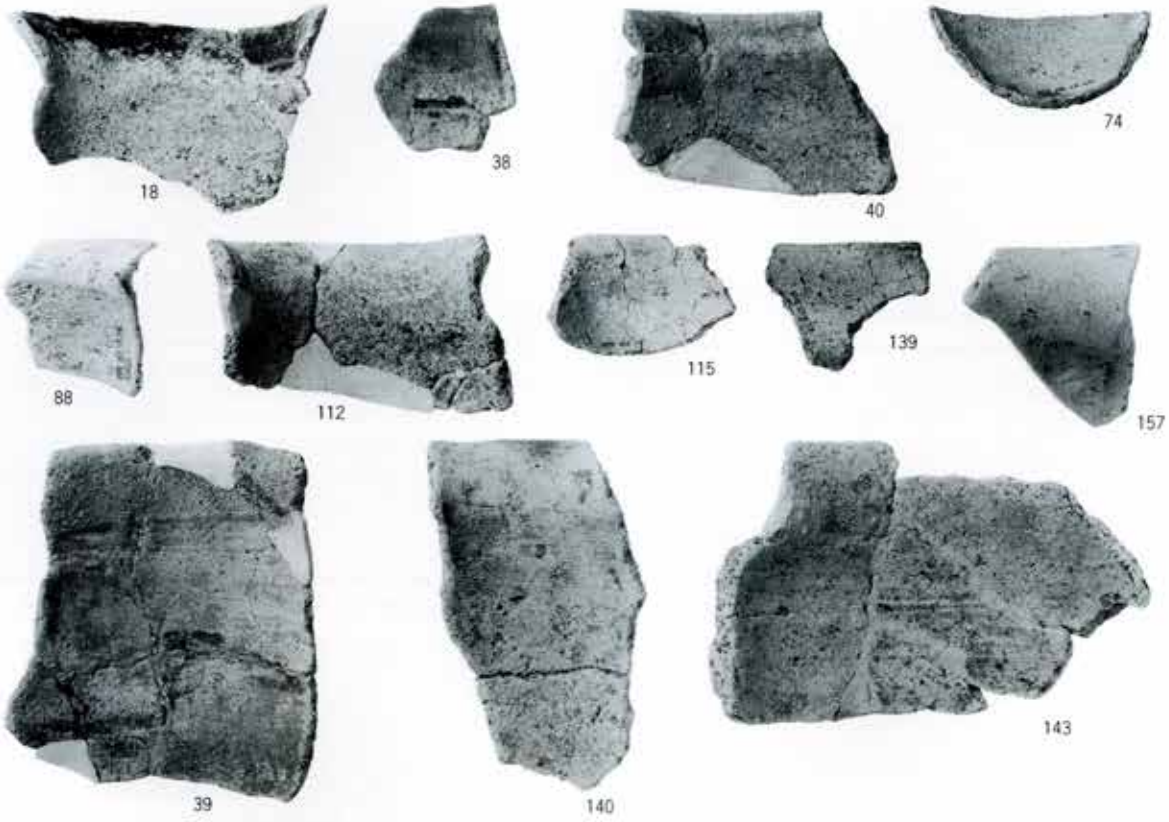
411

529

401

404


18
38
40
74
88
112
115
139
157
39
140
143


18
38
40
74
88
112
115
139
157
39
140
143

図版18

174

252

428

422

431

433

423

429

424

494

495

174

252

428

422

431

433

423

429

424

494

495

285

296

286

287

285

296

286

287

図版20

548

536

543

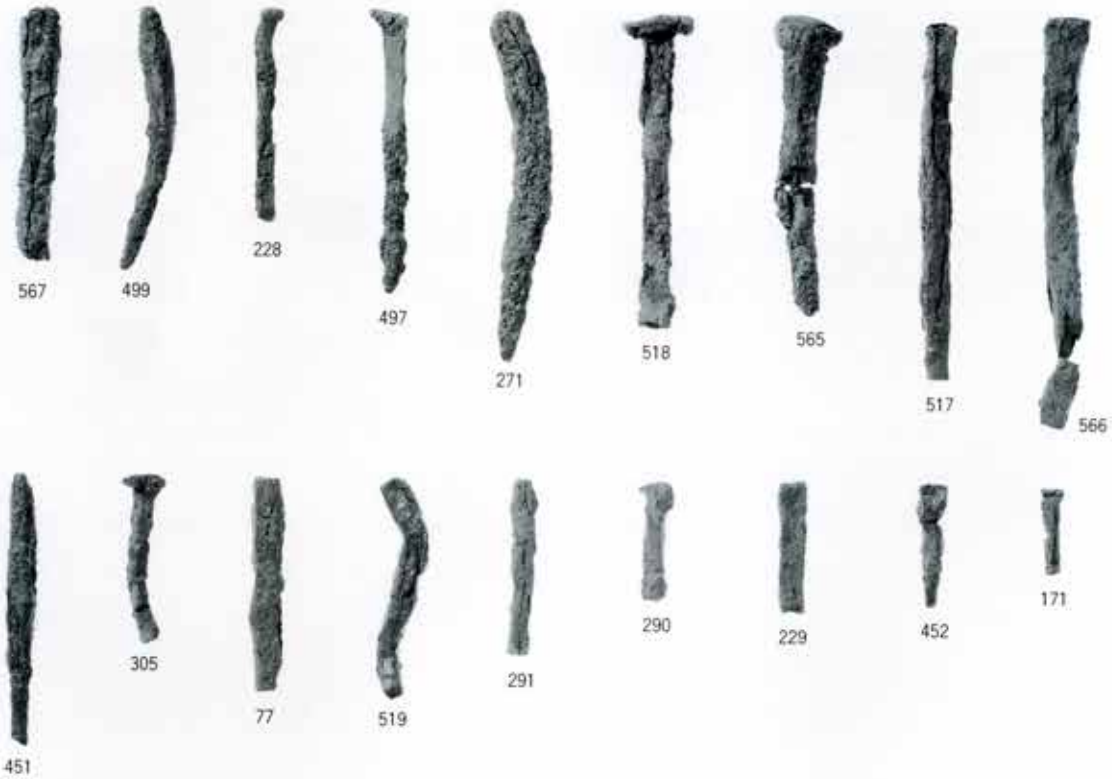
542

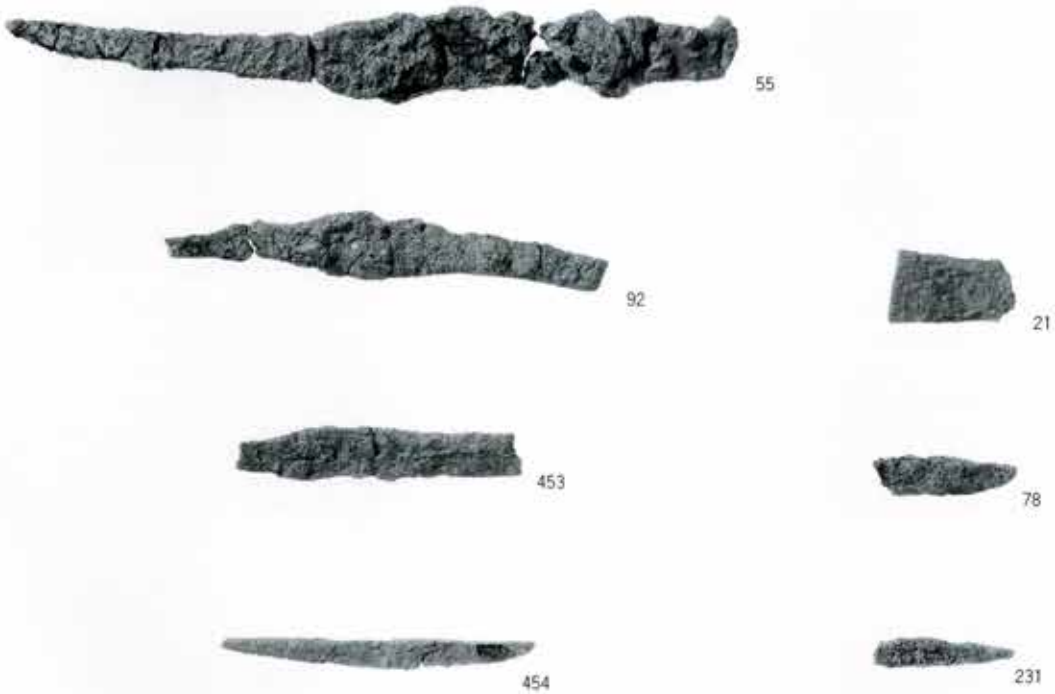
548

536

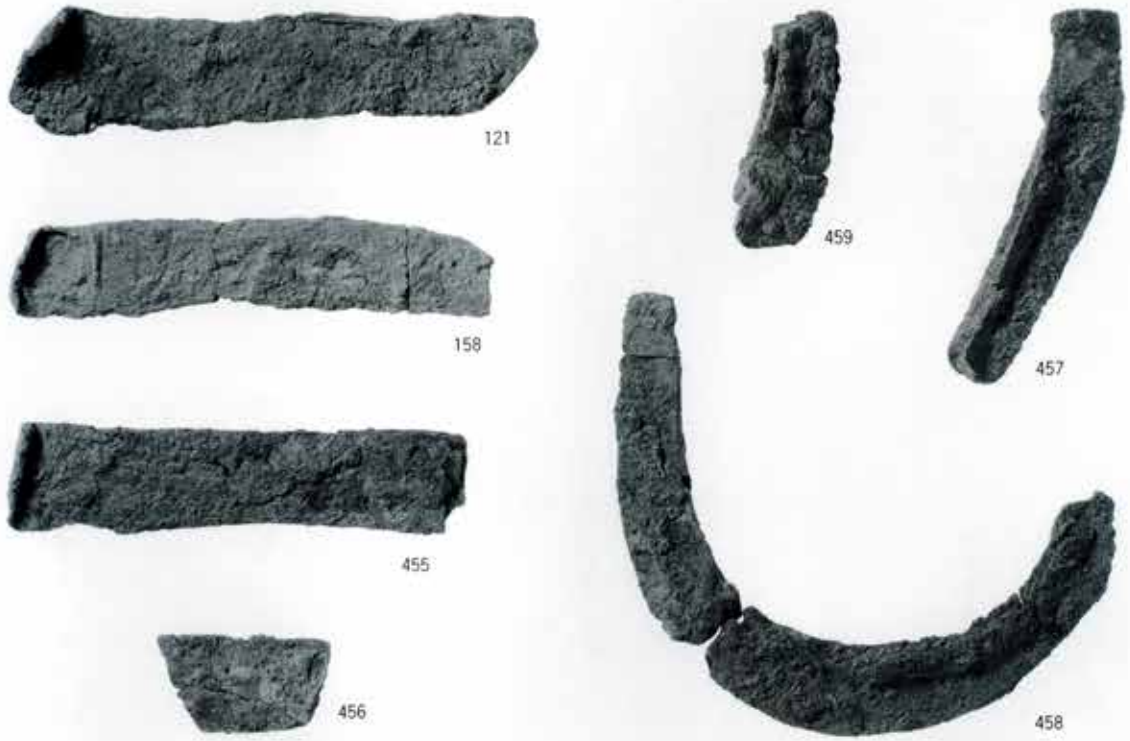
543

542


567
499
228
497
271
518
565
517
566
451
305
77
519
291
290
229
452
171


55
92
21
453
78
454
231

図版22


121
158
455
456
459
457
458

568
230
44
3
462
498
461
516
463
56
460
227

535

299

508

509

292

282

449

233

58

465

293

467

496

176

報告書抄録

ふりがな	たいえいせき　に
書名	太江遺跡 II
シリーズ名	岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書
シリーズ番号	第94集
編著者名	小淵忠司
編集機関	財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター
所在地	〒502－0003　岐阜県岐阜市三田洞東1－26－1　TEL 058－237－8550
発行年月日	西暦2005年3月18日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間 調査面積	調査原因
たいえいせき 太江遺跡	ぎふけんひだし 岐阜県飛騨市 ふるかわちょうたいえ 古川町太江	21217	09274	36° 15′ 20″	137° 10′ 20″	20030506～ 20031210 4,100㎡	主要地方道神岡河合線道路改良に伴う

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
太江遺跡	集落跡	古墳時代 奈良時代 平安時代	礎石建物跡 掘立柱建物跡 竪穴建物跡	須恵器 墨書土器 土師器 暗文土師器 灰釉陶器 鉄製品 瓦	白鳳時代に創建された寺院「高家寺」の周辺に広がる集落跡を検出した。墨書土器・暗文土師器等、寺院と関連の深い遺物が出土した。

岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書　第94集

太　江　遺　跡　II

2005年　3月18日

編集・発行　財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター
岐阜市三田洞東1－26－1

印　　刷　有限会社　大六印刷